

第146図 遺構内出土遺物 (91) S X Q73④

出土遺物は石器のみで、接合資料・剥片がある。

接合資料（247・253・257） 247には、248～252の剥片が接合。a面上位の打面形成の後、縦長・横長剥片を順次剥離する。素材は礫皮面をもつ河原石と考えられる。253には、254～256の剥片が接合。257には258・259の剥片が接合したが、打点が180°異なる。

剥片（248～252・254～256・258～265） 248～252の接合資料が247、254～256の接合資料が253、258・259の接合資料が259である。すべて同一個体である。260～263は横長、264・265は縦長剥片である。

（7） 石器集中部

S X Q01（第140・141図、図版20・73）

下段で調査区中央やや北西のM E58区、M F58・59区に位置し、高い位置では削平面の僅かに下で検出。主に河道A堆積層出土と考えられるが、一部平面的には礫層上部に当たる所もある。出土遺物の総数は169点で、長軸7m×短軸3mの広がりをもつ。垂直分布では、東側上部の幅が狭く平坦で、西側程深い傾向にある。西側では平均約1m、東側では約0.2mである。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・石鐵・削器・二次加工ある剥片がある。

両面調整素材（266） 片側が厚い河原石の素材で、a面上位右側縁の表裏面に調整がある。

石鐵（267） 細長い二等辺三角形で、尖端と底辺の両端を欠損。円基式で側縁の剥離は粗い。

削器（268～270） すべて縦長剥片で、両側縁に調整のあるもの（268・269）と、片側だけのもの（270）がある。268のa面右上位の側縁には、使用痕と考えられる微小剥離痕がある。

二次加工ある剥片（271） 横長剥片で、下端に使用痕と考えられる微小剥離痕がある。

S X Q31（第140図、図版20）

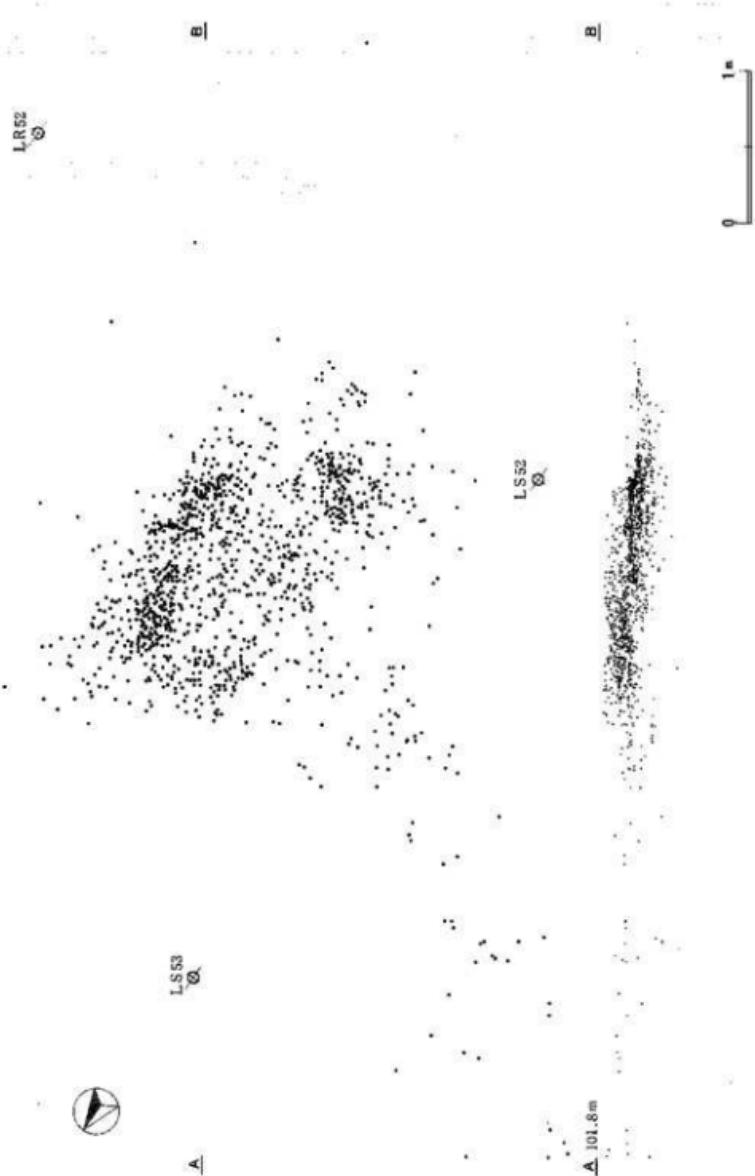
下段で調査区中央やや北西のM F57区に位置し、表土下約0.4mの河道A堆積層上部と考えられる砂層で検出。総数は81点で、長軸3.2m×短軸2.4mの広がりをもつ。これらはチップが主体を占めるが、南西の径0.4mの円内に特に集中している。垂直分布は、平面でまとまりを示す所が約0.15m、全体では約0.4mの幅がある。S X Q32と関連する可能性がある。

S X Q32（第140図、図版20・21）

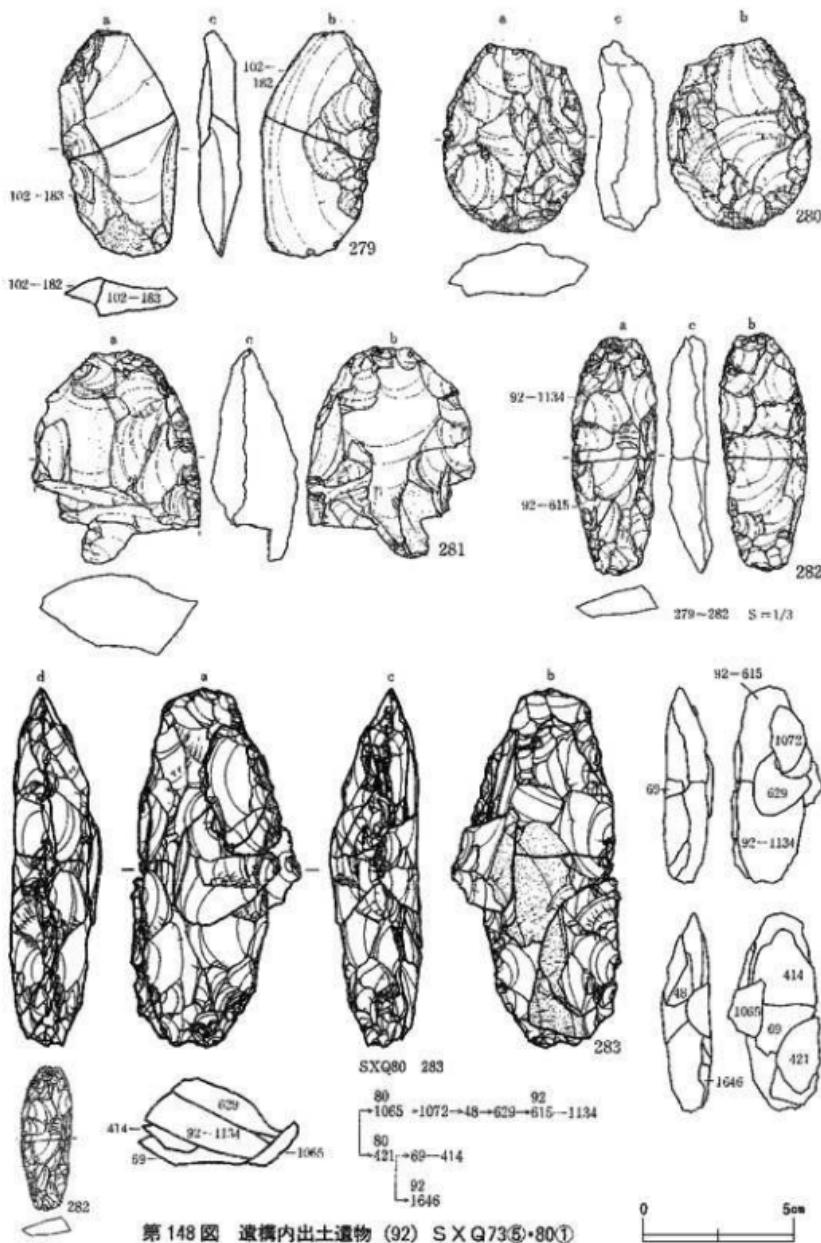
下段で調査区中央やや北西のM E57区に位置し、表土下約0.5mの河道A堆積層上部と考えられる砂層で検出。総数は647点で、チップを主体に僅かな剥片を伴っている。その広がりは長軸0.9m×短軸0.7mの橢円形で、狭い範囲に集中している。垂直分布では、ほぼ0.1mの幅に収まる。S X Q31と関連する可能性がある。

S X Q73（第142図、図版18・21・48・52・55・74）

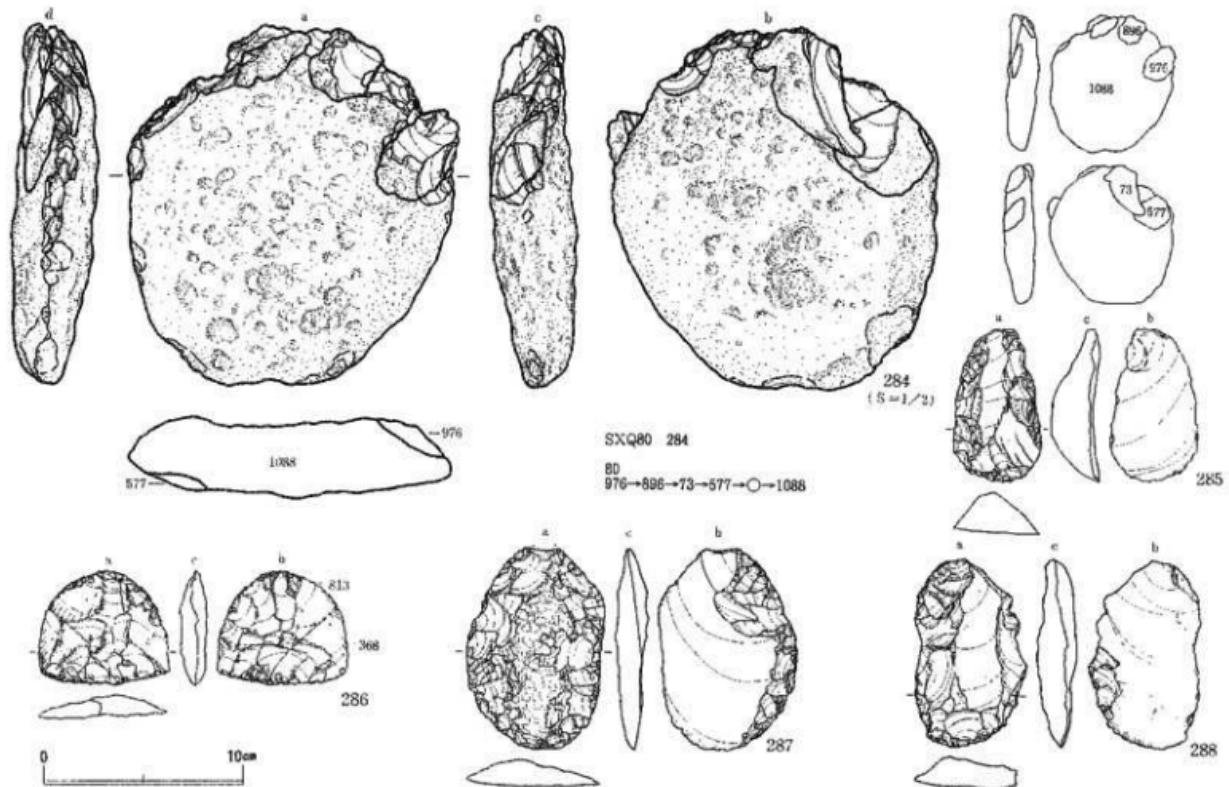
上段で調査区中央やや東側のL S53区に位置し、表土下約0.3mの河道B堆積層下部で検出。取り上げ総数は776点で、約3.5m×2mの広がりがある。ここでは、大きく東西2つのプロッ



第147図 石器集中部(14) S×Q80



第148図 遺構内出土遺物 (92) S X Q73⑤・80①



第149図 遺構内出土遺物 (93) SXQ80②

クに分けられ、東側は径0.8mの円形に西側では1.1m×0.8mの楕円形にまとまる。垂直分布の最大幅は、東側が0.1m西側では0.3mで、後者は掘跡状を呈した落ち込みであったことを示唆する。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・削器がある。

接合資料 (272~276+283) 272には278、273には280・281、274には279の、両面調整素材および石器 (Tool) に、剥片が接合したもの。272は厚く扁平な河原石を素材にしている。上端は原石の段階から平坦で、a面上位右側縁と共に打面に利用している。c・d両側縁は、交互剝離で調整を施す。273は表裏の自然面より、分割礫を素材にしている。当初、楕円形の石斧もしくは両面調整石器を意図したが、a面からの折断で製作を断念している。この後下位の剥片に調整を施す。274は横長剥片を素材にしている。275は上位で折断があり、そこから剝離を施す。276は、削器に剥片が接合したもの。

両面調整素材 (275+277) 277は扁平な大型の河原石を素材にする。縁辺に粗い剝離がある撥形の形態で、礫皮面を大きく残す。a・b両側縁には交互剝離を施す。

両面調整石器 (278~282) 278は272の石核で、両面に粗い調整がある。279は274の石核で、横長剥片の素材である。打点の表裏に調整があり、b面の左側縁上部に二次加工を施す。a面からの折断がある。280・281は273の石核で、折断後新たに調整を施す。比較的整った楕円形を呈し、b面には自然面が残る。

削器 (276) 一部 (a面上位) は、縦長剥片を素材にする。a面の右側縁下位に剝離がある。同面の左側縁と右側縁上位には、礫皮面が残る。

S X Q 80 (第147~149図、図版21+50+74)

上段で調査区中央やや南東のL R・L S 52区に位置し、表土下約0.4mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数 (チップを含む) は1,146点で、約長軸5.5m×短軸3.5mの広がりをもつ。この内、北東側の長軸2m×短軸1.2mの範囲には特に集中している。北東側の垂直分布は、最大幅0.3mである。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

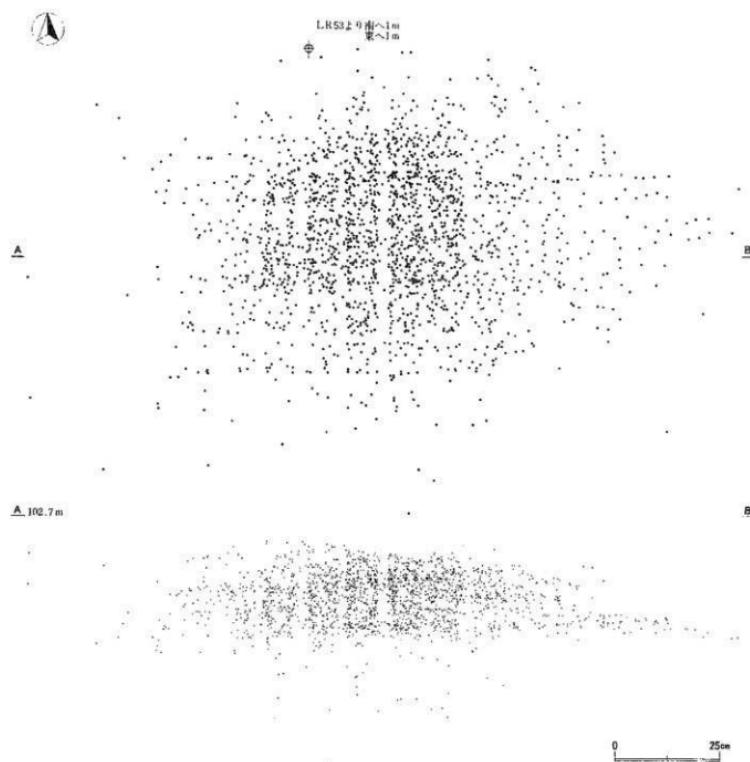
出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・搔器・削器がある。

接合資料 (283+284) 283は両面調整石器に、284は両面調整素材に剥片が接合したもの。283は分厚く細長い。b面は平坦な模理面で、分割礫を素材にしたと考えられる。284は、楕円形で薄く扁平な河原石を素材にする。

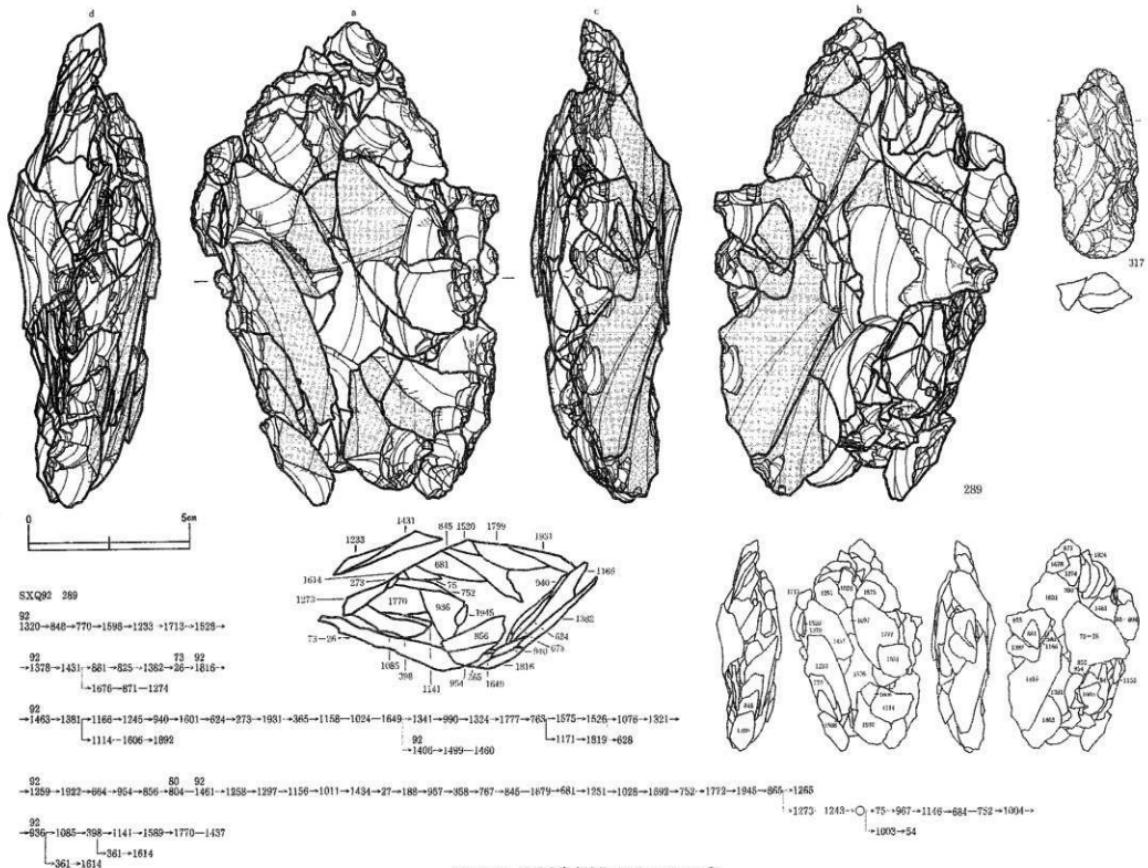
両面調整素材 (284) 両面調整素材は284の石核。上端に調整があり、刃部状に作り出す。

両面調整石器 (282) 283の石核。下端は表裏に調整がある両刃で、石斧を意図した可能性がある。中央a面からの折断があり、a面中央左側縁からの剝離が影響したと考えられる。

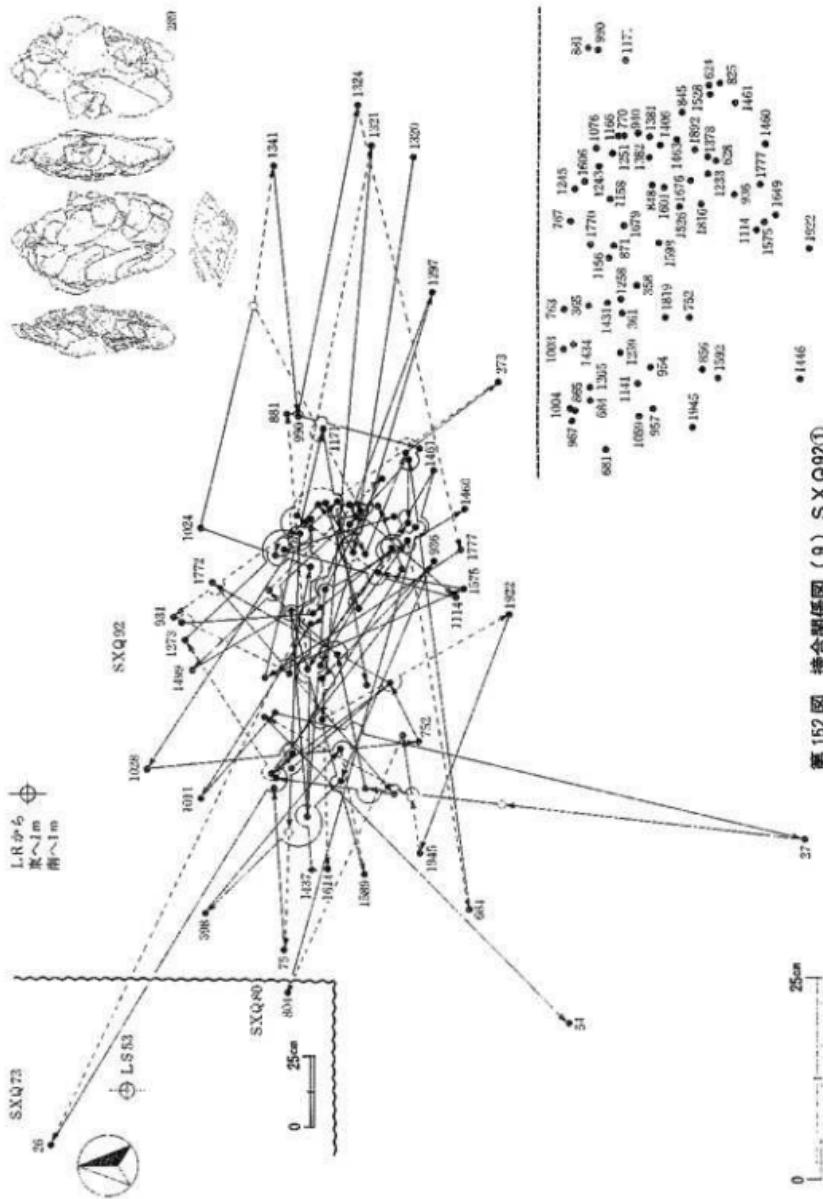
搔器 (285~287) 285は縦長剥片、286・287は横長剥片である。285は甲高で、両側縁や刃



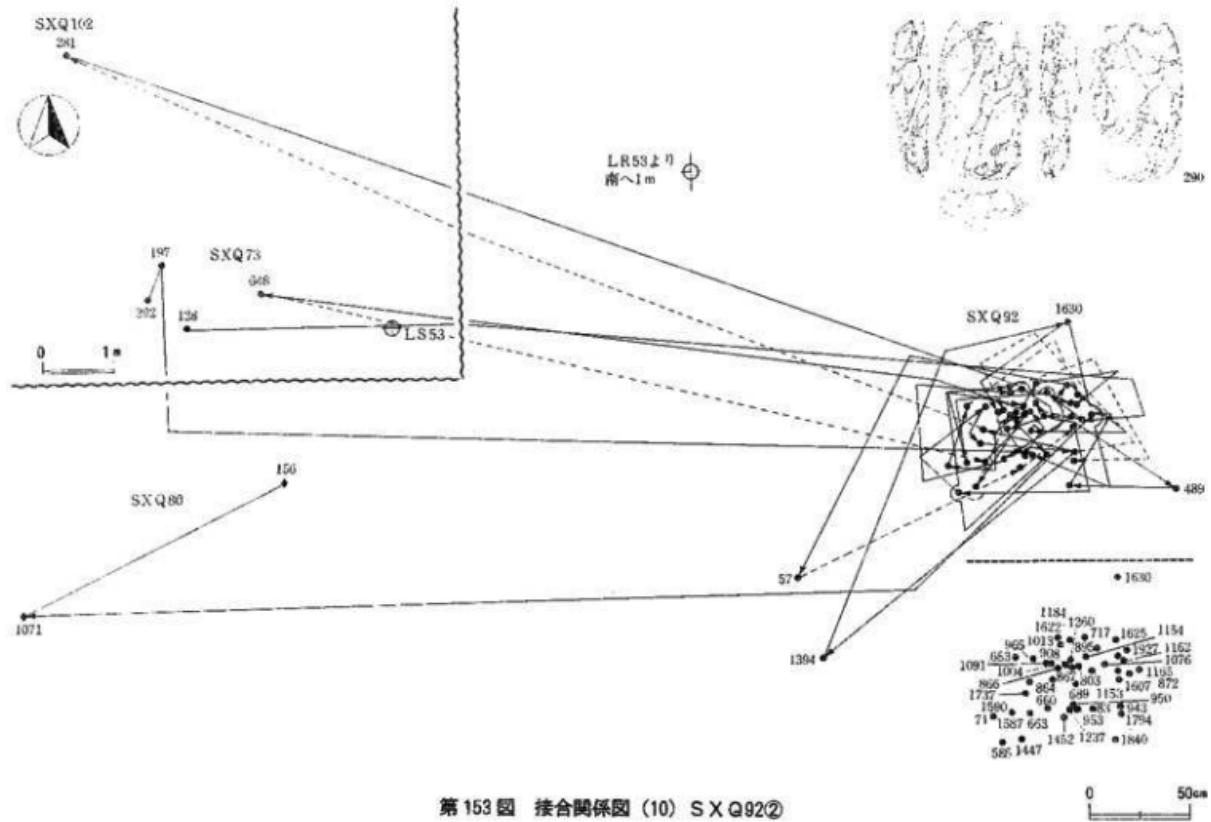
第150図 石器集中部 (15) S X Q92



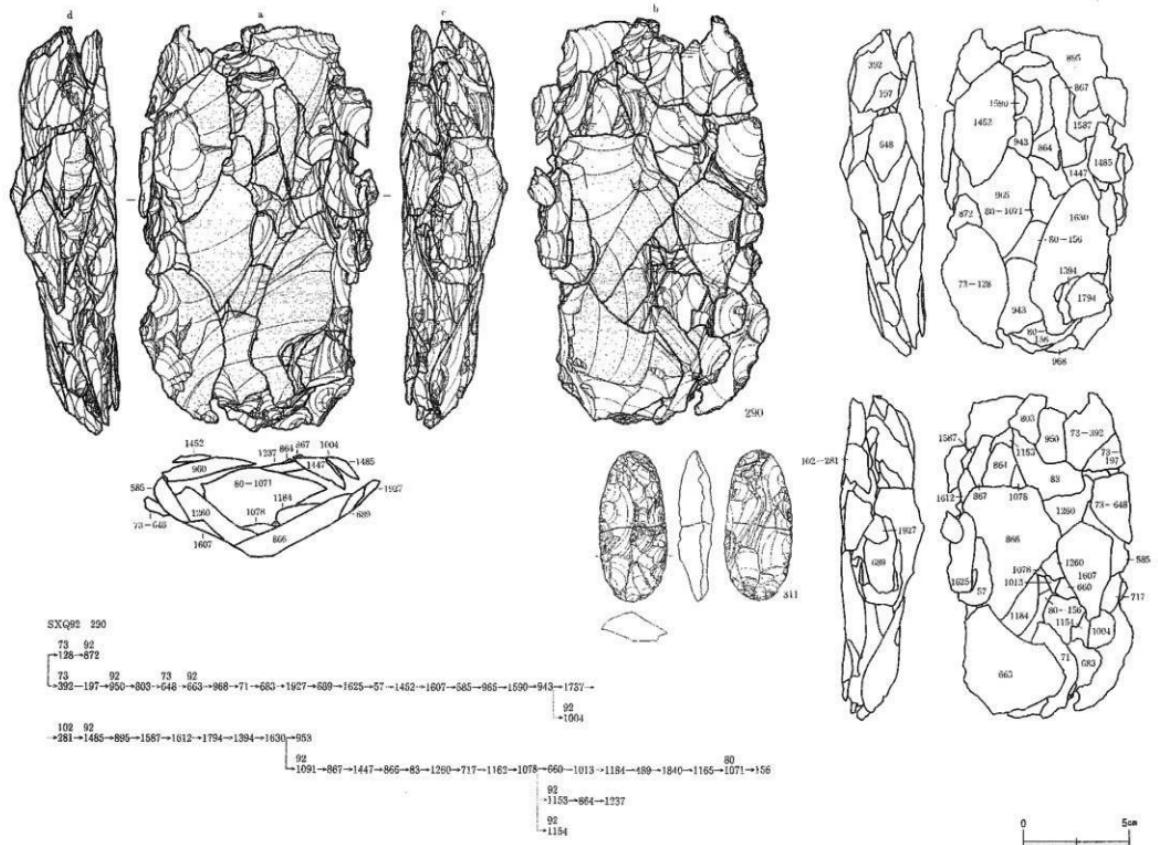
第151図 遺構内出土遺物(94) SXQ92①



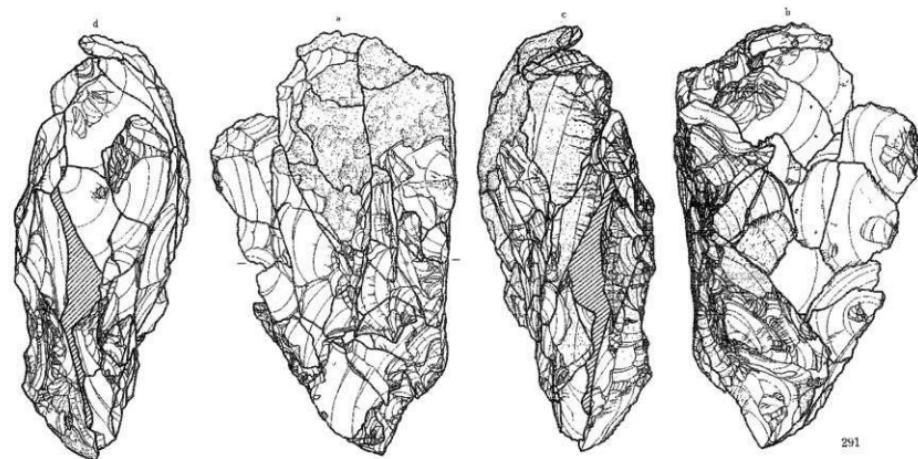
第152回 接合關係圖(9) SXG92①



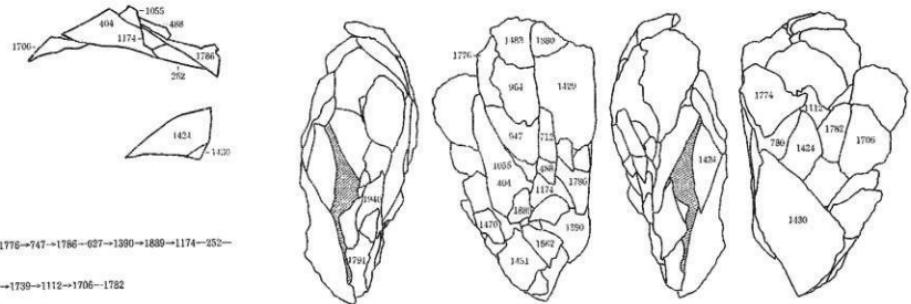
第153図 接合関係図(10) S X Q92②



第154図 遺構内出土遺物 (95) S X Q92②



29



第155図 造構内出土遺物 (96) S X Q92(3)

-- 215-216 --



部に丁寧な調整がある。286は薄い半円状の形態で、定形化している。刃部にa・b両面の調整がある。287は薄く、両側縁と刃部に丁寧な調整がある。a面には礫皮面が残る。

削器（288）縦長剝片でa面の左側縁下位には細かな、右側縁には粗い調整がある。

S X Q92（第150～171図、巻頭図版4・8、図版47～49・51～55・74）

上段で調査区東側LQ52区に位置し、表土下約0.4mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は1,963点で、約長軸1.5m×短軸1mの広がりをもつ。この西側の径0.5mの狭い範囲からは、特に集中して出土した。垂直分布は最大0.2mで、中央部がやや山成りを示す。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

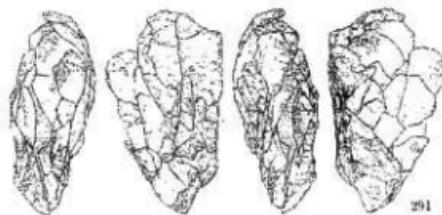
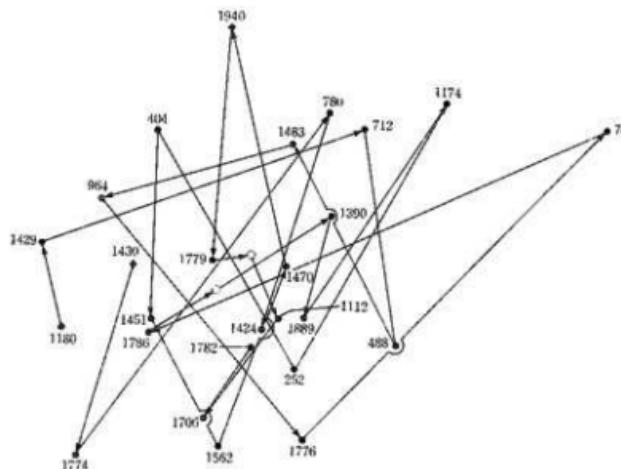
出土した遺物は石器のみで、接合資料・石核・両面調整素材・両面調整石器・石斧・石鏟・搔器・削器がある。

接合資料（289～304）290は311、292は310、294は309、295は308・315、301は306の、両面調整素材や石器に剝片が接合したもの。300・297・304は、石斧（317）、石核（305）、搔器に剝片が接合したもの。291・293・296・298・299・302・303は、両面調整を意図した剝片接合資料で、291・298の両側の例とこれ以外の片側がある。

289は両面に自然面が残り、大きめの河原石を素材にしたことが判る。側縁の交互剝離が、重疊している。石核に当たる317は原石に対比して小さく、途中の失敗で当初想定していた大きさが得られなかったと考えられる。290はb面が平坦なことから、分割縫を素材にしたものである。b面上位が分厚く、側縁と上下の縁に交互剝離がある。291は、細長く分厚い河原石が素材である。c面とb面下位の右側縁を平坦に分割し、左右側縁の打面に利用している。分厚い剝片が多い。292は分厚く扁平で、かつ細長い河原石を素材にしている。c面はざらついた礫皮面である。ここでは、先にc面の左右でa・b面側を調整してから、向面の中央に左右からの薄い剝離を施し、礫皮面を除去している。さらに、交互剝離で接線を作り出す。293は、a面に礫皮面をb面に摸型面を残した分割縫で、薄く扁平な素材である。上下の端部には、平坦な礫皮面をそのまま残す。294は断面三角形の河原石を素材にする。c・d両側縁に調整を施すが、特にd面では交互剝離が良好。295は、a面に礫皮面のある分割縫を素材にしていると考えられる。当初、上端を丸く整えた楕円形の両面調整石器を意図したが、b面からの折断で断念している。296は、a面に自然面が残る厚みのある礫を素材にする。下端に刃部を形成したが、その部分にはa面からの折断がある。297は、b面の小さな礫皮面やa面上位の接合剝片の礫皮面より、僅かに厚い河原石を素材にしたと考えられる。298は、分厚い楕円形の河原石を素材にする。礫皮面のa面左の側縁は僅かに角張り、その角度を打面に利用している。剝片は分厚いものが多い。299は、すべて礫皮面のある剝片の接合資料である。薄く小さいものが多い。300は横長剝片を素材にしており、a面に礫皮面がある。301も横長剝片を素材に

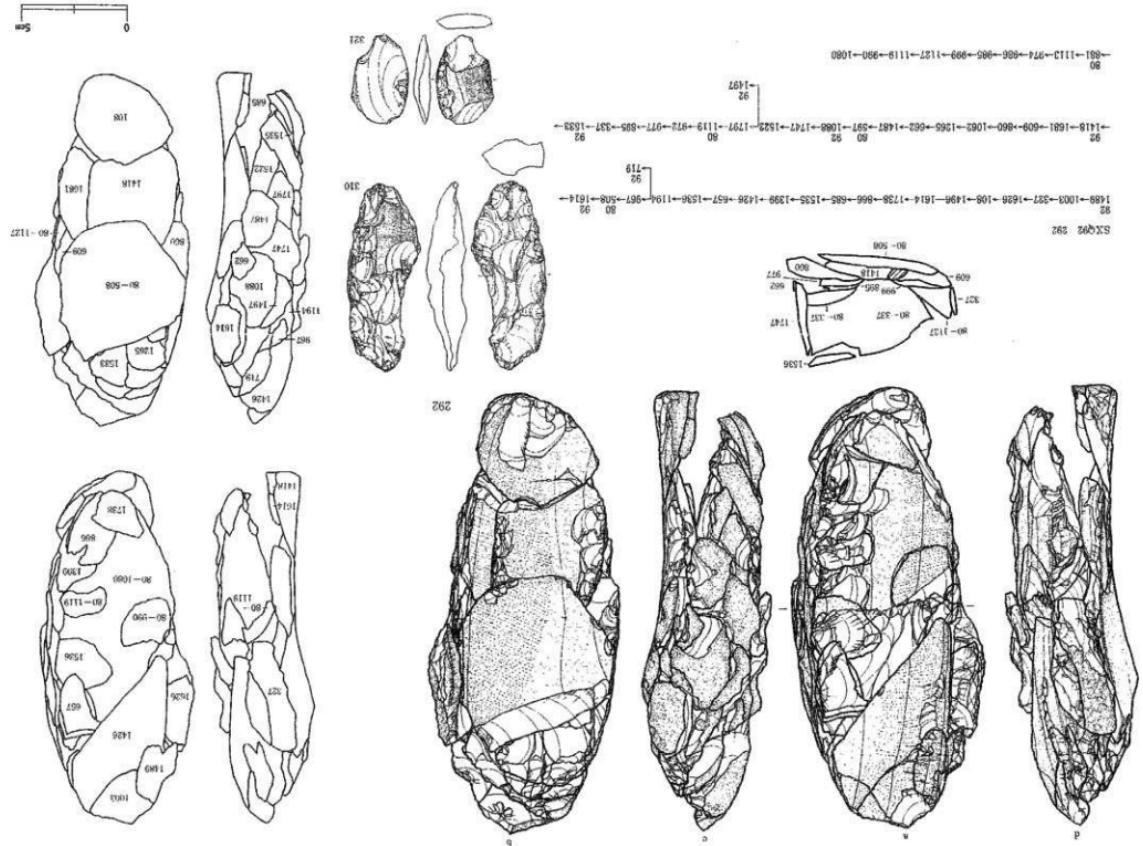


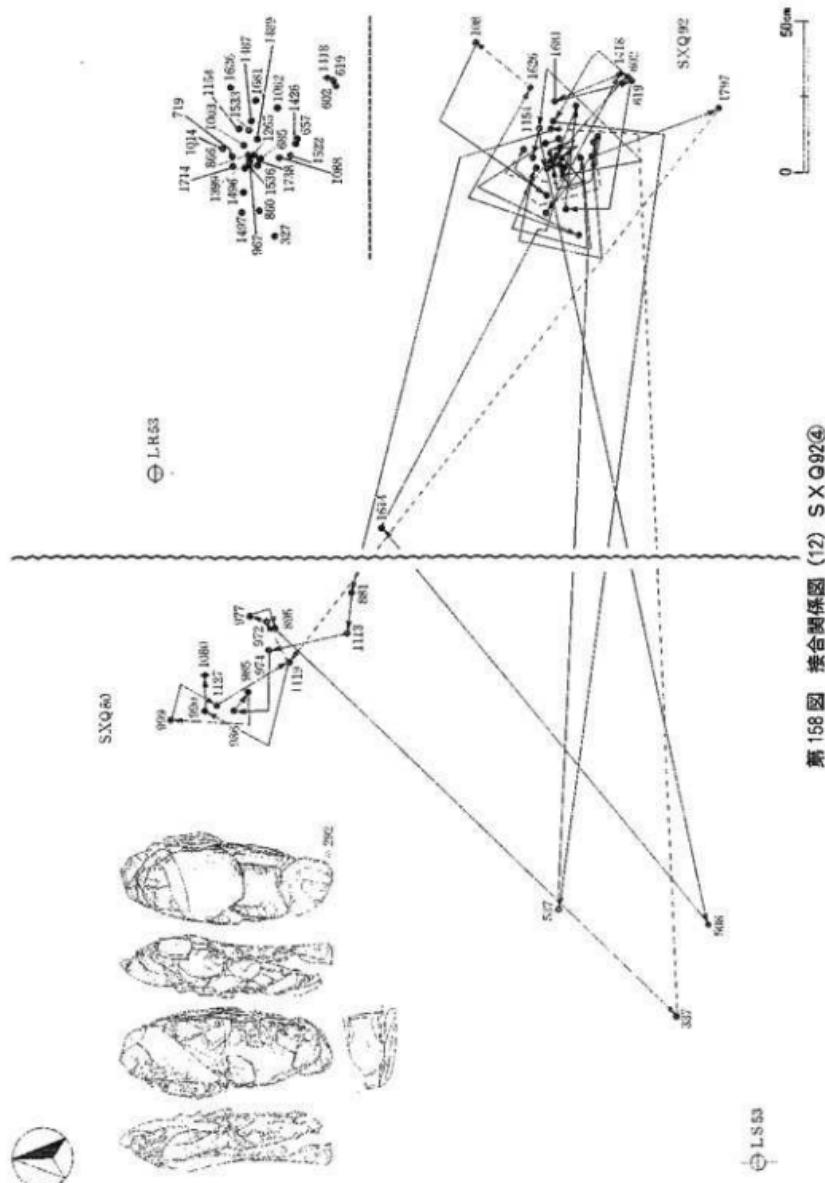
LR53か52
東へ1m
南へ1m



第156図 接合関係図(11) S X Q92(3)

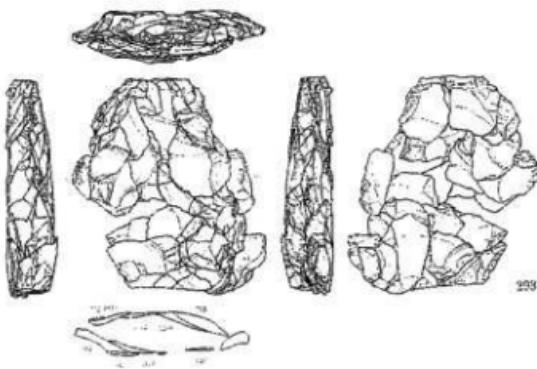
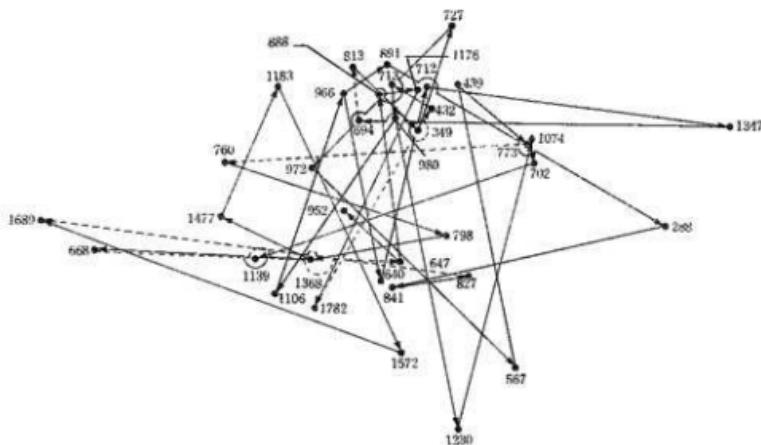
第157圖 遷都內出土遺物 (97) SXQ924



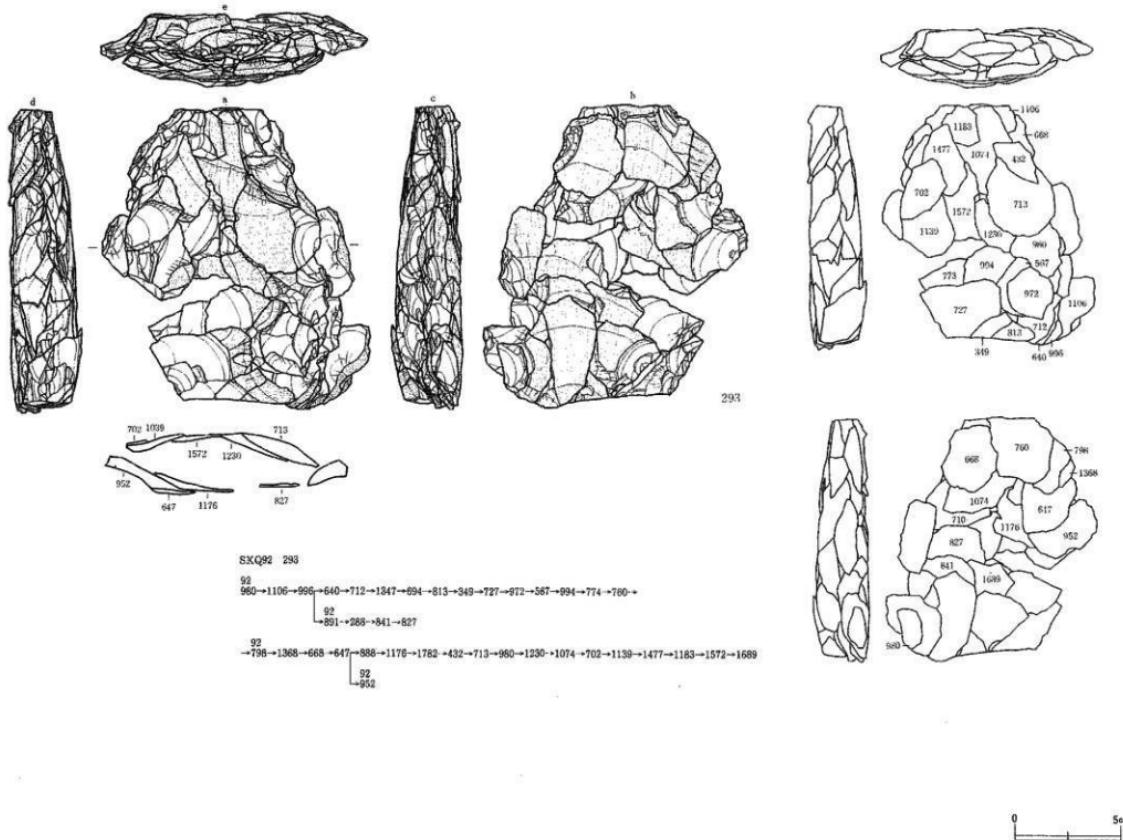




L R 53番・13
東へ1m
南へ1m

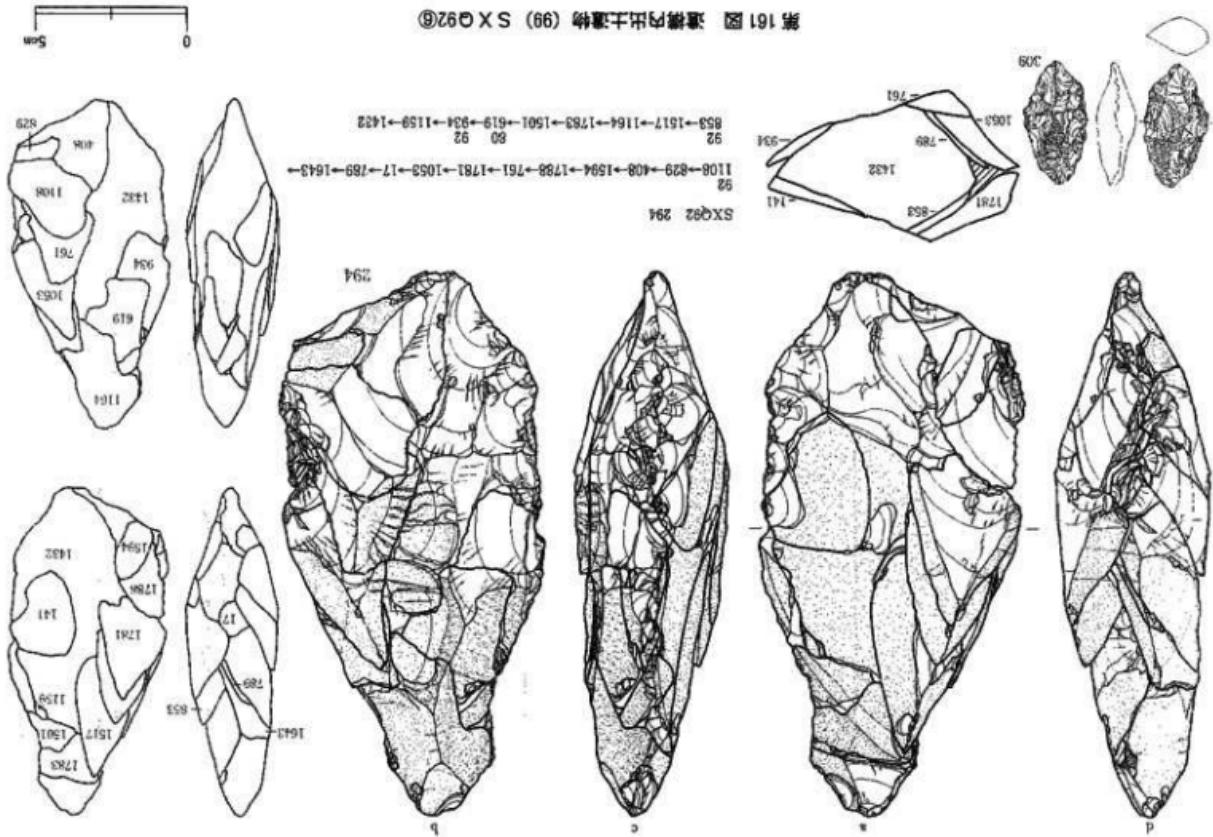


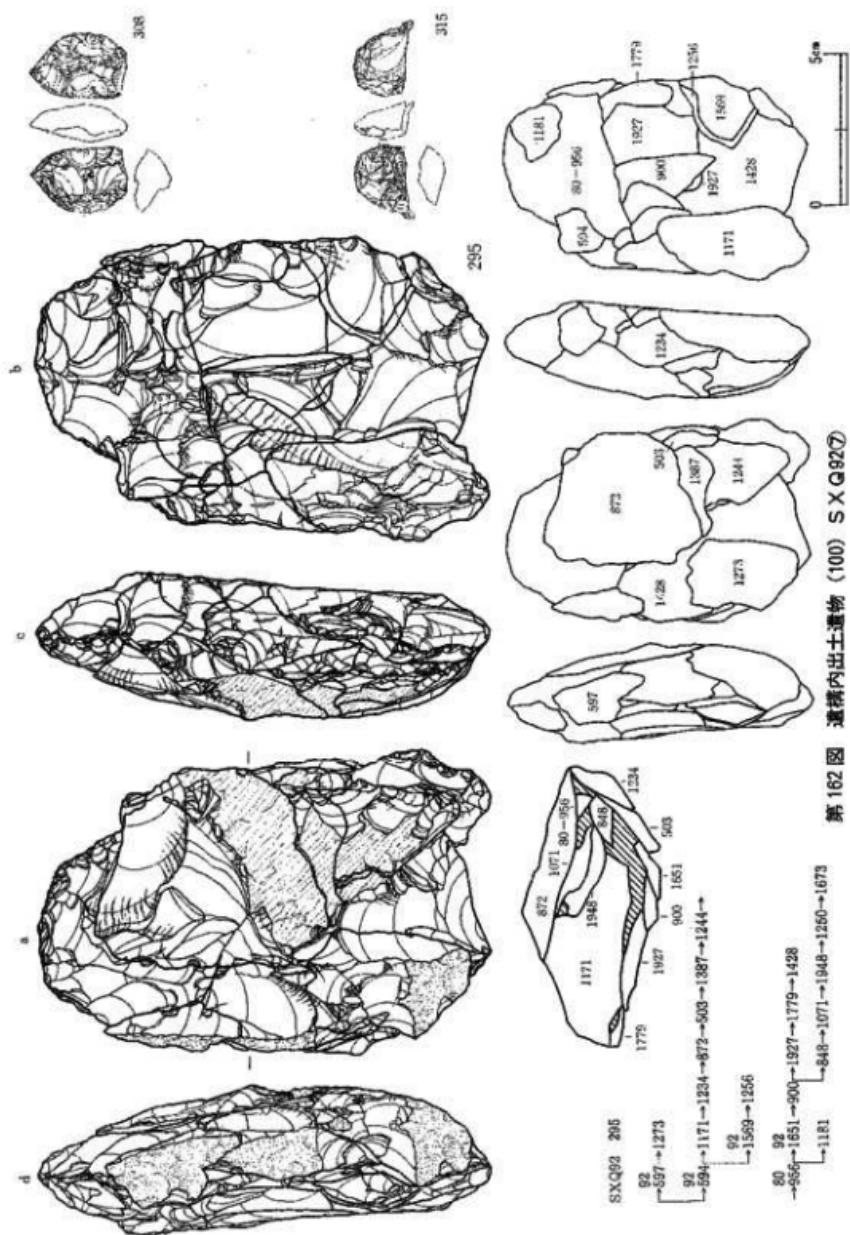
第159図 接合関係図(13) S X Q92⑤



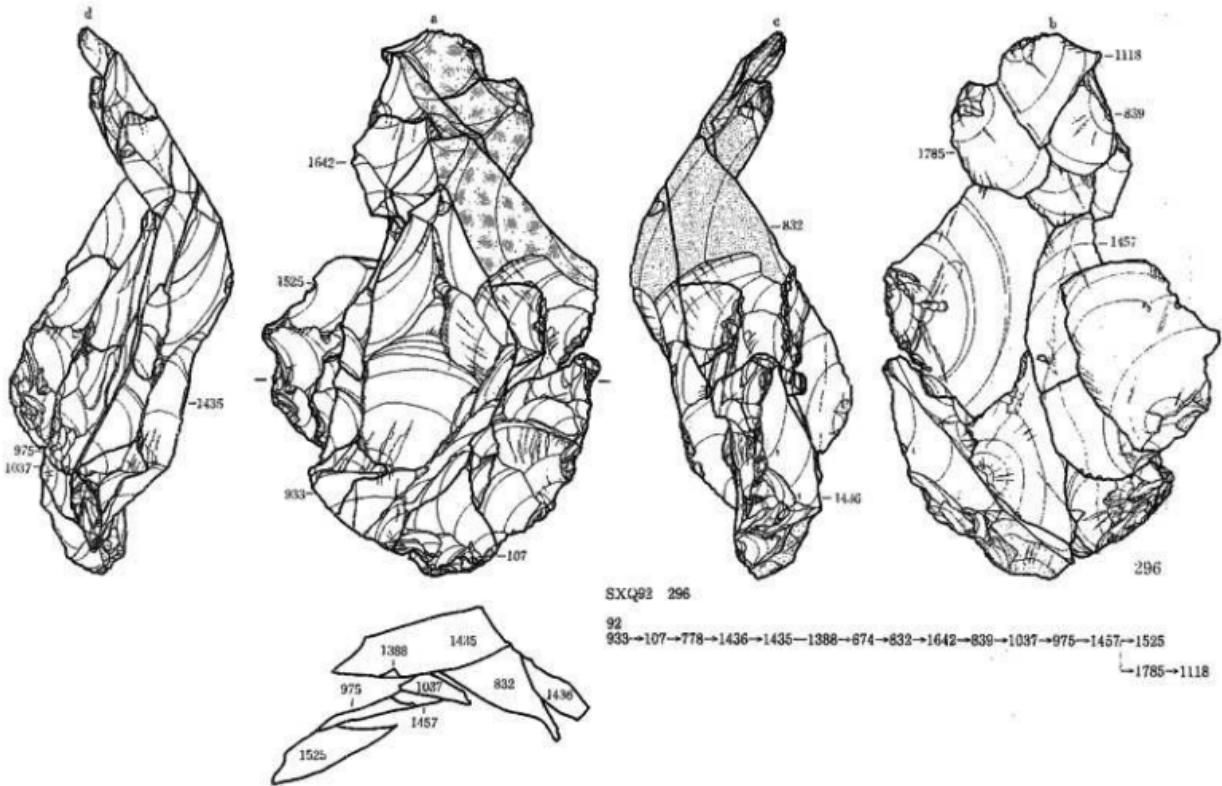
第160図 遺構内出土遺物 (98) S×Q92(B)

第 161 図 遺構内出土遺物 (99) S X G 92⑥



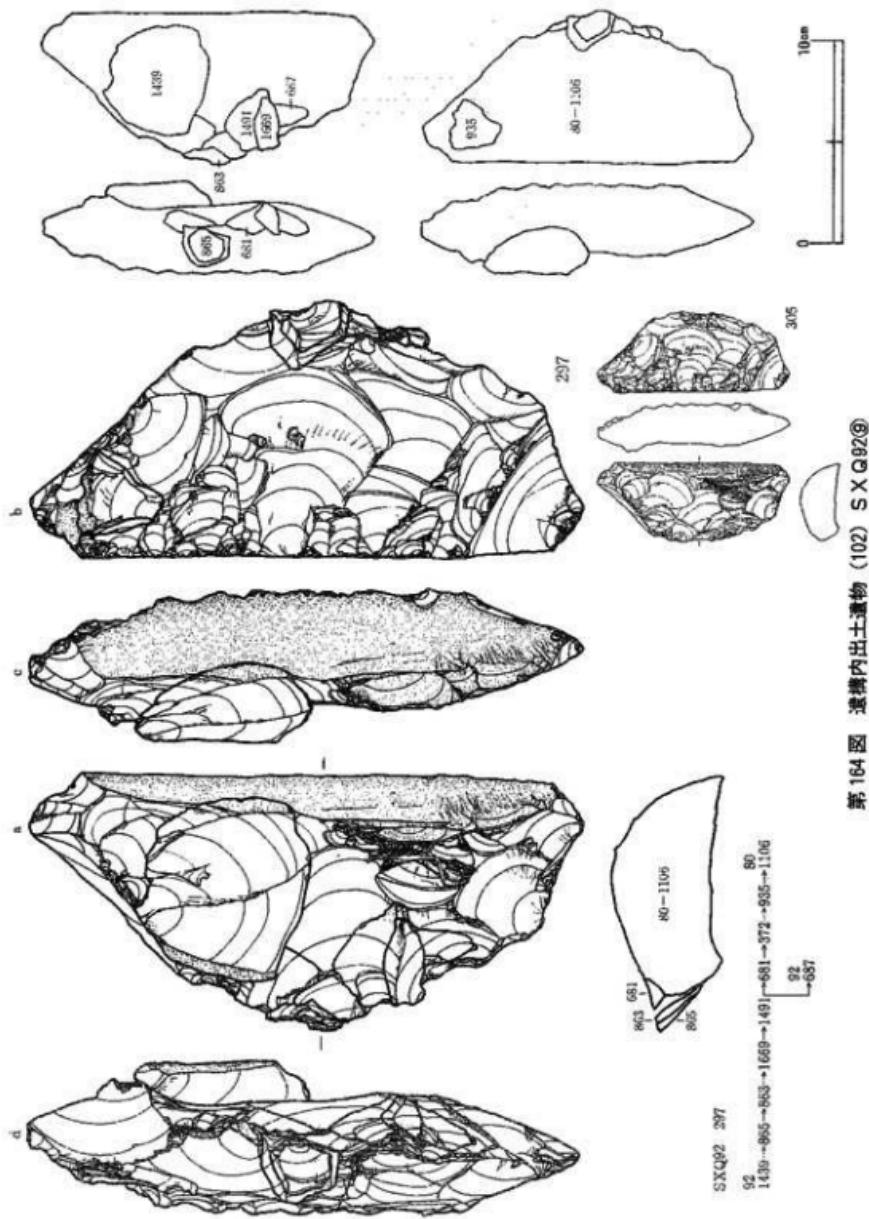


第162図 遠縄内出土遺物 (100) S×Q927



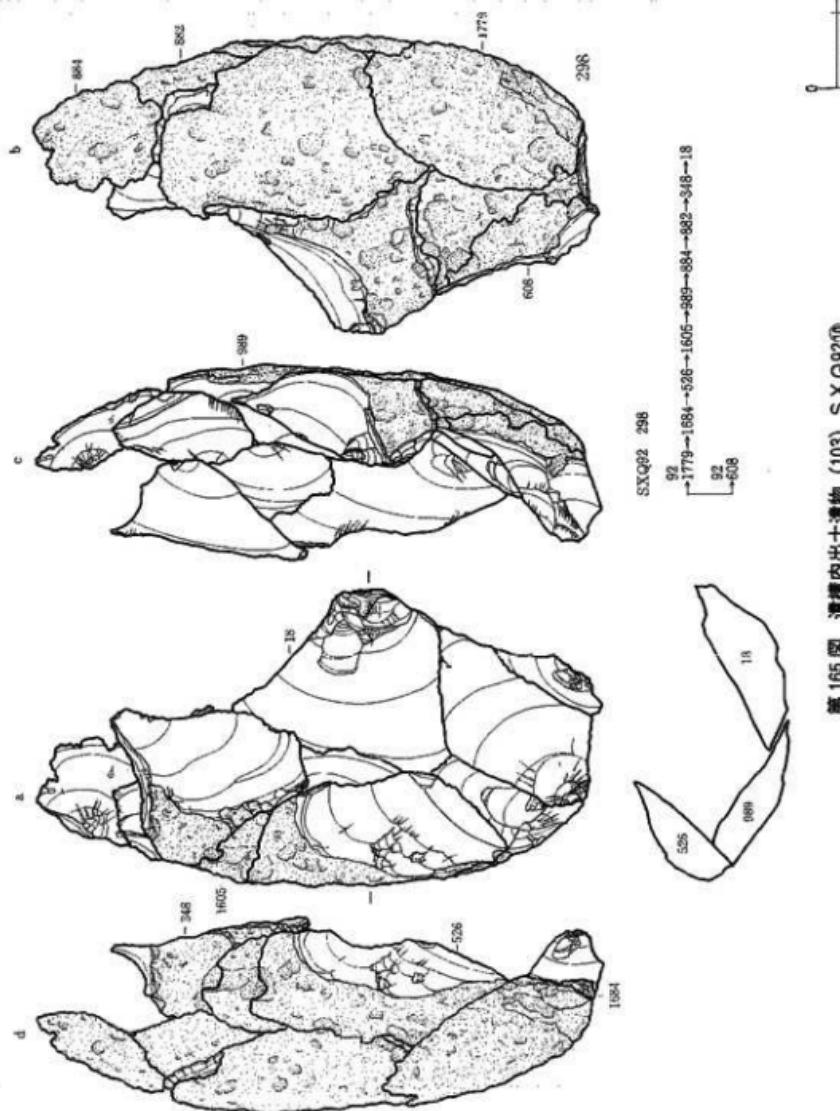
第 163 図 遺構内出土遺物 (101) SXQ92⑧

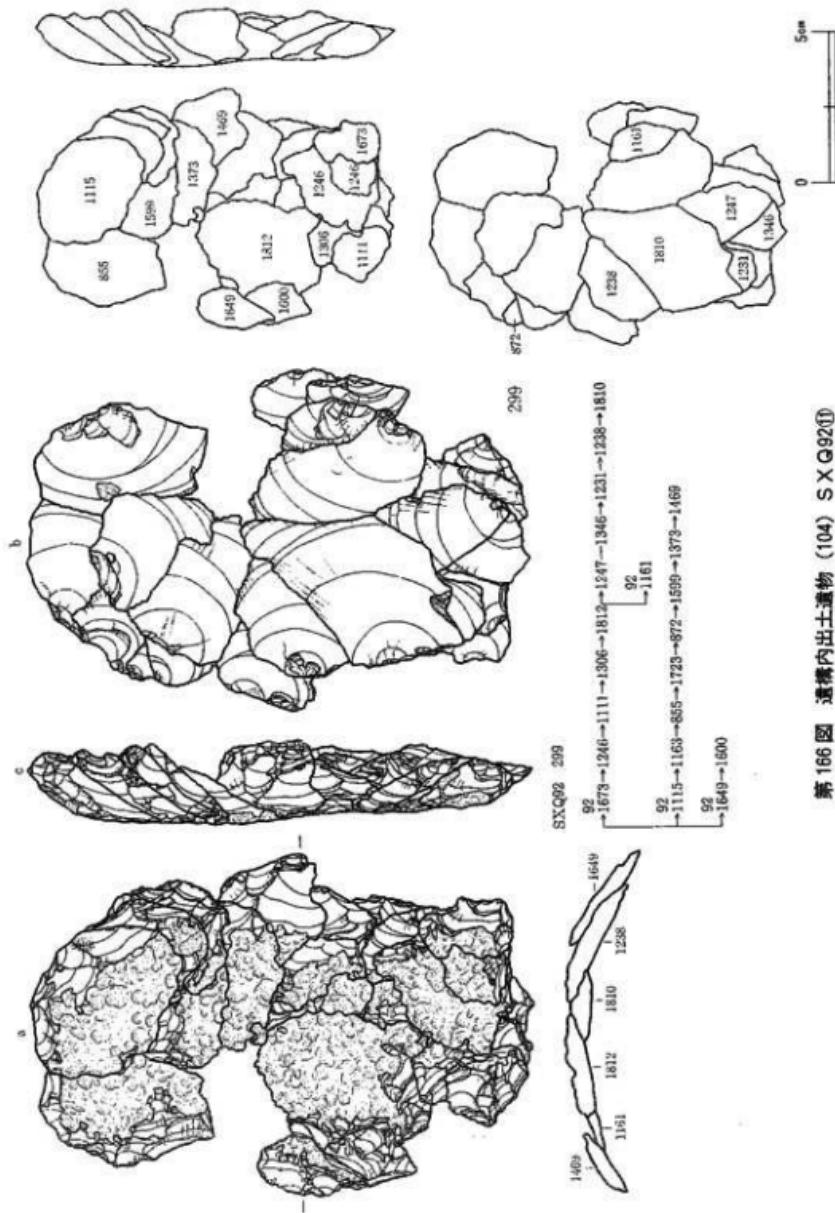




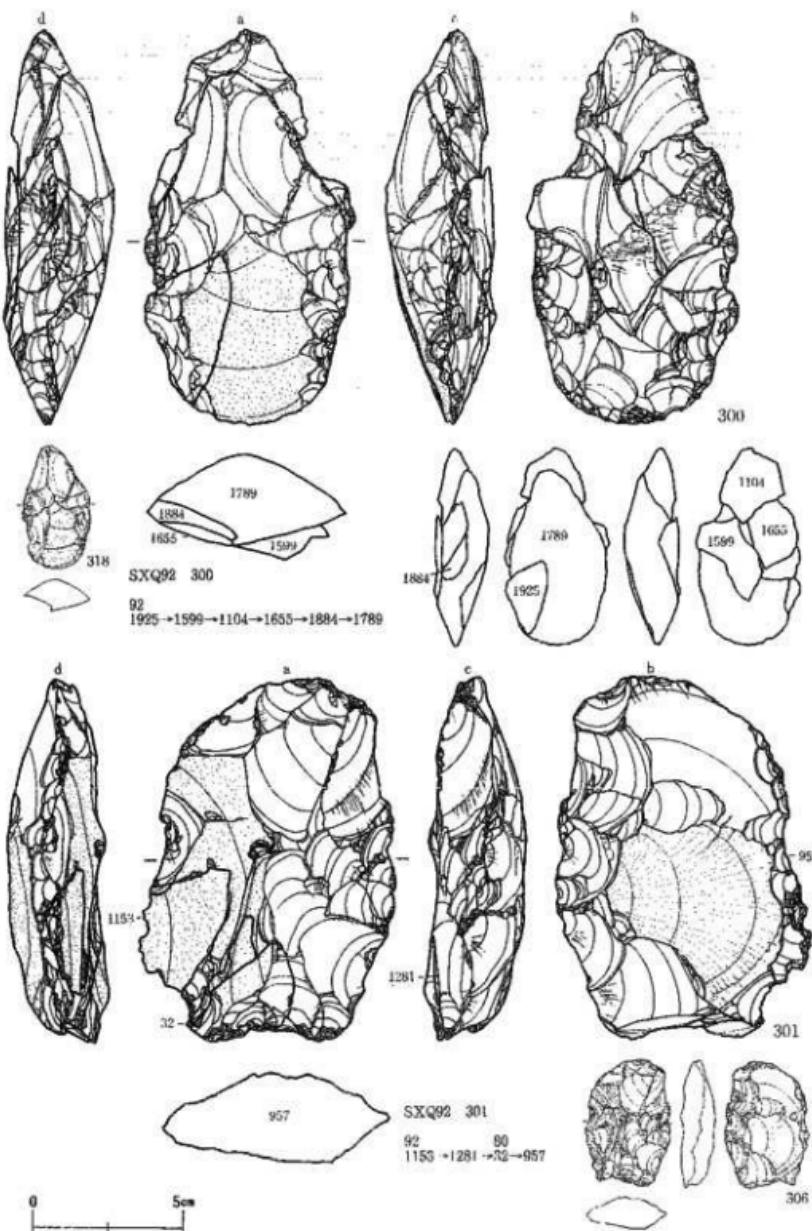
第164図 遺構内出土遺物 (102) SXQ92

第165図 這様内出土遺物 (103) SXQ92⑩

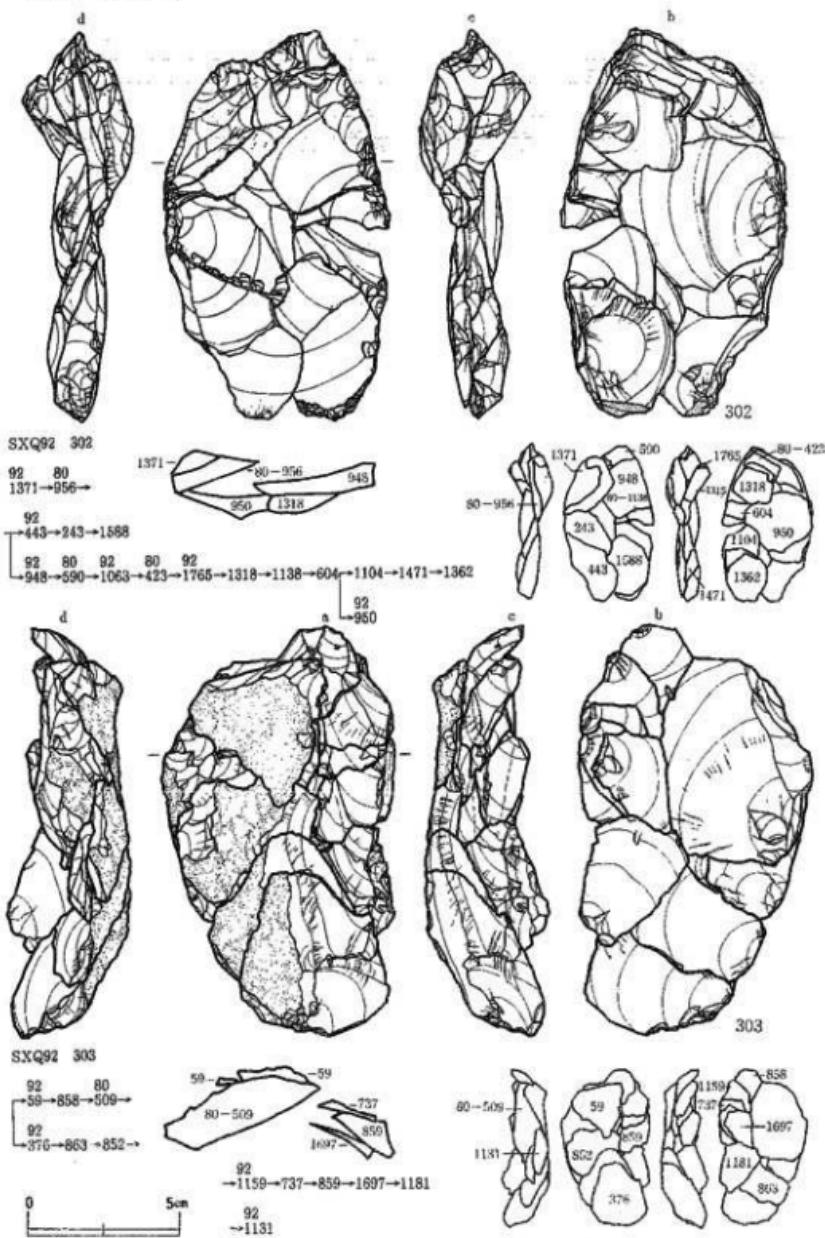




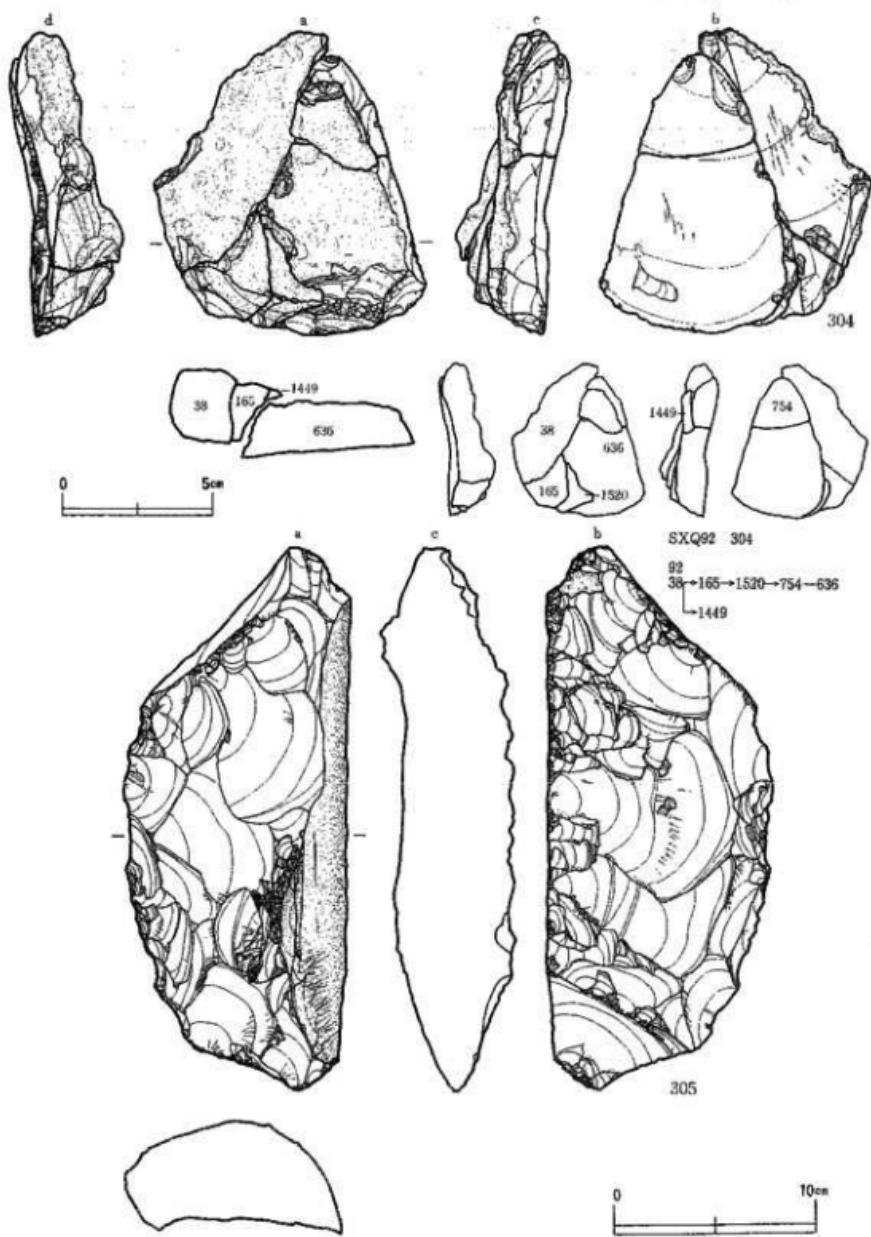
第 166 圖 遺構內出土遺物 (104) SXQ92⑪



第167図 遺構内出土遺物 (105) SXQ92②

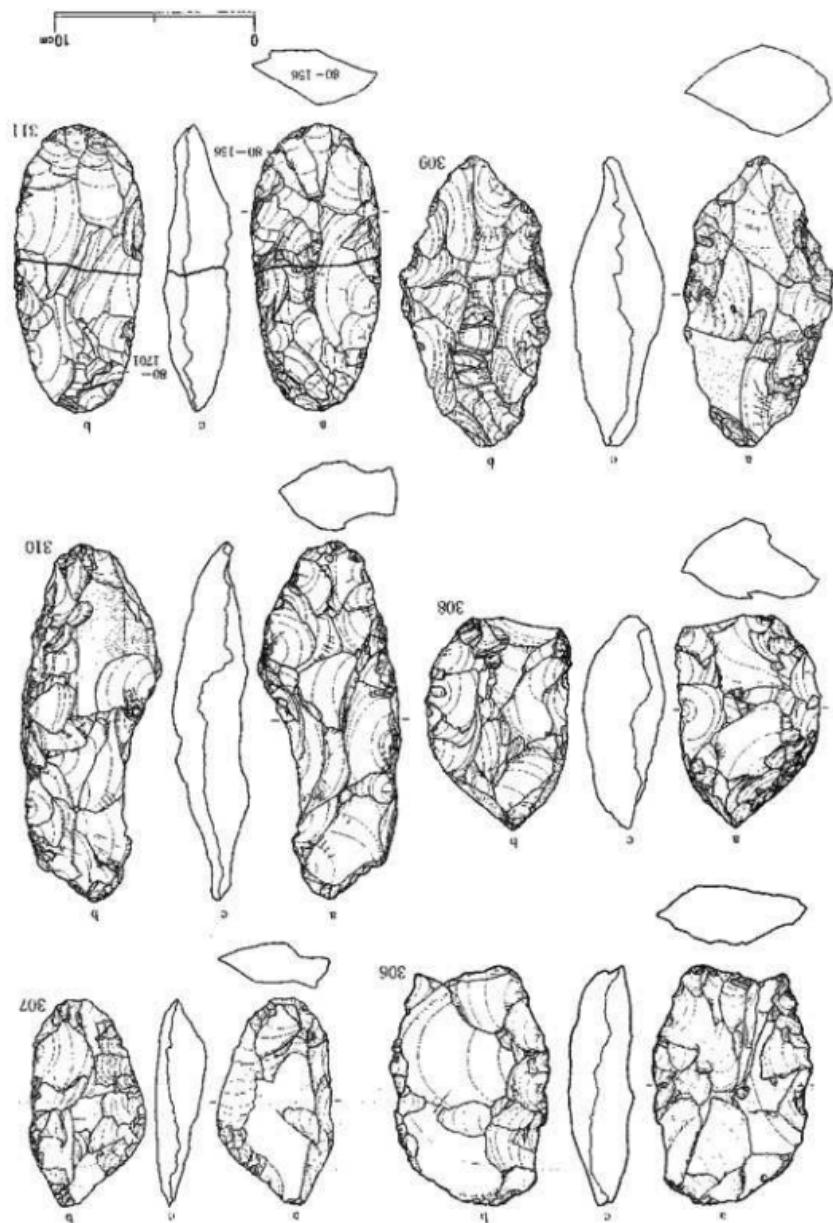


第168図 造構内出土遺物 (106) SXQ92⑬

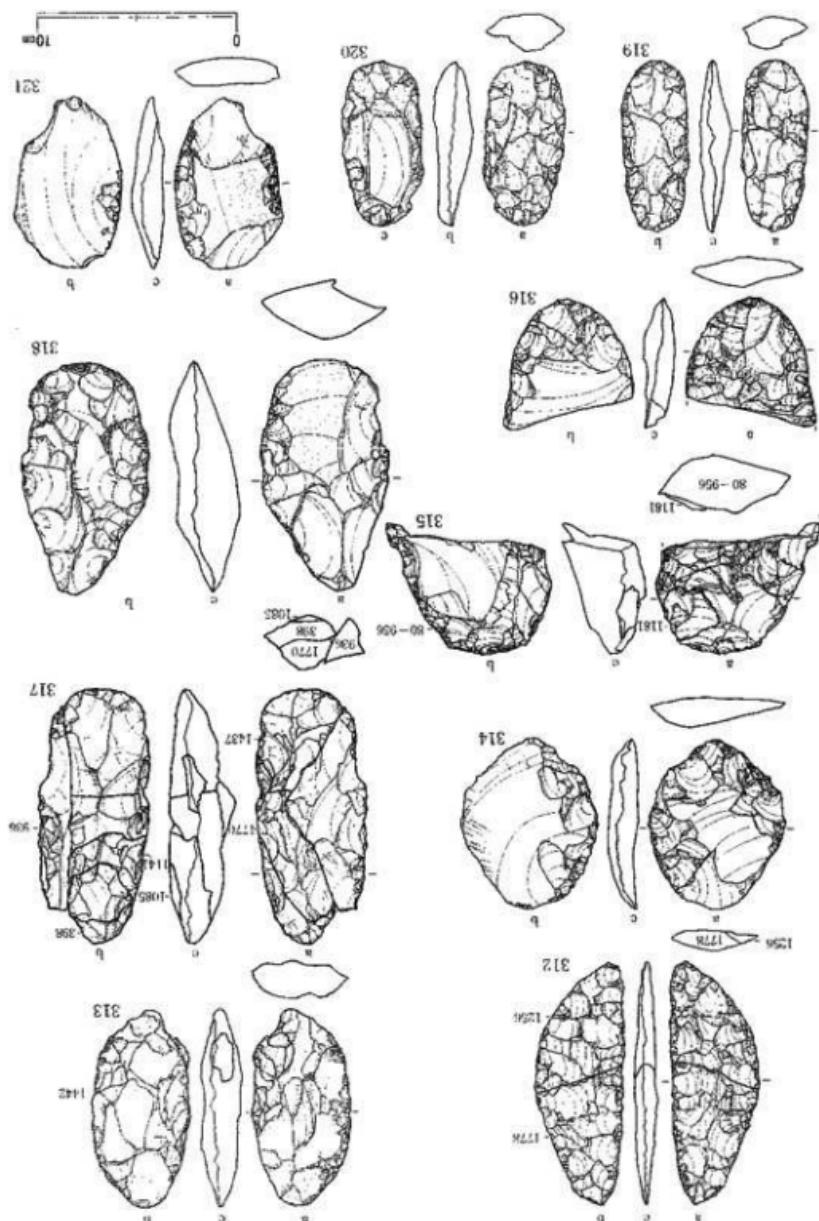


第169図 遺構内出土遺物 (107) SXQ9218

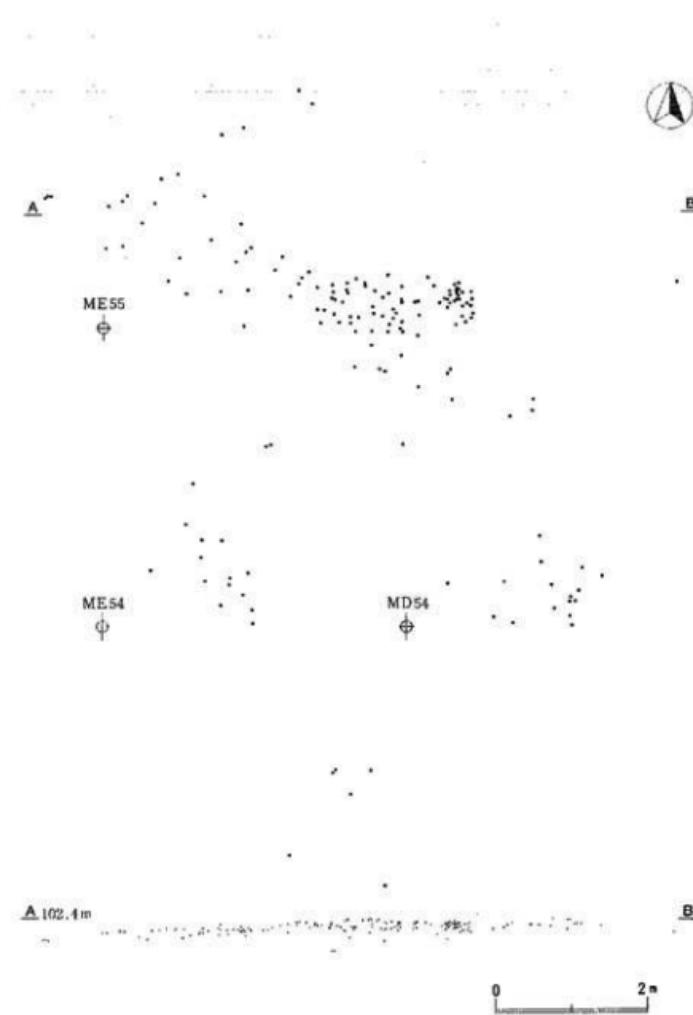
第 170 図 遺構内出土遺物 (108) SX-Q92⑤



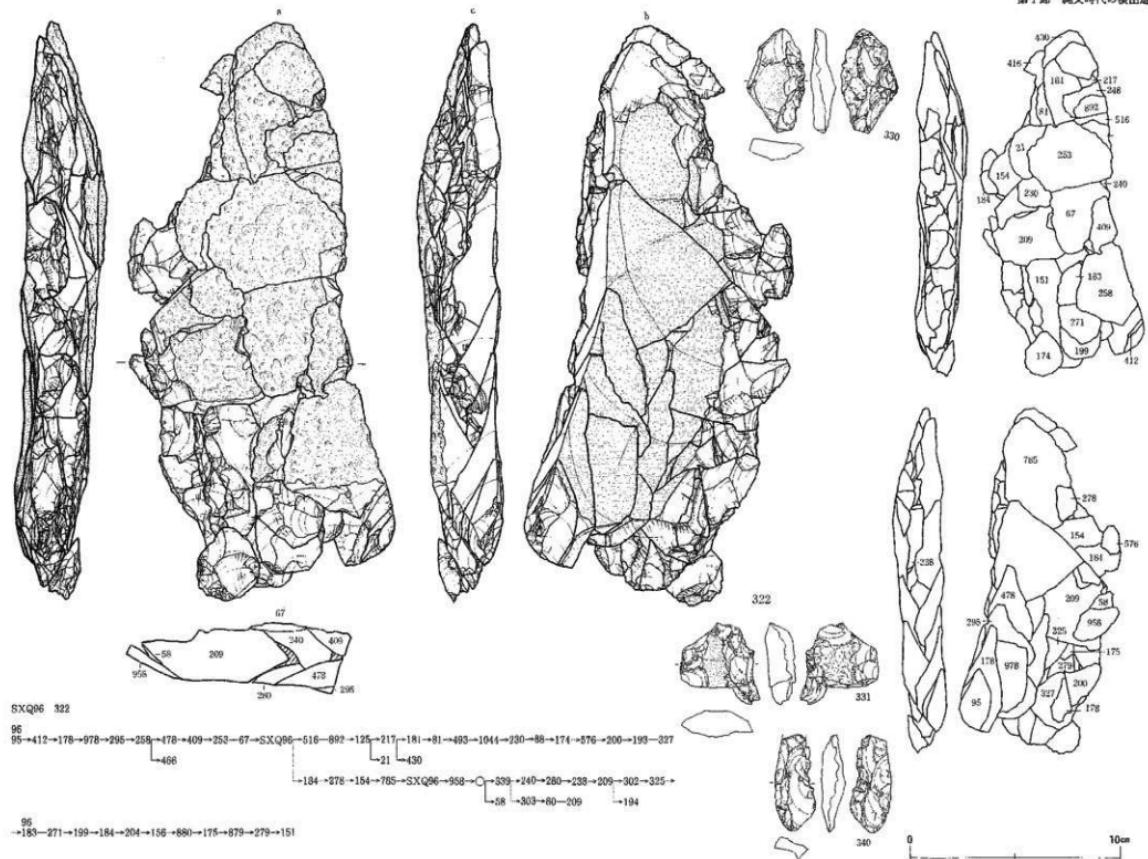
第171圖 遷縣內出土遺物 (109) S X Q9200



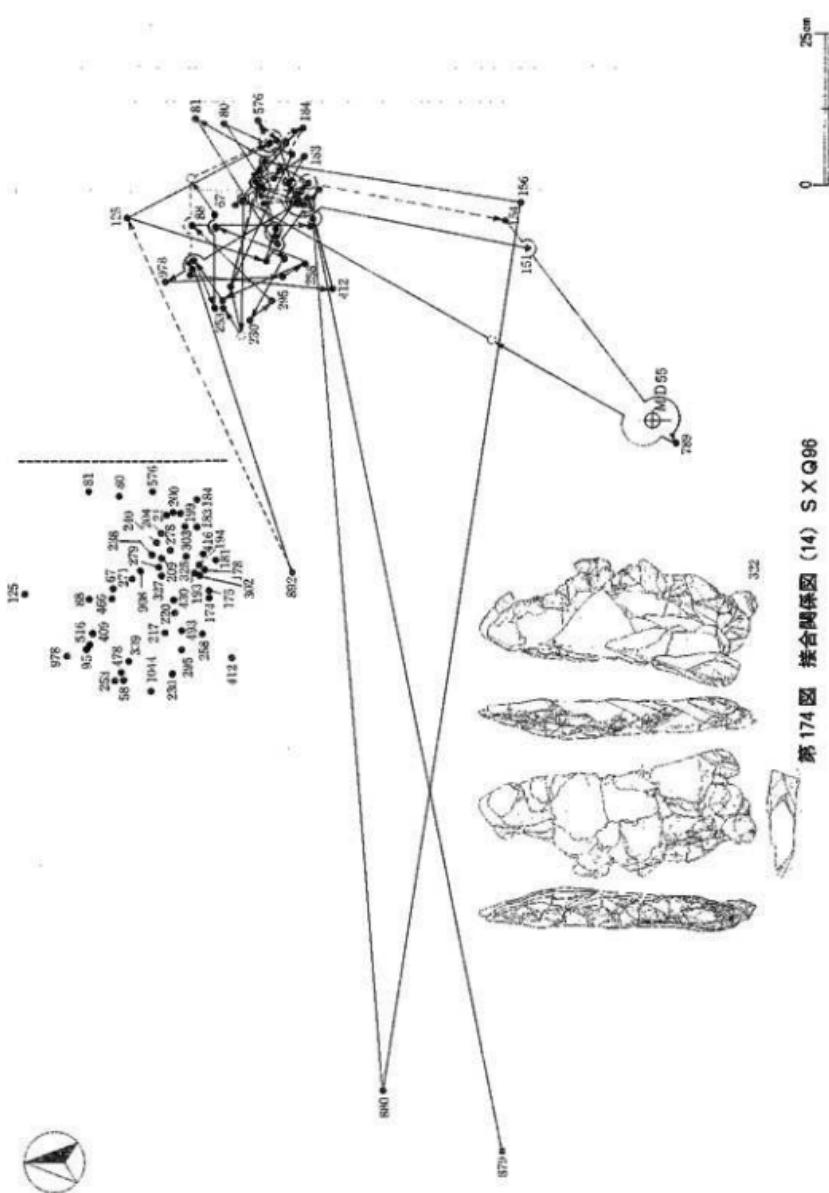
第171圖 漢代陶器的發出遺物之圖



第172図 石器集中部(15) S X Q96



第173図 遺構内出土遺物 (110) SXQ96①



第174図 接合関係図(14) S X Q 96

して、b面に摺理面を残す。302はb面に平坦な自然面の一部を残す。303はa面の左側縁に打面を形成し、下から上へ連続した剥離がある。304は疊皮面のある剥片が接合している。

石核（305） a面左側縁やb面左側縁で、多くの剥片を得ていることから石核に分類した。しかし、b面右側縁の調整より、石核から両面調整素材に転化した可能性がある。

両面調整素材（306～310） 306は301の石核。a・bの両側縁に粗い調整がある。a面に自然面を残す。307は横長剥片を素材にしている。b面左側縁中央の調整は、a面右中央の剥離と対応して、鋭い刃部を作る。308は295の石核で、a・b両側縁に粗い調整がある。309は294の石核で、分厚い木の葉形を呈す。a・b両面に自然面を残す。310は292の石核。a面右上位が大きく抉れた形で、全体として粗い調整がある。

両面調整石器（311～316） 311は290の石核。楕円形の整った形で、上下の端部を丸く仕上げる。石斧を意図した可能性がある。a面からの折断がある。312は扁平で薄く、a面右側縁が直線的な半月状を呈す。a・b両側縁には丁寧な調整を施すが、a面からの折断がある。313は、左右非対称形でa・b両側縁に調整があり、a面右側縁に細かく丁寧な剥離を施す。小さな1片の破片が接合する。314は横長剥片を素材にし、a面の左側縁と同右側縁の表裏に調整がある。搔器にすべきかもしれない。315は295の石核に当たり、両面調整石器の片割れである。316は縦長剥片で、打点を残す両面に調整がある。a面からの折断がある。

石斧（317・318） 317は289の石核。細かい短冊形を呈すが、刃部は丸く基部はやや尖りぎみである。製作途中の刃部は、一時直刃状を呈し見事な両刃に整えている。318は300の石核。刃部は丸く鋭角な両刃を呈すが、a面では自然面をそのまま利用している。両面調整石器の可能性もある。

石砲（319・320） 小型で細長い楕円形。刃部は丸く鋭角で、石斧に分類すべきかもしれない。全体がやや分厚い楕円形。a面の上半と刃部の一部に自然面が残る。

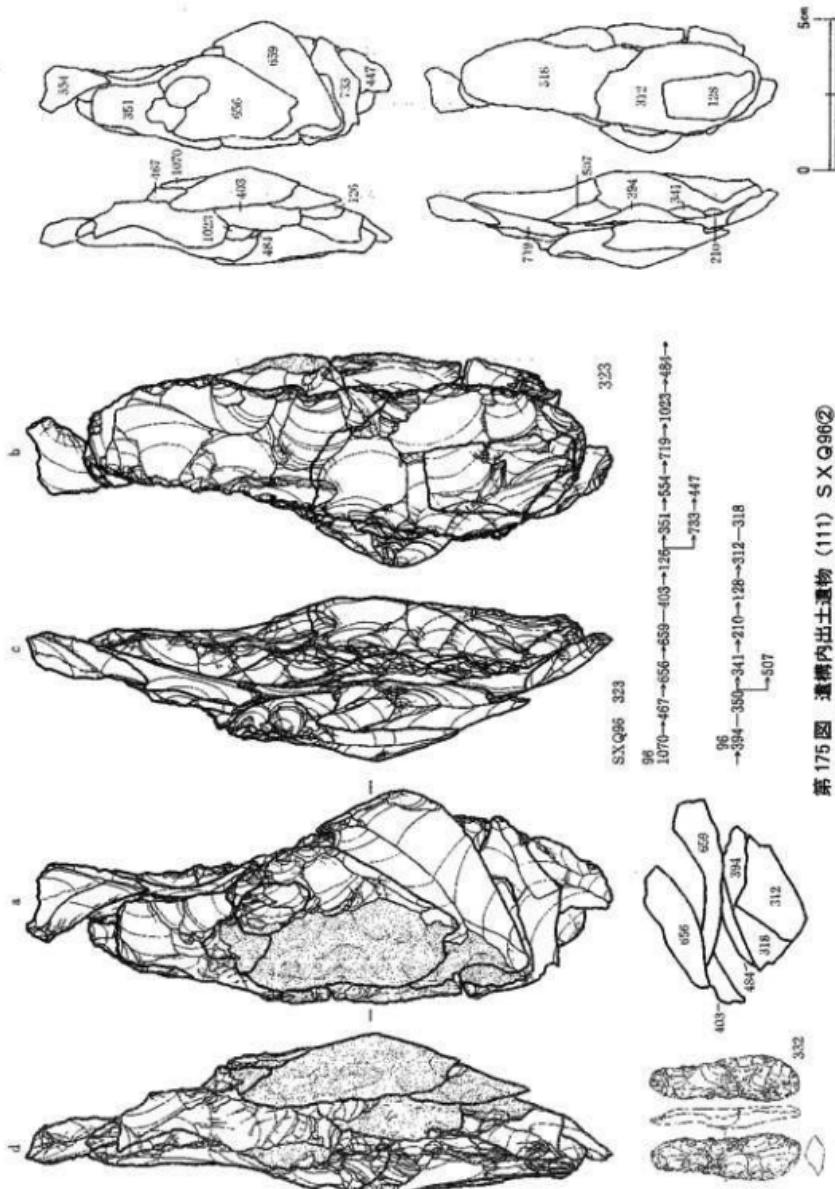
搔器（304） 304の片割れで、二等辺三角形の底辺部を刃部として加工。a面右側縁は剥離面のままで、同左側縁には調整がある。

削器（321） 292の1つで、横長剥片のa面右側縁とb面左側縁に調整がある。c面の側縁は鋭角に仕上がる。

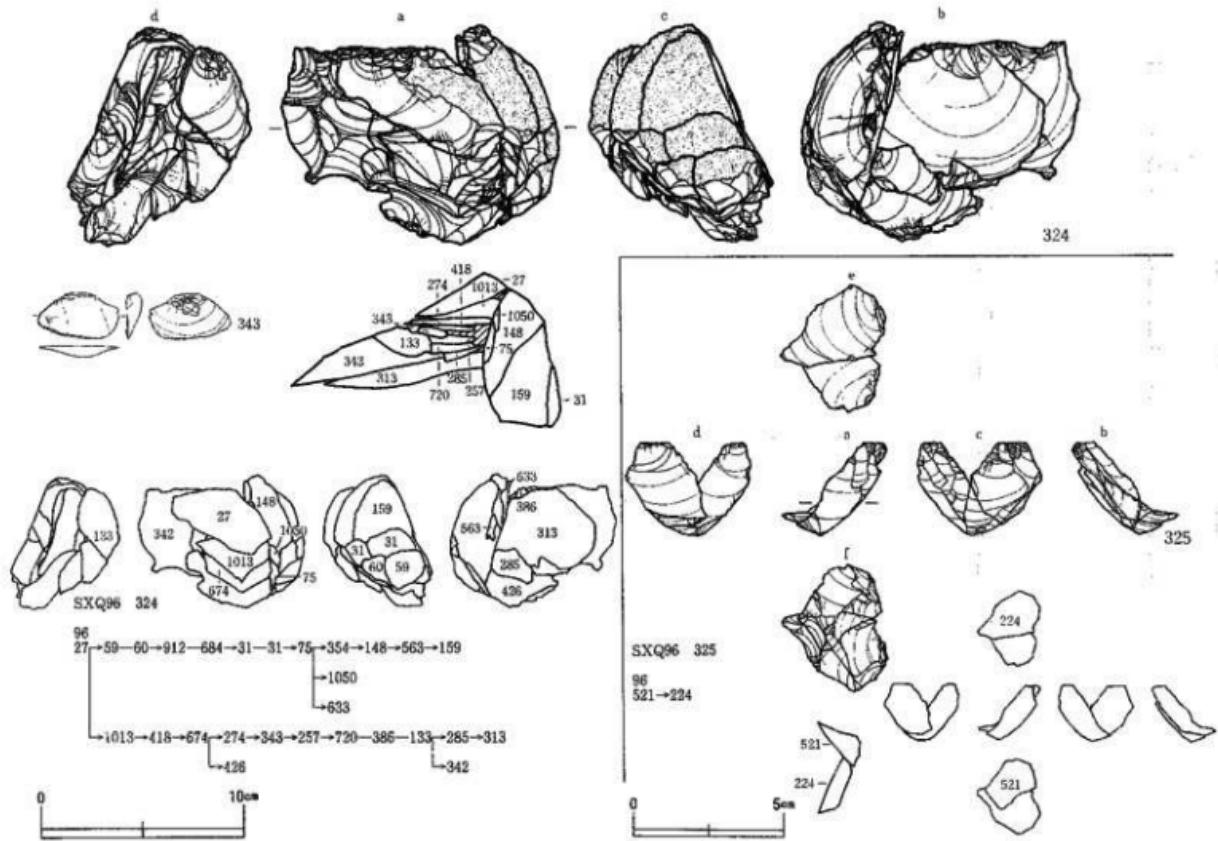
S X Q96（第172～180図、図版21・56・57・74）

I段で調査区中央部のMC54・55区、MD53～55区に位置し、表土下約0.8mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は1,111点で、長軸9.4m×短軸8.2mの広がりをもつ。この北側には、径0.6mと幅0.8mの近接したブロックがある。これらのブロックの垂直分布は、約0.2mの幅がある。遺構は、多量のチップが共存している石器製作跡である。

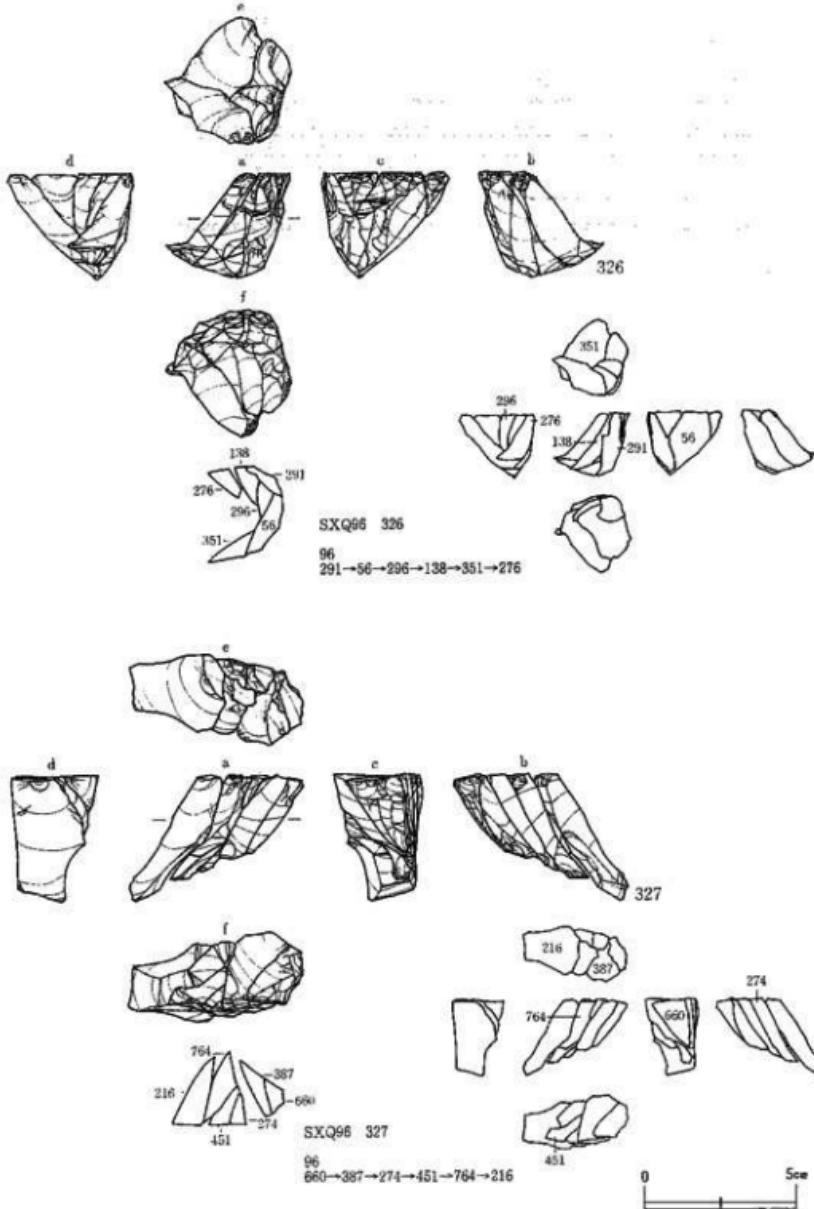
出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・石砲・搔器・削器・二次



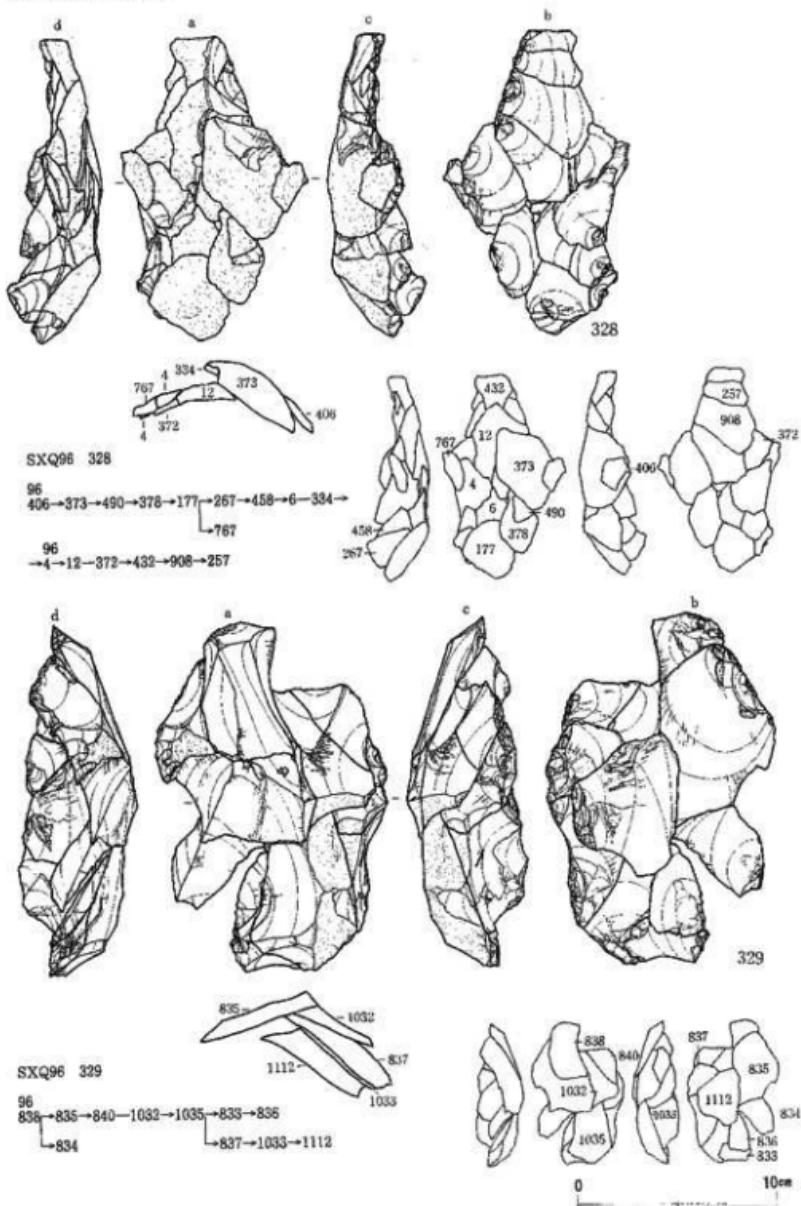
第175図 遺構内出土遺物 (111) SXQ96(2)



第176図 遺構内出土遺物 (112) SXQ96③

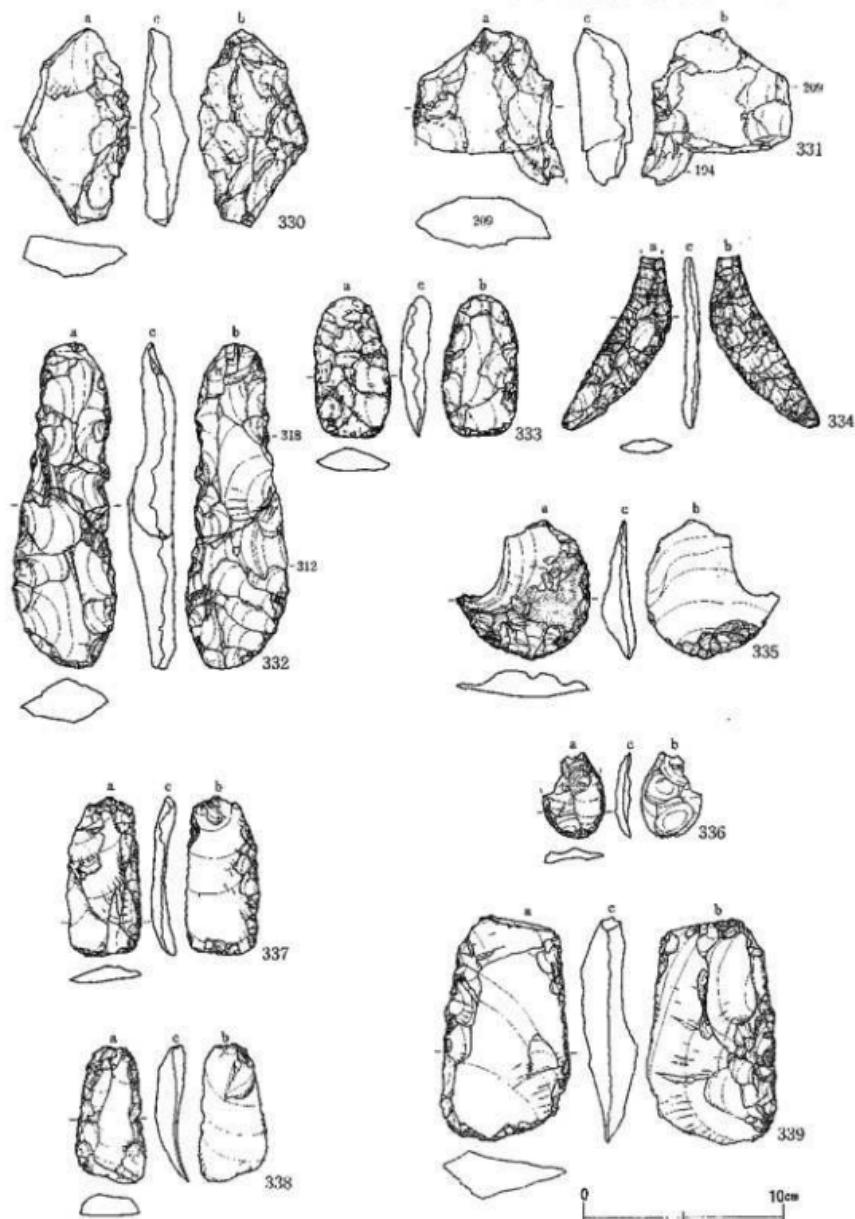


第177図 遺構内出土遺物 (113) SX Q96④



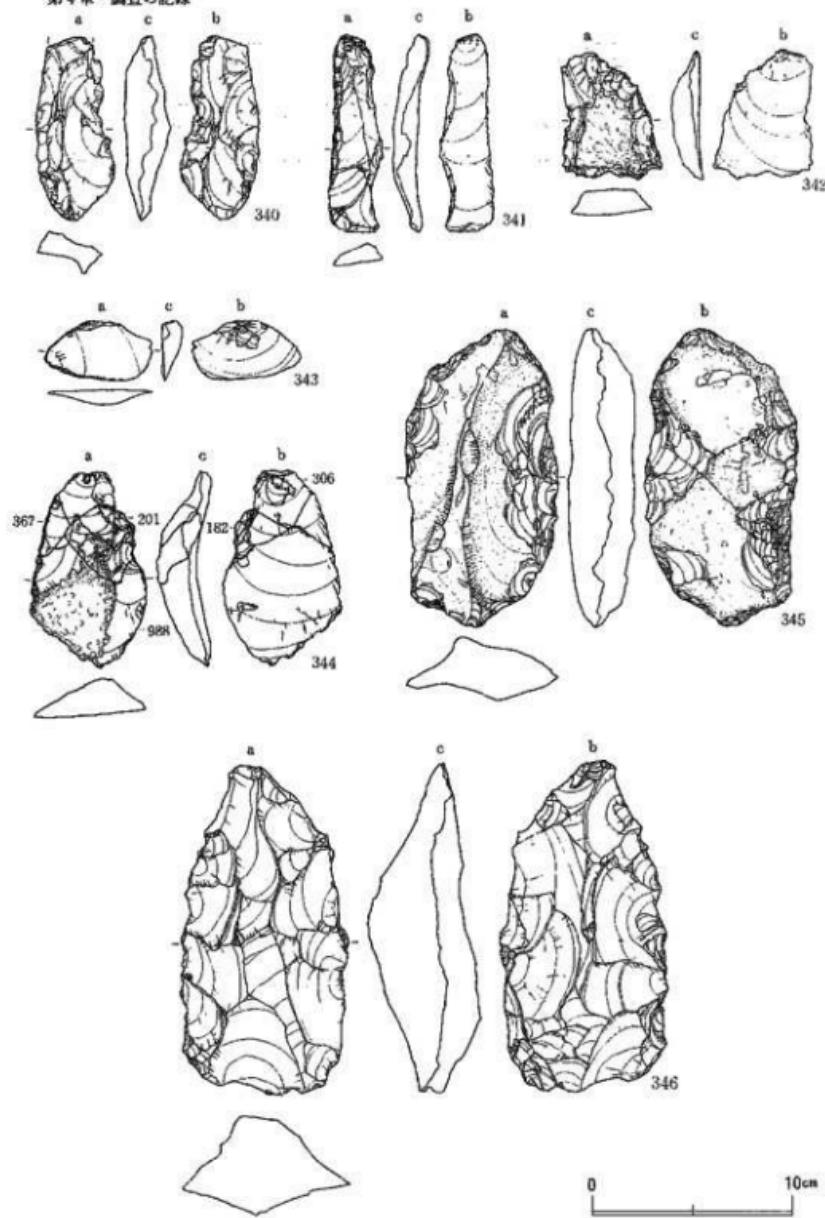
第178図 遺構内出土遺物 (114) SX Q96(5)

第1節 縄文時代の検出造構とその遺物



第179図 造構内出土遺物 (115) S X Q96⑥

第4章 調査の記録



第180図 遺構内出土遺物 (116) S X Q96⑦・99①・102①

加工ある剝片がある。

接合資料（322～329） 322は、平坦な分割縫を素材にしたと考えられる。c面の左右は自然面が平坦面で、下半部は交瓦剝離が下から上へ及ぶ。効率の良い剝離を意図したが、失敗している。323は、厚みのある細長い河原石を素材にしたと考えられる。a面右下側縫の剝離後、同面左上位側縫からの剝離がある。縫皮面側の剝片が分厚い特徴をもつ。324は、a面で右側の固まりを分割した後、左側の固まりから多くの剝片素材を確保している。それは、d面上から右端の剝片を1つ剝離してから、90°転移しa面分割面を打面にして行ったもので、その後90°戻ってd面左の上からさらに剝片を得ている。a面分割面の右側にある固まりでは、c面の左右側縫から小さな剝片を得ている。325～327は上面が平坦な舟底形石核から、細石刃状の小さな縦長剝片を連続して剝離したもの。これらは同一個体の可能性がある。328と329は、両面調整を意図した片面の剝片接合資料である。両資料共、分割縫か河原石を原石にしていると考えられ、328は小形の329は大形の剝片である。

両面調整素材（330・331） 330・331は322の一部で、両面調整を意図した石器の製作途中に折断したもの。330はa面に摺理面が、331はa面に摺理面をb面には縫皮面を残す。

両面調整石器（332） a面上方が窄まり下方が膨らむ、左右非対称形の形態である。c面も逆S字状を呈す。両側縫に粗い調整がある。

石鎚（333） 短冊形で横長剝片と考えられる。刃部は表裏とも素材面を利用し、b面に小さな剝離を施すのみ。刃部は鋭い両刃を作ることから、石斧にすべきかもしれない。

搔器（334～336） 334はつまみの付く三ヶ月状の形態である。つまみ部は折れ、先端部の調整はa面側が途中である。両側縫を刃部にしたと考えられる。335は横長剝片、336は縦長剝片と考えられる。縫辺に丁寧な調整があり、刃部を丸く仕上げている。

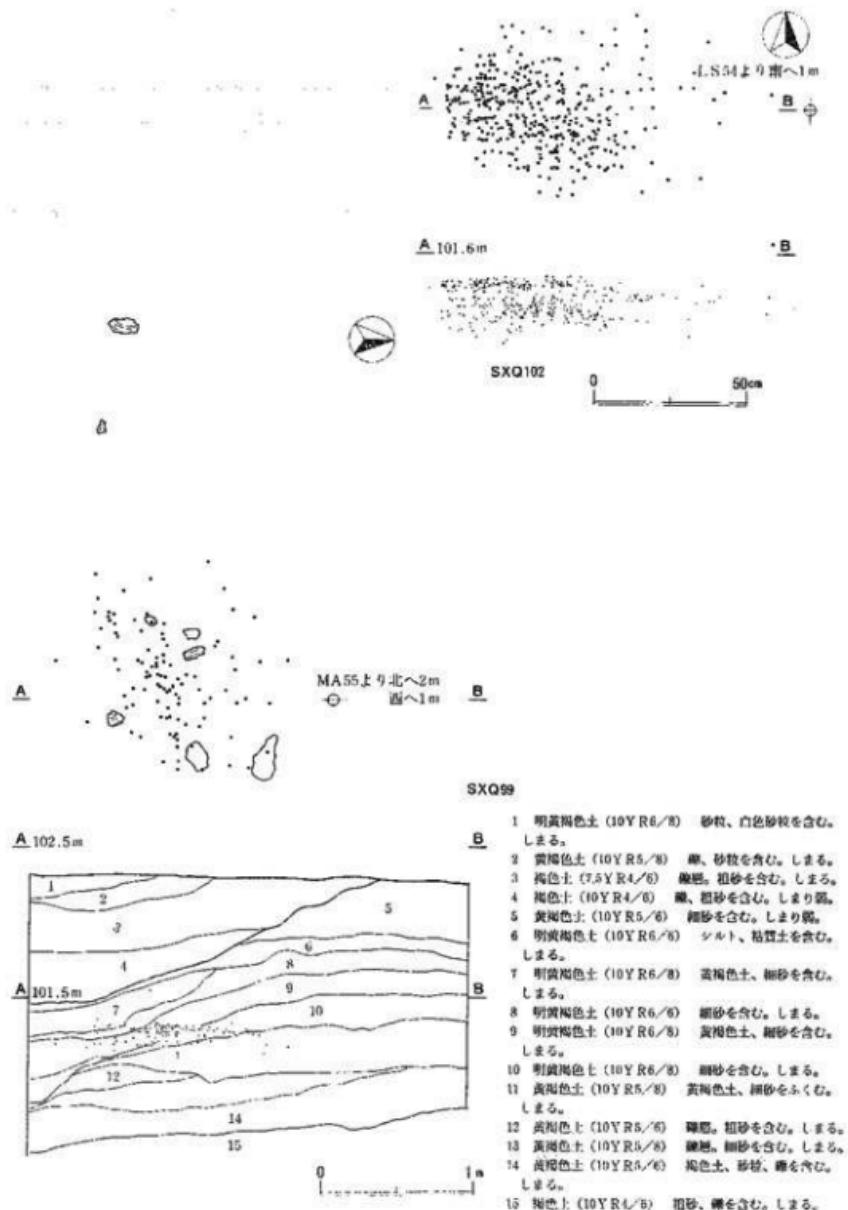
削器（337～342） 337と338は、縦長剝片で両側縫に調整がある。339は横長剝片で両側縫に調整があり、a面の右側縫には直線的な細かい剝離を施す。340では、a面右側縫中央の一部と左側縫に調整がある。341は縦長剝片で、a面左側縫に調整がある。342は細長い縦長剝片で、a面の左側縫に急角度の調整がある。

二次加工ある剝片（343・344） 343は横長剝片で、a面下位と上位左に細かい調整がある。344は、a面下位と右側縫に粗い調整がある。

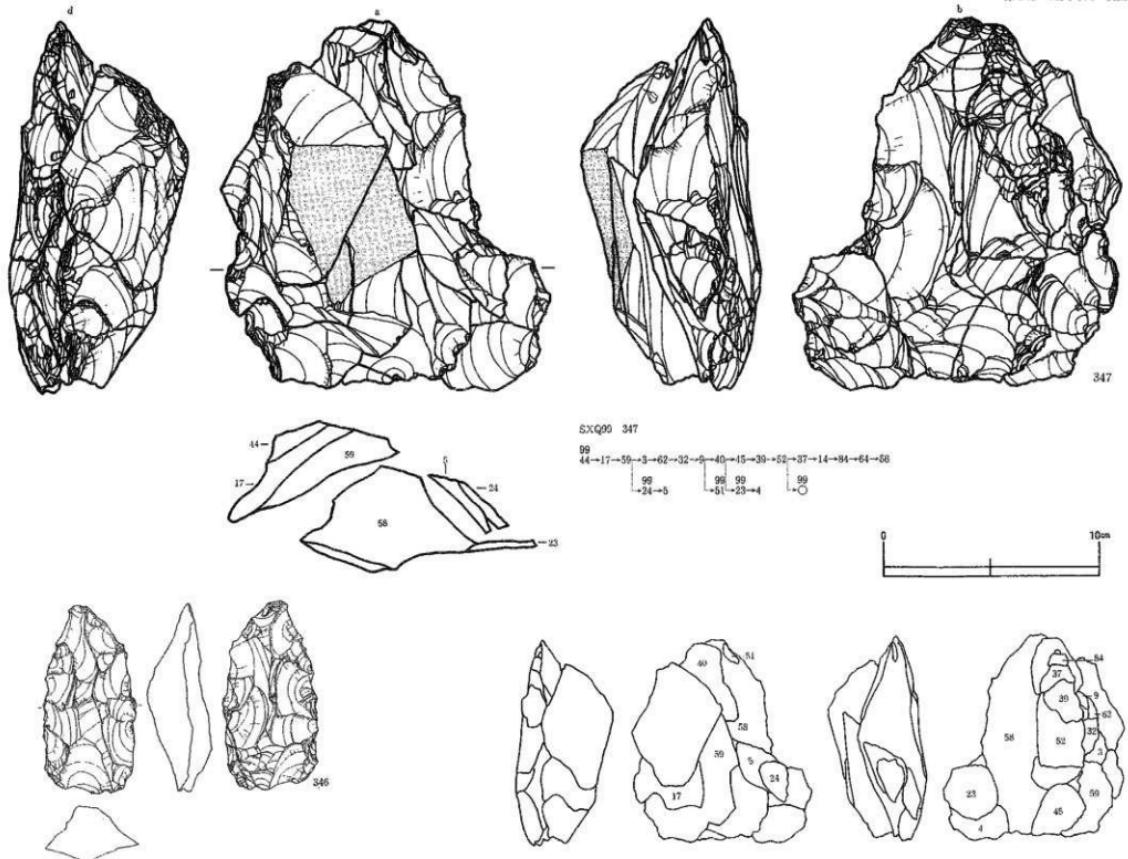
S X Q99（第180～183図、図版21・62）

上段で調査区中央のMB56区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は107点で、主に径0.8mの範囲にまとまる。これらには僅かに縫を含んでいる。垂直分布は、最大約0.2mの幅がある。遺構は、チップが共伴している石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整素材がある。



第181図 石器集中部 (16) SXQ99-102

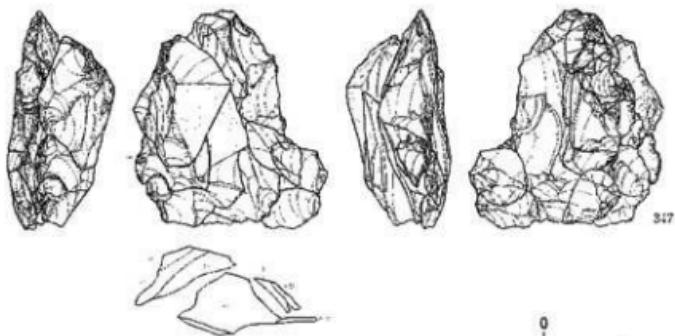
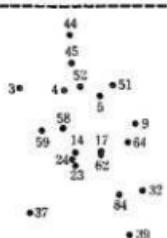
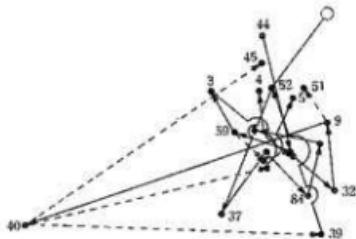


第182図 遺構内出土遺物 (117) DX Q99②

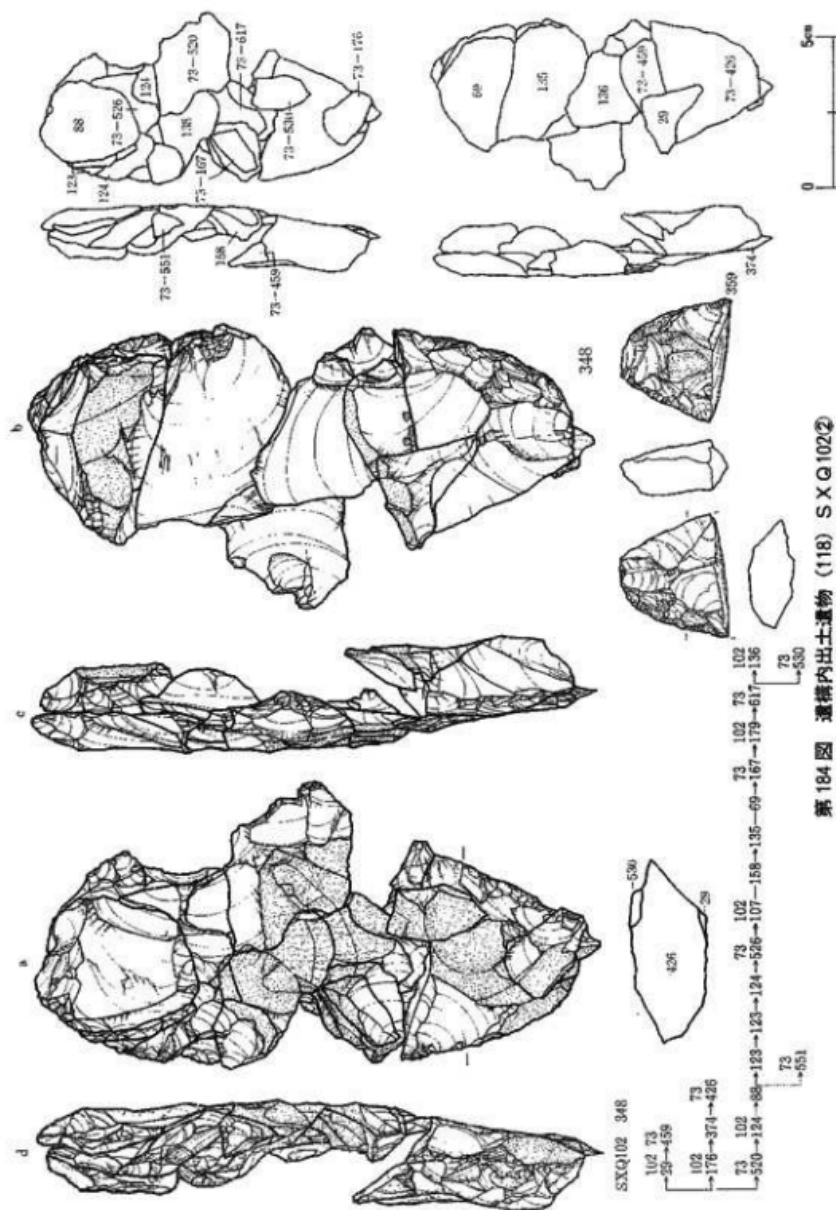


40 44 45 3 4 52 51 9 32 37 30 38 44 45 52 51 9 32 37 38 58 59 14 17 64 24 23 84 37 32 39

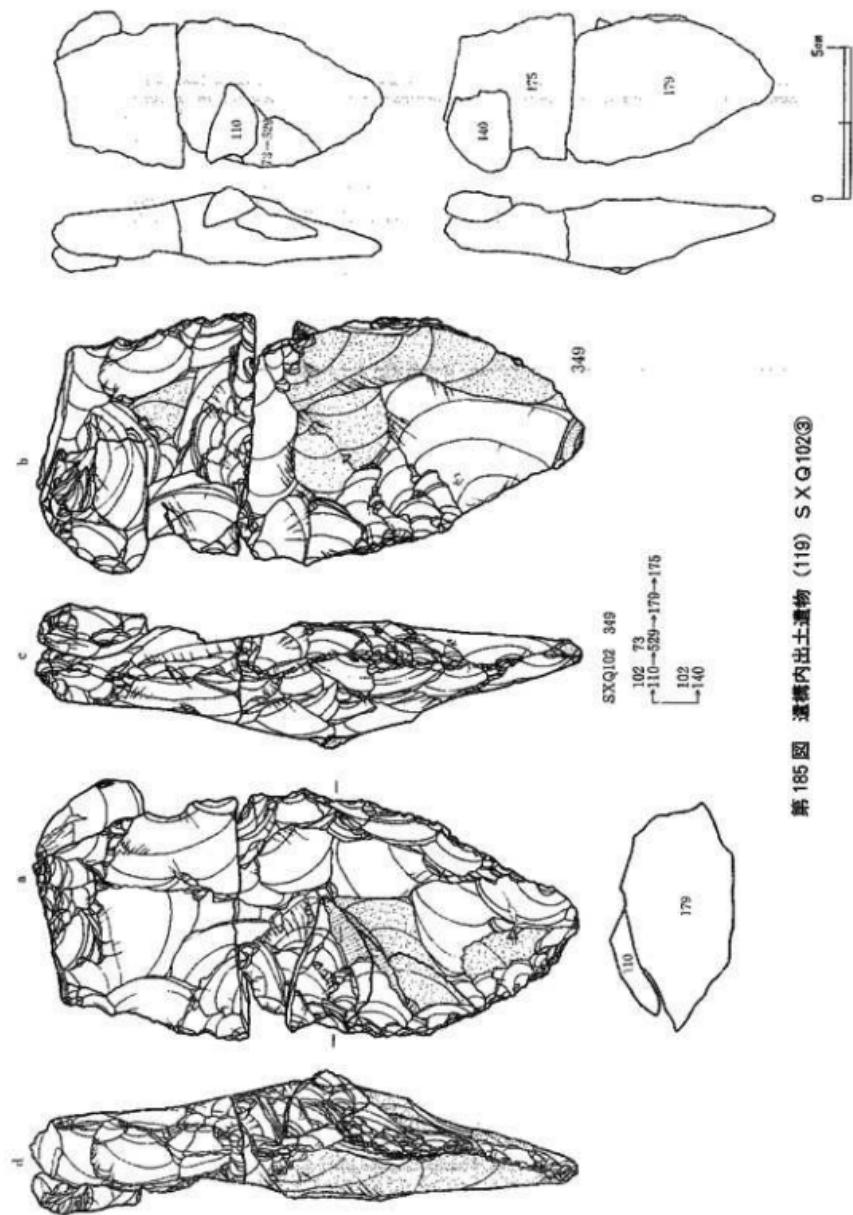
MB55 MA55



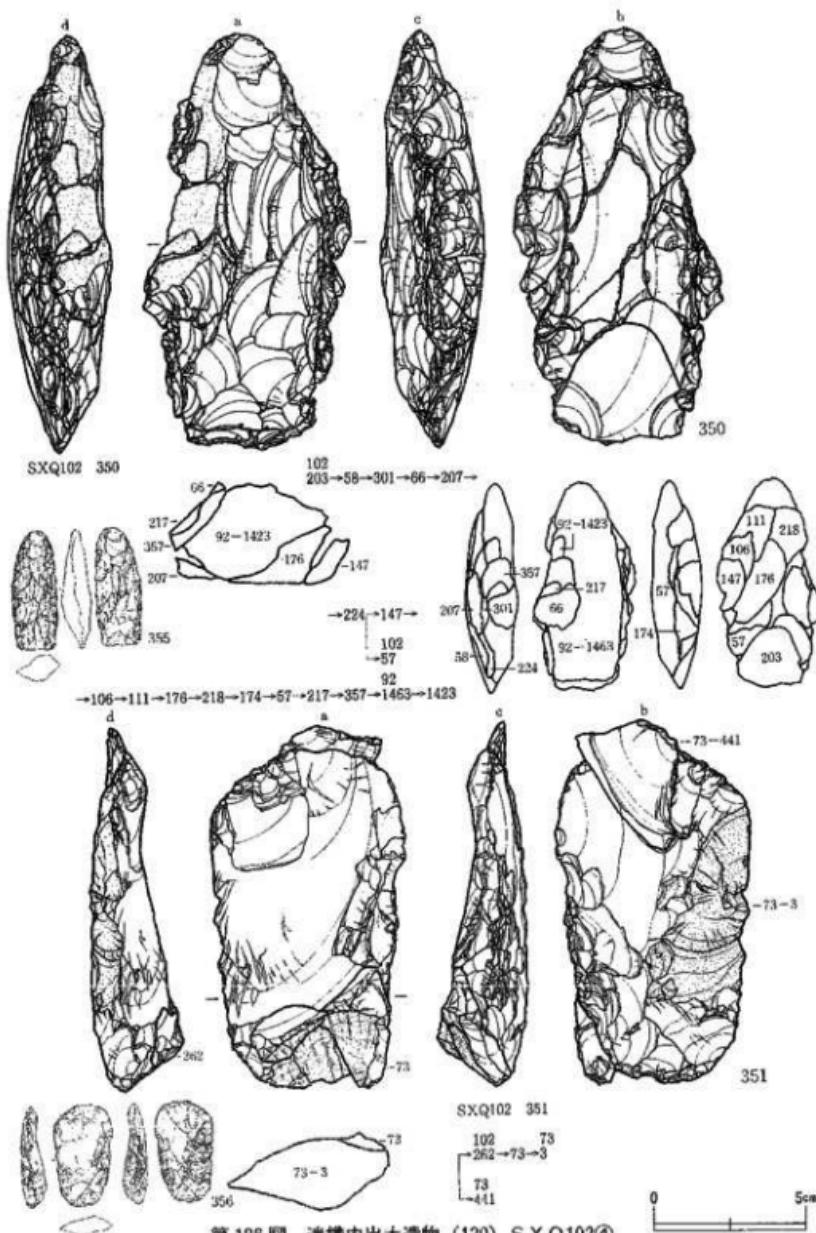
第183図 接合関係図(15) SXQ99



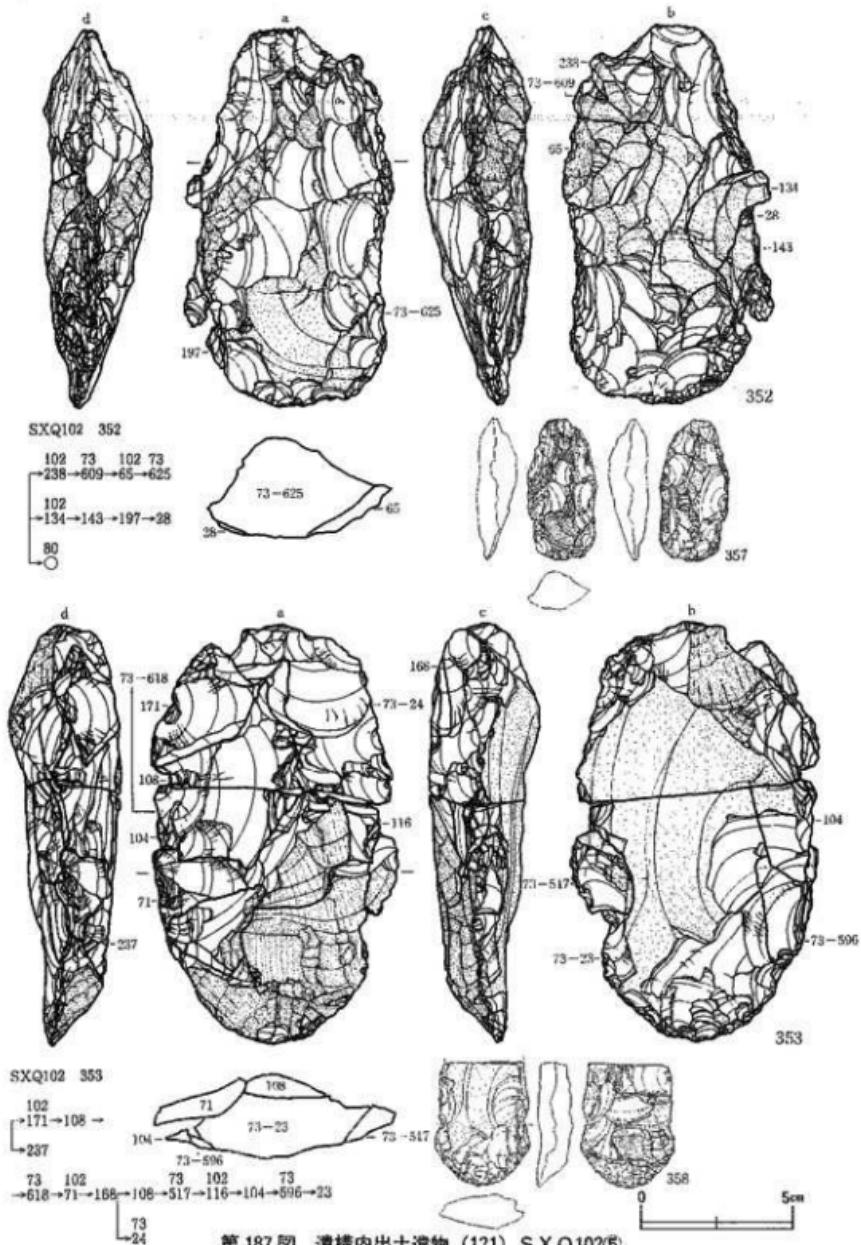
第184図 這樣内出土遺物 (118) SXQ102



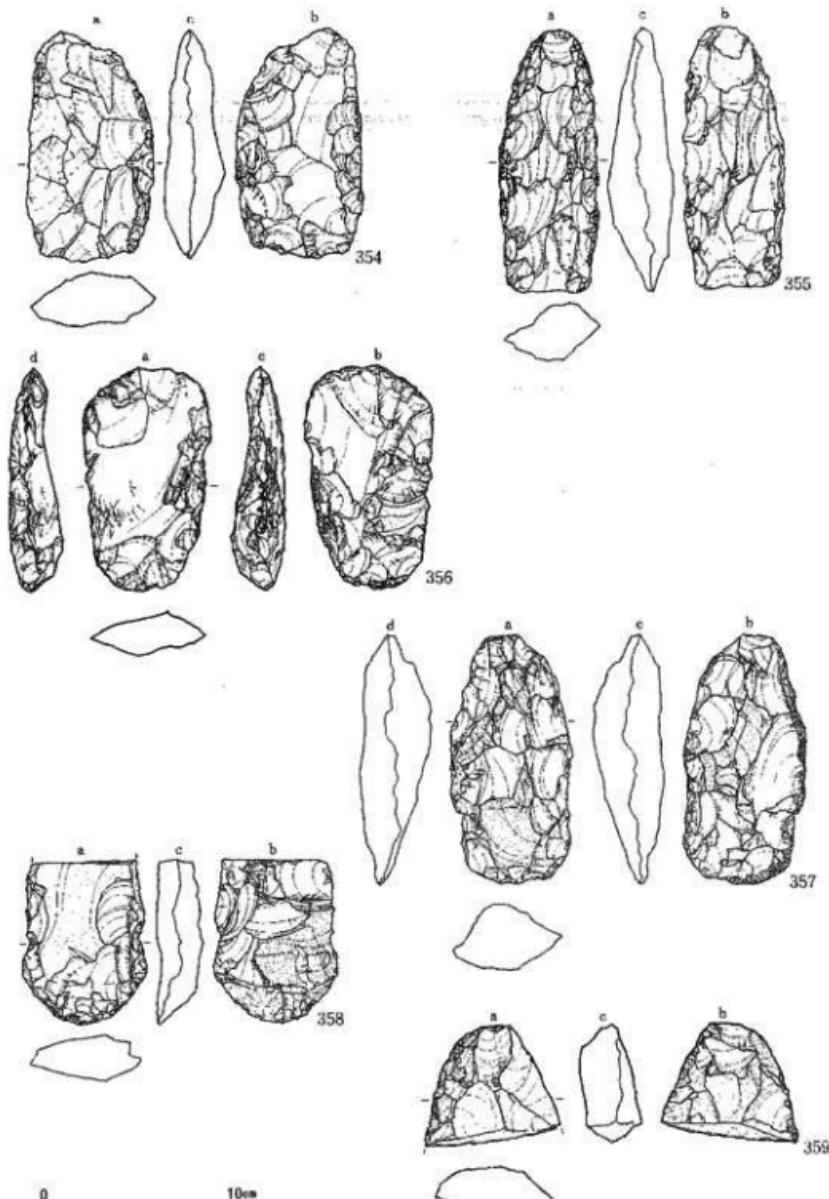
第185図 遺構内出土遺物 (119) SXQ102(3)



第186図 連構内出土遺物 (120) SXQ102④



第187図 遺構内出土遺物 (121) SXQ102(5)



第188図 遺構内出土遺物 (122) S X Q102⑥

接合資料（347） 分割礫を素材にしたと考えられ、a面左側縁より横長の大きく厚い剝片を剥離している。同面の中央に疊皮面がある。

両面調整素材（345・346） 345は疊皮面のある横長剝片を素材とし、両側縁に粗い調整がある。346はa面が甲高で、両側縁に粗い調整をもつ。

S X Q102 (第180・181・184～188図、巻頭図版10、図版50・52～54)

上段で調査区東側のL S53区に位置し、表上下約0.5mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は389点で、主として長軸1m×短軸0.7mの楕円形の範囲に集中している。特に0.6m×0.4mの範囲では、濃厚な分布状態を示す。垂直分布は最大0.3mの幅がある。遺構は、多量のチップが共伴している石器製作跡である。

出土遺物は石器のみで、接合資料・両面調整石器・石斧がある。

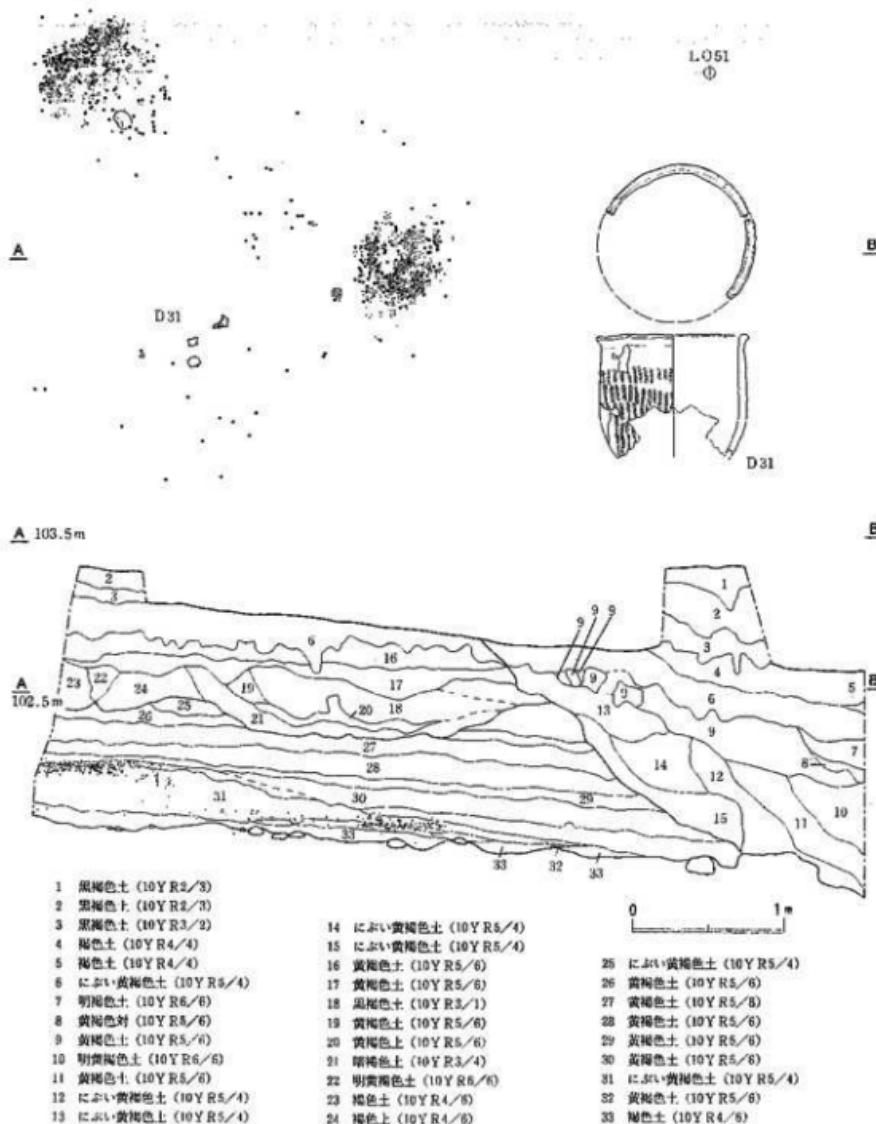
接合資料（348～359） 348は、概理面で分割している古く扁平な礫を素材にしている。両面調整を意図する。349は分割礫を素材にしたと考えられ、下端が尖った両面調整石器を意図している。a面下位の両側縁に丁寧な調整がある。中央と上位にa面からの折断がある。350は分厚い横長剝片が素材で、両側縁と刃部に交互剥離を施す。a面に疊皮面が残る。351は横長剝片の素材である。352は古い分割礫を素材にしているが、その厚さや大きさは本資料とさほど変わらない。353も古い分割礫を素材にしたもので、この素材も本資料とあまり変わらない。中央やや上でa面からの折断がある。

両面調整石器（354・359） 354は素材が横長剝片の可能性があり、やや分厚い半月形に近い形状である。c面の側縁は直線的で、下端は両面からの調整がある。359は348の一部で、b面左側縁に細かく丁寧な調整がある。

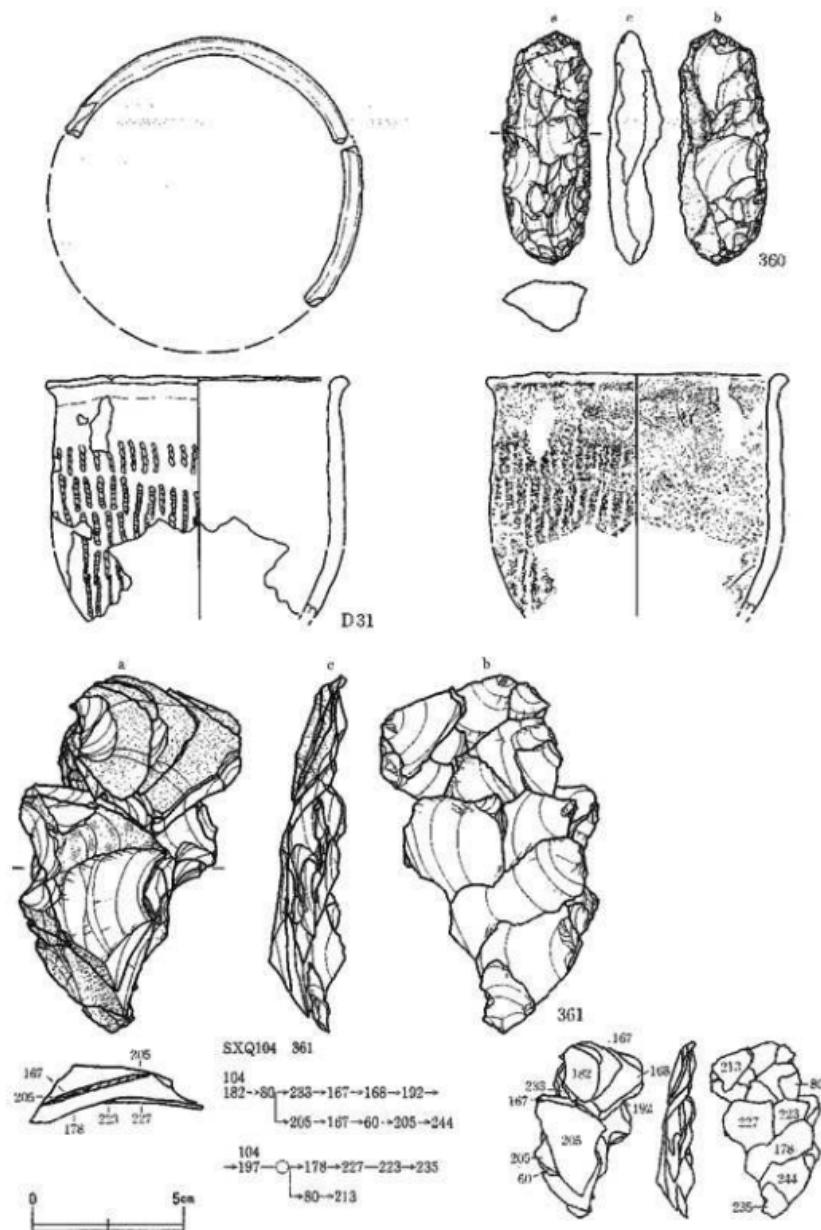
石斧（355～358） 355は350の石核。甲高の短冊形で、刃部は水平な直刃状を作る。356は351の石核。刃部を両刃状に作り出しており、全体の形状から石斧の失敗品と考えられる。357は352の石核。上位が甲高の素材で、それに僅かに手を加えたものである。刃部はやや丸みのある両刃である。全体に素材の形を生かした、無駄の少ない作りである。358は353の石核の一部。効率の良い作りで、丸い刃部は素材面の傾斜を利用していている。

S X Q104 (第189～193図、巻頭図版6、図版22・58・59・75)

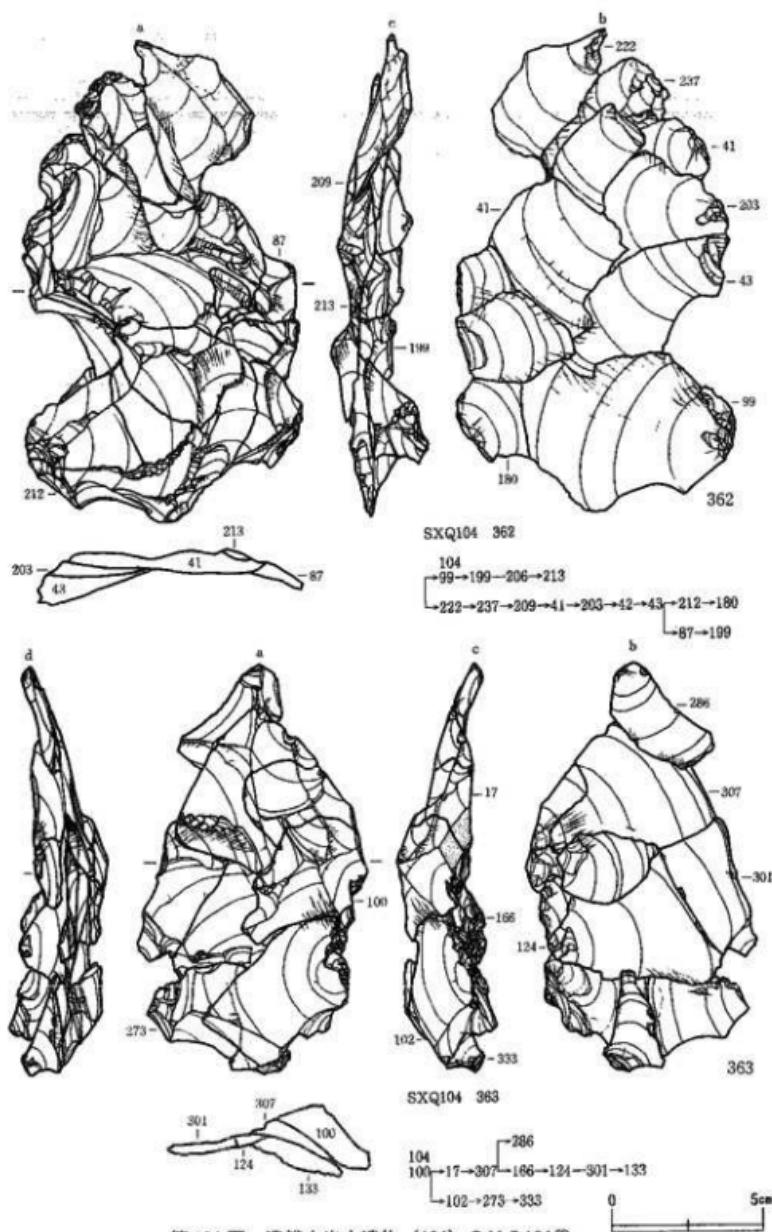
上段で調査区東側のL O51区一帯とL O52区南東杭付近を中心にして位置し、表上下約1mの河道A堆積層上部の砂層で検出。取り上げ総数は370点で、この外に繩文早期の土器数片が出土している。L O52区南東杭の所に僅1.6m(aブロック)の、これより南西3mには1.5m×1.1m(bブロック)と2つのブロックがある。土器は、これらブロック外のL O51区北側で同一層から出土した。垂直分布は、a・bブロック共に幅が0.1m前後の水平な状態で安定しているが、両者は約0.4mの高低差がある。2つのブロックは、チップを共伴している



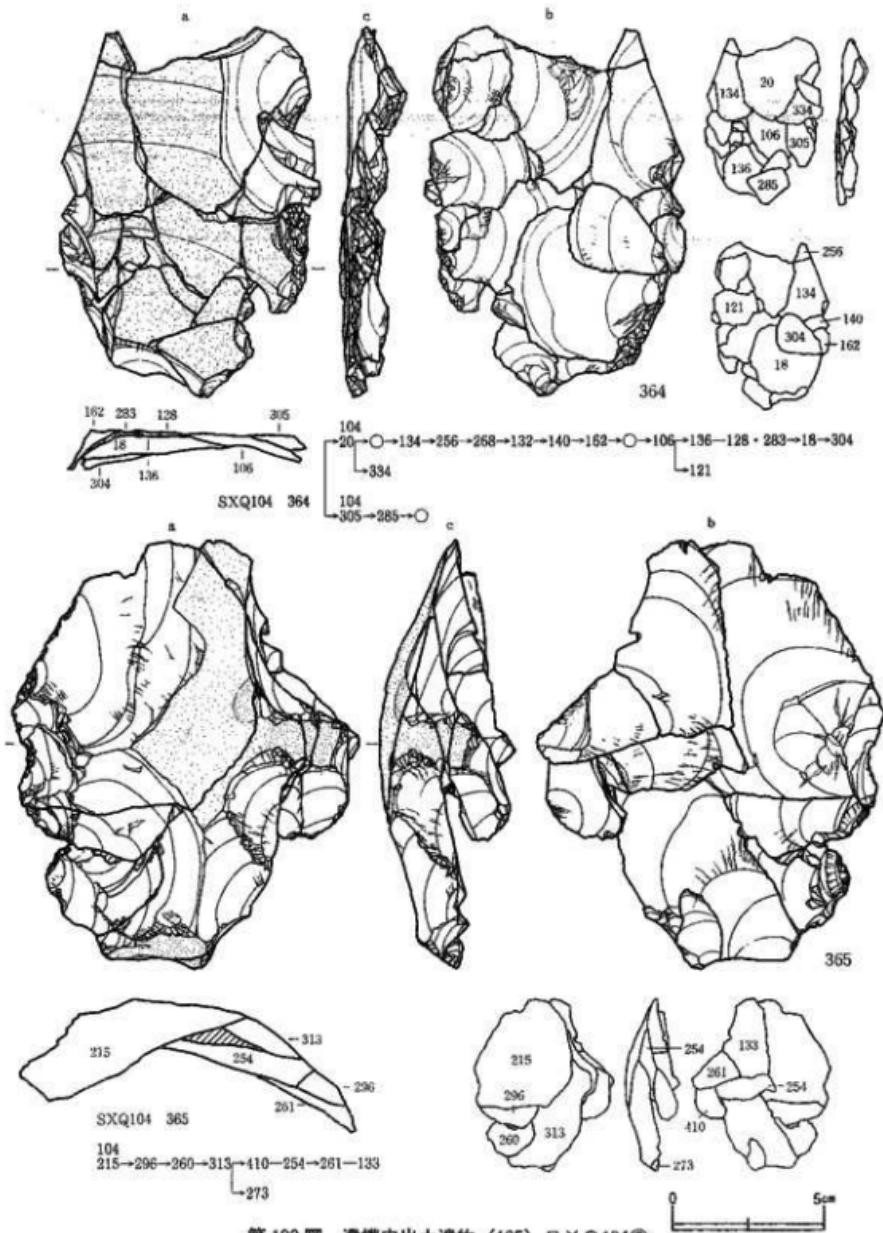
第189図 石器集中部 (17) S X Q104



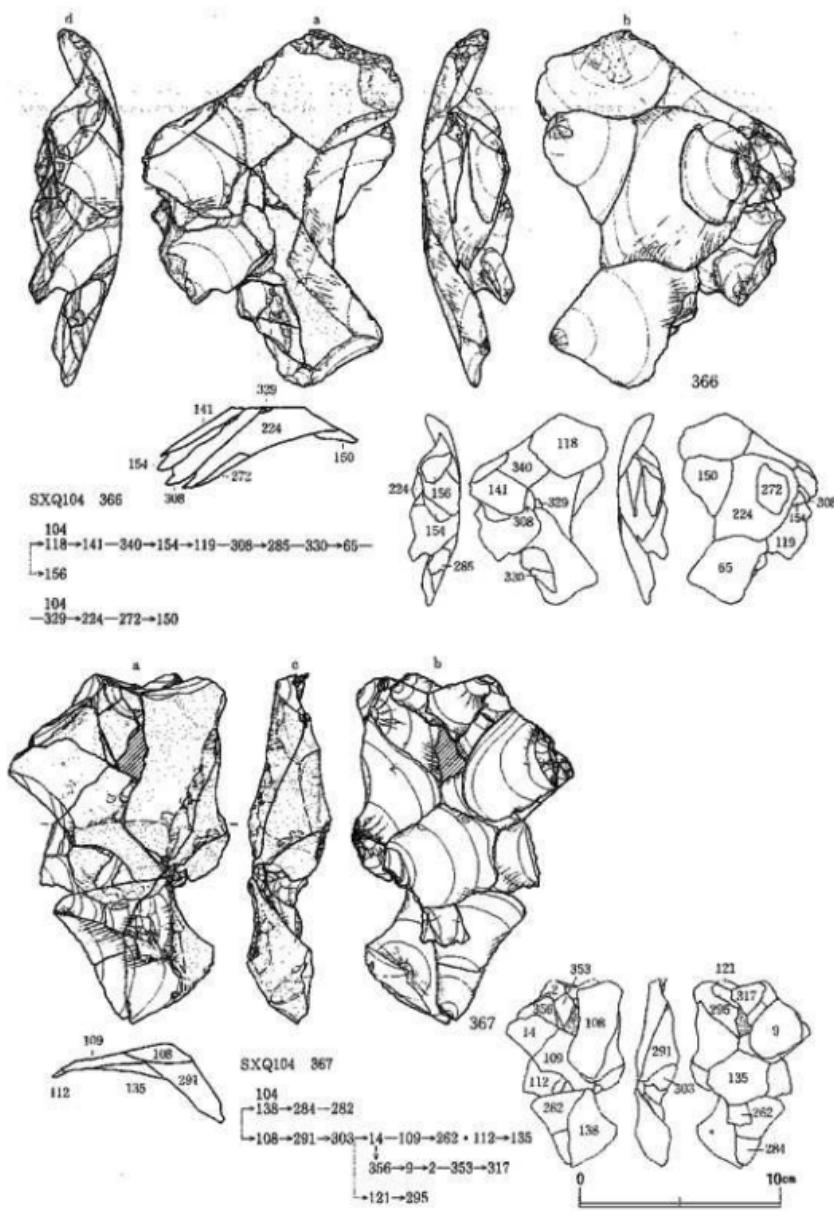
第190図 遺構内出土遺物 (123) SXQ104①土器・石器



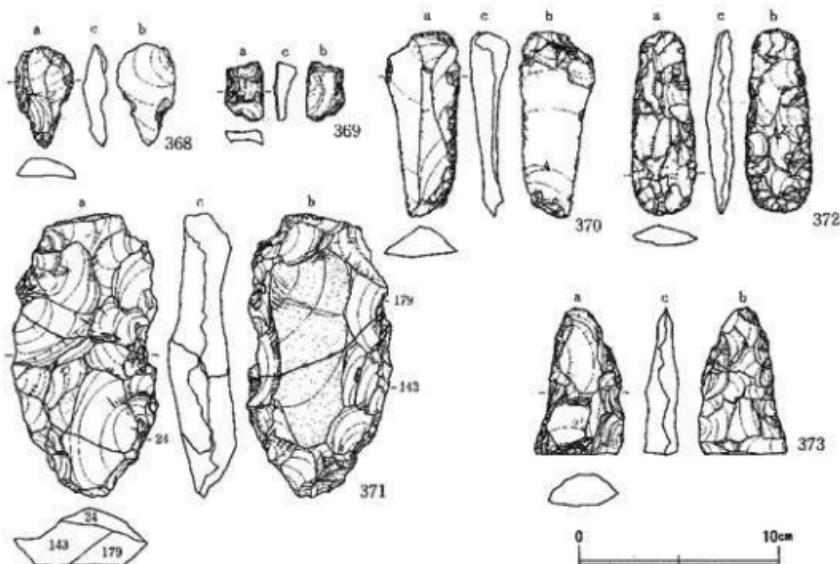
第191図 遺構内出土遺物 (124) SXQ104(2)



第192図 遺構内出土遺物 (125) SXQ104(3)



第193図 遺構内出土遺物 (126) SXQ104④



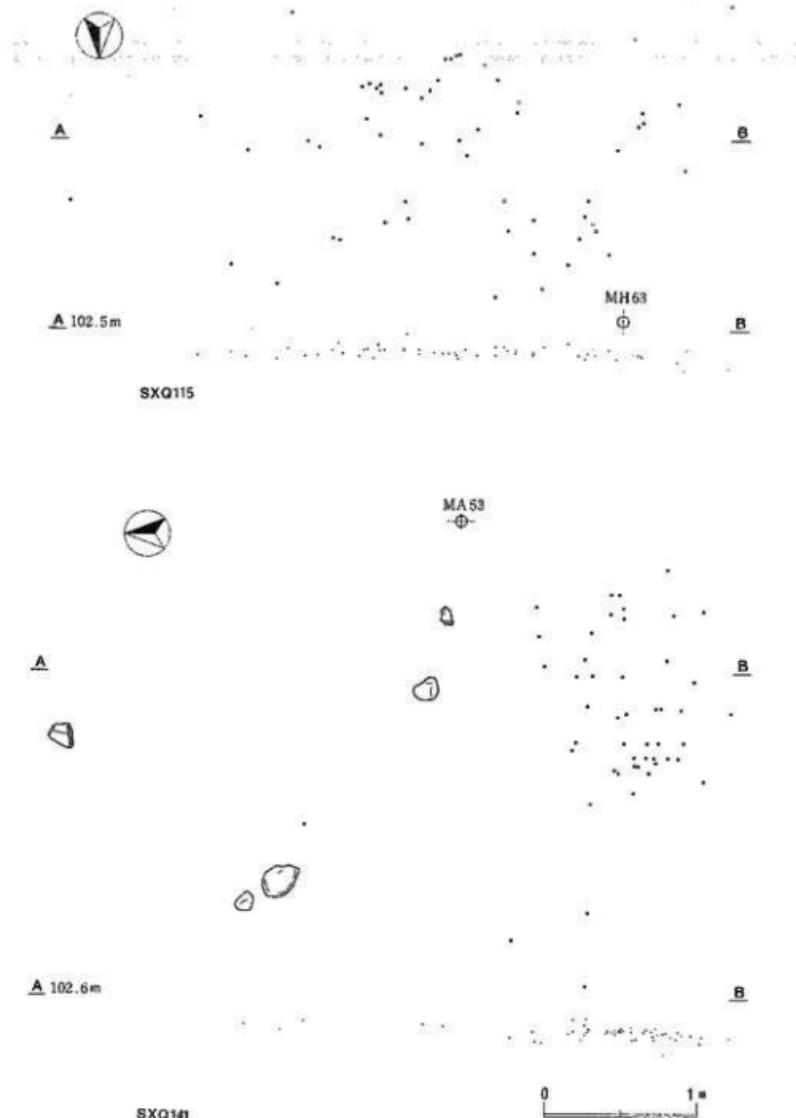
第194図 遺構内出土遺物（127）S X Q115・150①

石器製作跡である。

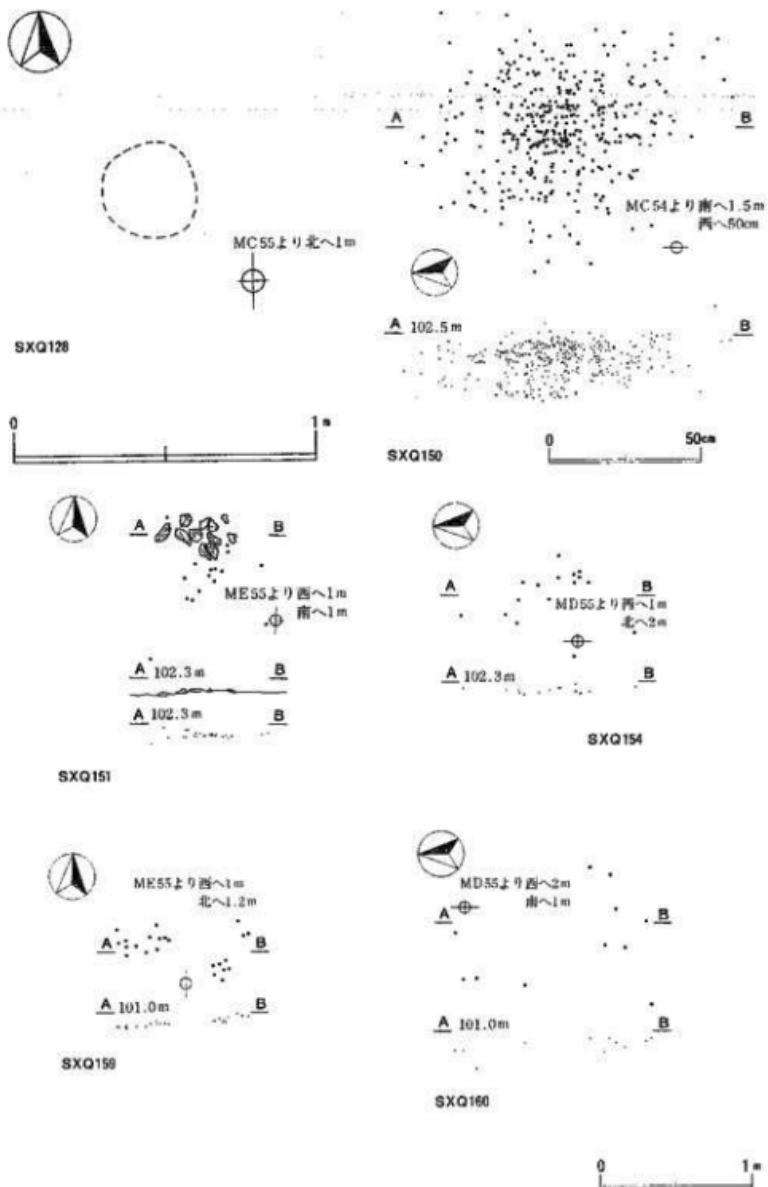
出土遺物は、深鉢の繩文土器以外に接合資料・画面調整素材の石器がある。

深鉢（D31）口縁の1/2、胴部の約1/4を残存。口径10cm、現存高8cmである。口唇は肥厚し、口縁部は外湾する。胴部は直線的で、中央やや下位より底部にかけて丸みを帯びる。口唇部は丸みをもつ。口縁部は幅1.5～2cmの無文帶で、その下に縦位の撻糸文がある。撻糸文はRの原体と考えられ、条の長いもので約1cmあり、横位に帯状のまとまり（帯繩文）をもつ。最も長く現存する胴部で、5段の帯繩文が確認される。2段以下の条は、上にある条より僅かづつれている。したがって、原体を各々の幅分だけ上下に回転しそれを横に連続させたか、大きな原体を用いて絡状体圧痕文を施したかである。帯幅の短いことを考慮すれば、後者の可能性が強い。内面には指頭圧痕があり、器厚は3～4mmである。色調は内外面とも褐色が主体で、下位の一部に黄褐色が認められる。外面と内面上位に、煤が付着している。胎土は砂粒を僅かに含む。焼成は良好。この土器については第6章で考察するが、早期の範疇として捉えた。

接合資料（361～367）361～367は、画面調整を意図した片側の剥片接合資料である。361・364～367は、剥皮面を大きく残している。362と363は同一個体と考えられ、縦長剥片が多い。



第195図 石器集中部 (18) SXQ115・141



第196図 石器集中部 (10) SXQ128・150・151・154・159・160

365～367は大型剝片が目立ち、分厚く横長になる傾向がある。364のa面は平坦である。

両面調整素材（360） 細長い梢円の形状で、上下の先端はやや尖らせている。a面の左側縁を両面から調整するが、b面の左側には礫皮面を残す。

S X Q115（第194・195図、図版22・75）

上段で調査区北西部のMG・MH62区に位置し、表土下約0.6mのV層で検出。取り上げ総数は59点で、約長軸4.5m×短軸2.4mの広がりで疎らな在り方を示す。垂直分布は0.2mの幅に収まる。チップは確認できなかった。出土遺物には、石錐・削器がある。

石錐（368） 横長剝片で、刃部に当たる所の両側縁に浅い抉りを施す。先端には細かい調整があり、その断面は三角形を呈す。

削器（369・370） 369は、a面/左側縁に調整を施す黒曜石である。同上下端にもノッチ状の剝離がある。370は縦長剝片で、a面の右側縁に調整がある。

S X Q128（第196図、図版22）

上段で調査区中央のMC55区に位置し、表土下約0.5mの河道B堆積層上部で検出。すでに多くが掘り上げられていたが、状況を聞いて元に近い状態の撮影だけは行った。総数は14点で、径0.3mの狭い範囲に集中しており、垂直分布は0.1mの幅に収まる。チップは出土していない。

S X Q141（第134・195図、図版73）

上段で調査区中央のMA52・53区に位置し、表上下約0.8mの河道B堆積層上部で検出。SQ79の南西に近接する。総数は48点で、南側の径0.8mの広がりに比較的まとまる。垂直分布は幅0.2m以内に収まる。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・両面調整石器・削器がある。

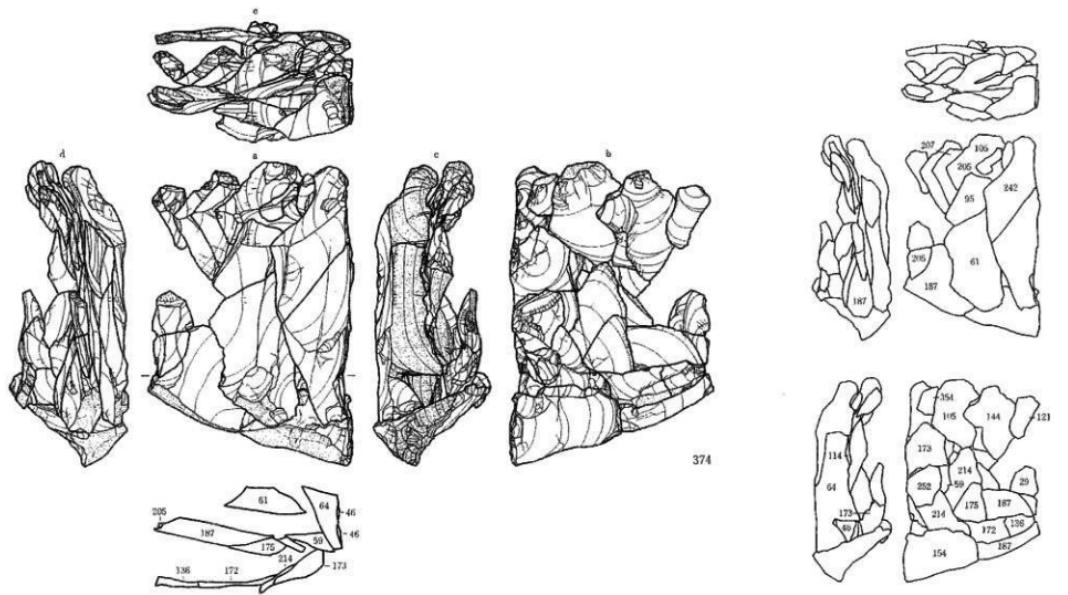
両面調整素材（244） a面の左側縁には粗い調整を施すが、c面下方は1cm内外の幅で自然面を残す。剝片を得ていた残核の可能性もある。

両面調整石器（245） 薄い仕上がりで、横長剝片素材の可能性がある。a面左側縁が直線的で、右側縁は大小2つの膨らみがあり、全体に剥離を施す。

削器（246） 横長剝片で、a面右側縁の表裏とb面下端の右側縁に調整がある。未調整の片側側縁は、大小2つの膨らみから245の形態をもつ両面調整石器の、未製品の可能性がある。

S X Q150（第194・196～200図、図版22・61・62・75）

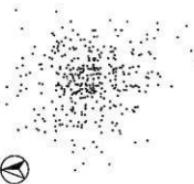
上段で調査区中央のMB・MC53区に位置し、表土下約0.5mの河道B堆積層上部で検出。取り上げ総数は382点で、長軸1.1m×短軸0.9mの梢円形の狭い範囲に集中している。特に中央の径0.25mの部分は濃密である。垂直分布は、最大0.2mで端ほど浅い傾向があり、土坑



SXQ150 374

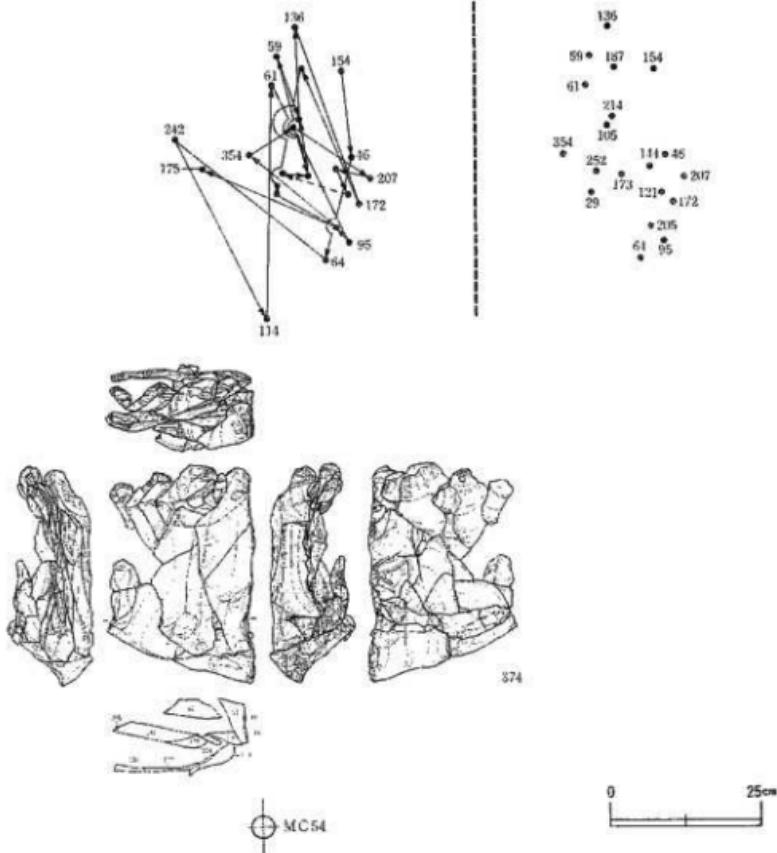
154→46→64→242→114→61→95→205→354→105→173→59→214

150
→207→144→131→252→173→214→136→172→187→29→205→175



0 5cm

第197図 遺構内出土遺物 (128) SXQ150②



第198図 接合関係図(16) S X Q 150

の存在を示唆するものかもしれない。遺構からは、多量のチップが出土している。

出土遺物は、接合資料・両面調整素材・両面調整石器・石箋がある。

接合資料（374・375） 374は分割縫を素材にしたもので、上面側で右から左へ連続した調整がある。b面の左上と右下を結んだ線を軸にした、両面調整を意図したようである。375は、平坦な面をもつ河原石を素材にしたもので、両面調整石器（373）に礫皮面のある多くの剥片が接合する。376には、両面調整素材（371）に自然面の付く剥片が接合。377はc面上位のように、打点が礫皮面になるものがほとんどである。

両面調整素材（371） 扁平な河原石を素材にして、両側縁に粗い調整を施す。a面の左側縁は、幅のある礫皮面を打面として利用している。b面からの折断がある。

両面調整石器（373） 375の石核。槍状の先端部破片で、b面からの折断がある。両側縁の調整は粗いが、形は整っている。

石箋（372） 剥片素材と考えられ、刃部と基部を丸く整えている。特に刃部は両刃で、小型の石斧にすべきかもしれない。

S X Q151 (第196・201図、図版23・75)

上段で調査区中央のMD54区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。総数は27点で1m×0.8mの広がりをもつ。特に、径0.3mの範囲では集中して出土している。垂直分布は0.1mの幅に収まる。微細なチップは含んでいない。

出土遺物は石器のみで、搔器・削器がある。

搔器（379） 横長剥片でa面の底辺が直線的になる。上の縁辺は、両面からの調整で鋭利に仕上がる。

削器（378） 横長剥片で、a面右下の側縁を除いて両面からの調整がある。定形的な石器の可能性がある。

S X Q154 (第196・201図、図版23・75)

上段で調査区中央のMD55区に位置し、表土下約0.7mの河道B堆積層上部で検出。総数は18点で、長軸1.8m×短軸1.5mの楕円形の広がりをもつ。全体には、疎らな在り方を示している。中でも、東側の長軸0.7m×短軸0.3mの範囲には集中して出土した。垂直分布は0.1mの幅に収まる。チップは含まない。

出土遺物には、石箋・線刻跡がある。

石箋（380） 横長剥片で両側縁に調整がある。刃部は主要剥離面を生かした作りで、a面に僅かな調整がある。同面に礫皮面を大きく残す。

線刻跡（381） 板状礫の片側に、幅約1mmの浅い線刻がある。方向はほぼ一定しており、最大約10cmの幅がある。台石として使用した可能性がある。

圖 199 圖 遺漏內出土遺物 (129) S X G 150

0
5cm

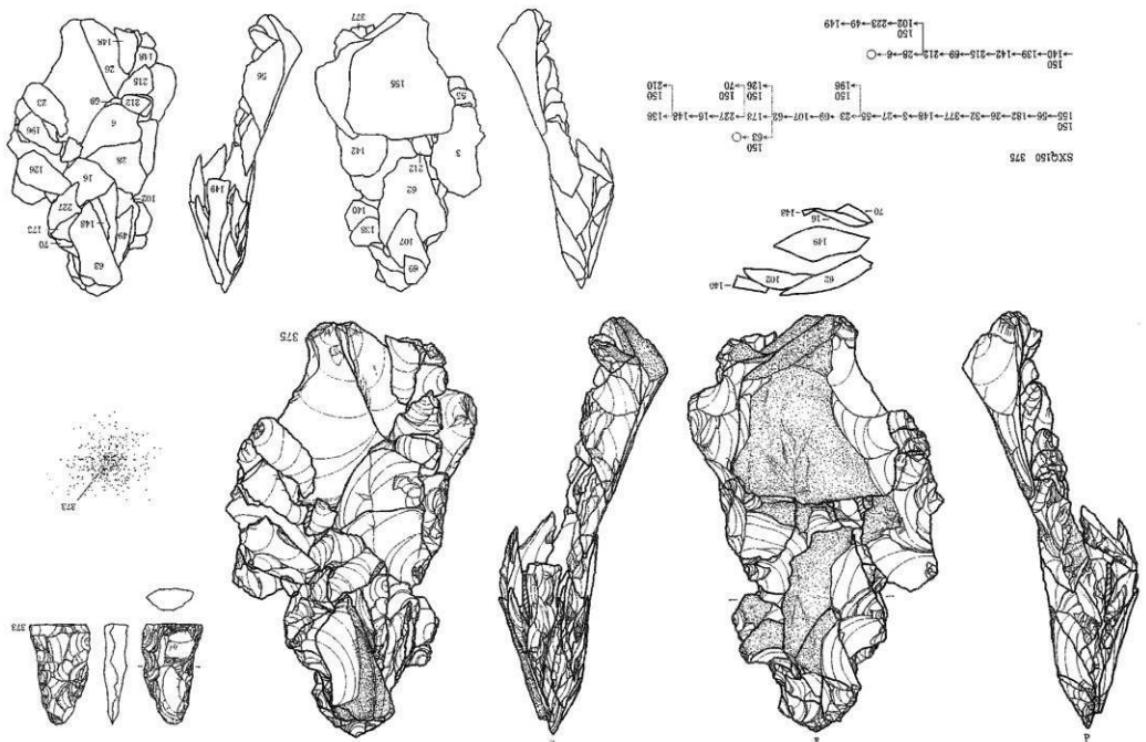


圖 199 圖 遺漏內出土遺物之遺物

图 200 遗物出土遗物 (130) SXQ150

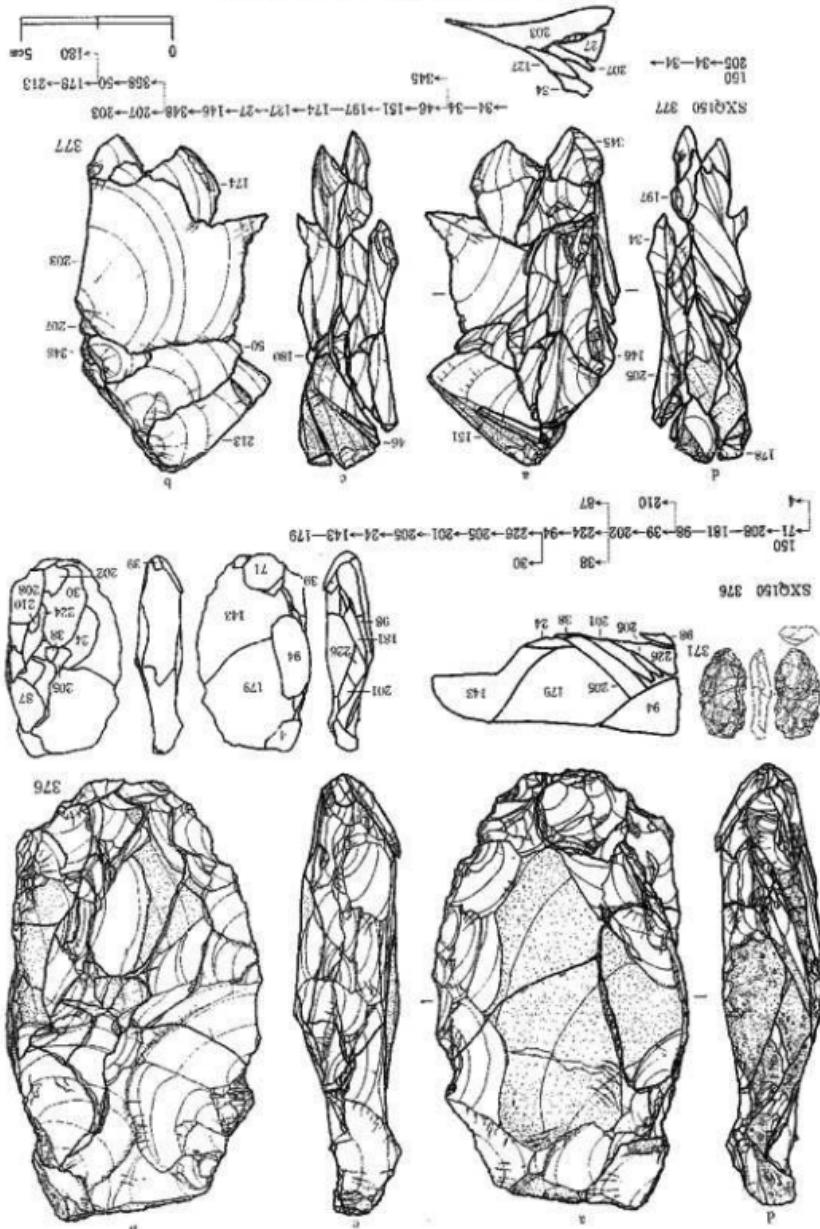
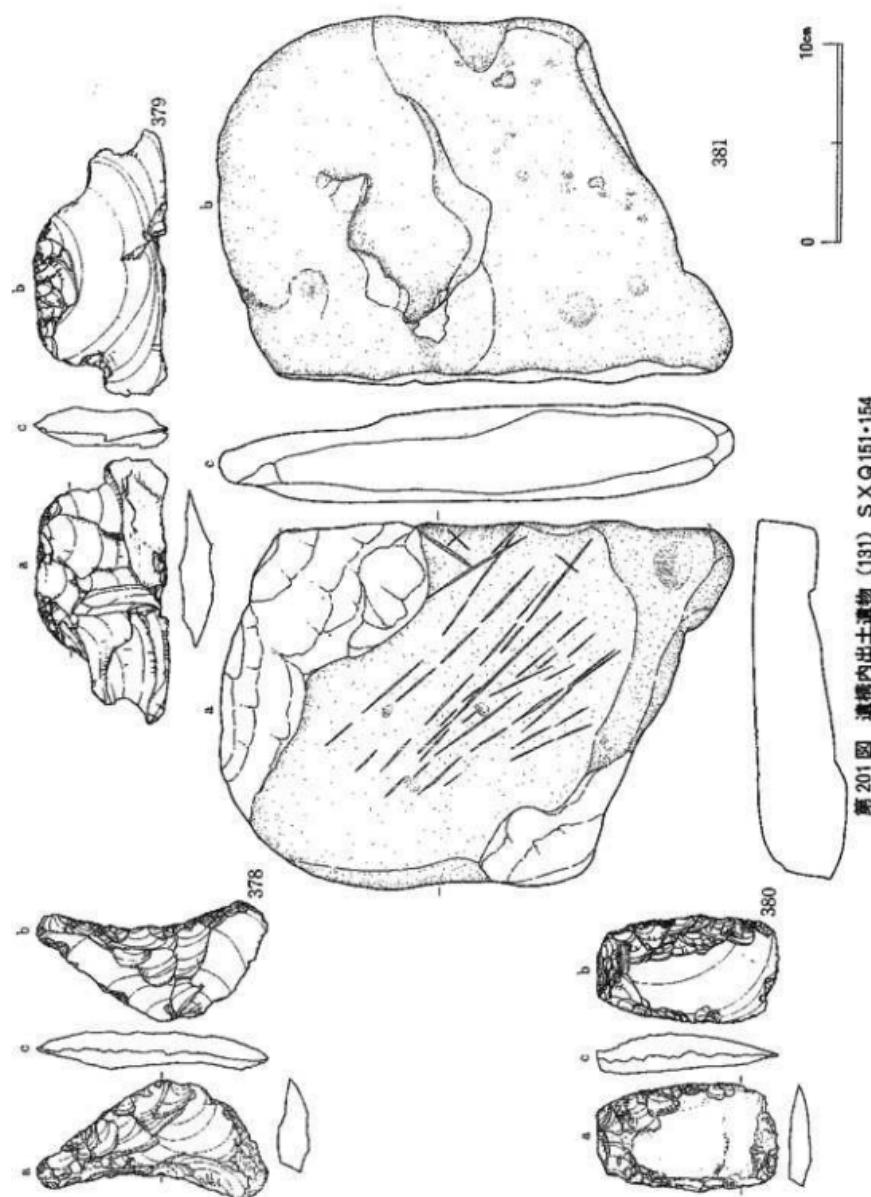
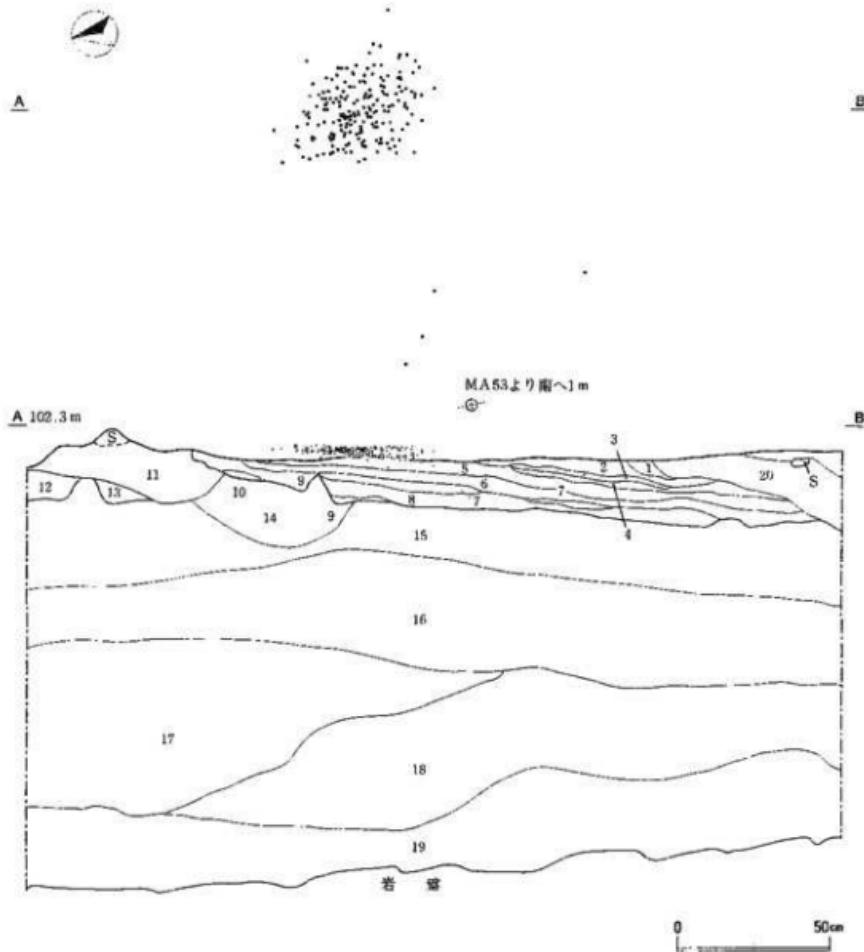


图 200 遗物出土遗物 (130) SXQ150

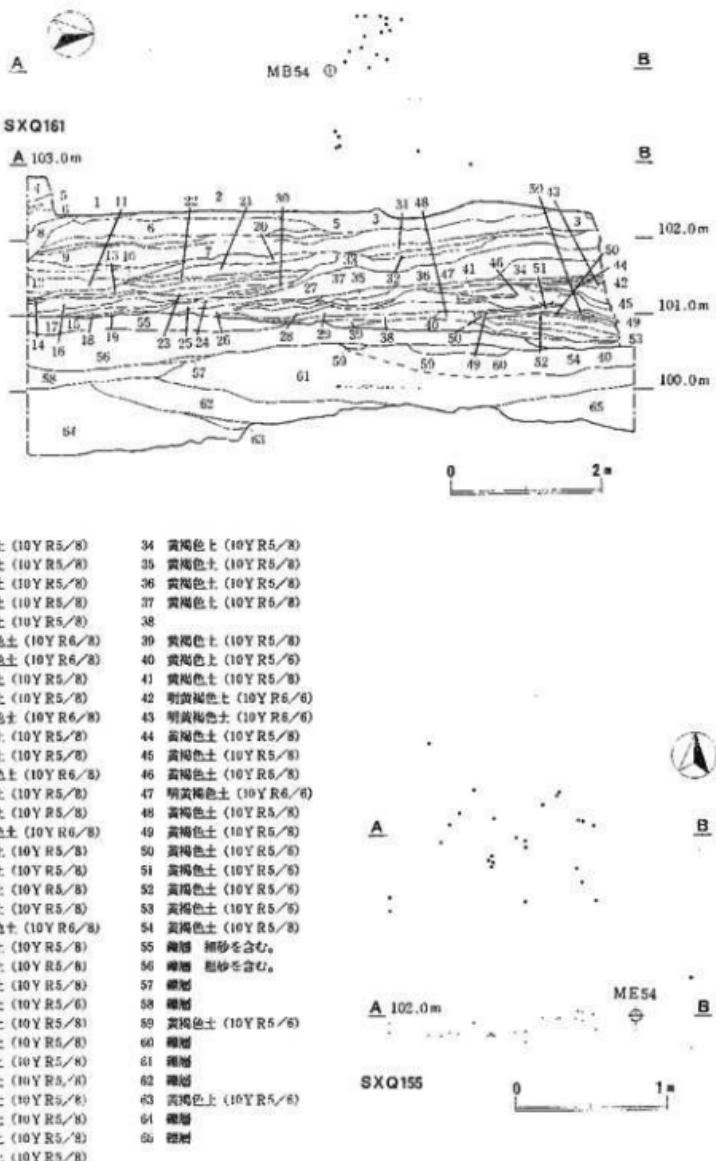


第201図 遺構内出土遺物 (131) SXQ151・154



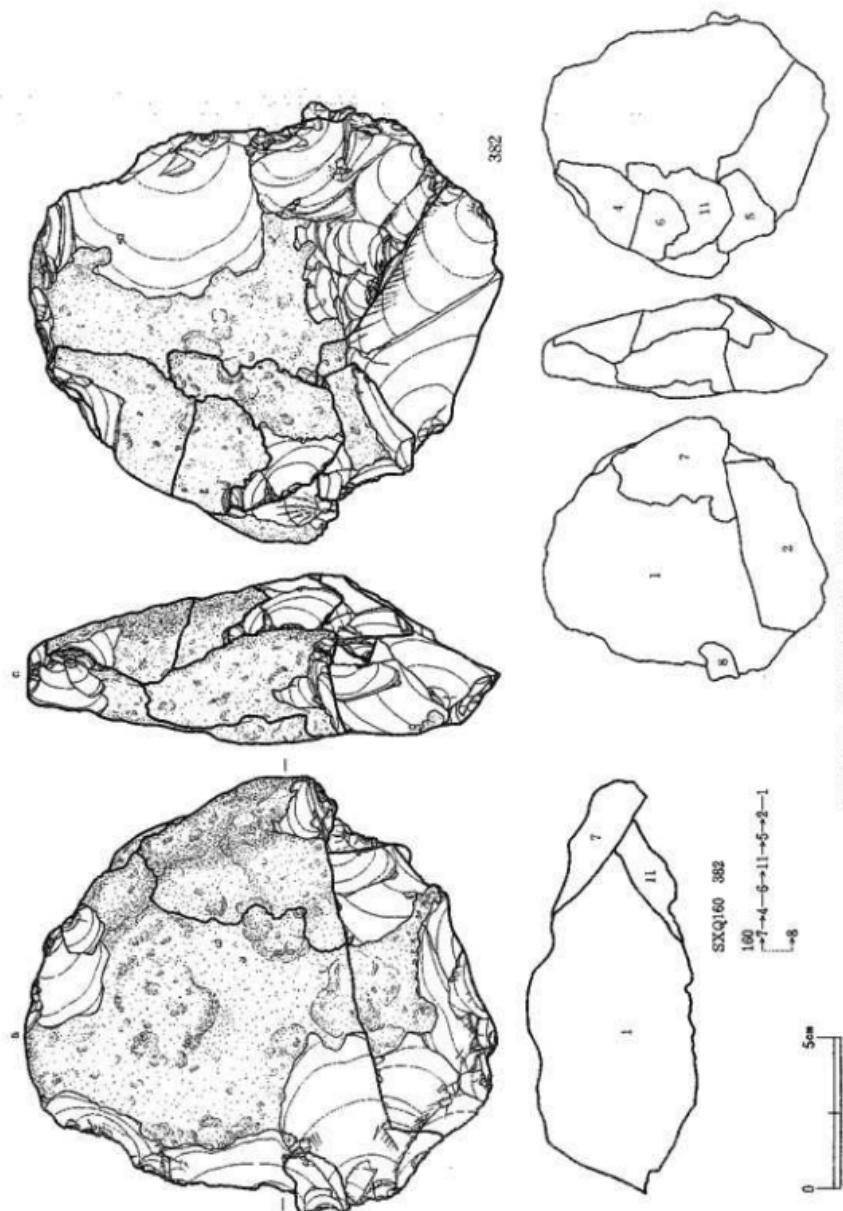
- 1 明黄褐色土 (10Y R6/6) シルトを含む。しまる。
 2 黄褐色土 (10Y R5/8) 細砂を含む。しまる。
 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 細砂を含む。しまる。
 4 黄褐色土 (10Y R5/8) 細砂を含む。しまる。
 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。チップ出土。しまる。
 6 黄褐色土 (10Y R5/8) 細砂を含む。チップ出土。しまる。
 7 明黄褐色土 (10Y R6/8) シルトを含む。しまる。
 8 黄褐色土 (10Y R5/6) 細砂を含む。しまる。
 9 明黄褐色土 (10Y R6/8) 砂粒を含む。しまる。
 10 黄褐色土 (10Y R5/8) 細砂を含む。しまる。
 11 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
 12 黄褐色土 (10Y R5/8) 細砂を含む。しまる。
 13 明黄褐色土 (10Y R6/8) シルトを含む。しまる。
 14 離層 粗砂を含む。
 15 離層 粗砂を含む。
 16 離層 粗砂を含む。
 17 離層 粗砂を含む。
 18 離層 粗砂を含む。
 19 離層 粗砂を含む。
 20 離層 粗砂を含む。

第202図 石器集中部 (20) S X Q156



第203図 石器集中部 (21) SXQ155・161

第204図 遺構内出土遺物 (132) SXQ160



S X Q155 (第 203 図、図版 23)

上段で調査区中央の M D54 区に位置し、表土下約 1 m の河道 B 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 26 点で、約径 1.4 m の広がりをもつが疎らである。垂直分布は 0.1 m の幅に收まり、礫層の凹凸に沿うように僅かな高低差が見られる。チップは確認されなかった。

S X Q156 (第 202 図、図版 23)

上段で調査区中央の L T52 区に位置し、表土下約 1.8 m の河道 A 堆積層上部の砂層で検出。取り上げ総数は 160 点で、主に長軸 0.6 m × 短軸 0.4 m の楕円形の狭い範囲に集中している。垂直分布は平均 0.1 m ではほぼ水平な状態を示し、石器集中範囲の下に産みらしいものは認められない。遺構は、多量のチップが共伴する石器製作跡である。

S X Q159 (第 196 図、図版 23)

上段で調査区中央の M E55 区に位置し、表土下約 1 m の河道 A 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 23 点で、長軸 0.8 m × 短軸 0.4 m の楕円形の範囲に集中している。垂直分布は 0.05 m の幅に收まるものの、東から西へ緩やかに傾斜する。チップは確認されなかった。

S X Q160 (第 196・204 図、図版 23・62)

上段で調査区中央の M D54 区に位置し、表土下約 2 m の河道 A 堆積層下部の礫層上面で検出。総数は 11 点で、長軸 4 m × 短軸 3 m の範囲に疎らな在り方を示す。垂直分布は 0.2 m の幅に收まるものの、個々には高低差のばらつきが激しい。チップは確認されなかった。

出土遺物は、接合資料・画面調整素材がある。

接合資料 (382) 分厚い円盤状の河原石を素材にし、縁辺に粗い調整がある。両面調整素材に、いくつかの剥片が接合する。

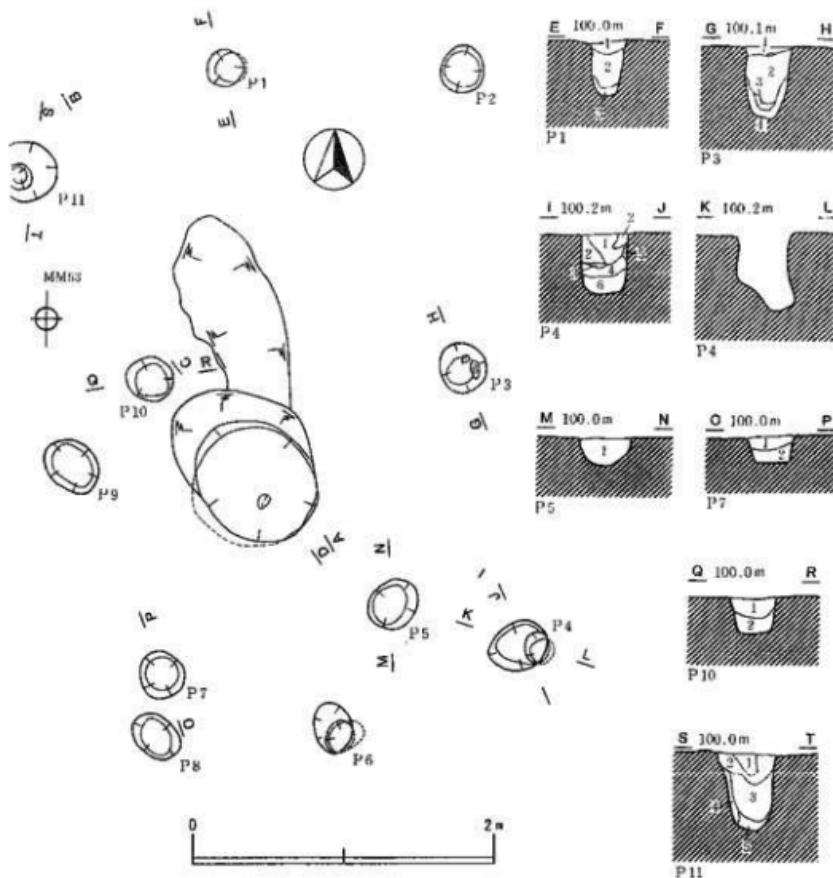
画面調整素材 (382) a 面右上の側縁を除いて粗い調整がある。下位に同面からの折断があり、途中で製作を断念している。

S X Q161 (第 203 図、図版 24)

上段で調査区中央の M A・M B54 区に位置し、表土下約 2.5 m で河道 A 堆積層中位の砂層の混在する層から検出。総数は 21 点で、長軸 1.3 m × 短軸 1 m の楕円形の範囲に疎らに出土した。垂直分布は 0.1 m の幅に收まり、水平な状態を示す。チップは確認されなかった。

3 前期

前期の遺構と遺物は、調査区西側で河道 G 堆積層を中心に弧状の分布を示す。層位的には、河道 F 堆積層から河道 H 堆積層までで、基本層位の IV 層を中心と考えられる。遺構の種類と数は、竪穴住居跡 2 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑 13 基、石器石材集散遺構 1ヶ所、焼土遺構 1 基、上器集中部 1ヶ所、石器集中部 8ヶ所である。遺物は、羽状繩文・条痕文の前期土器の外に、



P 1 1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭粒を含む。しまる。
2 褐色土 (10YR4/4) 炭粒を含む。しまる。
3 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。

P 3 1 暗褐色土 (10YR2/3) 砂粒を含む。しまる。
2 褐褐色土 (10YR3/3) 砂粒を含む。しまる。
3 暗褐色土 (10YR4/6) しまる。
4 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。

P 4 1 黑褐色土 (10YR2/3) 砂粒を含む。しまる。
2 褐褐色土 (10YR3/3) 砂粒を含む。しまる。
3 黄褐色土 (10YR5/6) 砂粒を含む。しまる。
4 暗褐色土 (10YR3/4) 砂粒を含む。しまる。
5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂粒を含む。しまる。
6 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。

P 7 1 暗褐色土 (10YR4/6) 炭粒を含む。しまる。
2 黄褐色土 (10YR5/6) しまる。

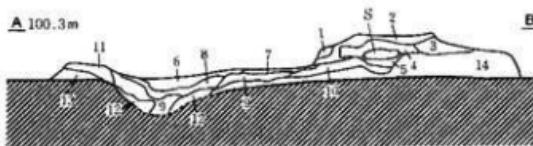
P 10 1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭粒を含む。しまる。
2 黄褐色土 (10YR5/6) 砂粒を含む。しまる。

P 11 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒を含む。しまる。
2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂粒を含む。しまる。
3 暗褐色土 (10YR4/4) 炭粒を含む。しまる。
4 黄褐色土 (10YR5/6) 炭粒を含む。しまる。
5 暗褐色土 (10YR4/6) 砂粒を含む。しまる。

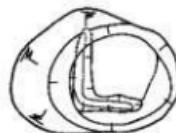
第205図 敷穴住居跡 (1) S 146



B



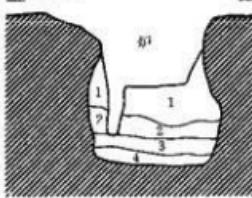
C



D

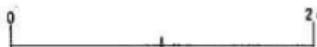
C 100.0m

D



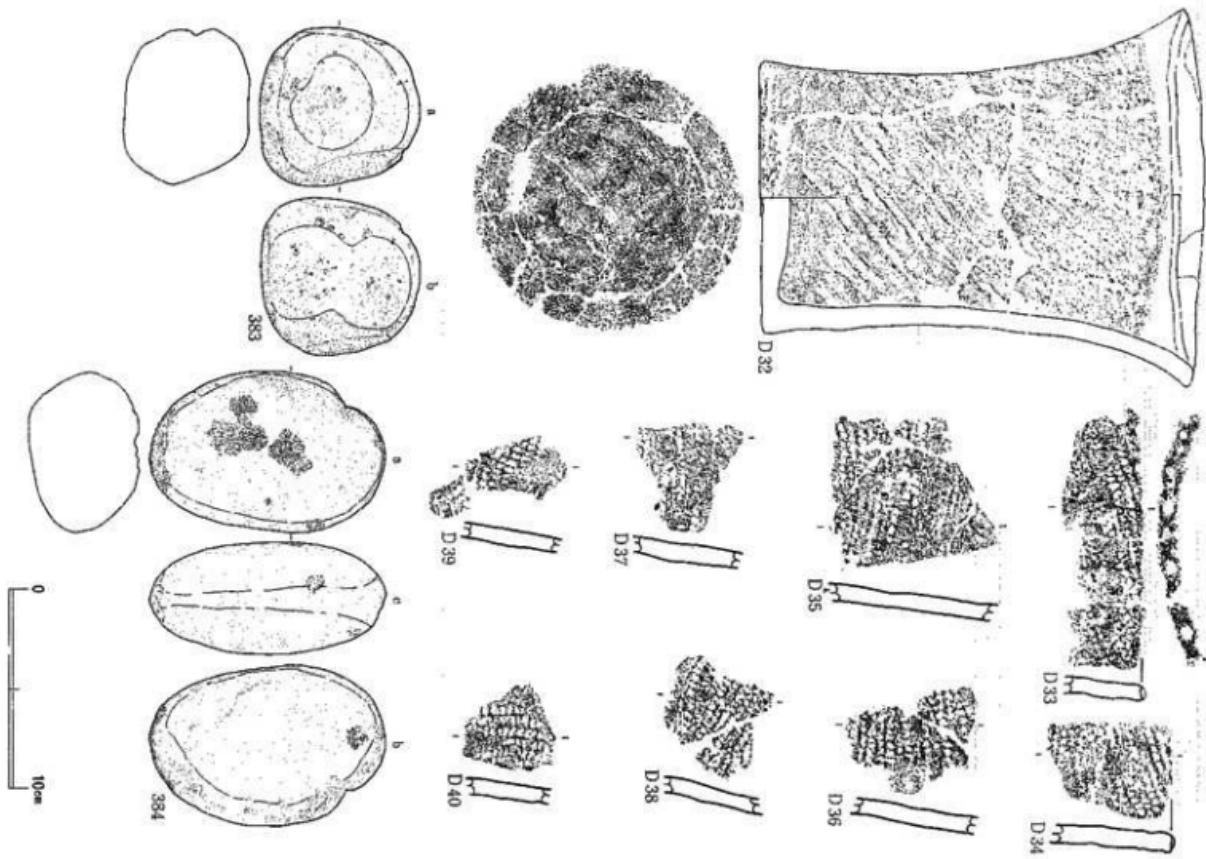
- 1 黄褐色土 (10Y R5/8) 塵粒を含む。しまる。
 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 塵粒を含む。しまる。
 3 暗褐色土 (10Y R3/3) 塘粒を含む。しまる。
 4 暗褐色土 (10Y R4/6) 塘粒を含む。しまる。
 5 暗褐色土 (10Y R3/4) 塘粒を含む。しまる。
 6 暗褐色土 (10Y R4/4) 塘粒を含む。しまる。
 7 暗褐色土 (10Y R3/3) 塘土、塘粒を含む。しまる。
 8 暗褐色土 (10Y R3/3) 塘土粒、塘粒を含む。しまる。
 9 暗褐色土 (10Y R3/4) 塘土を含む。しまる。
 10 暗褐色土 (7.5Y R4/4) 塘土、塘粒を含む。しまる。
 11 黑褐色土 (10Y R2/3) 塘土粒、塘粒を含む。しまる。
 12 暗褐色土 (10Y R4/4) 塘粒を含む。しまる。
 13 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
 14 暗褐色土 (10Y R3/4) 塘粒を含む。しまる。

- 1 暗褐色土 (10Y R4/4) 糙、砂粒を含む。しまる。
 2 暗褐色土 (10Y R3/3) 糞化物を含む。しまる。
 3 暗褐色土 (10Y R4/4) 糞化物、砂粒を含む。しまる。
 4 暗褐色土 (10Y R3/3) 糞化物、砂粒を含む。しまる。

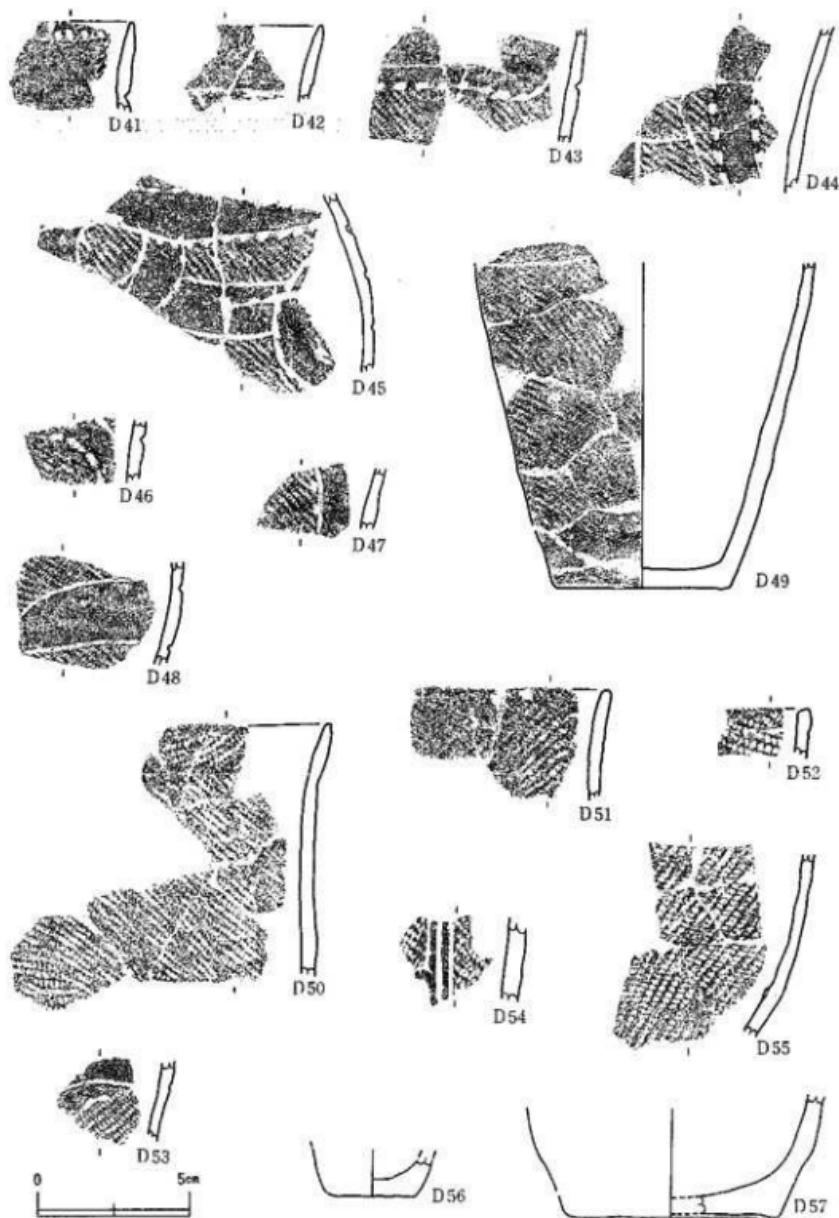


第206図 整穴住居跡（2）S 146 炉・SK163

第一節 始文時代の出土遺物とその遺物



第207図 遺跡内出土遺物 (133) S146①土器・石器



第208図 遺構内出土遺物 (134) S.I.46②土器

石鏃・石匙・石鎧等各種の石器が出土している。

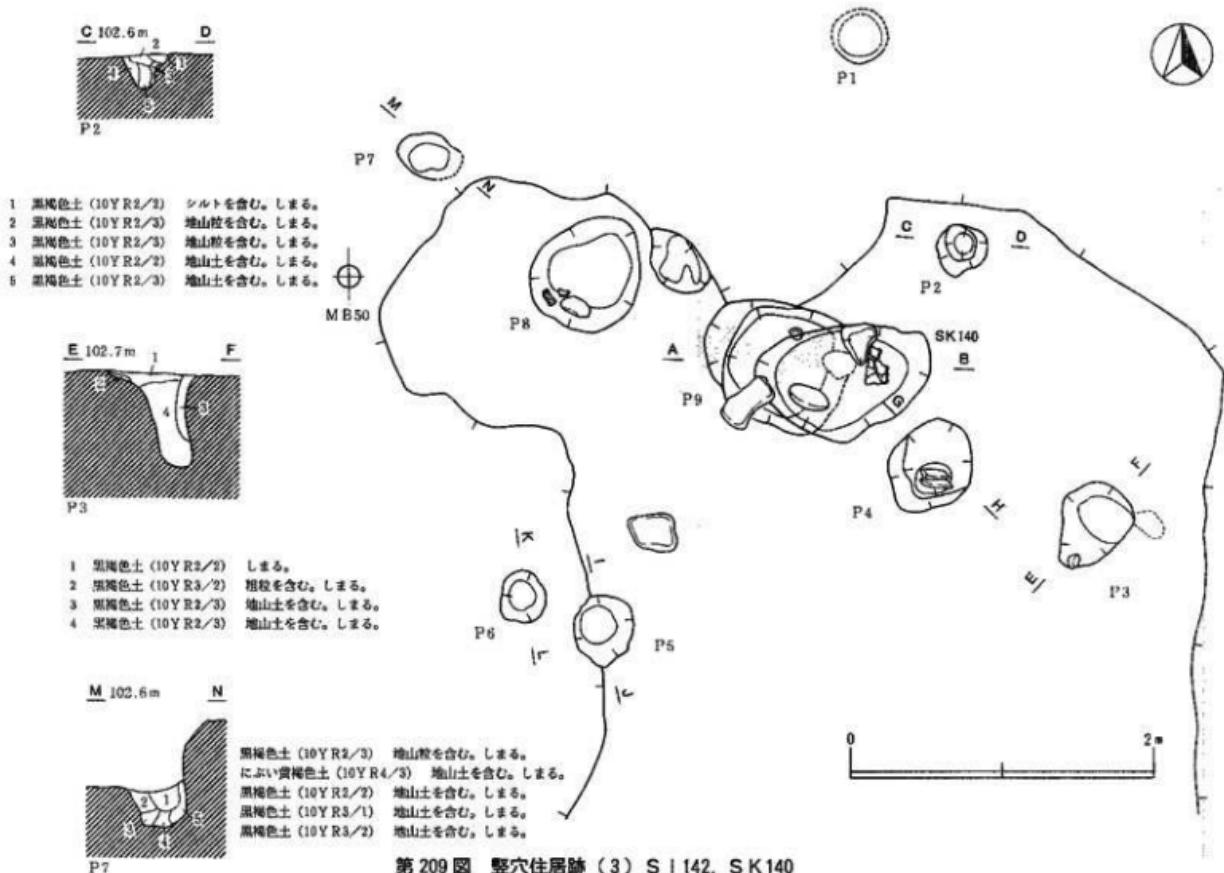
(1) 壁穴住居跡

S I 46 (第205~208図、図版1・75)

下段で調査区南西端のML52・53区に位置し、表土下約1.4mの河道II堆積層で検出。掘り下げ途中で、焼土とその上の擾乱層より繩文中期の土器が確認されたものである。擾乱で壁が削平されているものの、辛うじて床面の一部・柱穴・炉跡・焼土が見つかっている。遺構が確認された時点では、当地区は島状に残された状態のため、すでに削平されてしまった柱穴もあると思われる。平面形は不明だが、現状のピットによる広がりは4.7m×3.4mである。炉の掘り方は、1.15m×0.9mの不整椭円形で、この北側には緩い傾斜部をもつ。深さは0.5mと深い。壁面は、南側で直角に隣り合う面を造り、外は湾曲している。直角に交わる面では、壁づたいに仕切り状の溝が直角に巡る。その幅は約0.1mで、床からの深さは約0.3mである。上部の緩い傾斜部は、SK163の開口部と考えられる。炉の覆土は、上位0.2mまでは明確な焼土を含むが、それ以下は焼土粒を含んだ暗褐色土で締まりがない。溝の覆土は、黒褐色土で焼土粒を含まず軟らかい。炉の直下にはSK163が存在するので、土坑の窪みを利用した構築と考えられる。ピットはP1~P11まで検出した。その大きさは、P1が0.25m×0.25mで深さ0.4m、P2が0.3m×0.3mで深さ0.2m、P3が0.3m×0.3mで深さ0.5m、P4が0.4m×0.3m深さ0.5m、P5が0.35m×0.3mで深さ0.3m、P6が0.3m×0.25mで深さ0.5m、P7が0.3m×0.3m深さ0.2m、P8が0.35m×0.25mで深さ0.2m、P9が0.4m×0.3mで深さ0.3m、P10が0.3m×0.3m深さ0.25m、P11は現状の径が0.4m深さ0.45mである。形態は円形もしくは椭円形で、覆土は暗褐色土が主体を占める。この内、P7・P9・P10は柱穴とは考えにくい。焼土は炉跡を含んだ周囲にあり、約2.5m×1mの広がりがある。住居跡の南東からは、ピットに近接して繩文前期の土器が出土しており、これが住居跡に伴うと考えられる。したがって、本住居跡の時期は、繩文時代前期に考えている。

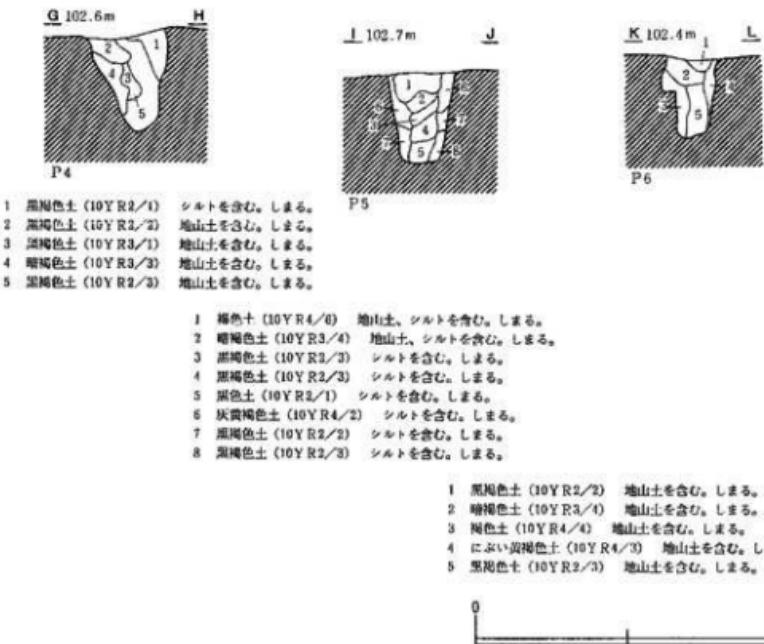
出土遺物は、深鉢の繩文土器以外に、擦石・凹石の礫石器がある。

深鉢(D32~D57) D33~D40、D41~D49はそれぞれ同一個体である。D32は、口縁部と胴部の一部を欠損。口縁部は幾分波状で、口唇部はやや丸みをもつ。胴部中央からラッパ状に外反し、そこから底部へは緩く広がる。口径19cm、底径13.5cm、器高22.3cmである。底部は上げ底で、成形は粘土盤の周間に粘土紐を巻き、その上に積み上げている。口縁部には僅かな無文帯あり、以下にLの繩文を全面に施す。内面には工具によると考えられるナデがあり、底面は指頭圧痕の後削り込んでいる。色調は外表面が橙色から褐色で裏面は褐色。内面には、煤が顕著に認められる。器厚は胴部中央で約1cmである。胎土には1~2mmの白色粒が顕著で、焼成は良好。D33からD40の内、D33・D34は口唇に刻み状の痕跡がある。筒状の器形





- I 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山上を含む。しまる。
 2 噴褐色土 (10Y R3/4) 地山土を含む。しまる。
 3 黒褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭粒を含む。しまる。
 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山土、炭粒を含む。しまる。
 5 黒褐色土 (10Y R3/2) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。
 6 黄褐色土 (10Y R4/4) 地山土を含む。しまる。
 7 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。
 8 黑褐色土 (7.5Y R3/3) 地山土。
 9 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、黄土粒、炭化物を含む。しまる。
 10 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。
 11 黑褐色土 (10Y R3/2) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。
 12 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。
 13 噴褐色土 (10Y R3/3) 地山土、黄土粒、炭粒を含む。しまる。



第210図 積穴住居跡(4) S I 142, SK 140

で、口縁部がやや外傾する。これらの器厚は1cm内外である。色調は内外面共にぶい褐色土で、外面に煤の付着がある。胎土は5mm前後の小石を含み、焼成は堅緻。D32は大木5式に属す。D41～D49は、胴上位に丸みがあり底部へ窄まるキャリバー状の形態で、地文にしRの繩文を施す。口縁は無文帯で、胴部上位には沈線や沈線状の列点文による区画文がある。文様は渦巻きや曲線文で構成され、磨り消し文を多様する。これらの器厚は、胴部で5～10mmである。色調は外面が橙色～にぶい褐色で、内面は灰白色である。内面には煤の付着が著しい。胎上は砂粒が顯著で、焼成は不良。D50はしRの繩文を施すが、口縁部で羽状を呈す。D53には沈線と磨り消し繩文が、D54には貼付文を認める。D50～D57は器厚が5～10mmである。色調が褐色のものが多く、胎上には砂粒が目立つ。これらの焼成は、D53・D54が良好な外は不良。これらの時期は、中期と考えられる。

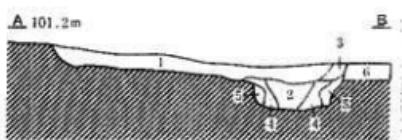
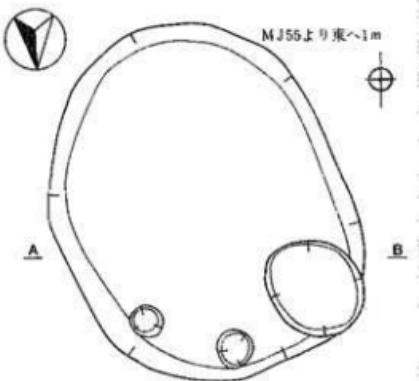
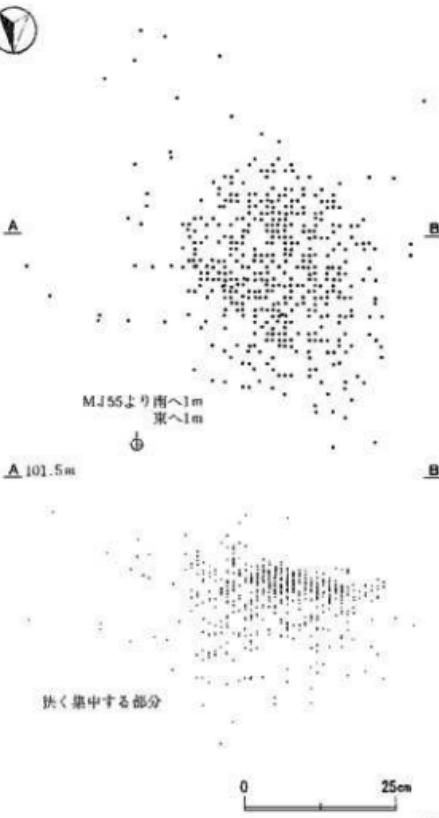
擦石（383）c・d面に擦った不明瞭な痕跡が認められる。

凹石（384）a面の中央に凹部がある。b面の上位を擦っている可能性がある。

S I 142 (第209・210図、図版1)

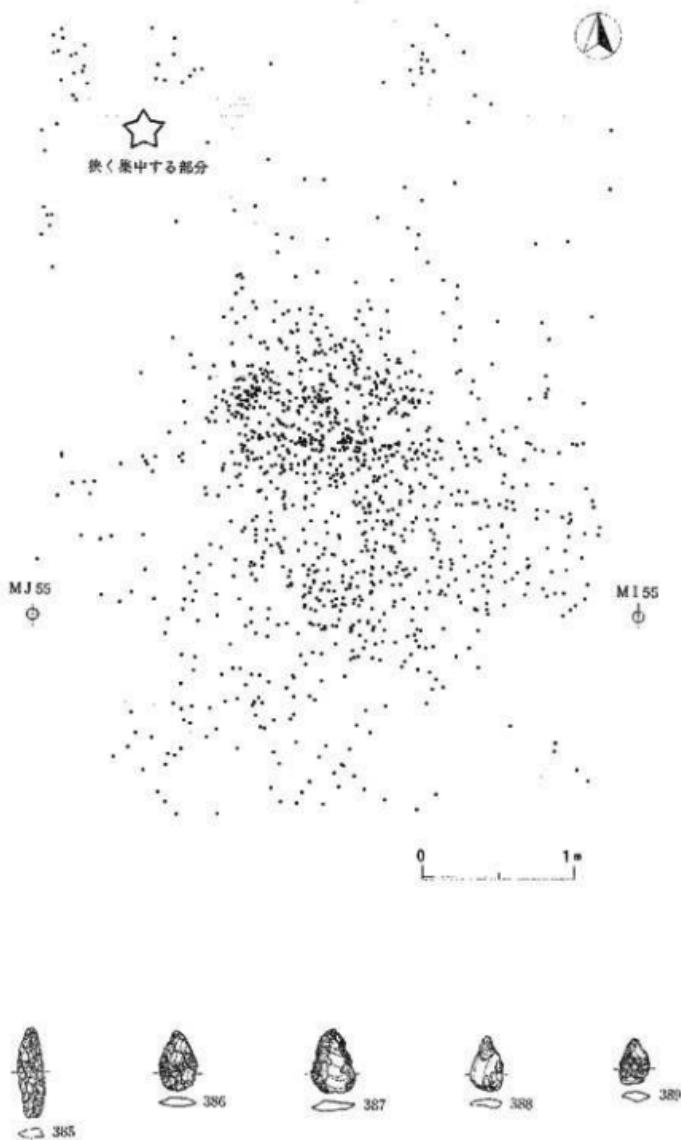
上段で調査区南側のしT49・50区、MA49・50区に位置し、表土下約0.3mのV層で検出。IV層とV層の掘り下げ途中で、ピットおよび焼土を含む土坑等まとまった遺構が見つかり、個々に精査を行った。その結果、炉跡を中心とした周辺に柱穴と考えられるピットが確認され、壁穴住居跡と判断するに至った。床面はV層中と考えられ、覆土と掘り込み面の予想されるIV層は黒色土で覆土と類似している。そのために、プランを確認できないまま掘り進めてしまったもので、壁的一部分も留めることができなかった。炉跡はSK140に切られている。平面形は不明だが、ピットによる広がりは5.5m×4.7mである。住居跡からは、炉跡1基、土坑状の落ち込み1基（P8）、柱穴7個（P1～P7）、炉跡を切り込んだピット1個（P9）を検出している。炉跡は長軸1m×短軸0.8mの不整椭円形で、深さは0.35mである。覆土は暗褐色系の上で占められ、すべてに焼土粒を含む。P8は長軸0.8m×短軸0.7mの不整椭円形で、深さは0.15～0.2mである。覆土は黒褐色土が主体である。柱穴はP1～P7まで検出した。その大きさは、P1が推定0.35m×推定0.35mで深さ0.35m、P2が0.35m×0.3mで深さ0.2m、P3が0.6m×0.5mで深さ約0.9m、P4が0.7m×0.55mで深さ約0.8m、P5が0.5m×0.4mで深さ0.6m、P6が0.35m×0.3mで深さ0.75m、P7が0.4m×0.3mで深さ約0.65mである。形態は円形もしくは椭円形で、黒褐色土が主体を占める。この内、P3は東側にかなりの傾斜をもち、P4では根石として約0.2mの礫2個が擱て置かれてあった。この外P9は、長軸1.2m×短軸0.75mで深さ約0.2mの不整椭円形である。覆土より、中期もしくは後期と考えられる大型の上器片が出上している。覆土は黒褐色土主体である。

住居の炉跡からは、繩文があり纖維を含んだ土器片が1点出土したが、紛失してしまった。

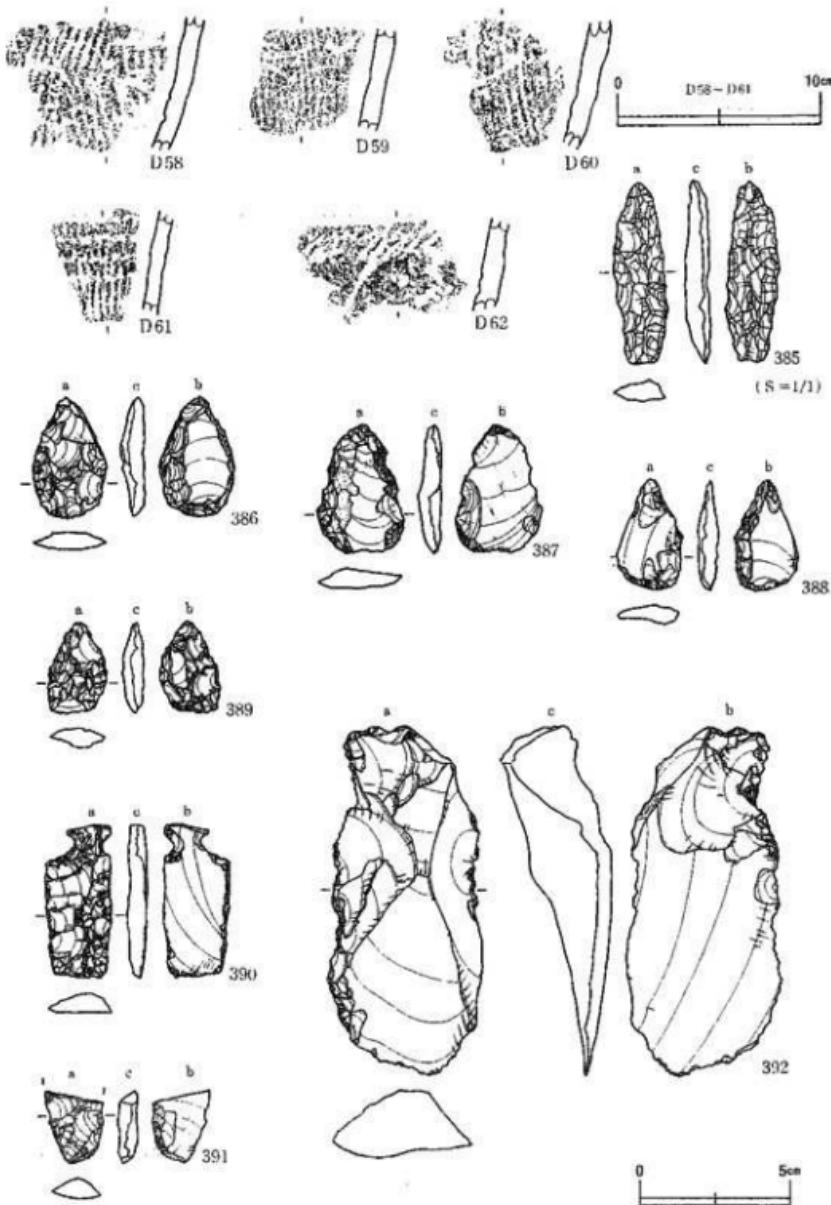


- 1 墓褐色土 (10Y R3/3) 砂粒、砂粒を含む。しまる。
- 2 墓褐色土 (10Y R3/4) 砂粒、砂粒を含む。しまる。
- 3 墓褐色土 (10Y R3/4) 砂粒、砂粒を含む。しまる。
- 4 褐色土 (10Y R4/4) 砂粒、砂粒を含む。しまり無。
- 5 棕褐色土 (10Y R4/6) 砂粒、砂粒を含む。しまり弱。
- 6 褐色土 (10Y R3/4) 砂粒、砂粒を含む。しまる。

第211図 積穴状遺構 (3) SXH19



第212図 穴状遺構(4) SXH19



第213図 遺構内出土遺物 (136) SxH19土器・石器

住居跡の年代はこの土器によっている。

(2) 壺穴状遺構

S X H19 (第211~213図、図版2・75)

下段で調査区中央西側のM I 54・55区に位置し、表土下約0.3mで河道G堆積層上部の暗褐色土(第15図④-a層)で検出。壺穴状遺構には、これに伴う石器が集中して出土した規模は、長軸2.4m×短軸1.9mの楕円形で、深さは約0.2mである。床は西側へ僅かに傾斜する。北西の壁際より、長軸0.7m×短軸0.6mの楕円形で、深さ0.15mの落ち込みを検出した。その東側の壁際からは、0.2~0.25mで深さ約0.05mの浅いピット2つを確認している。これらの覆土は、炭粒を少量含んだ砂質の暗褐色土である。

石器集中部は、総数が1,849点で、5.5m×4mの広がりをもつ。その中には、縄文時代の土器片を僅かに含む。石器の集中は、壺穴状遺構を含むその周りと北西部に顕著に認められる。特に、後者は径0.3mの狭い範囲から多量に出土し、その垂直分布から深さ0.2~0.3mのピットが存在したものと考えられる。石器集中部は、壺穴状遺構に伴うと考えられることから、壺穴状遺構で石器製作を行った可能性がある。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器片以外に、石鎌・石匙・削器の石器がある。

深鉢(D58~D62) 胎土にはすべて織維を含む。D58・D59は同一個体で、外面にはR Lの縄文を施し、内面にはD61・D62と共に条痕文がある。D61は縦状に見える痕跡で、横走する4本の条に撚り紐の痕跡が縦位に連続する。条の節が交互に出現することから、横走する縄文は複数の撚り紐に絡んだ縄の原体で、これを横に回転したものである。これらの器厚は、D61が7~8mm、外は7~10mmである。色調は外面が橙色、内面が灰褐色。胎土には、織維の外砂粒を顕著に含む。焼成は不良。前期前半に属する。

石鎌(385~389) 棒状でc面の先端は左に反る。386~389は未製品と考えられるが、386はa面右側縁に橢状剝離があり彫器の可能性がある。

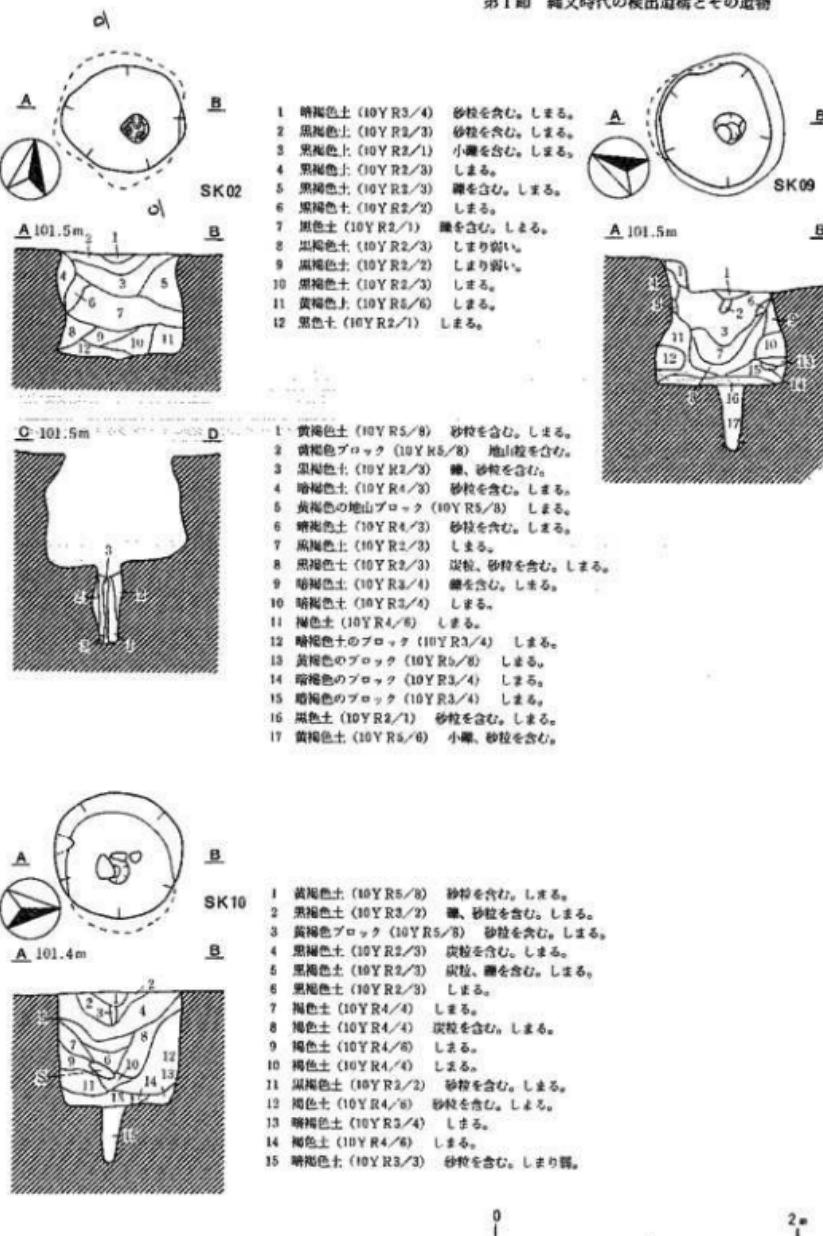
石匙(390~391) 390は横長剝片で縁が短く、再利用したものであろう。側縁の角度は、a面左側縁が緩く右側縁は急である。b面はトロトロして光沢をもつ。391は先端部の破片である。

削器(392) 横長剝片で、主にa面左側縁に調整がある。

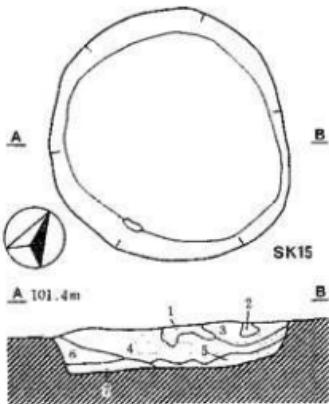
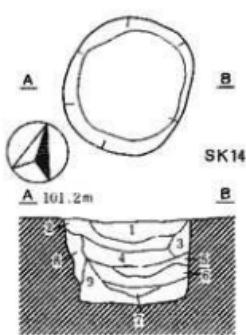
(3) 土坑

S K02 (第214図、巻頭図版4)

下段で調査区中央北西側のM I 61区に位置し、表土下約0.1mの河道P堆積層中位の黄褐色土上で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は下

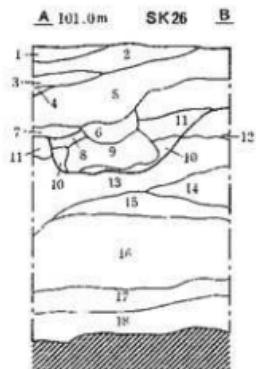


第214図 土坑 (2) SK02-09-10



- 1 黒褐色土 (10Y R3/3) 塗状を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 炭化物、礫、砂粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) 炭化物を含む。しまり弱。
- 7 棕色土 (10Y R4/4) しまる。
- 8 棕色土 (10Y R4/4) しまる。
- 9 棕色土 (10Y R4/6) 糜を含む。しまる。

- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 砂粒を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R2/3) 砂粒を含む。しまる。
- 3 棕色土 (10Y R4/4) 塗状、糞を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 塗状、糞を含む。しまる。
- 5 棕色土 (10Y R4/4) 塗状を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 7 黑褐色土 (10Y R2/3) しまる。



- 1 表土
- 2 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 3 棕色土 (10Y R6/6) 糜、砂粒を含む。しまる。
- 4 黄褐色土 (10Y R5/6) 糜を含む。しまる。
- 5 明黄褐色土 (10Y R6/6) 糜、砂粒を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) 糜を含む。しまる。
- 7 黑褐色土 (10Y R2/3) 塗状、砂粒を含む。しまる。
- 8 棕色土 (10Y R4/4) 砂粒を含む。しまる。
- 9 暗褐色土 (10Y R3/4) 塗状、糞を含む。しまる。
- 10 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 11 棕色土 (10Y R5/6) 塗状を含む。しまる。
- 12 明黄褐色土 (10Y R6/6) 糜、砂粒を含む。しまる。
- 13 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまる。
- 14 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 15 黄褐色土 (10Y R5/8) 糜、粗粒を含む。しまる。
- 16 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまる。
- 17 黄褐色土 (10Y R5/8) 砂粒を含む。しまり弱。
- 18 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒、シルトを含む。しまる。



第215図 土坑(3) SK14+15+26

端が直径約0.9mの不整円形を呈し、深さは0.7mである。ピットは径約0.15m、深さ0.55mである。土坑の底面は西側にやや傾斜し、壁は直線的に内側に傾斜する。覆土は底面付近が黄褐色土、他は黒褐色土で占める。ピットは、掘り方に3つの細い杭を束ねたように据えたもので、そこに地山を埋めて固定したと考えられる。

S K09 (第214図、図版3)

下段で調査区北西のM J 60・61区に位置し、表土下約0.1mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は直径約0.8mの不整円形を呈し、深さは0.85mである。ピットはやや南側に偏しており、径は約0.2m、深さは0.4mである。土坑の底面は西側にやや傾斜し、壁は上位の2/3で抉れその下は袋状を呈す。覆土は中央が黒褐色のレンズ状を示し、ピット中は黒褐色土で軟らかい。

S K10 (第214図、図版3)

下段で調査区北西のM J 60区に位置し、表土下約0.3mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位もしくは上位(第15図の④もしくは②層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。土坑は中央にピットをもつ形態で、平面形は直径約0.85mの円形を呈し、深さは0.75mである。ピットは径0.1m×0.15m、深さ0.3mである。底面は南側にやや傾斜し、壁の断面形はやや脛の張る筒形である。覆土は、中央が黒褐色土でレンズ状を示し、ピットは暗褐色砂質土である。

S K14 (第215図、図版3)

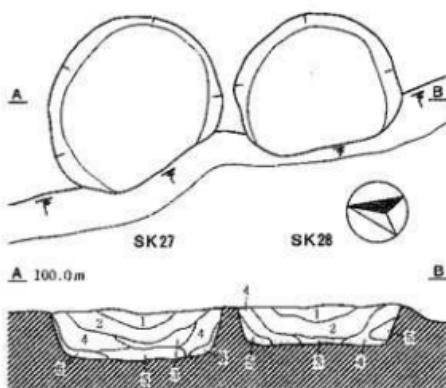
下段で調査区西側のM I 57区に位置し、表土下約0.4mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位(第15図の④層)と考えられ、黒褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.9m×短軸0.8mの略円形で、深さは0.55mである。底面はほぼ平坦。壁面は、東側が直立ぎみで他はやや外傾し、底面への移行は緩やかである。覆土は上位に暗褐色土、下位では褐色土と黄褐色土がレンズ状に堆積する。

S K15 (第215図、図版3)

下段で調査区西側のM I 58区に位置し、表土下約0.2mの河道F堆積層上部の黄褐色土で検出。掘り込み面は、河道G堆積層中位(第15図の④層)と考えられ、暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸1.65m×短軸1.55mの略円形で、深さは0.35mである。底面はほぼ平坦で、壁面は外傾し摺鉢状を呈する。覆土は壁際が黄褐色土で、他は暗褐色土が主体である。

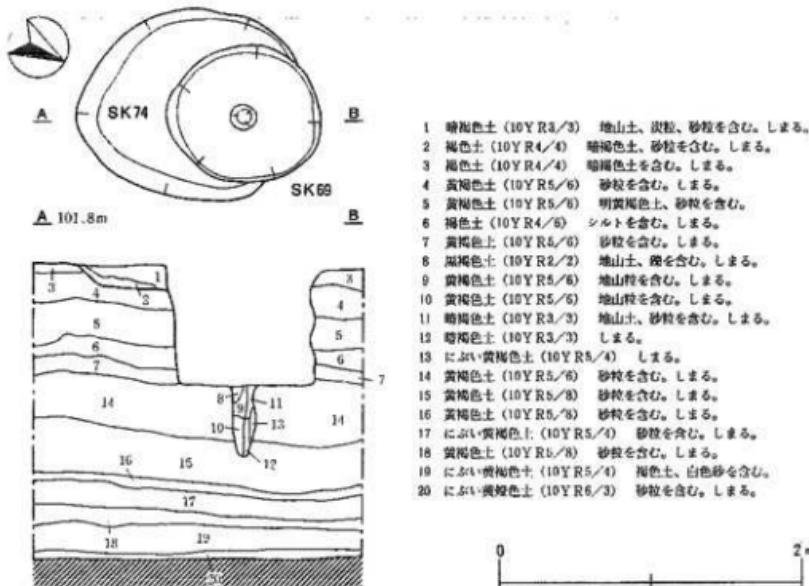
S K26 (第215図、図版4)

下段で調査区中央西側のM I 54・55区に位置し、表土下約1.1mの河道F堆積層中位の暗褐色土(第15図の⑥層)で検出。M I 55北壁断面の調査で大半は消滅してしまい、幸うじて断面

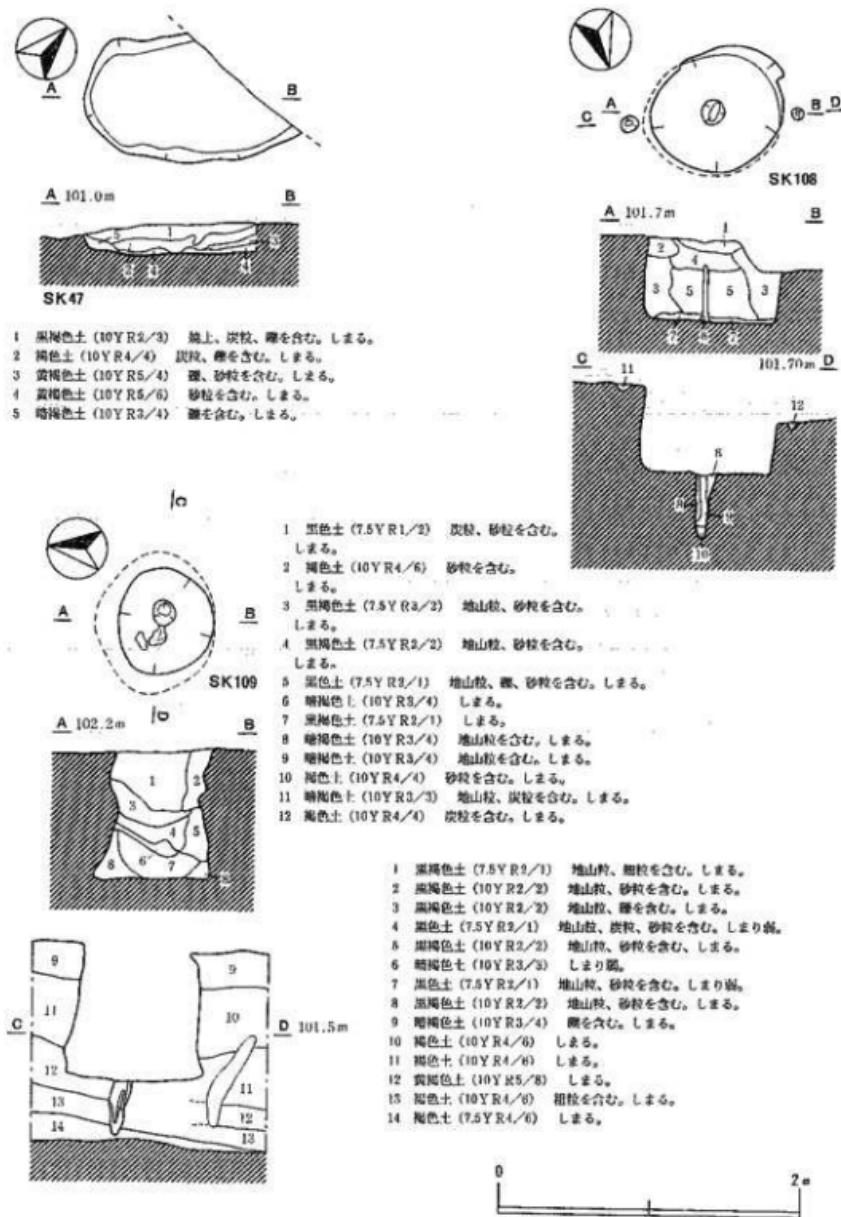


- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 糙を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 糙、砂粒を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 小粒を含む。しまる。
- 4 黑褐色土 (10YR5/6) 糙を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10YR6/6) 糙を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10YR6/6) 黑褐色土を含む。しまる。

- 1 棕褐色土 (10YR4/6) 硫酸、穂を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 糙を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) 暗褐色土を含む。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 糙を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 黄褐色土を含む。しまる。



第216図 土坑 (4) SK27-28-69-74



第217図 土坑(5) SK47・108・109

だけが確認できたものである。平面形は不明。底面は平坦で、壁は西側が急に東側では緩やかに立ち上がる。覆土は大きく、上部の黄褐色土と下部の暗褐色土に分かれれる。

S K27 (第216図、図版4)

下段で調査区中央西側のM I 54区に位置し、表上下約1.4mの河道F堆積層下部の黄褐色土で検出。西側が河道Gの削平を受けているため、掘り込み面は、河道F堆積層中位の暗褐色土(第15図の⑥層)と考えられる。中央に約0.1mのピットをもつ、暗褐色上の円形プランとして確認。平面形は約長軸1.25m×短軸1.1mの楕円形で、深さは0.35mである。底面はほぼ平坦で、壁面はやや摺鉢状を呈する。覆土は壁と底面側が黄褐色土で、レンズ状の堆積を示す。

S K28 (第216図、図版4)

下段で調査区中央西側のM I 54区に位置し、表土下約1.4mの河道F堆積層下部の黄褐色土で検出。S K27同様、西側が河道Gで削平を受けており、掘り込み面もやはり河道F堆積層中位の暗褐色土(第15図の⑥層)と考えられる。褐色土の円形プランとして確認。平面形は直径約1.1mの円形と考えられ、深さは0.25mである。底面は中央部がやや盛り上がり、壁面はやや強い角度で立ち上がる。覆土は壁と底面側が黄褐色土で、レンズ状の堆積を示す。

S K47 (第216・218図、図版4)

下段で調査区中央西側のM J 58・59区に位置し、表土下約0.6mの河道G堆積層上部の黄褐色土で検出。北東側はトレンチ調査で削平してしまった。黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸1.2m×短軸0.85mの楕円形と推定され、深さ約0.2mである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は上位が黒褐色土、下位は褐色土が主体を占める。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器片が出土した。

深鉢 (D63～D66) 胎土にはすべて繊維を含む。D63・D64は斜綱文で、D64は内面に条痕がある。D65は羽状綱文を施す。これらの器厚は7～10mmである。色調は橙色から褐色を呈す。胎土は良好で、焼成はD64が堅密な外は不良。前期前半に属す。

S K69 (第216図、図版4)

上段で調査区北西のM I 62・61区に位置し、S K74に切られており表土下約1.3mのV層で検出。暗褐色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、S K10・09・02と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道G堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は長軸1m×短軸0.9mの楕円形を呈し、深さは0.8mである。土坑の底面は平坦で、その中央のピットは径約0.15m、深さ0.45mである。壁はやや外傾した筒状を呈す。覆土は、暗褐色土が主体を占める。ピットの掘り方には、細い3本の杭を束ねたように据えた痕跡があり、その周りに地山を詰め込んでいる。

SK 108 (第 217 図、図版 4)

上段で調査区北西の M H・M I 63 区に位置し、表土下約 0.9m の河道 F 堆積層上部の暗褐色土で検出。黒色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、SK 10・09・02・69 と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道 G 堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は坑底の中央にピットをもつ形態で、平面形は径 0.7m の不整円形を呈し、深さは 0.9m である。土坑の底面は平坦で、そのピットは径約 0.15m、深さ 0.35m である。土杭の壁は中央で括れ、断面は上部が筒形を下部では撥形を呈す。覆土は、全体的に黑色土から暗褐色土で占められる。ピット内には、杭を示す軟らかい 2 つの筋の暗褐色土がある。

SK 109 (第 217 図、図版 5)

上段で調査区北西の M I・MH 62 区に位置し、表土下約 1.4m の河道 F 堆積層下部の黄褐色土で検出。黒褐色土の円形プランとして確認した。掘り込み面は、SK 10・09・02・69 と等距離に連続することから、これらの掘り込み面と同じ河道 G 堆積層中位もしくは上位と考えられる。土坑は、中央と坑外に 2 個のピットをもつ形態である。平面形は長軸約 1m × 短軸 0.8m の楕円形で、V 層からの深さは 1.05m である。中央のピットは径 0.15m 深さ 0.45m で、外側のピットは径約 0.1m 深さ 0.05m である。土坑の底面は平坦で、壁の断面は筒状を呈す。覆土は下半が黒褐色土主体の層で、その中央には杭の痕跡が認められた。中央のピット内は、軟らかい褐色土が主体的で、外側のピットは炭粒を含んだ暗褐色・褐色土である。

SK 163 (第 206 図、図版 1)

下段で調査区南西端の M L 52 区に位置し、表土下約 1.9m で SJ 46 炉跡の掘り方直下で検出。構築は河道 H 堆積層で、開口部は炉跡に切られ不明である。下端は、径 0.8m の略円形を呈し、深さは約 1m である。底面は、端部が丸くほぼ平坦で、壁は断面が長い袋状を呈す。底面より、約 10cm の礫が 1 点出土した。

(4) 石器石材集積遺構

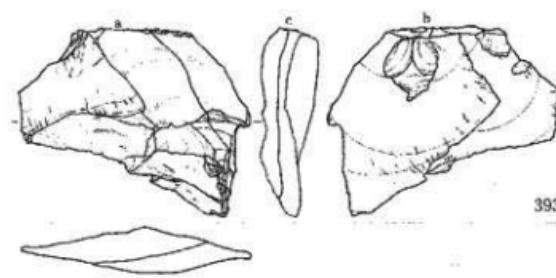
S X S 48 (第 218・223 図、図版 15)

下段で調査区北西端の M L 61 区に位置し、表土下約 2.4m の河道 G 堆積層下部と考えられる黄褐色砂質土で検出。総数は 17 点で、0.15~0.2m の範囲で 2 つのブロックに分かれる。両者は約 0.3m の距離があり、西側のブロックに大きい石器を含む。垂直分布は、東側ブロックの方が 0.05~0.1m 低い。これらの約 0.5m 南の同一層からは、繩文土器の細片がいくつかまとまって出土したが、脆く固化は不可能である。

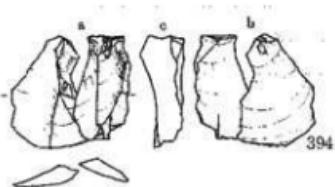
出土遺物は、繩文土器の細片と、接合資料・刺片の石器がある。

接合資料 (393・394) 393 は横長剥片 2 個の、394 は縦長剥片 2 個の接合である。

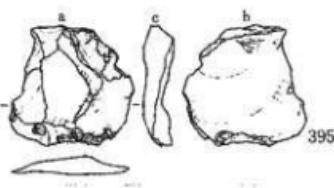
剥片 (395~398) 395 と 396 は横長剥片、397 と 398 は縦長剥片である。



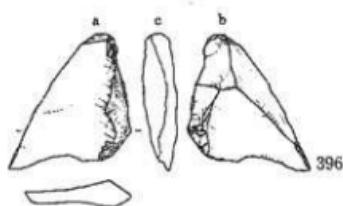
393



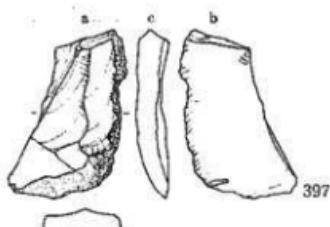
394



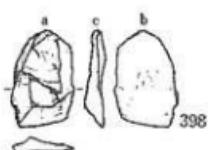
395



396

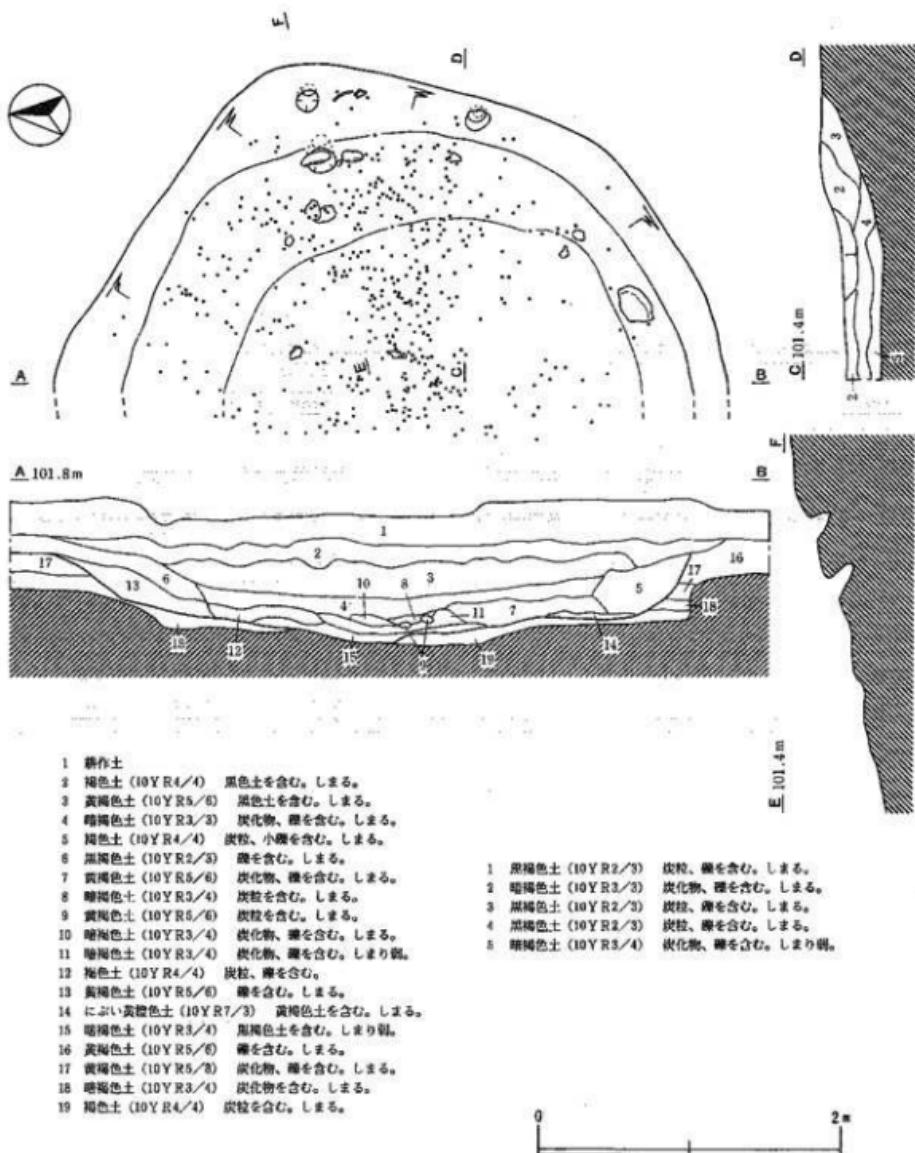


397



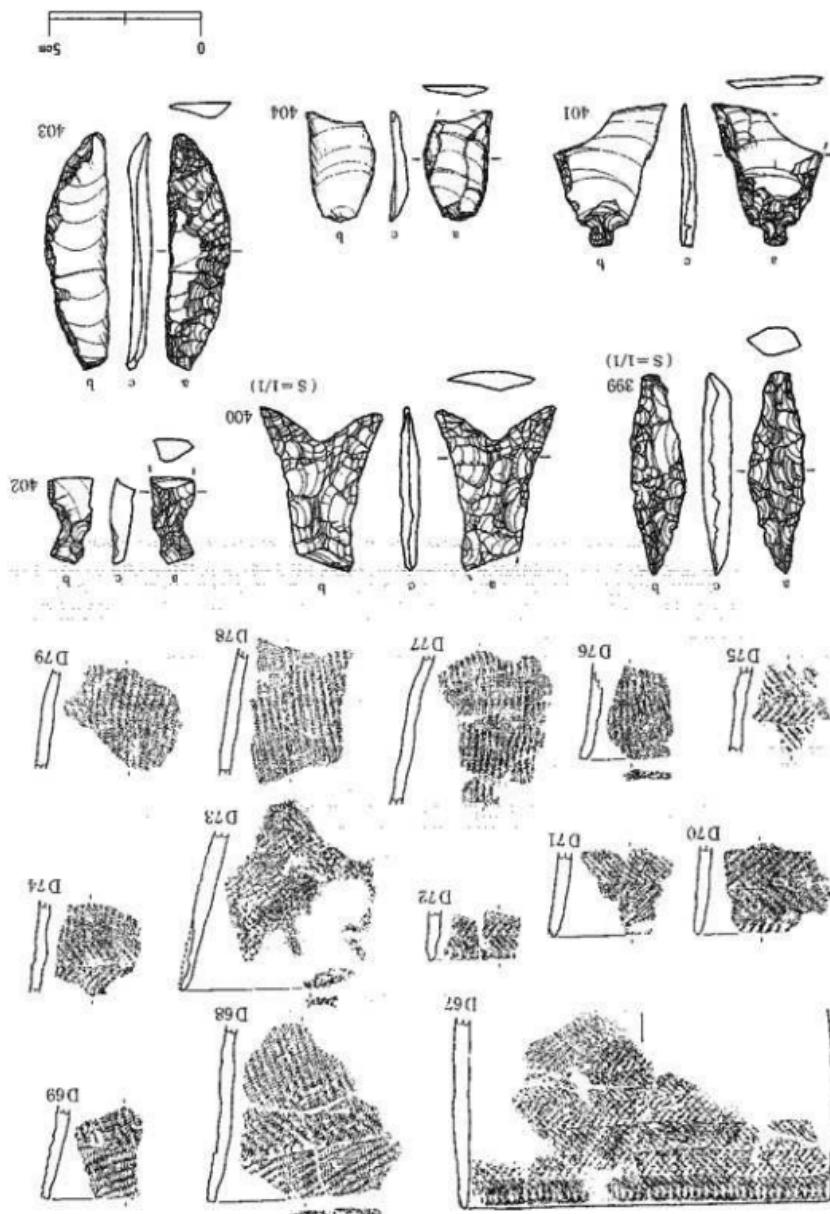
398

第218図 遺構内出土遺物 (136) SK47, SXS48 土器・石器



第219図 土器集中部（2）SXP11

第220圖 遷都內出土遺物 (137) SX P11土器・石器



(5) 焼土遺構

SN08 (第223図、図版11)

下段で調査区中央の南西側MG50区に位置し、表土下約1.2mの河道G堆積層下部縫隙の、上面と考えられる所で検出。不明瞭であるが、焼上と炭化物の範囲として確認した。平面形は、約長軸1.1m×短軸0.7mの楕円形で、掘り込みは不明瞭である。

(6) 上器集中部

SXP11 (第219・220図、図版14・76)

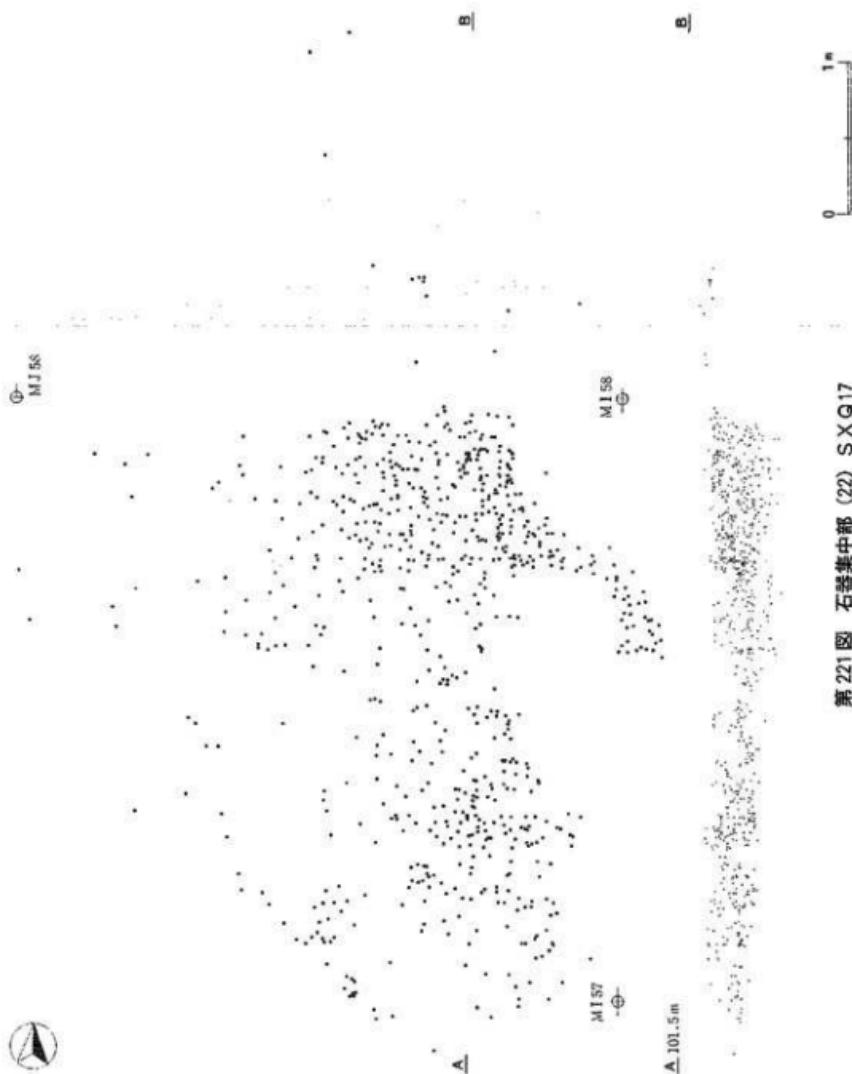
下段で調査区北西のM159区に位置し、表土下の河道G堆積層上部で検出した。半円状の窪地に、土器を主体にした遺物が集中して出土した。東側に張り出している窪地は、黄褐色土に半ドーナツ状の褐色土が巡るように確認でき、当初は堅穴住居跡と考えていた。しかし、西側に壁の立ち上がりが認められないこと、炉跡・柱穴が確認できないこと等から、自然の窪地と判断したものである。窪地は、半円状の弧を除く部分の径が4.5mで鉢状を呈す。遺物の総数は471点で、窪地に広がるように出土するが、底面の褐色土巾から出土したものが殆どである。

出土遺物は、深鉢の縦文土器片以外に、石鎌・石匙・削器の石器がある。
 深鉢 (D67～D79) D67～D75は、繊維を含んだ羽状縦文である。これらは、横位に回転した非結束縦文の組み合わせで、D67とD72、D68とD69は同一個体である。D67とD72は、口唇直下の外面に約5mmの長さで弧に直角の刻み目をもつが、D70では同様な斜めの刻みがある。D68とD69の口唇部には、L R原体の斜縦文を施す。この口縁部の下には、R L原体の上端で端を強く押し付けた文様があり、その結果、二重口縁のように見えている。D74とD75の内面には、明瞭な条痕がある。D76～D79は斜縦文で、やはり繊維を含む。D76は口唇部が平坦で、ここに縦文を施したようである。内面はD77が条痕文、D79が木口によるナデ、D78はナデである。その外小破片で掲載していないが、S XH19出土のD61と類似した廉状のものがあり、これは隣り合う原体の擦りが異なる。繊維を含み、器厚は7～10mmである。色調は外面が橙色からにぶい褐色で、内面にはにぶい褐色のものが多い。D68・D69・D77～D79の胎土には、約5mmの小石が含まれる。焼成は全般に良好で、特にD68・D69・D75は堅緻である。時期は前期前半に属す。

石鎌 (399・400) 399は棒状で、c面の先端が右に反る。両側縁に丁寧な調整がある。400は、薄く底辺が二又に分かれる形態で、先端を欠損している。

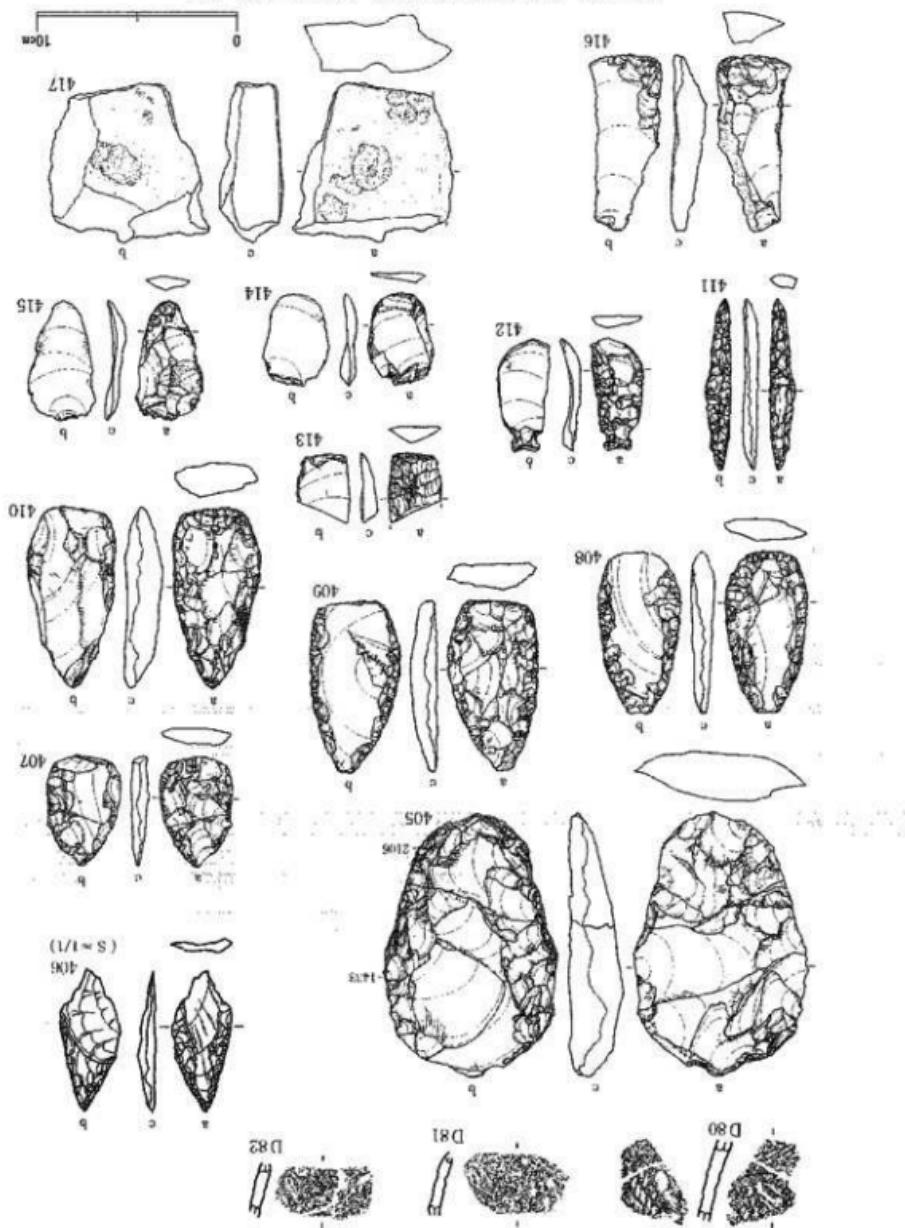
石匙 (401・402) 401は底辺の一部に微小な剥離が見られ、そこが広い三角形状の形態である。a面左下位を欠損。同面右側縁の剥離は新しい。402は、つまみ部付近の破片である。

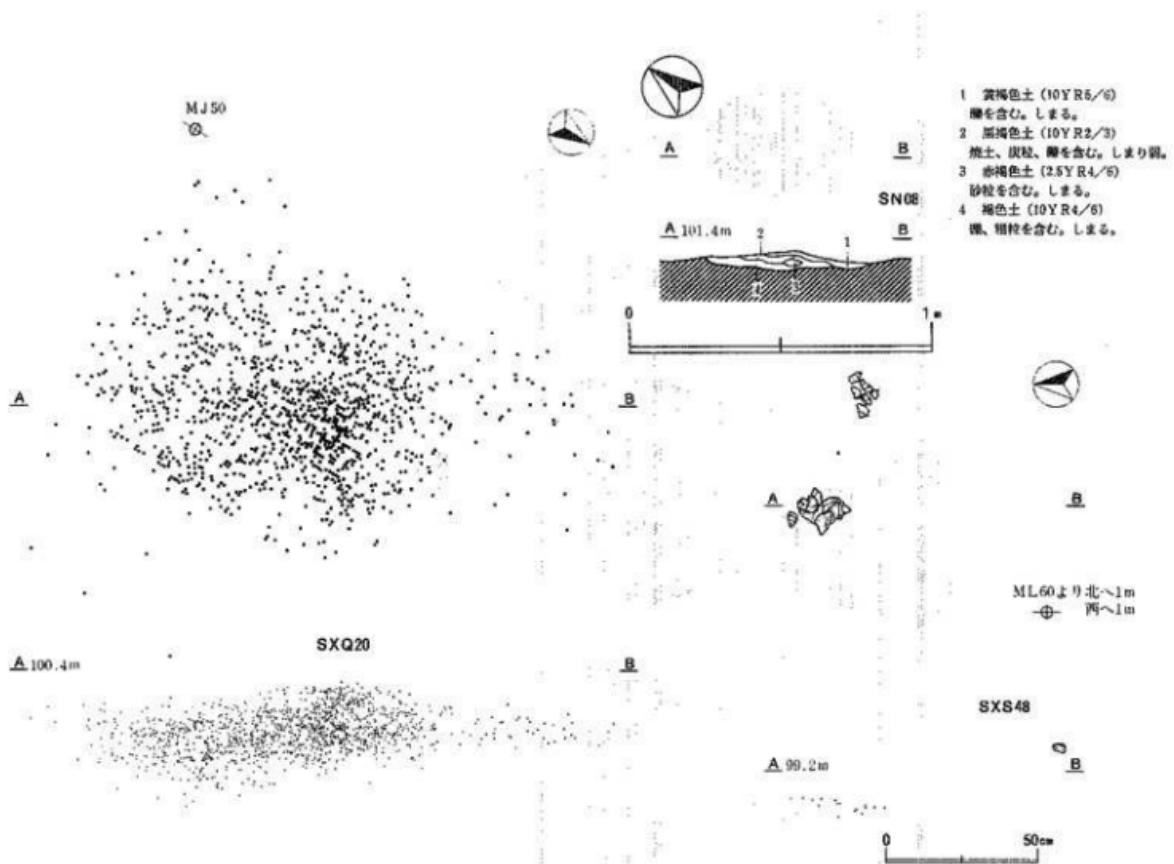
削器 (403・404) 403は、縦長削片で三ヶ月形の形状を呈する。a面右側縁は直線的で調整



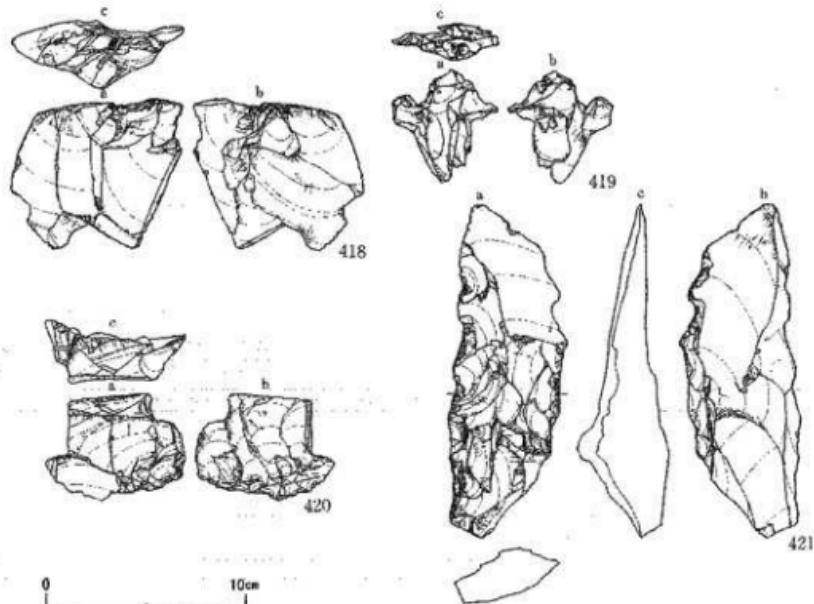
第221図 石器集中部 (22) SXQ17

第222圖 遷揚內出土遺物 (138) SXQ17土壤・石器





第223図 石器石材集積遺構(3), 焼土遺構(2), 石器集中部(23) SXS48, SN08, SXQ20



第224図 遺構内出土遺物 (139) SX Q20

が細かく、同左側縁は弓成りで両面にやや粗い調整がある。404 は a 面の両側縁に調整を施す。

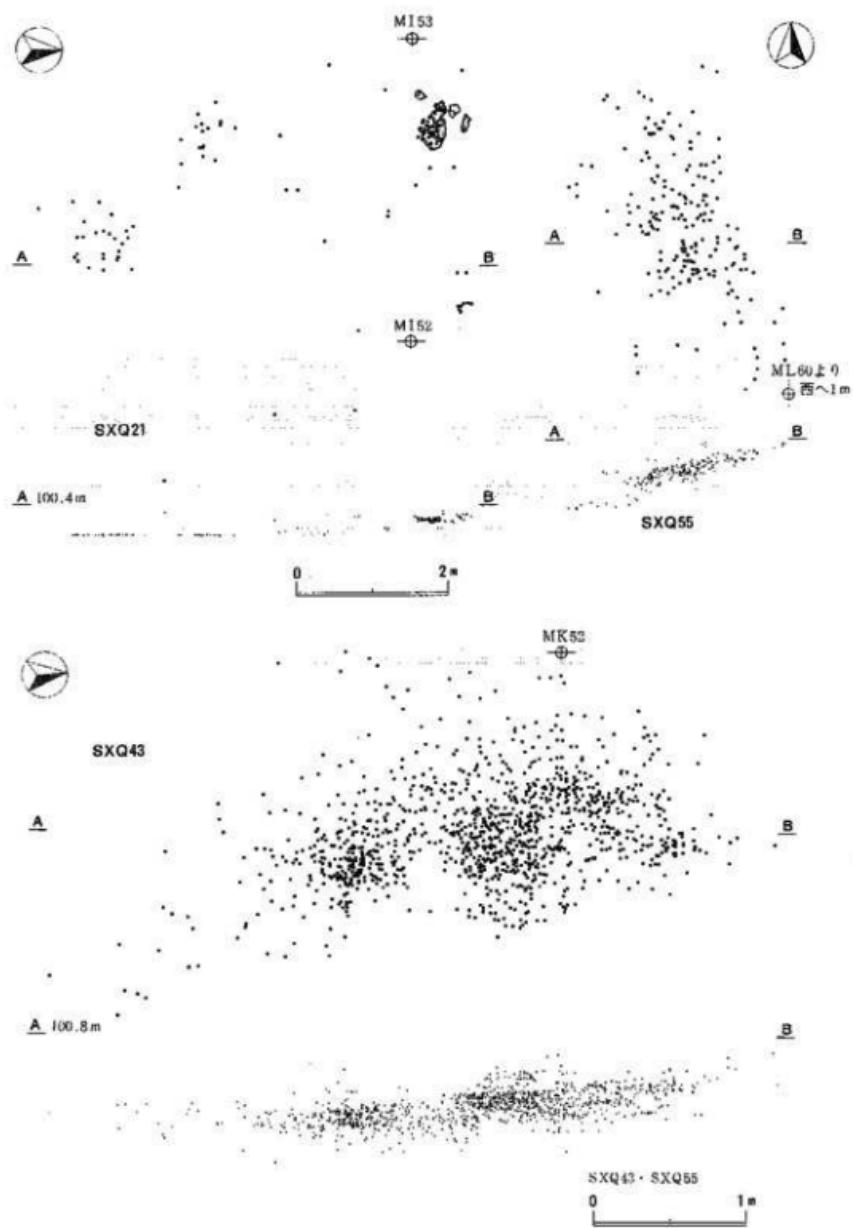
(7) 石器集中部

S X Q17 (第 221・222 図、図版 24・76)

下段で調査区中央西側の M I 57・58 区に位置し、表土下約 0.2m で河道 G 堆積層上部の暗褐色土（第 15 図②層）より検出。取り上げ総数は 849 点で 7 m × 4 m の広がりを持ち、繩文土器も少量含む。この内、南側 4 m × 3 m の範囲ではまとまった在り方を示し、それ以外は希薄である。この集中している所は、さらに南北 2 つのブロックに分けられそうである。垂直分布は 0.3～0.4m と幅があるが、これは遺物が地形に沿って西側に傾斜しているためである。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡である。

出土遺物は、深鉢と考えられる繩文土器以外に、両面調整石器・石鏃・石鎧・石錐・石匙・搔器・削器・凹石の石器がある。

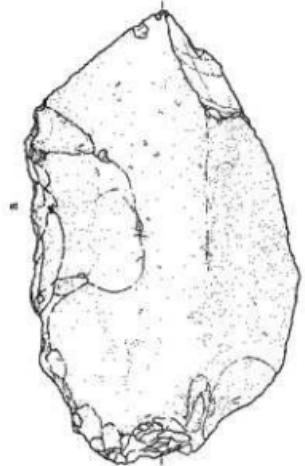
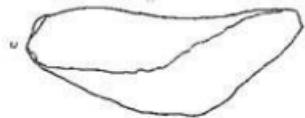
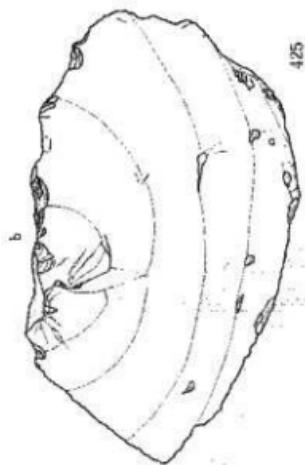
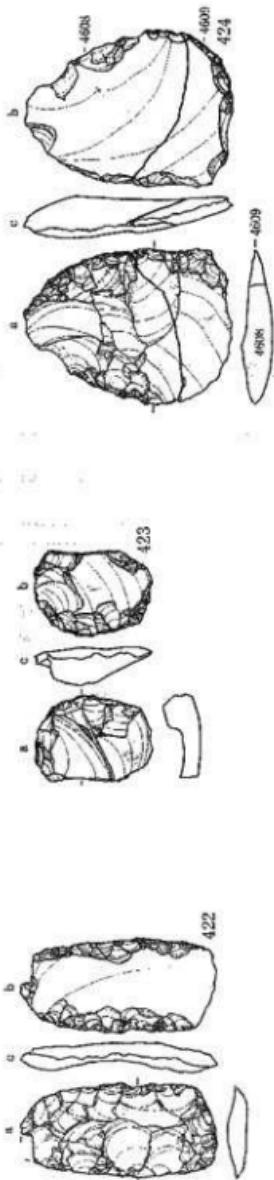
深鉢（D80～D82）すべてに繩文を含む。D80 は内外面に繩文がある。D81 と D82 は同一個体で、外面には繩文があったようで内面は無文である。器厚は約 5 mm。色調は D80 が内外面にぶい黄橙色。D81・D82 の外面はにぶい黄橙色で、内面が暗褐色である。胎土は 1～2 mm の砂粒が顯著で、焼成は不良。

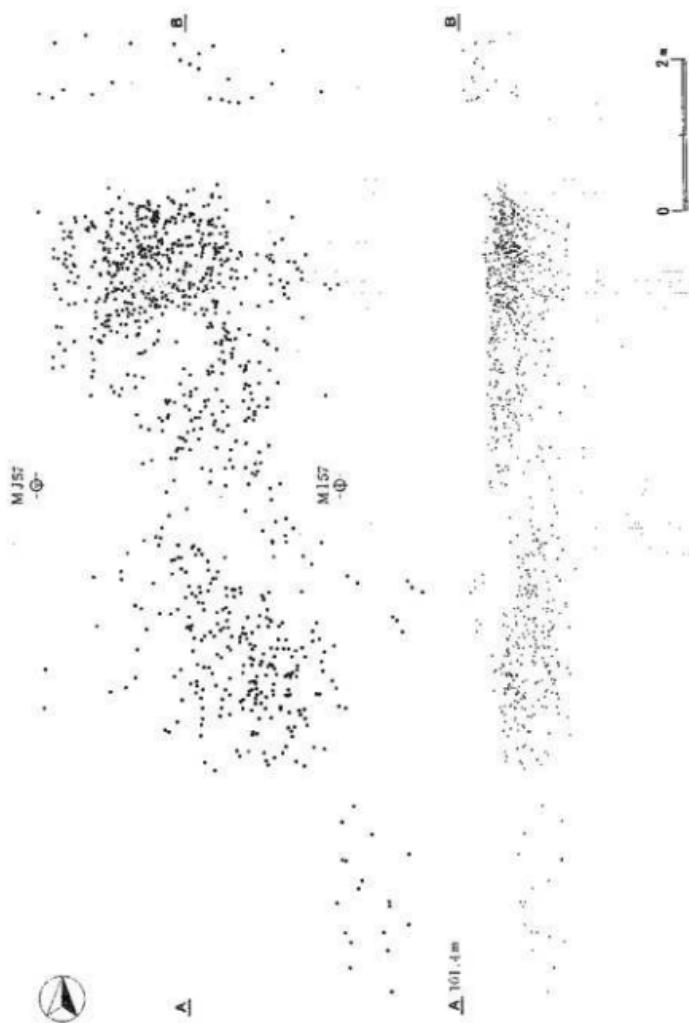


第225図 石器集中部 (24) SXQ21・43・55

第228図 遺構内出土遺物 (140) S×G21

10mm





第227図 石器集中部(25) SXQ22

両面調整石器（405） 刃片素材と考えられる。両側縁の全体に調整があるが、b面中央の両側縁より下位では連続する調整がある。特に同右側縁は直線的で鋭い。

石鏸（406・407） 406は基部を欠損。先端は鋭く尖り、a面の両側縁に連続した調整がある。407は未製品で、縦の長さが短い石鏸状を呈す。b面からの折断がある。

石鏸（408～410） すべて横長刃片を素材にする。408と409は、両側縁の全体に調整があるが、410 a面の左側縁は素材面を残す。刃部は3点共a面からの剥離である。

石錐（411） 両端が尖った断面三角形の形態で、下位の先端は正三角の断面を作り鋭い。c面の稜線は、両面からの調整でよく整えられている。

石匙（412・413） 412は縦長刃片を素材とし、a面右側縁が直線的で同左側縁は弓成りである。つまみ部の中央に、小さく剥離を施して二又状にしている。413は下位の破片である。

搔器（414・415） どちらも縦長刃片で、刃部は414が幅広で415は細みになる。

削器（416） 縦長刃片で、a面左側縁に細かな調整がある。礫皮面が残る。

凹石（417） 両面の同じような位置に、約2cmの凹部がある。

S X Q20（第223・224図、図版24・76）

下段で調査区南西部のM I 50区に位置し、表土下約1.1mの河道G堆積層の上部と考えられる暗褐色土で検出。取り上げ総数は1,259点で、約1.8m×0.9mの範囲に集中している。垂直分布は0.3mの幅があるが、地形が南西側に傾斜していることによる。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡と考えられる。

出土遺物は石器のみで、接合資料・鋸歯縁石器がある。

接合資料（418～420） 418は3点、419は4点、420は6点が接合する。

鋸歯縁石器（421） 縦長刃片で、両側縁に鋸歯状のノッチがある。ノッチは大きく、a面左側縁に3つ b面左側縁に2つがある。

S X Q21（第225・226図、図版24）

下段で調査区南西部のM I 51区を中心にして位置し、表土下約1.2mの河道G堆積層の下部と考えられる疊層（第15図④-d層）上面で検出。取り上げ総数は103点で、約8m×6mの広がりをもつ。特に北西部の径0.8mの範囲では、やや大きい刃片を含んで集中して出土した。垂直分布は、個別には約0.1mに収まるものの、全体に北側が高く南側が低い。これは疊層上面の傾斜を反映したものである。

出土遺物は石器のみで、石鏸・搔器・削器・刃片がある。

石鏸（422） 橫長刃片で両側縁の両面に調整があるが、a面はやや大きく b面は細かい。

搔器（423） 縦長刃片で刃部は丸く、b面左に細かい剥離がある。

削器（424） 橫長刃片で a面の両側縁と、b面の下位側縁に調整がある。下位側縁を刃部に

した、搔器の可能性もある。a面からの折断がある。

剝片 (425) 大型の横長剝片で、a面下位の右側縁に約4cmの丁寧な剝離がある。

S X Q22 (第227・229図、図版24・77)

下段で調査区中央西側のM H55・56区、M I 56~58区に位置し、高い所では表土下約0.5mの河道F堆積層上部の暗褐色土で検出。取り上げ総数は908点で、約13m×7mの広がりをもつ。全体に疎らであるが、北側の径3mの範囲がより集中する。垂直分布は平均1mの幅がある。これは包含層が、西側へ大きく傾斜していることによる。

出土遺物は、深鉢と考えられる繩文土器以外に、両面調整石器・円盤状石器・石槍・石鎌・石鏟がある。

深鉢 (D83) 繊維を含み、外面は繩文、内面に条線文のような痕跡がある。器厚は7mmで、色調は内外面とも橙色から褐色である。胎土は1~2mmの砂粒を含み、焼成は不良。

両面調整石器 (426・427) 426は両面調整石器と推定される。b面の先端に未調整部分もあるものの、両側縁に比較的丁寧な調整がある。a面からの折断で下部は欠損。427は略楕円形で、全周に細かな調整があり、搔器にすべきかもしれない。

円盤状石器 (428) やや分厚く、全周に粗い調整がある。b面に礫皮面を残す。

石槍 (429) 短い細みの槍と考えられる破片である。

石鎌 (430) 薄い綾長剝片で両側縁に調整がある。下部を欠損するが、そこが最大幅である。

石鏟 (431~434) 431~433は横長剝片の素材である。431はb面の両側縁に、角度のある細かい剝離を連続させている。432は、a面の両側縁に角度をもつ調整がある。433・434は小型で未製品の可能性があり、434は石鎌かもしれない。

S X Q43 (第225・229・230図、図版24・77)

下段で調査区南西部のM J 51・52区に位置し、表土下約1mの河道G堆積層上部と考えられる暗褐色土で検出。S X Q20包含層と同じである。取り上げ総数は1,079点で、5m×4mの広さがある。分布状態は、南北に2つのブロックがありそうである。垂直分布は約0.4mの幅をもつ所もあるが、包含層の西側への傾斜が影響している。遺構は、多量のチップを相伴している石器製作跡と考えられる。

出土遺物は石器のみで、両面調整素材・石斧・搔器・削器がある。

両面調整素材 (437) 細長剝片で両側縁に粗い調整がある。

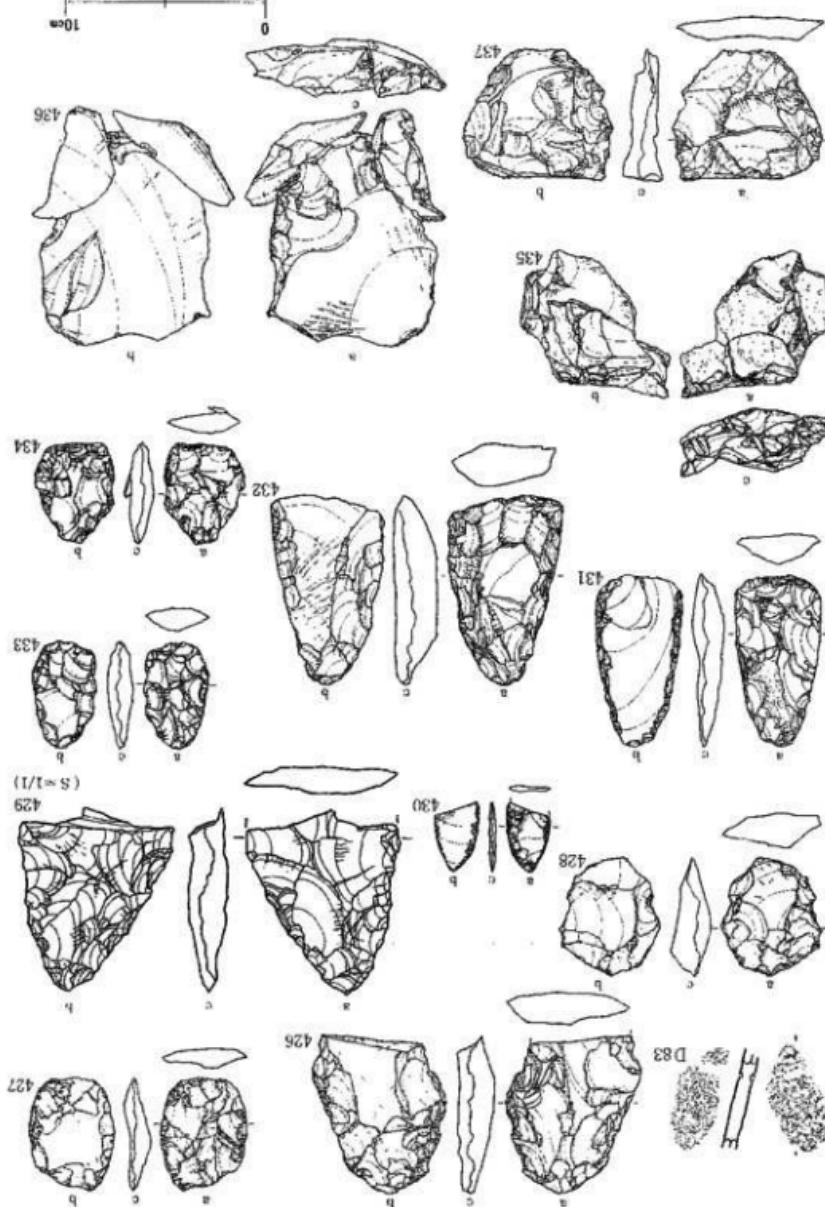
石斧 (438・439) 438は横長剝片で、439は綾長剝片の可能性がある。両者とも刃部は丸く、b面の主要剝離面を残したままで、a面に丁寧な調整を施す。438はa面右側縁の剝離を失敗し、折断したものである。439はb面からの折断で、上位を折損している。

搔器 (440) 横長剝片で、下位側縁に一部だけ丁寧な調整がある。a面上位右側縁の剝離を

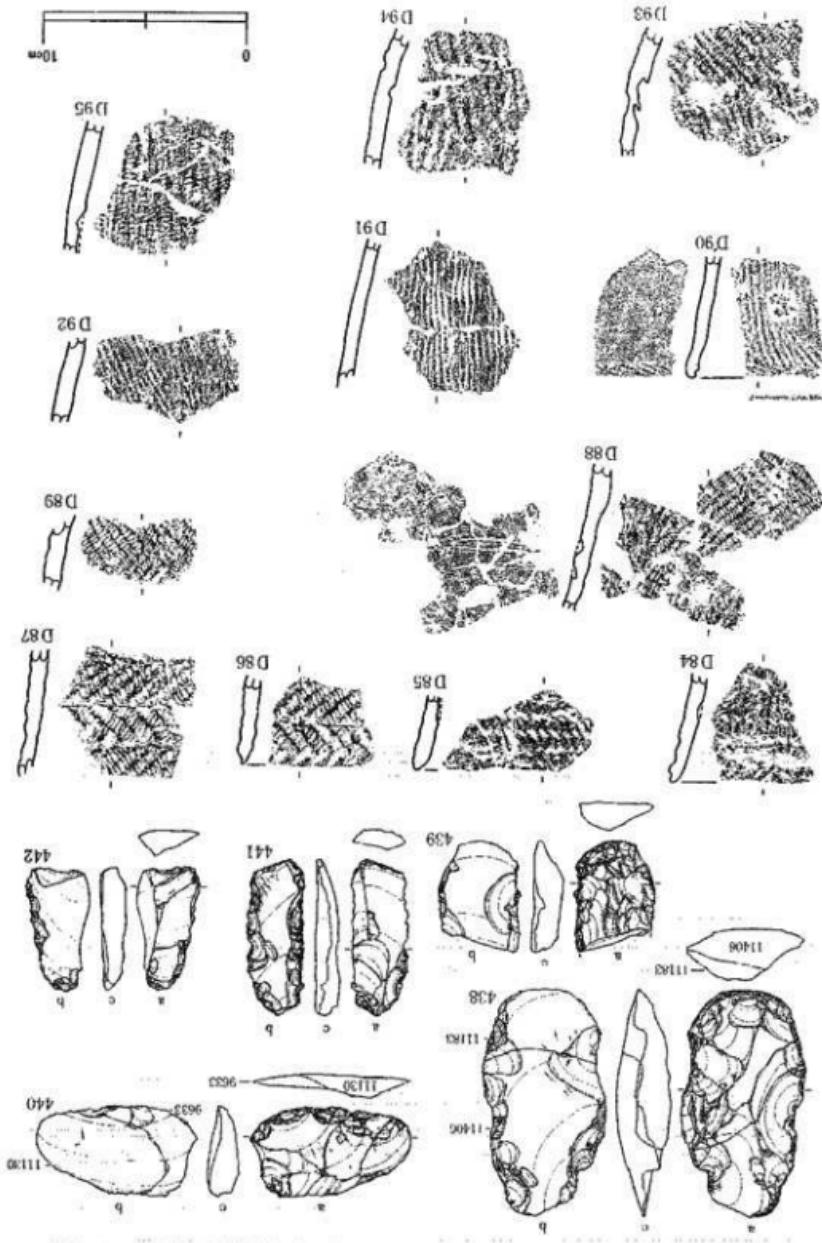


第228図 石器集中部 (26) SX Q44

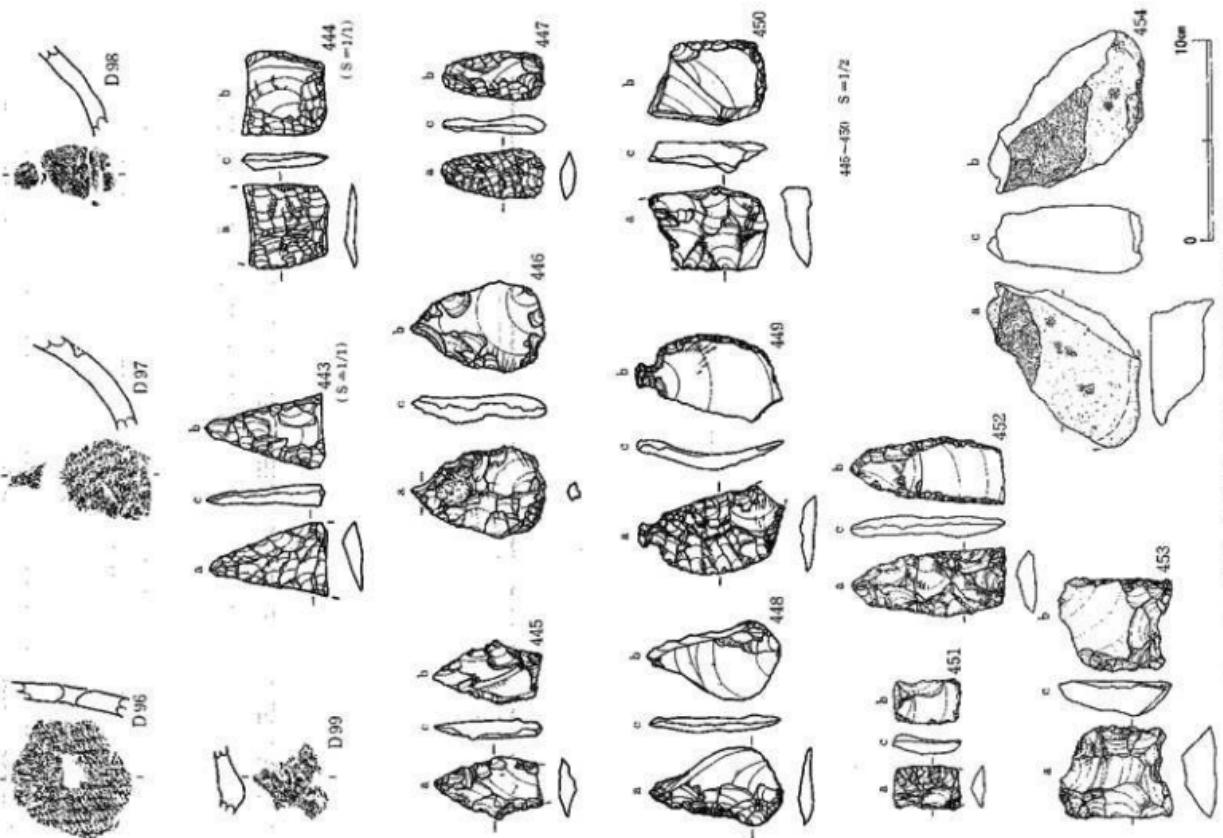
第229図 遺構内出土遺物 (141) SXQ22土器・石器 SXQ43①



第230圖 遺跡內出土遺物 (142) SXQ43②・44①土器



第1編 舊石時代の陶器遺物とその遺跡



第231図 這標内出土遺物 (143) S X Q44②土器・石器

失敗し、その打撃で折断している。

削器 (441・442) 両者とも横長剝片で、441はb面の両側縁に、442はa面左側縁に粗い調整がある。後者のa面下端には、細かい剥離を施し刃部を形成した可能性がある。

S X Q44 (第228・230・231図、図版25・77)

下段で調査区中央の西側M J 54～56区に位置し、表上下約0.5mの河道G堆積層上部の暗褐色土で検出。取り上げ総数は2,070点で7.5m×5.5mの広がりをもち、繩文土器も少量含む。分布状態は大雑把に、北側の5m×4mと南側の1.5m×1mの2ブロックに分けられる。垂直分布は一部を除いてほぼ0.2mの幅に収まるが、これらの分布している所はほぼ平坦な面を呈す。遺構は、多量のチップを共伴している石器製作跡である。

出土遺物は、深鉢と考えられる繩文土器以外に、石鎌・石匙・石籠・搔器・凹石がある。

深鉢 (D84～D98) すべてに纖維を含む。D84・D85は、文様構成と傾きは若干異なるが、口唇部が鋭角的で胎土・焼成が同じことから同一個体の可能性がある。D84は口唇直下に、短く斜めの押圧縄文があり、その下に擦りの緩い2本の押圧縄文がある。さらに、L Rの半置半転を施す。D85も口唇直下に短く斜めの押圧縄文があり、その下に、一部（右端）はD84のような一段の押圧縄文で、それと並んだ所から下へはL Rの半置半転を行う。色調は外側がぶい褐色で、内面が浅黄橙色。D86・D87は同一個体である。口唇は鋭角的で、口縁以下に異原体による模位の羽状縄文を施す。最も上にある斜縄文は、口唇直下の斜めの刻みと組み合って羽状を呈す。D88・D89は同一個体で、異原体による羽状縄文を構成する。内面には指頭圧痕がある。D90～D92は同一個体である。D90は丸い口唇で、この直下の内外面に短い幅の縄文がある。さらに下の外側には、D91・D92も含んでR Lの縄文を施す。D93～D95は、R Lの斜縄文である。D97～D99は底部の破片で、D97・D98は丸底D99は尖底である。これらの内、D84～D87・D90の外側は、煤の付着が著しい。これらの器厚は7～9mmである。色調は、D90の外側とD91・D92の内面が褐色、内外面は橙色や浅黄橙色から褐色である。胎土は、D86・D87やD90～D92で砂粒を顯著に含む。焼成は、D88・D89やD95が堅鐵な外は不良なものが多い。

有孔円盤 (D96) 長軸7.5cm×短軸5.5cmの不整円形で、R L縄文の破片に穿孔したものである。器厚は8mmで、色調は内外面とも橙色である。胎土には、纖維と5mm以上の小石を僅かに含む。焼成は良好。

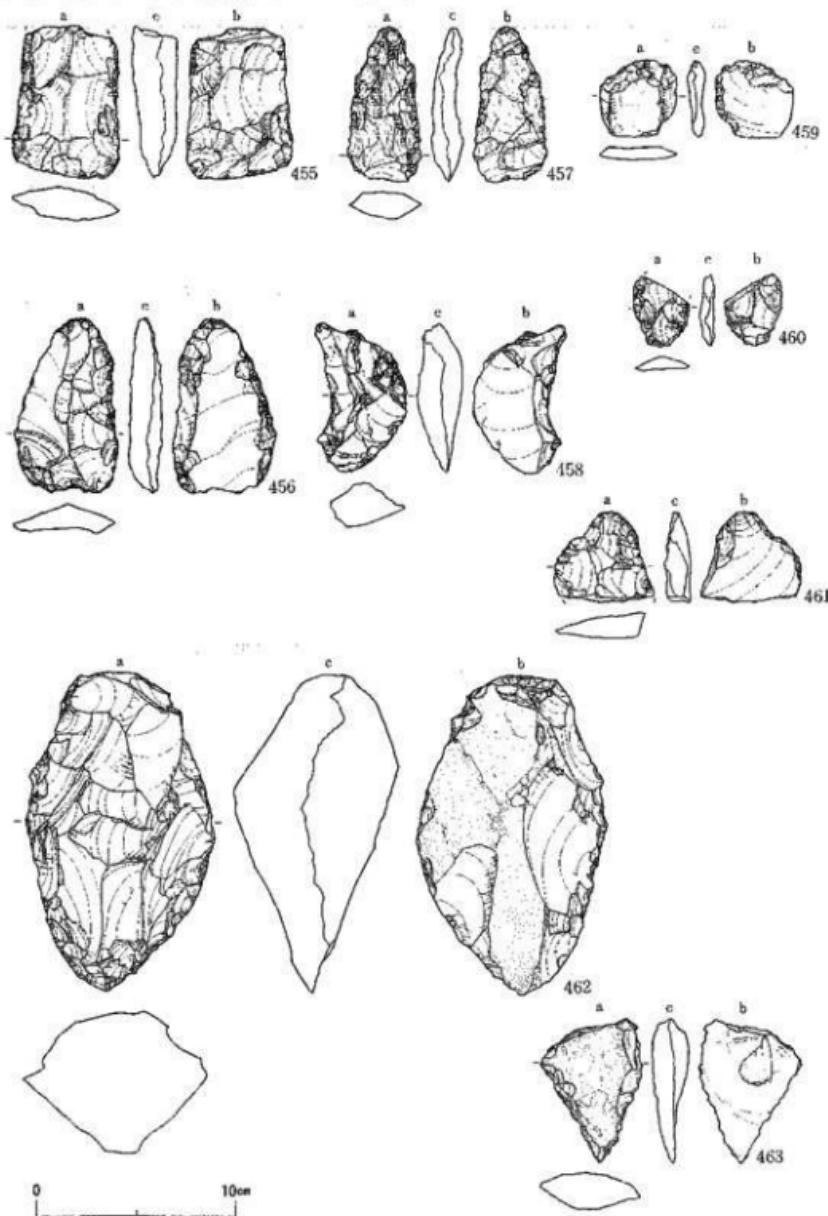
石鎌 (443～448) 445～448は未製品で、443は下位が444は上位を欠損。

石匙 (449～451) 449は幅の広い先端の一部を、450は幅の狭い上位を欠損。451は、上位がa面から下位をb面より折損しており、故意に折断した可能性がある。

石籠 (452) 縦長剝片の整った形で、a面右側縁が直線的に同左側縁は弓成りになる。



第232 図 石器集中部 (27) S X Q45



第233図 遺構内出土遺物 (144) SX Q03-45

搔器（453） 不定形で両側縁に粗い剝離が、a面の左上位と右下位の側縁に細かく丁寧な剝離がある。前者は凸状で後者は凹状である。

凹石（454） 平坦な河原石に、大きめの凹みがある。

S X Q45 (第232・233図、図版25-77)

下段で調査区中央の西側M J54～56区を中心にして位置し、表土下約0.9mの河道G堆積層の下部と考えられる礫層（第15図④-d層）上面で検出。取り上げ総数は294点で、18m×6mの広がりもち、全体では疎な在り方を示す。M J54区には、30～40cmの大型の礫が故意に置かれたようにあり、周辺からは多量のチップが出土している。垂直分布は最大0.2mの幅に収まる。遺構は石器製作跡であるが、大型の礫は石器製作時に台石として使用された可能性がある。

出土遺物は石器のみで、石斧・石鎚・搔器・削器・二次加工ある剝片がある。

石斧（455） 上位を欠損し、刃部は両刃で直刃状に整えている。両側縁と刃部は鋭い。

石鎚（456・457） どちらも三角形状の横長剝片で、456は両側縁と刃部に457は両側縁に調整がある。457の刃部には、使用痕と考えられる微小剝離がある。

搔器（458） 横長剝片で、a面の右側縁に特に丁寧な調整がある。

削器（459・460） 459は分厚い横長剝片の素材で、a面左側縁に約90°の刃部がある。460は本来木の葉形と考えられ、上位を欠損する。両側縁に調整があり、a面から折断している。

二次加工ある剝片（461） 両側縁に調整があり、a面からの折断がある。

S X Q56 (第225図)

下段で調査区北西のM L60区に位置し、表土下約2.4mの河道H堆積層の下部と考えられる黒褐色土で検出。総数は178点で、2.2m×1.5mの広がりがある。垂直分布は西側を除くと、約0.15mの幅でまとまり、地形に沿った緩やかな傾斜を示す。

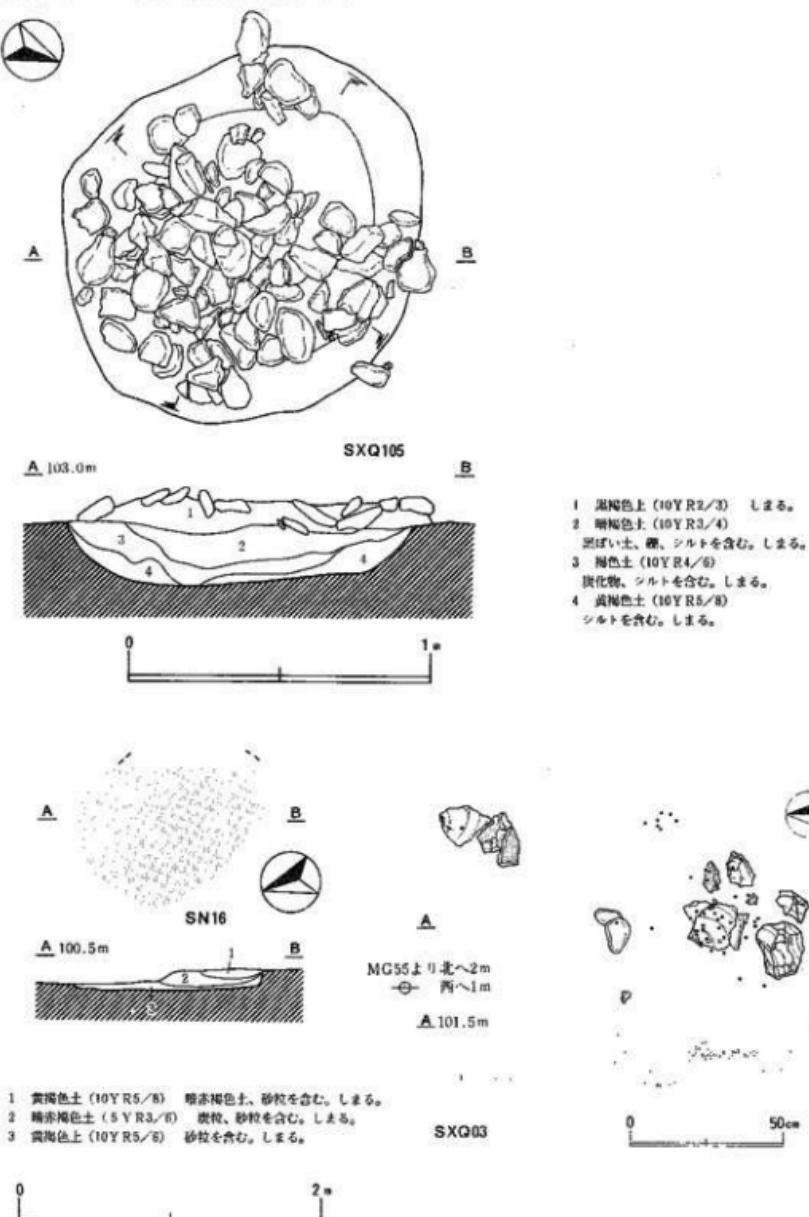
4 早期から前期

早期から前期に推定される遺構と遺物は、調査区の南北に広く散在している。層位的には、河道C堆積層から河道E堆積層までを中心としており、早期と前期の区別がつかないものを括している。遺構の種類と数は、集石炉1基、焼土遺構1基、石器集中部5ヵ所である。遺物は、前期と考えられる土器片や、石鎚・搔器・削器・凹石等の石器が出土している。

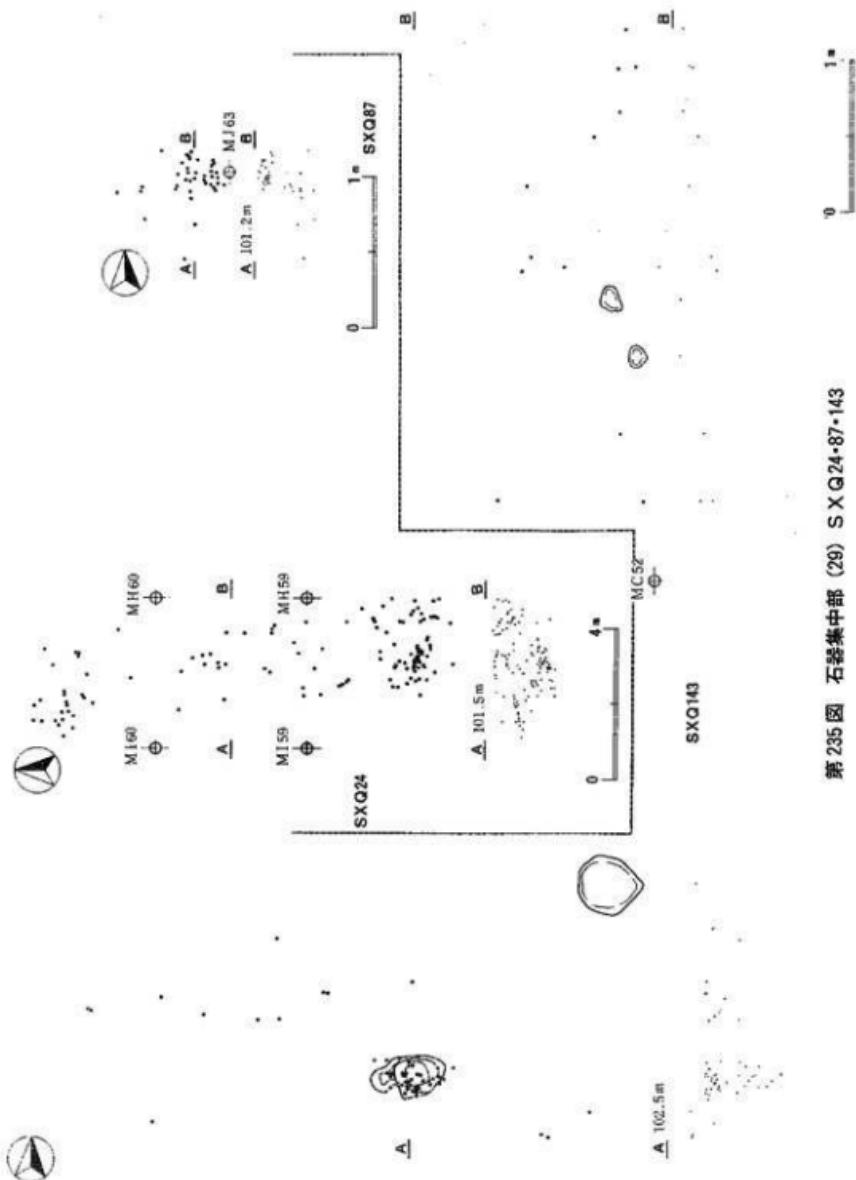
(1) 集石炉

S Q105 (第234図、図版10)

上段で調査区中央の北側M B・MC58区に位置し、表土下約0.1mのV層で検出。褐色土で、黒褐色の円形プランとして確認した。深さ0.3mの掘り込みを造り、この中に礫を充填させたものである。掘り方の平面形は、長軸1.35m×短軸1.15mの楕円形で、底面は緩く窪み壁面



第234図 集石炉 (7), 烧土遺構 (3), 石器集中部 (28) SXQ105, SN16, SXQ03



第235図 石器集中部 (29) SXQ24・87・143

は摺鉢状を呈す。疊は掘り方上位に集中し、5~20cmの扁平なものが多くほとんどが赤く焼けている。これらは乱れた状態にあり、破碎したものも比較的目立つ。覆土は中位が褐色土、上位が黒褐色土である。

(2) 焼土遺構

S N16 (第234図、図版11)

下段で調査区中央やや南西のMF53区に位置し、表土下約1.1mの河道C堆積層下部の砂層で検出。不明瞭であるが、焼土と炭化物の範囲として確認した。平面形は、約長軸1.4m×短軸1mの橢円形と考えられ、掘り込み面は不明瞭。覆土は砂質である。

(3) 石器集中部

S X Q03 (第233・234図、図版25)

下段で調査区中央やや西側のMG55区に位置し、地表面下約0.1mの河道D・E堆積層上部の黄褐色土で検出。総数は54点で長軸1.3m×短軸0.7mの広がりをもつが、これより約2m西から出土した石器も含んでいる。中央部には、約10cmの疊が2点出土している。集中部での掘り込みは確認できなかった。垂直分布では、一部のまとまりが低い所で出土しており、ピット状の掘り込みがあったかもしれない。

出土遺物は石器のみで、尖頭状両面疊器・石錐がある。

尖頭状両面疊器 (462) 両面疊器でb面は素材面を利用し、主にa面に調整を加えて尖った両刃を作り出す。握り部としての上部は厚く重量があり、使用時には威力がある。遺跡よりいくつか出土しており、定形的な石器であろう。

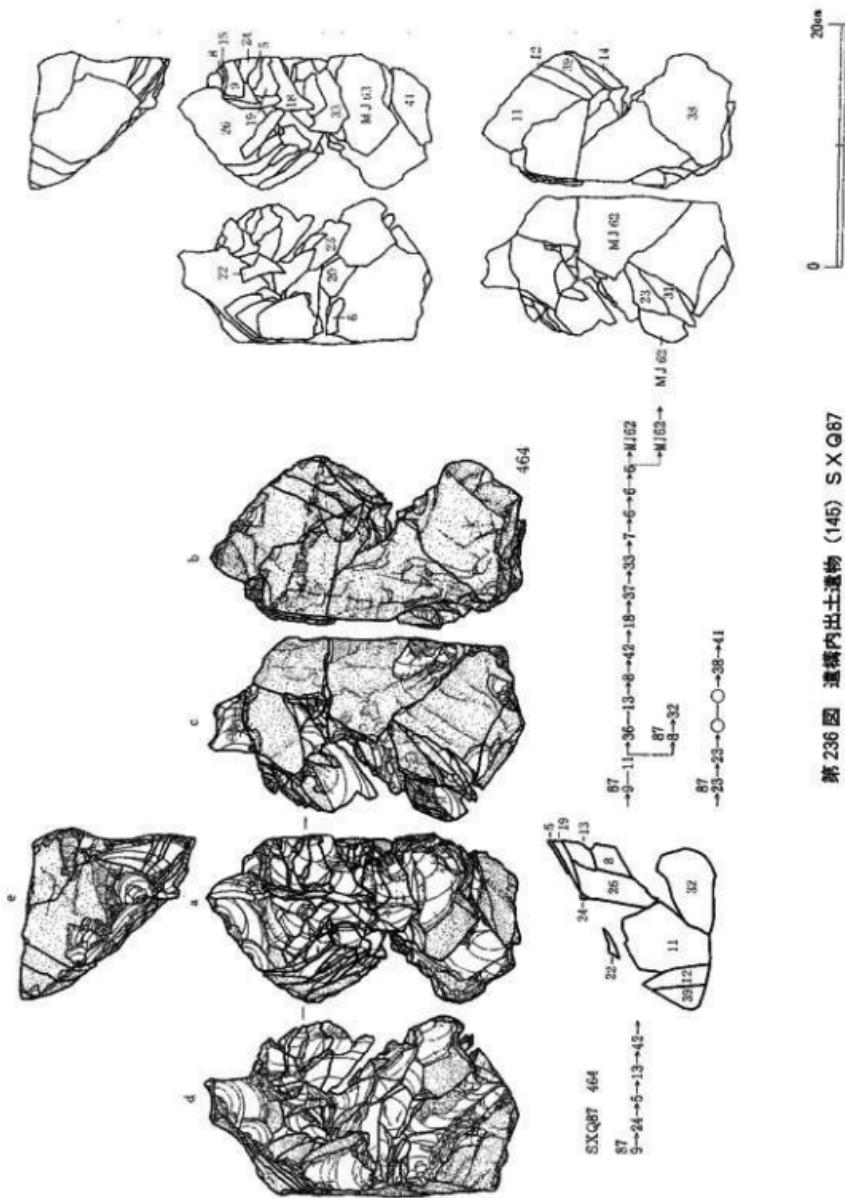
石錐 (463) 橫長剥片の素材と考えられ、先端の断面は三角形状に尖がる。両側縁に角度のある調整を施すが、初めにやや粗く次に細かく丁寧な調整を施す。

S X Q24 (第235図、図版25)

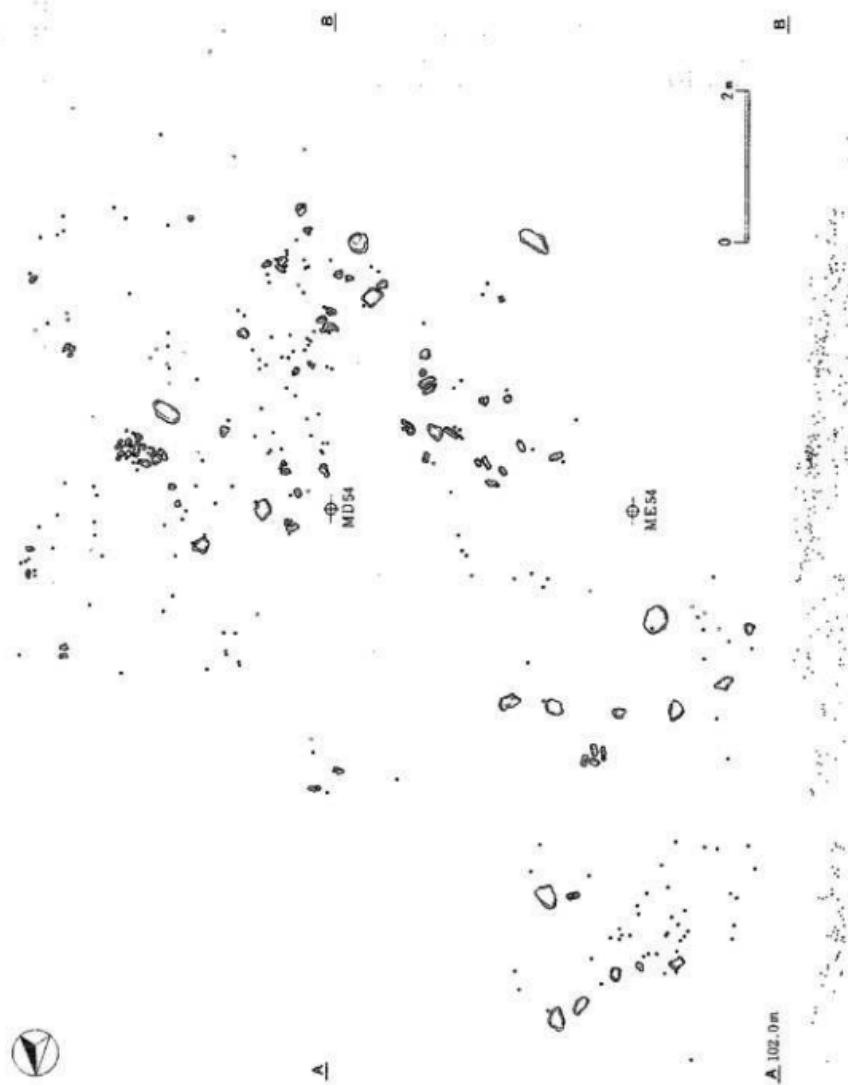
下段で調査区中央やや北西のMH58~60区に位置し、表土下約0.1mの河道E堆積層下部の褐色土を中心検出。総数は127点で12.5m×3mの範囲がある。この幅は、河道E堆積層の褐色土の幅に規制されたものである。垂直分布の高低差は1.7mあるものの、これは褐色土が短い幅で急激な傾斜を示すことによる。そして、各グリッド毎の垂直分布では、高い東側から低い西側にかけて相対に摺鉢状を呈す。遺構は、チップが目立たないことと石器のばらつきから、石器製作跡とは言えない。

S X Q87 (第235・236図、図版25)

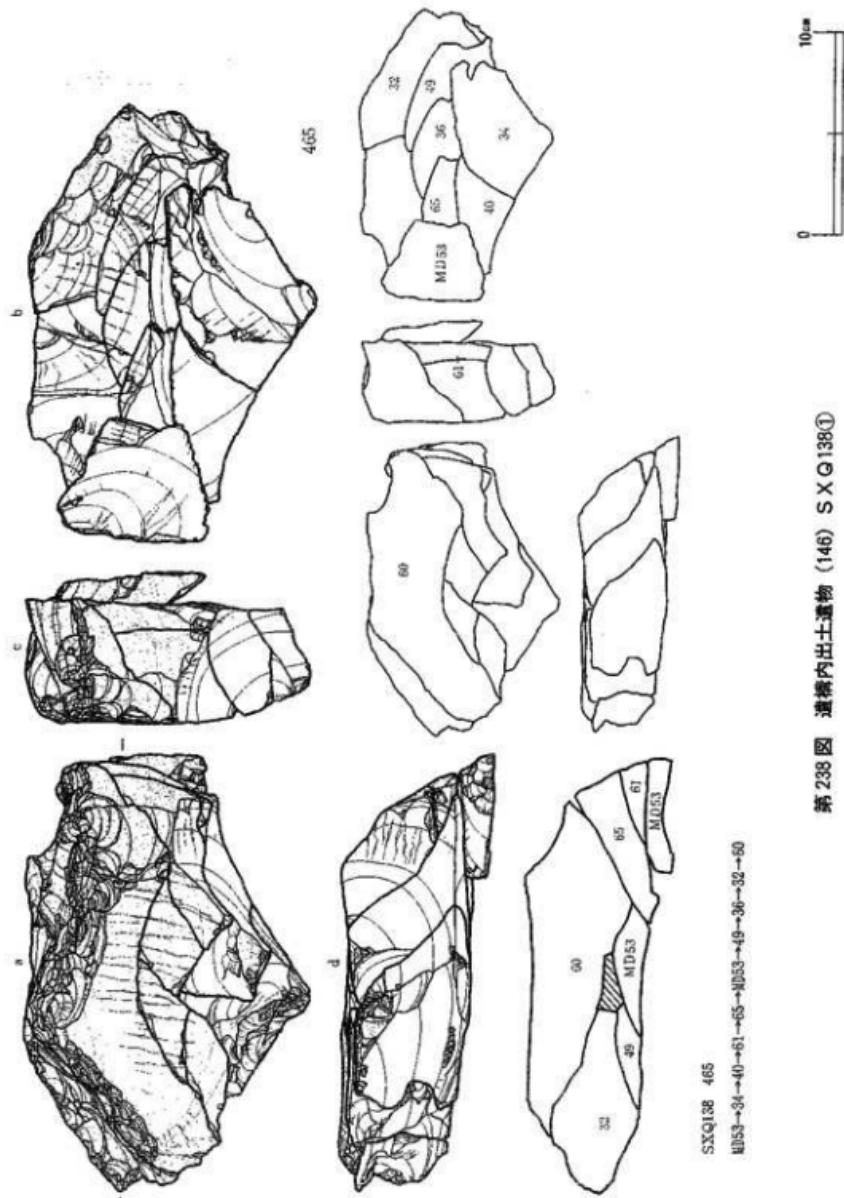
上段で調査区北西部のMJ63区南東杭付近に位置し、表土下約1.8mの河道E堆積層と考えられる黄褐色土で検出。総数は41点で、径約1mの範囲に集中している。垂直分布は0.4mであるが、西側に傾斜している包含層の影響もある。

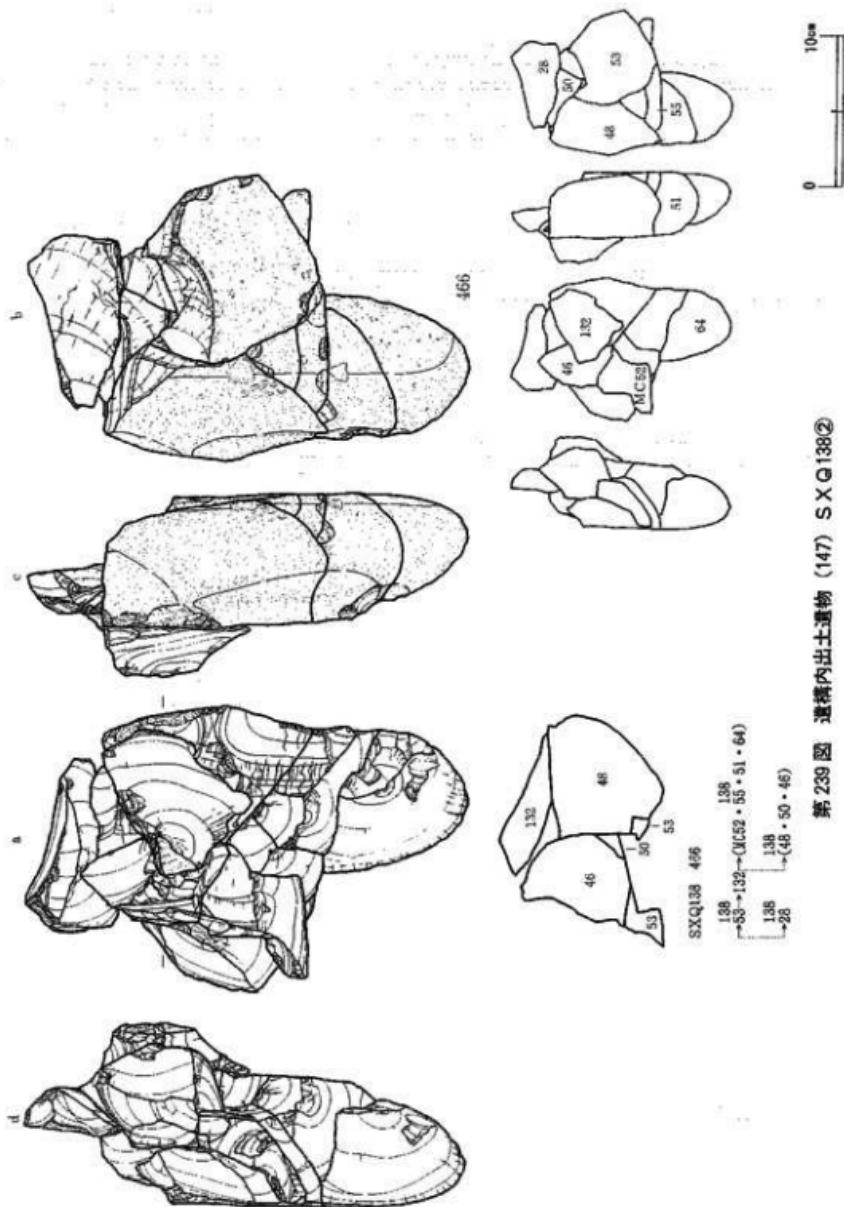


第236図 連焼内出土遺物 (146) SX-Q87



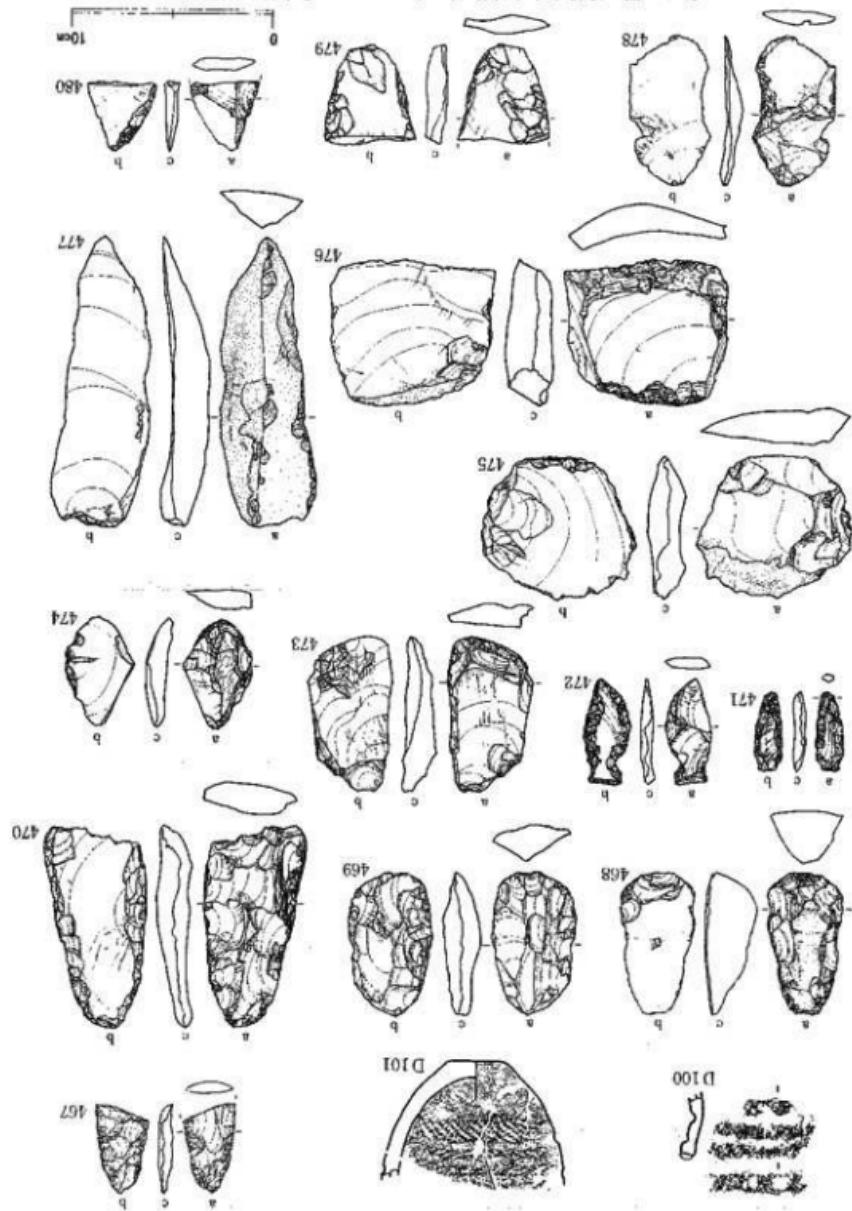
第237図 石器集中部 (30) SXQ138



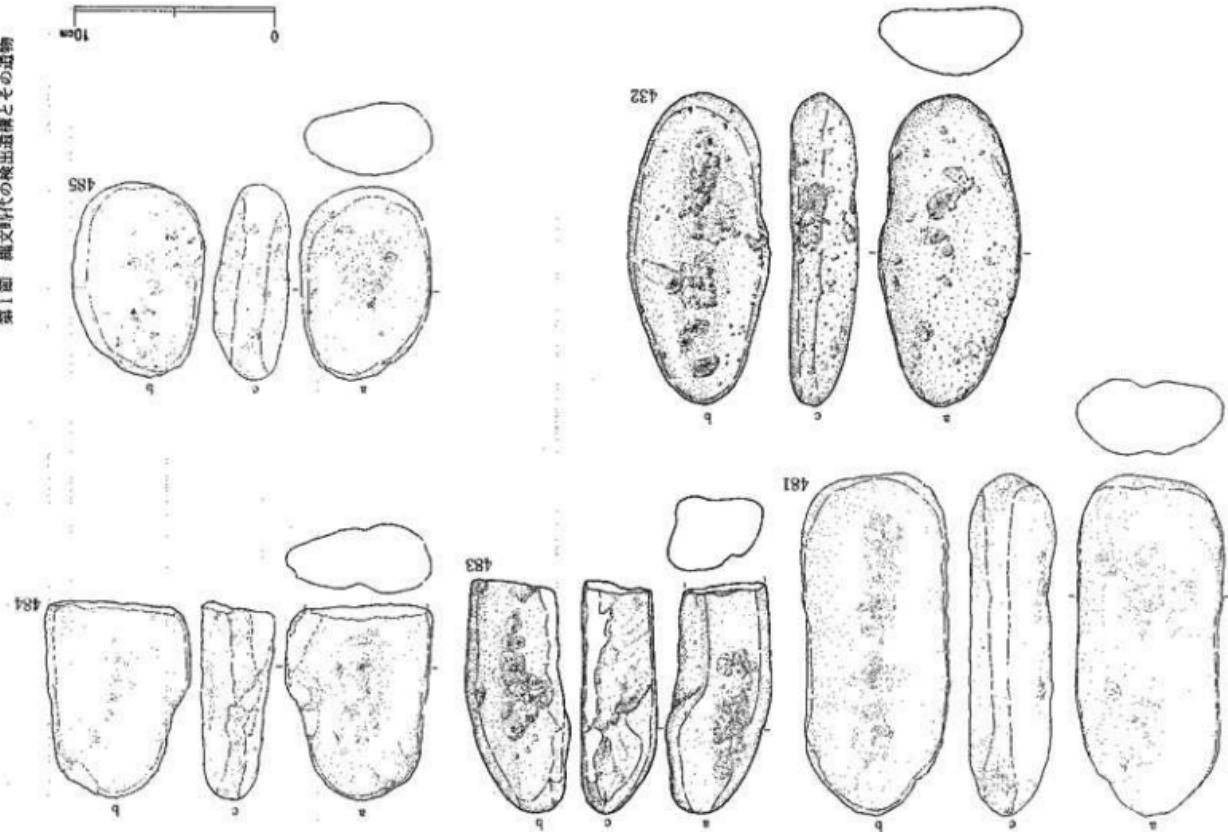


第239図 遺構内出土遺物 (147) SXQ138②

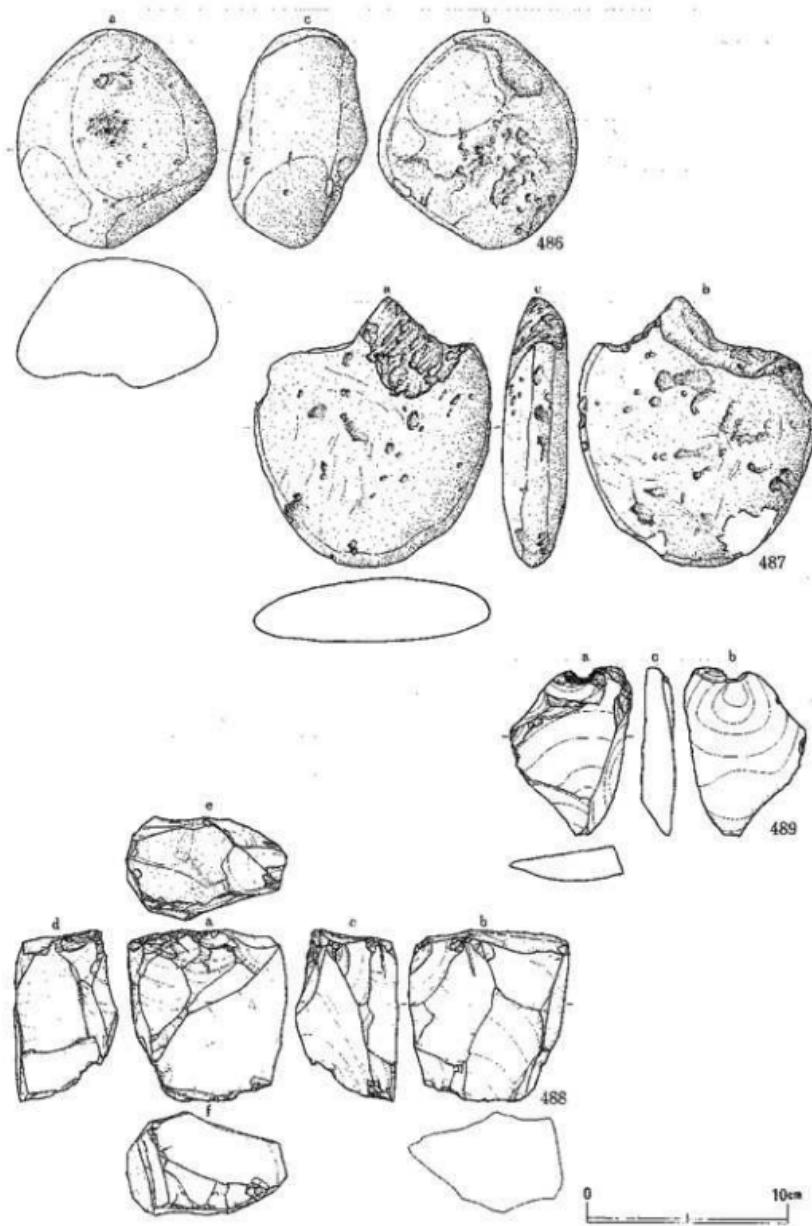
第240圖 遺構內出土遺物 (148) SX-Q138@土器・石器



第1圖 桜文時代の検出遺物とその遺物



第241図 遺構内出土遺物 (149) S X Q13B④



第242図 遺構内出土遺物 (150) S X Q138(5)+143

出土遺物は、接合資料のみである。

接合資料（464） b面が最も広い平坦面となる大型の河原石で、いくつかの分割縫を核にして剥片を得ている。a面の左上では、連続的な剝離が見られる。

S X Q 138 (第 237~242 図、図版 25・60・77)

上段で調査区中央のMC52~54 区、MD53~55 区、ME54・55 区に位置し、表土下 0.2~0.3m のV層を中心に検出。取り上げ総数は 207 点で、14m × 9m の広さがある。こでは 10~40cm の縫が比較的目立ち、僅かに前期の土器片を含む外後期の土器も含んでいる。垂直分布は最大 0.6m で特に南側で厚く、北側ではそれが薄い。このことと、前期の土器が MD54 区より南東側の上位を占めていることから、大きく南東側の前期と北西側の早期に、分布域が分けられそうである。

出土遺物は、深鉢と考えられる縄文土器やミニチュア以外に、接合資料・両面調整石器・石籠・石錐・石匙・搔器・削器・二次加工ある剥片・凹石・礫石器の石器がある。

深鉢（D100） やや外反する口縁部で、口唇部に刻みがある。口唇直下に、RLの結節をもつ横位の回転を施す。結節間は一部に押圧縄文を認めるが、基本的に無文帶である。内面には指頭圧痕がある。器厚は 6 mm。色調は内外が橙色で、胎土には砂粒を僅かに含む。焼成は良好。時期は前期と考えられる。

ミニチュア（D101） 深鉢の脇部破片で、底径 2 cm、現存高 4 cm である。中央に RL の縄文を施し、横位に棒状工具で磨り消しを施す。内外面には煤が付着している。器厚は 4 mm。色調は内外面褐色で、胎土には砂粒が顯著である。焼成は良好。時期は晩期である。

接合資料（465・466） 465 は片側が平坦な河原石の分割縫で、分厚い横長剥片を a 面の下位より連続して剥離している。b 面は分割面で、a 面と平行した横理面である。466 は、縄皮面のある大型剥片が接合したもの。表面が 2 ~ 3 cm にわたり柔らかい頁岩で、中央の堅い部分に到達するために表面を粗割りした可能性がある。

両面調整石器（467） a 面の右側縁が直線的で、同左側縁が弓成りを呈す半月形状である。両側縁には丁寧な調整がある。b 面からの折断で下位を欠損。

石籠（468~470） 468~470 は、横長剥片で主要剝離面を大きく残すが、469 は全面に剝離が及ぶ。468 は甲高で、両側縁の調整は a 面側にある。469~470 では両面から調整を施す。

石錐（471） 先端の断面が四角形状で、側縁のやや粗い調整に対して先端側に細かい調整がある。先端が尖っていないことから未製品と推定した。

石匙（472） 横長剥片で、両側縁に丁寧な調整がある。先端の a 面右側縁に橈状剝離と思われる痕跡がある。つまみ部は横に長く、頂部は水平で a 面の自然面に対して b 面は細かく丁寧な剝離がある。

搔器 (473~476) すべて縦長剝片で、片面に丁寧な調整がある。473・474は縦に長く、475は円形、476は四角形である。刃部は473・474が丸く、475・476では直線的である。

削器 (477・478) どちらも縦長剝片で、477は片側に478は両側縁に調整がある。478のa面と右側縁は角度の鋭い刃部である。

二次加工ある剝片 (479・480) 479は縦長で480は横長の剝片である。

凹石 (481~486) 481~484は細長く、483の棒状のものを除いて扁平である。485も扁平で梢円形である。これらは、連続した長い痕跡を残す。486は円形で分厚い。すべて両面に凹みをもつ。482は上位右側縁を中心に、赤く焼けた帯状の痕跡がある。

礫石器 (487) 見ためより軽い円盤状の礫で、上端のa・b面に鼠歯状の痕跡がある。

S X Q143 (第235・242図)

上段で調査区中央の南側MC51・52区に位置し、表土下約0.5mのV層で検出。総数は60点で、南側の小ピットを含む8m×4mの範囲から僅かに礫を含んで出土した。ピットは長軸0.5m×短軸0.3mの不定形で、深さは0.5mである。覆土は暗褐色土。ここからは、ややまとまった石器が出土している。

出土遺物は石器のみで、石核・二次加工ある剝片がある。

石核 (488) d・e面に平坦な擦皮面があり、これらを主として打面に利用している。

二次加工ある剝片 (489) 縦長剝片で、a面上位にノッチがある。

5 中期

中期の遺構と遺物は、調査区の西端部の狭い範囲から集中して検出した。層位的には、河道I堆積層中より出土している。遺構の種類と数は、集石炉1基、焼土遺構8基、土器集中部1ヶ所である。遺物は、深鉢等の大木8式土器の外、石鐵・石皿等の石器が出土している。

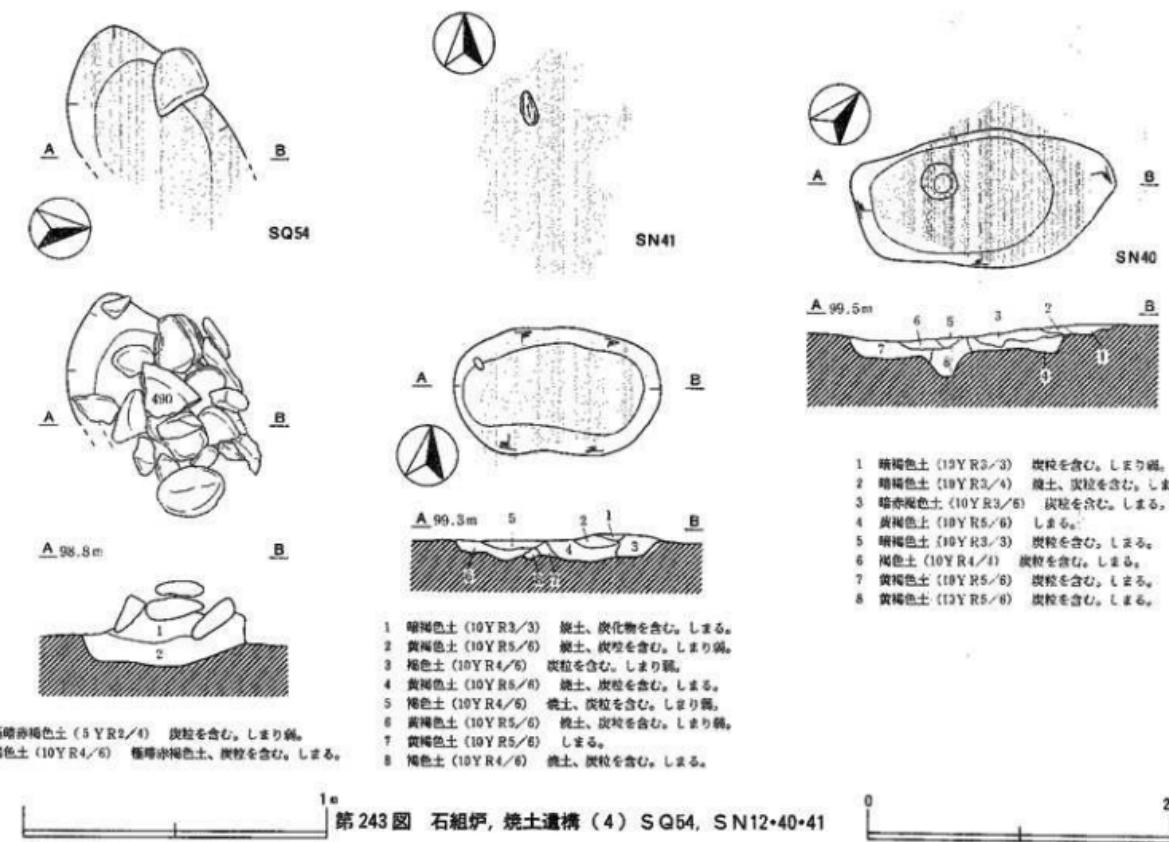
(1) 集石炉

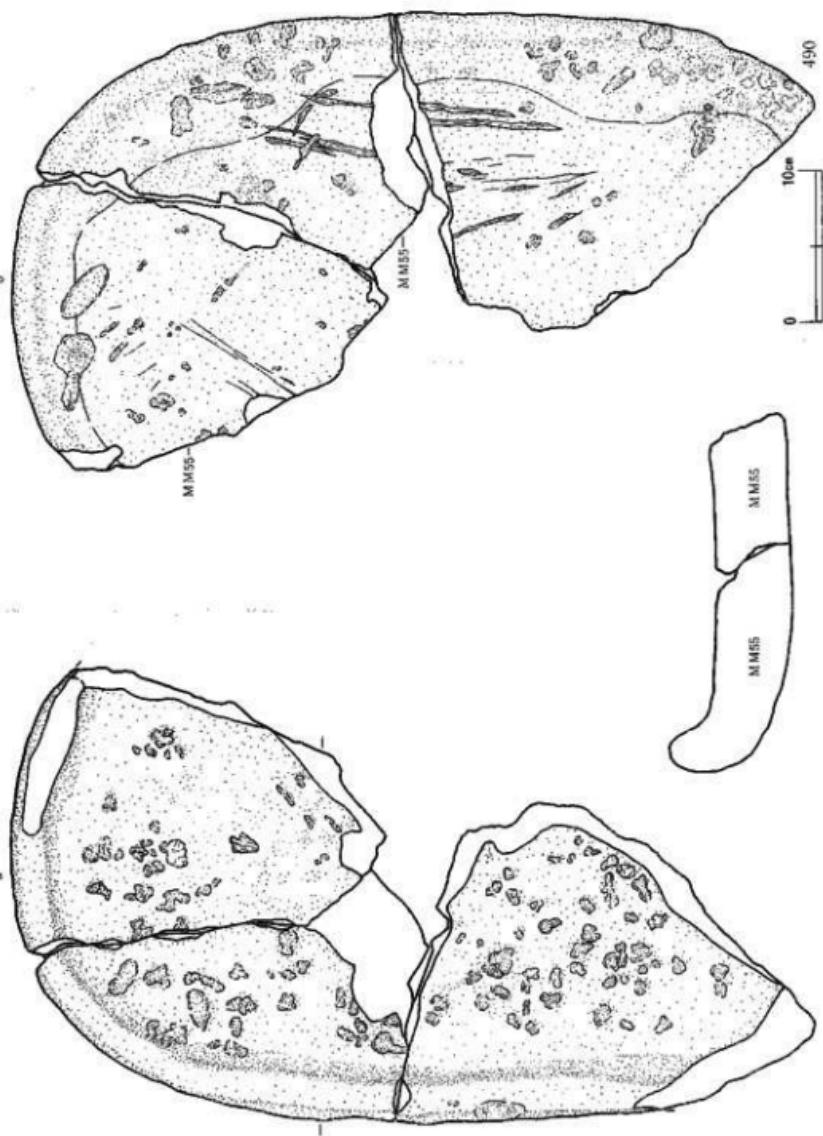
S Q54 (第243・244図、図版10・78)

下段で調査区西端のMO57区に位置し、表土下約2.9mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土として確認した。焼土は長軸0.7m×短軸0.35mの広がりを示し、長軸は北東一南西の方向をもつ。この下に幅約0.5mで摺鉢状の掘り方があり、径約20cmの扁平なものを主体に約20個の焼けた礫が集中する。この北西側には扁平な礫数個が縦に、反対の南東側では東側へ開くように1個の礫がそれぞれ据えられていた。このことから、開口部は北東側と推定される。覆土は炭粒を含み、上位が極暗赤色褐上、下位が褐色上である。

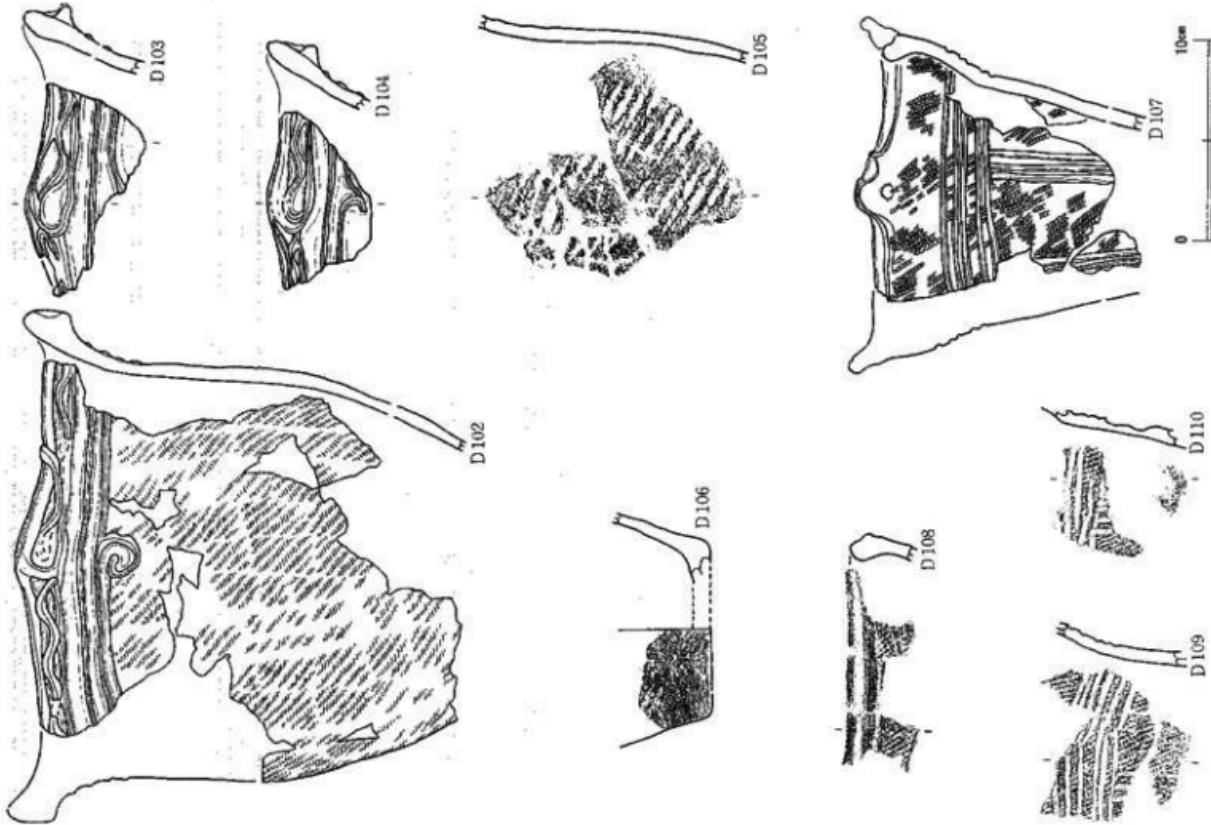
出土遺物は、炉石に利用された石皿の破片がある。

石皿 (490) 條円形の精巧な作りで、礫を掘り込んで削ったものである。周囲は約2cmの





第244図 遺構内出土遺物 (151) S Q54



第245図 遺構内出土遺物 (152) SN12・50 土器

幅で縁取りがあり、その上面から約2cm下がった所に使用面がある。底面からは、緩く丸みをもって立ち上がる。下位の破片は痕跡出土のもので、縁沿いに帶状の赤く焼けた部分がある。

(2) 焼土遺構

SN12 (第243・245図、図版78)

下段で調査区西端のMN56区に位置し、表上下約3.1mの河道Ⅰ堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で、炭化物を含む暗赤褐色土の焼土として確認した。平面形は、約長軸1.5m×短軸0.9mの不整形で、覆土は薄く目立った掘り方ではない。

出土遺物には、深鉢の繩文土器がある。

深鉢 (D102～D106) D102～D106は同一個体である。推定口径は約24cm、推定高約29cmである。口縁部には4つの波頂部があり、胴中央部より底部へ窄まる形態で、口縁部と頸部には貼付文による装飾がある。口縁部には波状文が、頸部には2本の平行線文を施し、この直下の波頂部には渦巻文がある。胴部には、全面にLRの繩文を施し、所々幅が狭い縦の磨消しがある。また、底部から約2cmの幅は磨きによる無文帯で、繩文の磨消しも認める。内面にはナデを施す。外面に煤が付着する。器厚は胴部で4～5mmと薄い。色調は内外面が浅黄橙色から褐色で、胎土には細砂を多量に含む。焼成はやや不良。時期は大木8b式の範疇である。

SN40 (第243図、図版11)

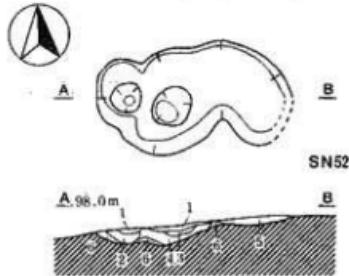
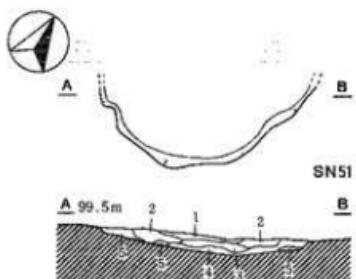
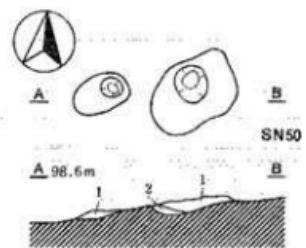
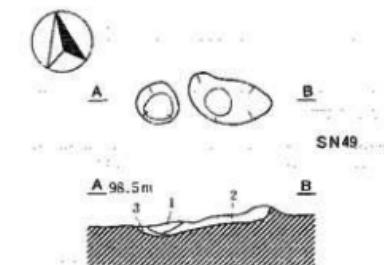
下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約2.1mの河道Ⅰ堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認した。掘り方の平面形は、長軸1.7m×短軸0.9mの不整梢円形で、深さは約0.15mである。床面はほぼ平坦で、中央西側に径約0.2mの窪みをもつ。壁は、長軸側で摺鉢状を呈す。焼土は掘り方とほぼ重なるが、顕著な部分が西側の一角にある。覆土は、炭粒を含んだ赤褐色系の砂質土が主体である。

SN41 (第243図、図版11)

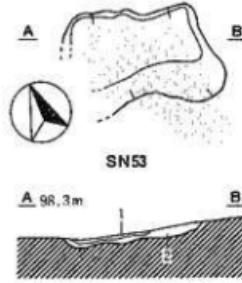
下段で調査区西端のMN56区に位置し、表土下約2.2mの河道Ⅰ堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認した。掘り方の平面形は、長軸1.35m×短軸0.85mの梢円形で、深さは0.2mである。床面にはやや凹凸があり、壁は西側を除いて摺鉢状を呈す。焼土は掘り方とほぼ重なるが、顕著な部分は西側に片寄る。覆土は、約1cmの炭化物を含んだ赤褐色系の砂質土が主体である。

SN49 (第246図、図版11)

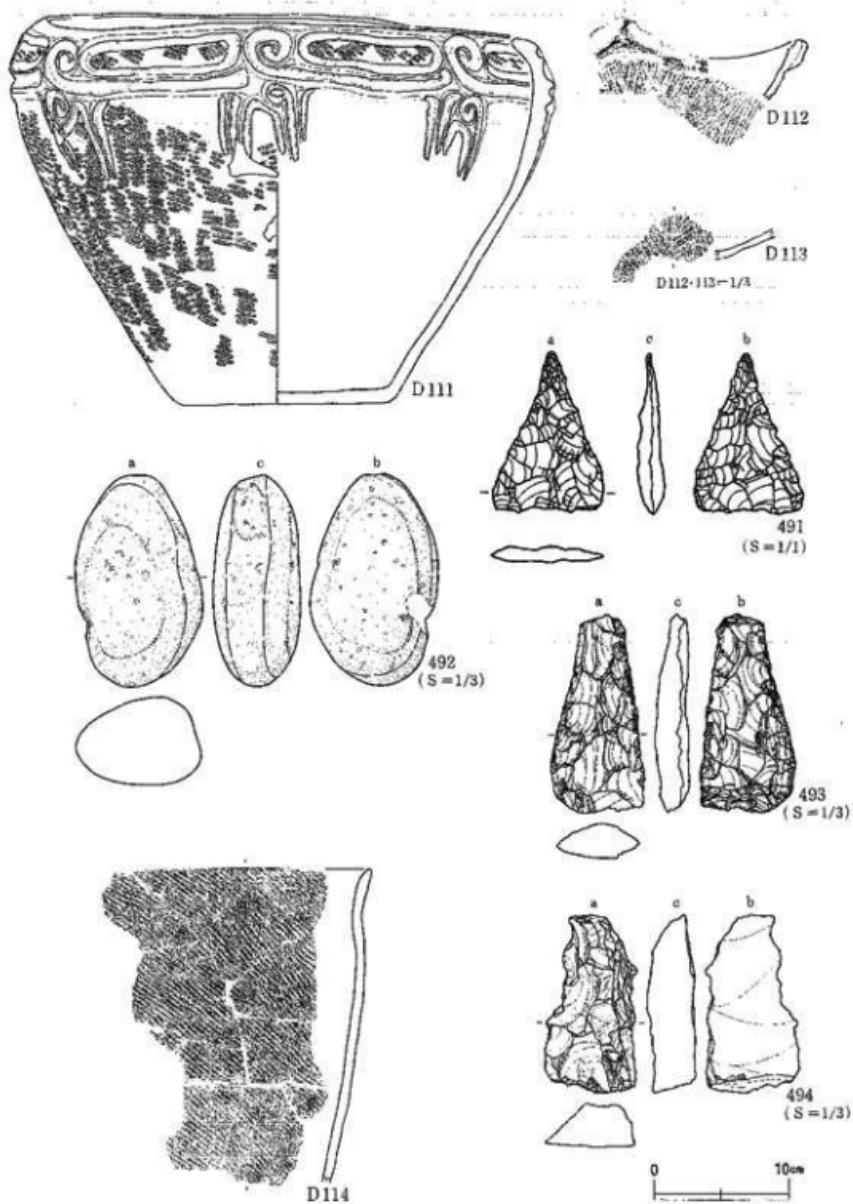
下段で調査区西端のMN57区に位置し、表土下約3.1mの河道Ⅰ堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色の焼土を確認した。掘り方の平面形は、1辺が約1mの隅丸正三角形状で、深さは0.1mである。底面は西側に傾斜し3つの窪みがあるが、本来中央と3つの隅に丸い窪みがあったのかもしれない。壁は摺鉢状を呈す。覆土は焼土が東側半分に片寄り、その西側に



MN55より北へ1m



第246図 烧土造構(5), 土器集中部(3) SN49~53, SXP42



第247図 連構内出土遺物 (153) SX P42土器・石器, SX P04-65, SK 140土器

は炭化材が目立つ。

S N50 (第245・246図、図版11・12・78)

下段で調査区西端のM N57区に位置し、表土下約3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で赤褐色の焼上を確認した。掘り方は大小2つのピットを残すのみで、床面は西側に傾斜し壁面などは不明である。ピットは、長軸0.65m×短軸0.45mと長軸0.4m×短軸0.25mの楕円形である。焼土はピットを覆うようにしてあり、約0.1mの厚さがある。

出土遺物には、深鉢の縄文土器がある。

深鉢 (D107～D110) D107～D110は、同一個体である。推定口径は約16cmで、現存高約14cmである。口縁部には左右非対称形の突起があり、それは3つあった可能性がある。全体は、緩いキャリバー状の形態で、口唇部には沈線状の区画による段が付く。突起の内面には渦巻文が、外面下位には丸い貼付文がある。文様はL Rの縄文に、頸部では5本の平行沈線文、胸部では縦位に円周の1/6位の間隔で3本の平行沈線文が施される。縦位沈線文を含む所々に、磨消繩文がある。器厚は胸部で5～7mmである。色調は外面がにぶい黄褐色から暗褐色で、胎土には砂粒が顯著である。焼成は良好。

S N51 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のM N55・56区を中心に位置し、表土下約2mの河道I堆積層上位で検出。暗褐色土で赤褐色土の焼土を確認したが、半分程を削平してしまった。掘り方の平面形は、長軸約1.7m×短軸0.8m以上の不整形で、深さが0.1mと浅い窪み状を呈す。底面は東側に緩く傾斜し、壁は不明瞭。焼土は掘り方とほぼ重なる。覆土は、炭粒を僅かに含んだ赤褐色系の砂質土である。

S N52 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のM N56区に位置し、表土下約3.3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認したが、一部掘り過ぎている。掘り方の平面形は、長軸1.4m以上×短軸約0.7mの不整形で、深さが約0.1mである。底面は西に緩く傾き、西側に径0.2～0.25mの2つの窪みをもつ。焼土は掘り方とほぼ重なる。覆土には炭化物を顯著に含み、極暗褐色土が主体である。

S N53 (第246図、図版12)

下段で調査区西端のM N56区に位置し、表土下約3.3mの河道I堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で暗赤褐色土の焼土を確認したが、西側の一部を掘り過ぎている。掘り方の平面形は、約長軸1.1m×短軸0.6mの不整形で、深さが0.05mと浅い窪み状を呈す。底面は東側に傾斜し、壁は摺鉢状である。覆土には炭化物を顯著に含み、極暗褐色土が主体である。

(3) 土器集中部

SXP42 (第246・247図、図版14・78)

下段で調査区西端のMN54区に位置し、表上下約2.3mの河道Ⅰ堆積層中位で検出。黄褐色砂質土で土器片の集中する範囲として確認した。ほぼ1個体分の鉢形土器が細かに碎け、かつ、土器の外側が北と南側の端に分かれた状態で出土した。一部重なりながら土器の裏面が中央側に集合していること、口縁部が西側に底部が東側にまとまることから、横倒しの完形品が土圧で押し潰されたものと考えられる。その広がりは1.4m×0.8mで、これに石鐵が伴う東側の近くから剝片石器1点が出土している。

出土遺物は、鉢や浅鉢の縄文土器以外に石鐵がある。

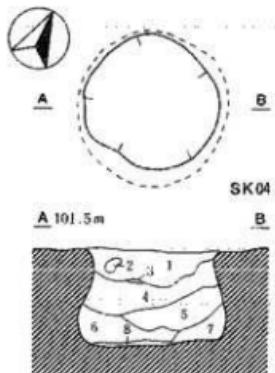
鉢 (D111) 口径35cm、底径16cm、器高29.5cmである。口縁の平面形が、明瞭な楕円形になるほど大きく歪む。口縁部が内湾し、胴部と口縁部の境に最大径をもつもので、そこから平底の底部まで直線的に窄まる。文様はLR縄文の地文に、沈線と隆帯による渦巻文(蝶手状)や区画文を施す。口縁部と胴部上位の文様は、最大径で上下に2分される。上段は横位に展開する渦巻文と、その間に縄文が充填された横長の楕円形文で構成され、それぞれ7つの単位がある。その一面には、異なる渦の組み合った横C字形の渦巻文(左が中央から外側へ左回りの渦、右が中央から外側へ右回りの渦)がある。これに基本を置くと、その左渦巻き側へは左回りの渦巻きが連続して展開する。下段には上段の渦巻文に対応して、縦位に垂下する沈線と隆帯の区画内に渦巻文がある。この渦巻きは、ほとんどが右回りである。ただし、上段で基本に置いたC字形の渦の中央と対峙する所の下段の渦巻きだけは、左回りである。これらの関係は、C字形渦巻文側が正面、その反対側が裏面であることを意味する可能性がある。内面には、胴部で横位の平滑なナデを施す。器厚は胴部で1cm内外である。色調は主に、外面と内面上位が浅黄橙、内面下位が暗褐色である。胎土には、砂粒を多量に含む。時期は、大木8b式期である。

浅鉢 (D112・D113) これらは、推定約4cmの底径から大きく開いた形態で、D113は口縁部である。口唇部は破損するが、隆帯は概ね口唇に沿ったものと考えられる。これ以下には、細かい縦位や斜めの沈線文が密に施される。隆帯部分に赤彩を認める。内面はナデを施し、器厚は全体で5mmである。色調は外面の一部が浅黄橙で、他は煤の影響もあり褐灰から黒色を呈する。器厚は5~7mmである。胎土には細砂が顯著で、焼成は不良。時期は、D111との共伴より大木8b式期と考えられる。

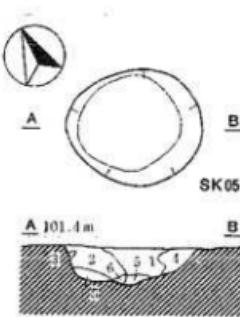
石鐵 (491) 三角形の小さなもので、基部は平坦である。

6 縄文時代で時期不明

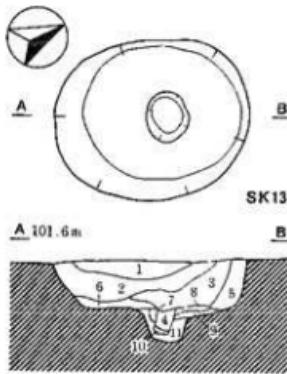
縄文時代で時期不明の遺構と遺物は、調査区の東西の端を除く全域に広がっている。肩位的



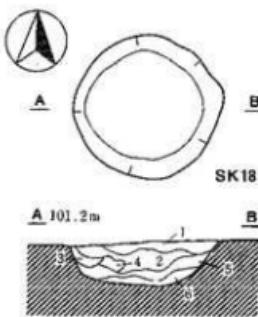
- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 暗褐色土を含む。しまる。
- 2 褐色土 (10Y R4/6) しまる。
- 3 黒褐色土 (10Y R2/1) しまり弱。
- 4 黒褐色土 (10Y R2/3) 暗褐色土、細粒を含む。しまる。
- 5 黒褐色土 (10Y R2/3) 細粒を含む。しまる。
- 6 黒褐色土 (10Y R3/2) 粒を含む。しまる。
- 7 暗褐色土 (10Y R3/3) 粒を含む。しまる。
- 8 海色土 (10Y R4/6) 岩化物、炭化葉、砂粒を含む。しまる。



- 1 暗褐色土 (10Y R2/3) 地山粒を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 地山粒を含む。しまり弱。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R5/6) 黒褐色土を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/6) 黒褐色土を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) しまり弱。



- 1 黒褐色土 (10Y R3/2) 炭粒、礫を含む。しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R2/3) 黄褐色土を含む。しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R2/3) 粒を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R3/4) 地山粒を含む。しまる。
- 5 褐色土 (10Y R4/4) 黄褐色土、小粒、砂粒を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 7 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。
- 8 暗褐色土 (10Y R3/4) 粒を含む。しまり弱。
- 9 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 10 黄褐色土 (10Y R5/6) 砂粒を含む。しまり弱。
- 11 暗褐色土 (10Y R5/3) しまり弱。



- 1 暗褐色土 (10Y R3/3) 黄褐色土を含む。しまる。
- 2 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 3 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 4 暗褐色土 (10Y R2/2) 黄褐色土を含む。しまる。
- 5 暗褐色土 (10Y R3/4) 黄褐色土を含む。しまる。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/6) 暗褐色土を含む。しまる。



第248図 土坑 (6) SK04-05-13-18

には掘り込み面が不明であるが、覆土や遺物等から縄文時代と考えられるものを一括した。遺構の種類と数は、土坑23基、柱穴状遺構7基である。遺物は、深鉢の縄文土器の外、石箇、搔器等の石器が出土している。

(1) 土坑

S K04 (第248図、図版4)

下段で調査区中央西側のMH54区に位置し、表土下約0.1mの黄褐色土で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.9mの円形で、深さ0.6mの袋状を呈する土坑である。底面は西側へ僅かに傾斜している。壁面は北西側で直立している外は、底面から連続的に湾曲している。覆土は黒褐色土が主体で、上位ほど黒さを増す。

出土遺物は、擦石の石器のみである。

擦石(492) 両面とC側縁の上位に擦り面がある。

S K05 (第248図、図版5)

下段で調査区中央西側のM155区に位置し、表土下約0.2mの河道G堆積層上位の黄褐色土(第15図の③層)上面で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸0.9m×短軸0.75mの不整橢円形で、深さは0.25mである。底面は中央に緩く傾斜し、壁面は短軸側でやや狭い摺鉢状を呈す。覆土は底面付近を除いて黒褐色土である。

S K13 (第248図、図版5)

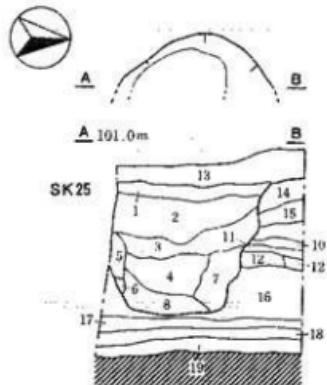
下段で調査区中央西側のMH55区に位置し、表土下の黒色土を僅かに除去した河道F堆積層上位で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸1.25m×短軸0.9mの楕円形で、深さは0.3mの袋状を呈す。底面の中央やや北側には、長さ0.3m×幅0.25m×深さ0.2mのピットをもつ。底面にはやや凹凸がある。壁面は底面から連続して内湾するが、南西側ではほぼ直立する。覆土は、ほぼ均一な黒褐色土が主体を占める。

S K18 (第248図、図版5)

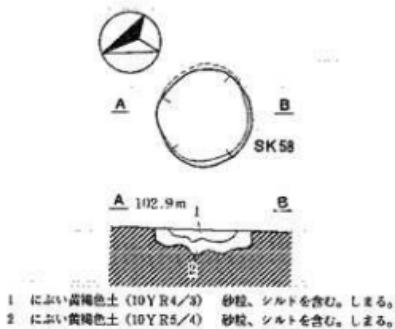
下段で調査区中央の西側M156区に位置し、表土下約0.4mの河道G堆積層上位の黄褐色土(第15図の③層)上面で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は直径0.95mの略円形で、深さは0.3mである。底面は中央に緩く傾斜し、壁面は全体に摺鉢状を呈す。覆土は底面付近を除いて黒褐色土である。

S K25 (第249図、図版5)

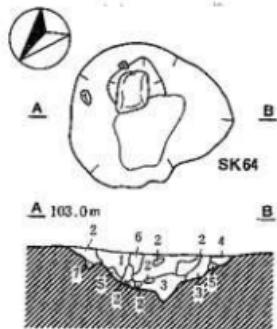
下段で調査区中央西側のM1・MJ57区に位置し、表土下約0.1mの河道G堆積層上位の黒色土(第15図の①層)で検出。MJライン西壁の断面調査で確認できたもので、東側の大半が消滅する。平面形は径1m以上で、深さ0.85mの円形もしくは楕円形である。底面は壁際で湾曲し、壁は外傾する。覆土は上位で暗褐色土が、下位では黄褐色土が主体で大きく2分する



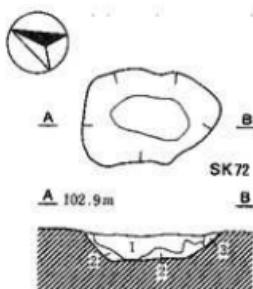
- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 岩粒を含む。しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R3/4) 岩粒を含む。しまる。
- 3 に bei 黄褐色土 (10Y R5/4) シルトを含む。しまる。
- 4 明黄褐色土 (10Y R6/8) しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまり弱。
- 6 黄褐色土 (10Y R5/8) シルトを含む。しまり強。
- 7 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 8 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 9 増褐色土 (10Y R5/6) 小礫を含む。しまる。



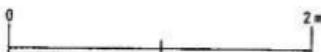
- 1 に bei 黄褐色土 (10Y R4/3) 砂粒、シルトを含む。しまる。
- 2 に bei 黄褐色土 (10Y R5/4) 砂粒、シルトを含む。しまる。



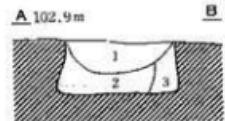
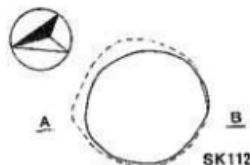
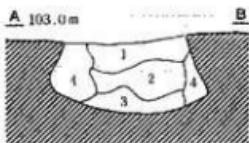
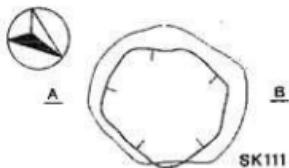
- 1 黒色土 (10Y R2/1) 細粒、シルトを含む。しまり強。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/3) 細粒、シルトを含む。しまり弱。
- 3 増褐色土 (10Y R3/4) 細粒を含む。しまる。
- 4 増褐色土 (10Y R4/1) 細粒を含む。しまる。
- 5 黄褐色土 (10Y R5/8) 細粒を含む。しまる。
- 6 黑褐色土 (10Y R2/3) 細粒を含む。しまる。
- 7 黑褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。



- 1 黒褐色土 (10Y R2/3) 細粒、シルトを含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/3) 細粒、シルトを含む。しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R2/3) シルトを含む。しまる。

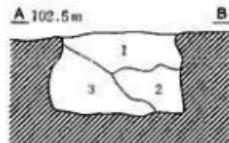
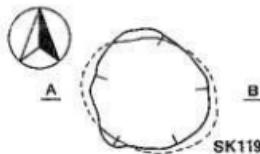
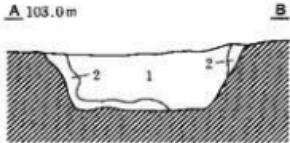
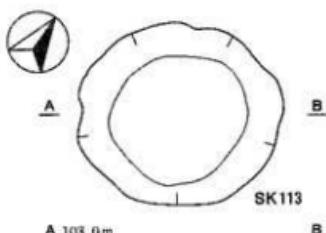


第249図 土坑(7) SK25-58-64-72



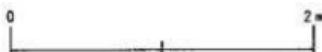
- 1 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土、樹枝、砂粒を含む。しまる。
- 2 黒色土 (10Y R2/1) 地山土を含む。しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R3/2) 地山土を含む。しまる。
- 4 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。

- 1 黒色土 (10Y R2/1) 地山上、樹枝を含む。しまり難。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。



- 1 黒色土 (10Y R2/1) 砂粒、礫を含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土を含む。しまる。

- 1 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R5/6) しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/8) しまる。



第250図 土坑 (8) SK111~113+119

ことができる。

S K58 (第249図、図版5)

上段で東側調査区北東のL R54区に位置し、V層で検出。北側でS K P59と近接している。掘り込み面は不明で、にぶい黄褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.7m×短軸0.6mの略円形で、深さは0.2mである。底面には凹凸があり、壁面は西側が外傾し東側は内傾する。覆土はにぶい黄褐色土で占められる。

S K64 (第249図、図版6)

上段で東側調査区中央やや北のL T55南東杭付近に位置し、VI層で検出。北東側でS K P65と近接する。風倒木の西側で黒色土と地山を切り込んでいる。掘り込み面は不明で、黒色土の円形プランとして確認。平面形は径0.95mの略円形で、深さは0.3mである。底面は長軸0.6m×短軸0.25mの略楕円形で、それに接した東側には棚状の落ち込みをもつ。壁面は全体に摺鉢状を呈す。覆土は大きく、上位の黒色土と下位の暗褐色土に2分できる。

S K72 (第249図、図版5)

上段で東側調査区中央のL T53区に位置し、VI層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸0.9m×短軸0.6mの略楕円形で、深さは0.2mである。底面は溝状の楕円形で狭く、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は、底面まで黒褐色土で占められる。

S K74 (第216図)

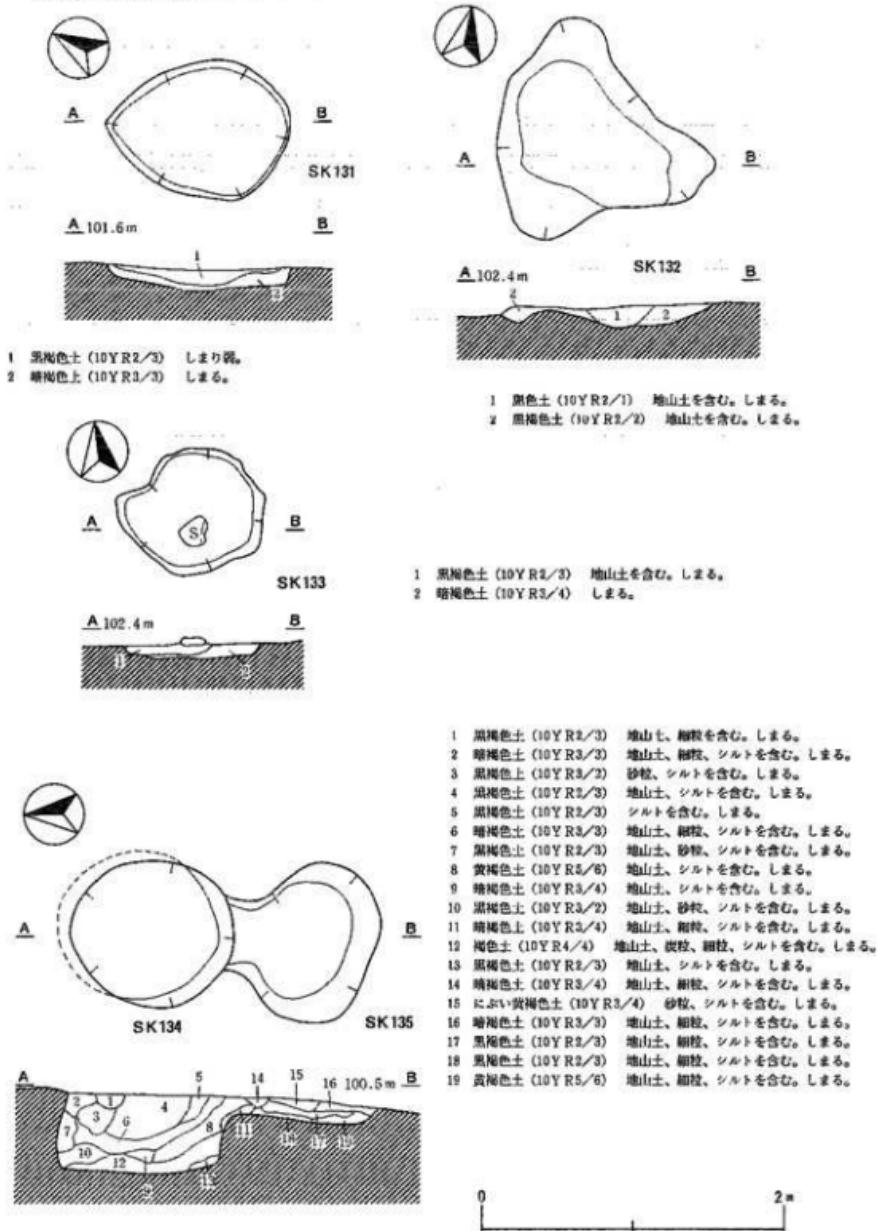
上段で調査区北西のM I 61・62区に位置し、V層で検出。S K69と切り合うが、先後関係は不明。掘り込み面は不明で、暗褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は推定長軸1.6m×1.3mの楕円形で、深さは0.2mと浅い。底面は中央に緩い傾斜を示すよう、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色土主体の層で、壁際は褐色土である。

S K111 (第250図、図版6)

上段で調査区東側のL P53区に位置し、VI層で検出。北側でS K P76と近接する。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は上端が長軸0.8m×0.75mの略円形、下端が長軸1.05m×短軸0.9mの楕円形で、深さは0.5mである。底面は下端から中央に緩く傾斜し、壁面は強く内傾する。覆土は中央ほど黒く黒色土を呈し、他は黒褐色土で占める。

S K112 (第250図、図版6)

上段で東側調査区中央やや北のL T55区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸0.85m×短軸0.75mの略楕円形で、深さは0.35mである。底面は比較的平坦で、壁面は特に北東側が内傾した台形状を呈す。覆土は上位



第251図 土坑 (9) SK131~135

で黒色土、下位は底面まで黒褐色土である。

S K113 (第250図、図版6)

上段で東側調査区北側のMA56区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸1.4m×短軸1.2mの楕円形で、深さは0.4mである。底面は平坦で、壁面は大きく外傾して立ち上がる。覆土は黒色土が主体で、底面には黒褐色土が薄く堆積している。

S K119 (第250図、図版6)

上段で調査区北西端のMH63区に位置し、表土下約0.5mのV層で検出。掘り込み面は、IV層の可能性があり、黄褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.8mの不整円形で、深さは0.55mである。底面にはやや凹凸があり、壁は一部を除くと袋状を呈す。覆土は、黄褐色土が主体である。

S K131 (第251図、図版6)

上段で調査区中央やや南東のMB51区に位置し、V層で検出。SK132と切り合い、それよりも新しい。掘り込み面は不明で、黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸1.2m×短軸0.95mの略楕円形で、深さは0.15mである。底面は中央が緩く窪み、木の根と考えられる多くの凹凸がある。壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。

S K132 (第251図、図版7)

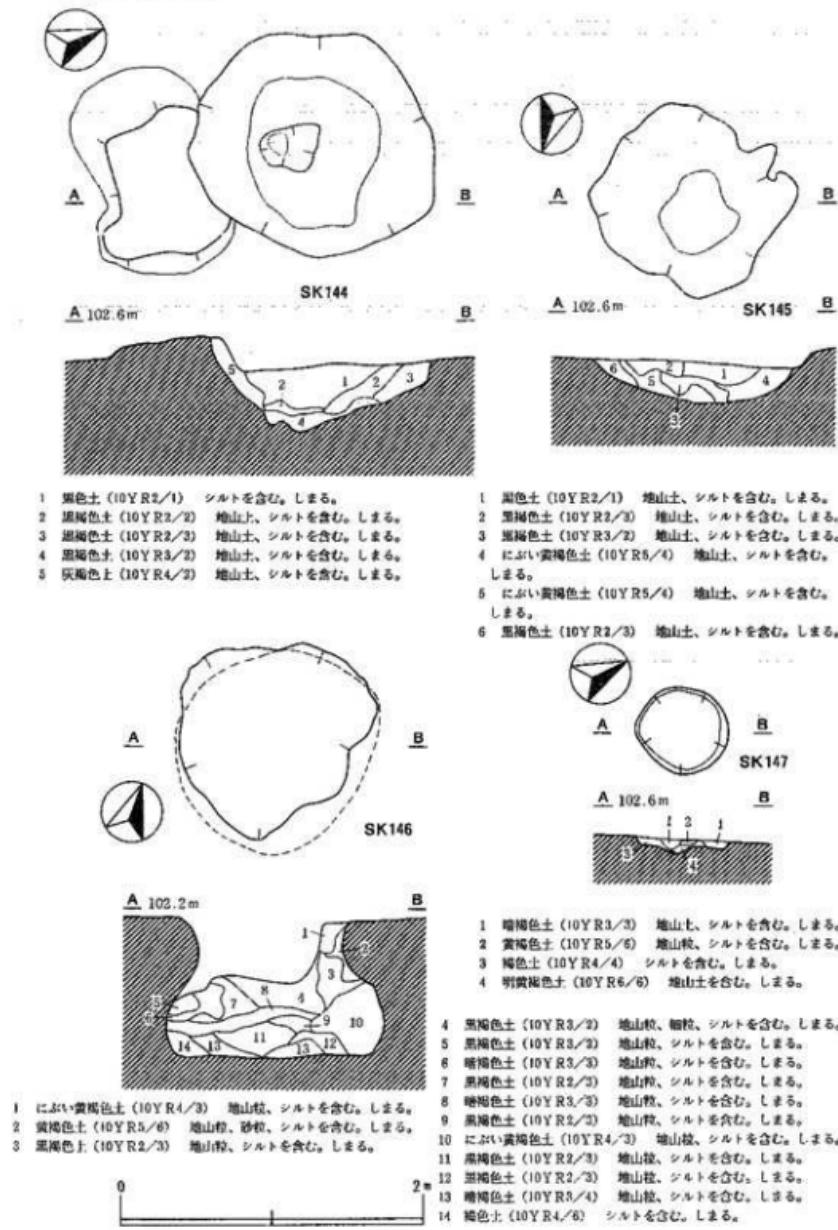
上段で調査区中央やや南東のMB51区に位置し、V層で検出。SK131と切り合い、それよりも古い。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認。平面形は長軸約1.4m×推定短軸0.95mの楕円形の可能性があり、深さは0.15mである。底面は凹凸が激しく、壁面は摺鉢状に立ち上がる。覆土は、黒褐色土が主体を占めている。

S K133 (第251図、図版7)

上段で調査区南東側のLR47・48区に位置し、河道C堆積層上部で検出。西側が突出しているが、掘り過ぎと考えられる。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は長軸0.9m×短軸0.8mの略楕円形と考えられ、深さは0.1mと浅い。底面にはやや凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位が暗褐色土である。この上面で掘り方の中央やや南側には、約20cmの扁平な礫が水平な状態で出土した。

S K134 (第251図版、図版7)

調査区南側斜面のMF46・47区に位置し、表土下約1.1mの河道D堆積層で検出。南側のSK135と切り合い、それよりも新しい。黄褐色砂質土で暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸1.2m×短軸1mの楕円形で、深さは0.5mである。底面はほぼ平坦で、北から南側にかけて僅かな傾斜をもつ。壁面は、北側で内傾し南側では外傾して立ち上がる。覆土は暗



第252図 土坑(10) SK144~147

褐色土を主体とするが、南側の下方で褐色土が目立つ。

遺物は中央より、長さ25cm×幅10cmの縁が底面に密着して出土した。

S K135（第251図、図版7）

調査区南側斜面のMF46区に位置し、表土下約1.2mの河道D堆積層で検出。北側のSK134と切り合い、それよりも古い。黄褐色砂質土で暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は反軸1.1m×短軸0.8mの楕円形で、深さは0.1mと浅い。底面はほぼ平坦で、北から南側にかけて明瞭な傾斜をもつ。壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色土を主体とする。

S K140（第209・247図、図版78）

上段で調査区南側のMA49区に位置し、表土下約0.3mのV層で検出。S I 142 焼跡を切り込んだ、黒褐色土の楕円形プランとして確認。平面形は長軸1.15m×0.8mの不整楕円形で、深さは0.2mである。底面の中央より壁へ、緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とする。出土遺物は、深鉢の繩文土器である。

深鉢（D114） 口縁部がやや外反し、やや張りのある脛部上位より底部へ緩く窄まる。全面にR Lの繩文を施すが、底部付近で磨り消す。内面は丁寧なナデを施す。器厚は6～8mmで、色調は内外面が浅黄橙である。胎土には1～2mmの砂粒が顯著で、焼成はやや不良。

S K144（第252図、図版7）

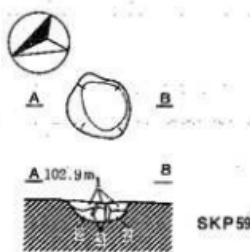
上段で調査区中央のMD54区に位置し、V層で検出。南側で風倒木と切り合う。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認。平面形は径が1.45mの略円形で、深さは0.6mである。底面は中央に緩く落ち込み、壁面は直立ないしは内傾ぎみである。覆土は暗褐色土が主体である。

S K145（第252図、図版7）

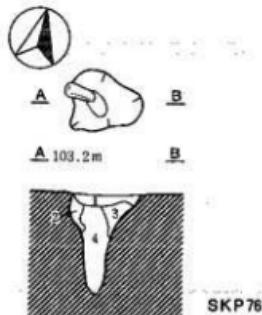
上段で調査区中央のMD54区に位置し、表土下約0.6mのIV層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は一辺1.2mの隅丸方形で、深さは0.4mである。底面には凹凸があり、壁面は底面より湾曲して立ち上がる。覆土は上位で暗褐色土が、下位では地山土が主体である。

S K146（第252図、図版7）

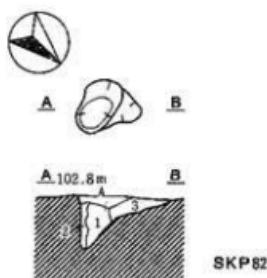
上段で調査区中央南側のMC・MD45区に位置し、V層で検出。西側の大半を削平してしまった。掘り込み面は不明で、黒褐色土およびそれと黄褐色の混在した円形プランとして確認。掘り方は上位が括れて、その下が膨らむ袋状の形態である。平面形は上端が1辺約1.3mの正三角形状で、下端が長軸1.4m×短軸1.3mの略円形を呈す。深さは0.9mである。底面はほぼ平坦で、壁面への移行は摺鉢状で丸みをもつ。覆土は、西側の壁際で黄褐色土がやや顯著な外は、黒褐色土が主体を占める。



- 1 黒褐色土 (10Y R4/4) 炭化物、細粒を含む。しまる。
- 2 黄褐色土 (10Y R5/8) 細粒を含む。しまる。
- 3 單褐色土 (10Y R3/3) しまり弱。



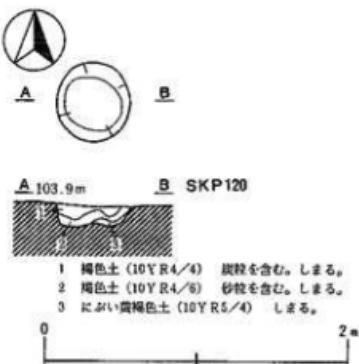
- 1 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、炭化物を含む。しまる。
- 2 單褐色土 (10Y R3/4) 地山土、細粒を含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 單褐色シキト、細粒を含む。しまる。
- 4 單褐色土 (10Y R3/3) 炭化物を含む。しまり弱。



- 1 單褐色土 (10Y R3/4) 細粒を含む。しまる。
- 2 棕色土 (10Y R4/4) 細粒を含む。しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R3/2) 細粒を含む。しまる。
- 4 黑褐色土 (10Y R1/3) 細粒を含む。しまる。



- 1 黑褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R3/2) 地山土、シルトを含む。しまる。
- 3 黄褐色土 (10Y R5/6) 細粒を含む。しまる。



- 1 棕色土 (10Y R4/4) 硫酸を含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R4/8) 硫酸を含む。しまる。
- 3 に bei 黄褐色土 (10Y R5/4) しまる。

第253図 ピットSKP59・61・76・81・82・120

SK147 (第252図、図版7)

上段で調査区中央のMC53区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.3mの円形で、深さは0.1mと浅い。底面には凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は暗褐色である。

(2) 柱穴状遺構

SKP59 (第253図、図版5)

上段で東側調査区北東のLR54区に位置し、V層で検出。南側でSK58と近接する。掘り込み面は不明で、褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.45m×短軸0.4mの略円形で、深さは約0.2mである。底面には凹凸があり、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が褐色土、下位は黄褐色土である。

SKP61 (第253図)

上段で調査区中央北側のME60区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認した。平面形は長軸0.45m×短軸0.4mの略円形で、深さは約0.25mである。底面は緩く窪み、壁面は外傾して立ち上がる。覆土は中央が褐色土で、上下が黒褐色土である。

SKP65 (第247図、図版6)

上段で東側調査区中央やや北のLS55区に位置し、VI層で検出。南西側でSK64と近接する。風倒木の中央やや北側で、地山を掘り込んでいる。掘り込み面は不明で、黒褐色の円形プランとして確認。平面形は径0.3mの円形で、深さは0.15mである。底面は緩く窪み、壁面は摺鉢状を呈す。覆土は上位が黒褐色土、下位は暗褐色土である。

出土遺物は石器のみで、石鎧・搔器がある。

石鎧(493) 摶形に近い形態で、両側縁と刃部に調整がある。a面の刃部には、直線部分と左側縁の丸い部分がある。

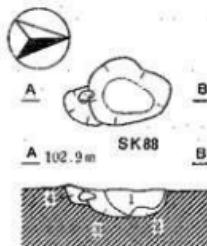
搔器(494) 線長剣片で両側縁に粗い調整があり、刃部は小さく丁寧な剝離を施す。

SKP76 (第253図)

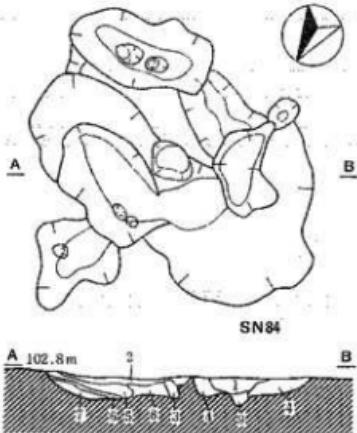
上段で調査区東側のLP53区に位置し、VI層で検出。南側でSK111と近接する。掘り込み面は不明で、黒褐色土の円形プランとして確認。平面形は長軸0.5m×短軸0.4mの不整形で、深さは0.65mと深い。形状と覆土から、下半が柱痕跡と判断される。覆土は上部が黒褐色土、下半が暗褐色土である。

SKP81 (第253図)

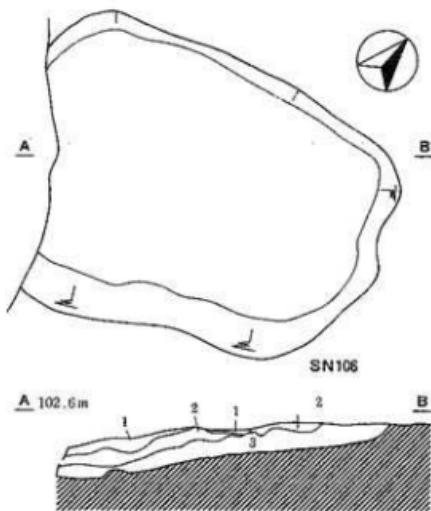
上段で調査区東側のLS51区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は長軸0.4m×短軸0.2mの不整形を呈し、側面形は全体



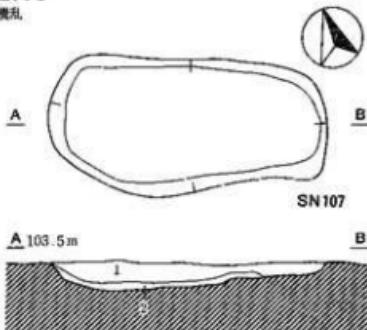
- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) しまる。
- 2 黒褐色土 (10Y R3/1) しまる。
- 3 黑褐色土 (10Y R3/2) 粗粒を含む。しまり弱。
- 4 棕褐色土 (10Y R3/3) 粗粒を含む。しまる。



- 1 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山上、炭化物、シルトを含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土、炭化物、シルトを含む。しまり弱。
- 3 黑褐色土 (10Y R2/3) 地山土、焼土、炭化物、シルトを含む。しまり弱。
- 4 灰色土 (10Y R4/4) 地山土、炭粒、シルトを含む。しまり弱。
- 5 灰色土 (10Y R4/6) 炭粒、シルトを含む。しまる。
- 6 灰色土 (10Y R4/6) 炭粒、シルトを含む。しまる。
- 7 黑褐色土 (10Y R3/3) 地山、シルトを含む。しまる。
- 8 繊りすぎ
- 9 濁丸



- 1 黒色土 (7.5 Y R2/1) 炭化物を含む。しまり弱。
- 2 炭化物層 しまり弱。
- 3 黑褐色土 (7.5 Y R2/1) 炭化物を含む。しまり弱。



- 1 黑褐色土 (10Y R2/2) 地山土、炭化物、礫を含む。しまる。
- 2 黑褐色土 (10Y R2/2) 炭化物、礫を含む。しまる。



第254図 土坑 (11), 焼土遺構 (8), 炭焼成遺構 SK88, SN84, SS106・107

に漏斗状の形態である。深さは0.3mで、先細り部分は柱の抜き取り痕跡と考えられる。覆土は黒褐色土が主体である。

S K P 82 (第253図)

上段で調査区東側のL P 50区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は底辺0.45m×高さ0.3mの隅丸二等辺三角形状で、側面形は漏斗状の形態である。その深さは0.35mで、先細りである。覆土は上位で黒褐色土、下位で暗褐色土が主体である。

S K P 120 (第253図)

上段で調査区中央北側のL T・MA57区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、褐色土の円形プランとして確認した。平面形は径約0.5mの円形で、深さは0.1mと浅い。底面には凹凸があり、壁面は直立ぎみに立ち上がる。覆土は褐色土が主体である。

第2節 繩文時代以外の検出遺構

繩文時代以外で時代の不明な遺構は、調査区の北西側と南東側に偏在している。層位的に掘り込み面が不明で、主に覆土の状態から繩文時代以外と考えられるものを一括した。遺構の種類は、土坑1基、焼土遺構1基、炭焼成遺構2基、溝状遺構4条である。遺構に伴う遺物は、出土していない。

(1) 土坑

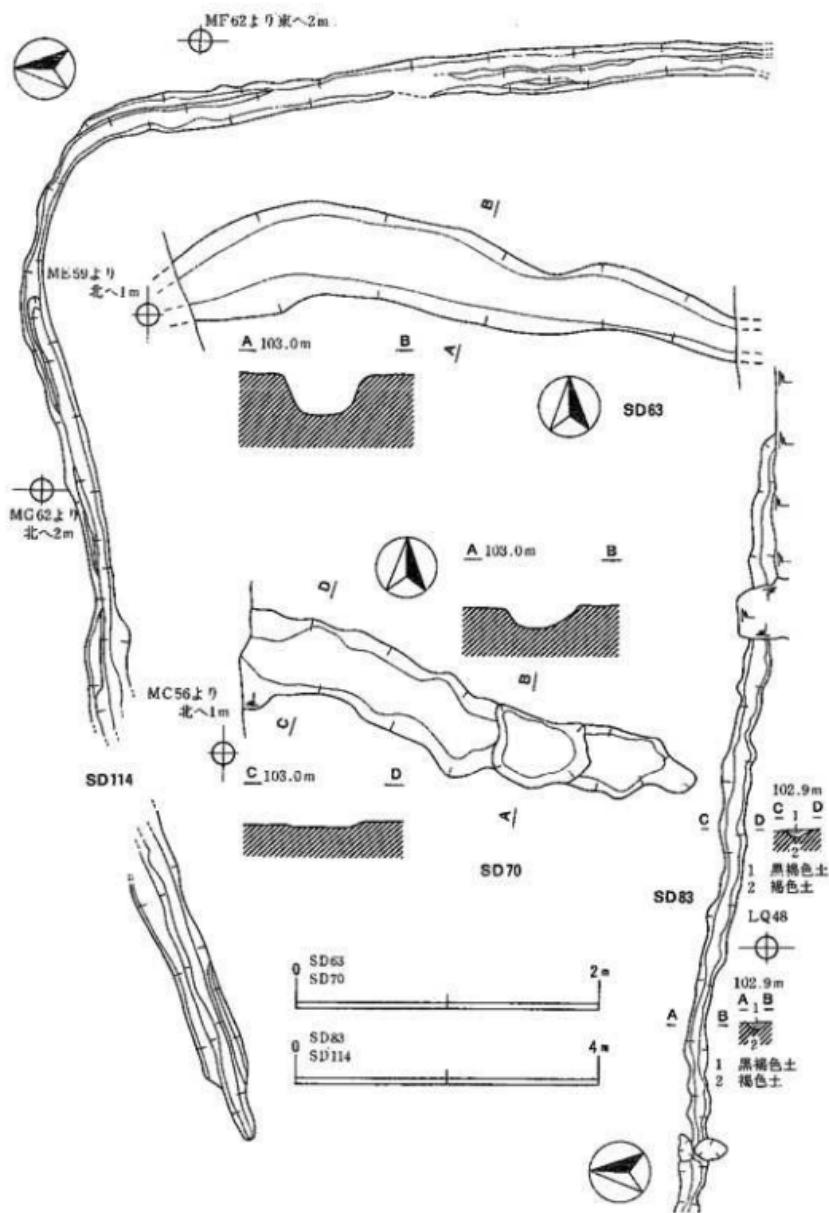
S K 88 (第254図、図版7)

上段で調査区南東側のL Q 48区に位置し、V層で検出。掘り込み面は不明で、暗褐色土の不整形プランとして確認した。平面形は、長軸0.75m×短軸0.45mで南側が棚状に突出した達磨状を呈し、深さは0.2mである。突出部は覆土と東側上端の連続から、2つの遺構の切り合いとは考え難い。底面の北西側では、上端を越えて柱穴状に入り込んでいる。壁面は全体に指鉢状である。覆土は暗褐色土が主体である。

(2) 焼土遺構

S N 84 (第254図、図版12)

上段で調査区南東側のL P 48区に位置し、V層で検出。南側の一部がS D 83に切られている。掘り込み面は不明で、黒褐色土を主体に地山土が混在した状態で確認された。焼土は北東側に顯著で、他は疎である。幾つかの土坑が切り合い混在している。全体の平面形は、主体が長軸2.3m×短軸1.5mの不整形で、深さ0.15mである。底面は凹凸が著しく、壁面は全体として指鉢状を呈す。覆土は黒色土が主体で、全体に炭粒が認められ地山土をブロック状に含む。



第255図 溝状造構 SD63-70-83-114

(3) 炭焼成遺構

SS 106 (第254図、図版12)

上段で調査区北西端のM I 62区に位置し、Ⅲ層およびIV層で検出。掘り込み面は不明で、炭化物を含む黒色土の不整形プランとして確認した。南西側を一部削平してしまった。平面形は長軸2.5m×短軸2mの不整形で、深さは0.25mである。底面は長軸の南西側に向かって8°の傾斜がある。床面・壁面共に不明瞭である。覆土には炭化物層が認められる。北東側に窓戸をもつ、細長い炭焼成遺構の可能性がある。

SS 107 (第254図、図版12)

上段で調査区東端のL L 50区に位置し、IV層で検出。掘り込み面は不明で、黒褐色の楕円形プランとして確認した。平面形は長軸1.9m×0.9mの楕円形で、深さは0.2mである。底面は西側で深く、中央より東側にかけて徐々に高くなる。壁面は底面より湾曲して立ち上がる。覆土は黒褐色土で、底面に炭化物を顕著に含む。炭焼成遺構の可能性がある。

(4) 溝状遺構

SD 63 (第255図)

上段で調査区中央やや北側のMD 59区に位置し、IV層で検出。東西を削平してしまった。掘り込み面は不明で、暗褐色上の溝状プランとして確認。規模は現存長3.7m×最大幅0.7mで、深さ0.25mである。東側では幅が0.3mと狭くなり、西側で大きく屈曲する。底面の断面はU字形で、東側が僅かに高い。覆土は暗褐色土である。

SD 70 (第255図)

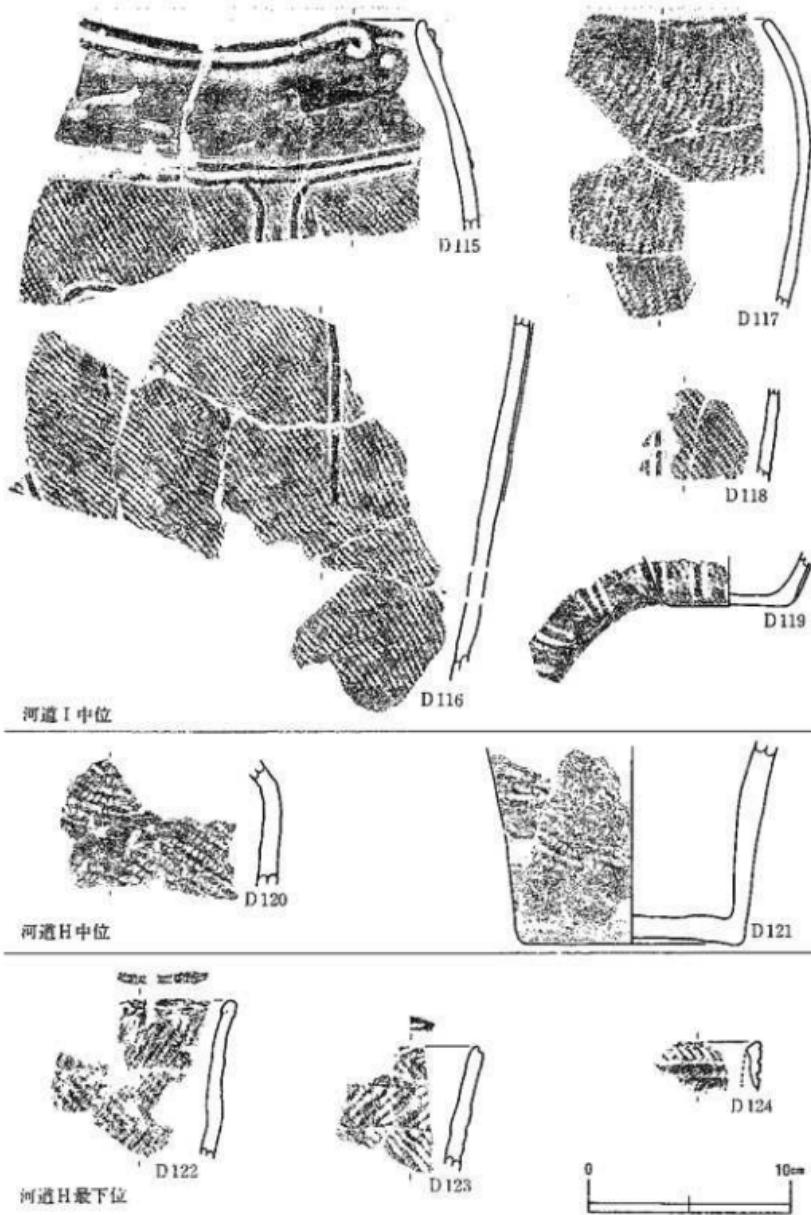
上段で調査区中央やや北東のMB 56区に位置し、V層で検出。東側は自然に消滅するが、西側は削平してしまった。掘り込み面は不明で、暗褐色土の溝状プランとして確認。規模は現存長3.1m×最大幅0.5mで、深さ0.05mと浅い。幅は上・下端共に不均一で、緩く蛇行している。底面は凸凹で東側がやや高い傾向を示し、断面は緩いU字形である。覆土は地山を含んだ暗褐色土である。

SD 83 (第255図)

上段で調査区南東のLO 47・48区、LP・LQ 48区に位置し、V層で検出。東西と東側の一部を、トレチで削平してしまった。掘り込み面は不明で、黒褐色土の溝状プランとして確認。規模は現存長約10.5m×最大幅0.4mで、深さは0.1mと浅い。幅は上・下端共に不均一で、現状では小さく蛇行するがほぼ直線的な方向である。底面は凹凸が激しく、西側が僅かに高い傾向を示す。断面は緩いU字形である。覆土は上位で黒褐色土、下位は褐色土である。

SD 114 (第255図)

上段で調査区北西部のME 60～62区、MF・MG 62区、MH 61・62区、MI 61区にまたがっ



第256図 遺構外出土遺物 (1) 土器①

て位置し、IV層およびV層で検出。掘り込み面は不明で、黒色土のカギ状のプランとして確認した。溝は、MF62南東杭より2m北で屈曲部を作り西側と南側に向うが、それぞれの先端は下段に連結している。西側の一部がトレンチで削平されている。遺構は新旧2つの溝が切り合ひ、新しい溝は南側で西寄りに、西側では中央で重なっている。規模は西側で長さ約13m×最大幅0.6m、南側で長さ9.5m×最大幅0.6mである。深さは新しい溝が深い傾向にあり、深い所で約0.3mである。底面は比較的安定しており、屈曲部からそれぞれの方向に緩く傾斜している。断面は新旧共にU字状を呈す。覆土は古い方で黒褐色土、新しい方では黒色土である。

第3節 遺構外出土遺物

1 遺構外出土土器

遺構外出土土器は、出土状況を勘案して、河道E～Iの埋没過程において出土層位が明らかなものと、表土～地山漸移層から出土していて河道E～Iの覆土との対比ができるものがあり、これらを分けて記述する。

(1) 河道E～I堆積層出土土器

①河道I堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層中位(第256図、図版79)

深鉢(D115～D119) D115とD116は同一個体の深鉢。口縁部は内傾し、緩い波状口縁である。口唇直下に隆線で縁取られた太い沈線が巡り、波頂部で渦巻文となる。この下は無文帶で、その下端も隆線で縁取られた沈線が横位に巡る。胴部はL R繩文が縦位回転施文され、その上から、沈線に縁取られた隆線によって文様を描く。文様モチーフは、胴上部の横位沈線から胴中央部付近まで垂下する隆線と、この隆線に連結される曲線文様によって構成される。D117は口縁が内湾する深鉢。全面にR L繩文を施文する。原体の回転方向は斜位で、条が継走する。D118はL R繩文を縦位回転施文し、その上に沈線で縁取られた2条の隆線が垂下する。D119の底部も、D118と同様の隆線が7単位底辺部まで垂下する。

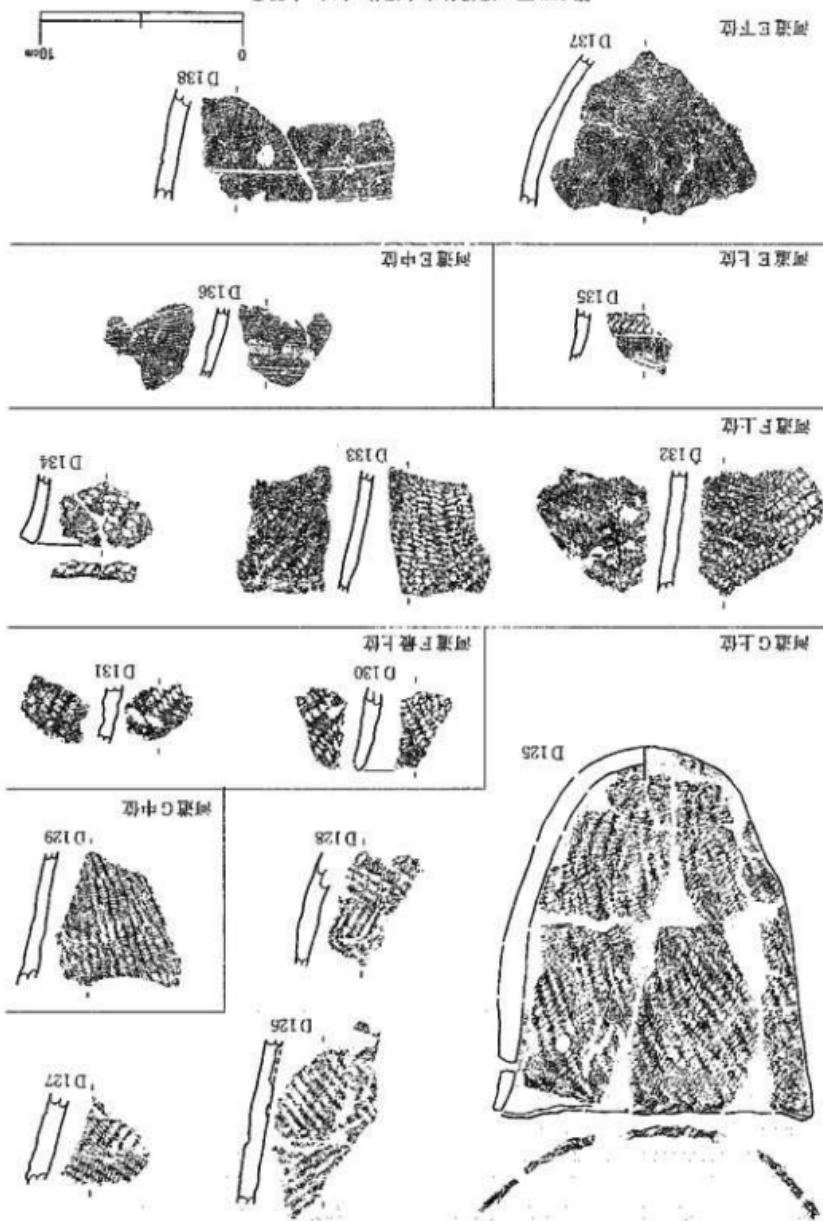
以上の土器は、SN49・50の周辺から出土した。出土地点や出土レベルは、焼土遺構出土土器に近い。D115～D119を検出して取り上げた後、若干掘り下げたところで焼土遺構を検出した。したがって、焼土遺構よりは若干新しい時期の土器である。

②河道II堆積層(第13・14図、巻頭図版2)

i) 堆積層中位(第256図)

深鉢(D120・D121) D120とD121は、同一個体の胴上半部と底部である。胴上部で内傾し、頸部が最も細くなる器形で、口縁部は外反すると考えられる。全面にR L繩文が横位回転

第257圖 遷都外出土遺物(2)土器②



施文される。器壁は厚く、胎土には繊維を多く含む。

ii) 堆積層下位（第256図）

深鉢（D122～D124） D122は口縁がやや外反し、胴部が丸みを帯びて膨らむ。口唇上面を平坦化し、RL原体を斜位に押圧してキザミ目を施す。この下は、0段多条のLR原体とRL原体の、交互段状施文による横位の非結束羽状繩文を施文する。胎土には繊維を多く含む。

D123も、0段多条のLR原体とRL原体を、横位に交互段状回転施文した非結束羽状繩文である。胎土には繊維を多く含む。

D124は、口唇上面をやや内削ぎみに平坦化し、口唇外面端部に丸い棒状工具を斜位に押圧したキザミ目を施す。その下には、横位2条のR撫紐原体押圧痕が巡る。さらにその下には、おそらくLR原体を斜位回転押圧して条が綴走する繩文が施文される。胎土には繊維を含む。

③河道G堆積層（第13・14図）

i) 堆積層上位（第257図、図版79）

深鉢（D125～D128） D125は小型の丸底深鉢で、口径15.2～16.4cm、器高18.5cmである。口縁部はやや外反して開く。口縁部の下でやや窄まり、胴部で若干膨らむ。胎土には繊維を多く含む。焼成は良好で、器壁の剥落はほとんどない。器厚は6～8mmで、成形時の器厚のばらつきがそのまま残る。口縁部は薄く、胴中央部では厚い。口唇端部は丸みを帯び、平坦面の作り出しが行っていない。RL原体を斜位に押圧し、細かで不規則な凹凸がある。表面には、0段多条のRL原体を横位回転施文する。丸底部分と胴部の一部には縦位回転施文の部分があり、基本的には横位回転施文であるものの、回転方向の統一よりも器面に繩文を充填することを目的とした施文方法である。内面は指オサエによる凹凸が残る。指オサエの後、粗いナデを施す。

D126・D127は非結束羽状繩文で、0段多条のLR原体とRL原体を横位に交互段状回転施文する。D126は、原体の長さが4cmと長い。D127は2.3cmである。いずれも胎土には大量の繊維を含む。

D128も非結束羽状繩文で、D126・D127と同様に異種原体を用い、0段多条のLR原体とRL原体を横位に交互段状回転施文する。胎土には繊維を多く含む。

ii) 堆積層中位（第257図）

深鉢（D129） 0段多条のLR原体を斜位に回転施文し、条が綴走する。胎土には繊維を少量含み、焼成は良好で硬質である。裏面は平坦にナデ調整を施す。

④河道F堆積層（第13・14図、巻頭図版2）

i) 堆積層最上位（第257図）

深鉢（D130・D131） D130・D131は同一個体。器厚は6～7mmとやや厚めである。焼成

は良好。口唇部は上面がやや平坦に作られ、口唇直下から表裏両面とも縄文を施す。図を掲載していないが、同一個体の他のLI唇部破片ではやや肥厚し、口唇上に指頭押圧によるキザミ目を施す部分もある。表面は、RL原体の横位回転施文と、LR原体の横位回転施文の部分がある。また一部に、LR原体の横位の結節回転文を施文する。裏面は、LR原体の横位回転施文である。表面のRL原体を除いて同一原体を用いている。

ii) 堆積層上位（第257図）

深鉢（D132～D134） D132は器厚が5～7mmで焼成は良好。太めのLR原体を、横位あるいは斜位に回転施文する。縄文施文の深い部分と浅い部分があり、浅い部分では縄文施文前の強いナデの痕跡が残る部分もある。裏面の一部に、LR原体の横位回転施文による縄文を施す。無文の部分には、指オサエの痕跡が顕著である。

D133は器厚が4～6mmと薄手である。焼成は良好。外面は、LR原体を横位あるいは斜位に回転させ、条が縱走する縄文を施文する。裏面は、表面と同一原体を横位回転施文した縄文帯と無文の部分に分かれる。

D134は口縁部破片。器厚は口唇端部で9～10mm、胴上部では5mmである。口唇部は肥厚し、若干外反ぎみである。口唇上面のやや外面寄りの部分には、LR原体を斜位に押し、キザミ目状の装飾を施す。外面はLI唇施文原体と同一の原体を縦位回転施文した斜縄文である。原体には太い捺紐を用いる。

⑤河道E堆積層（第13・14図、巻頭図版2）

i) 堆積層上位（第257図）

深鉢（D135） 横位の沈線によって区画された無文帯が巡り、沈線に沿わせ貝殻腹縫圧痕を押圧施文する。小破片で文様モチーフは不明。

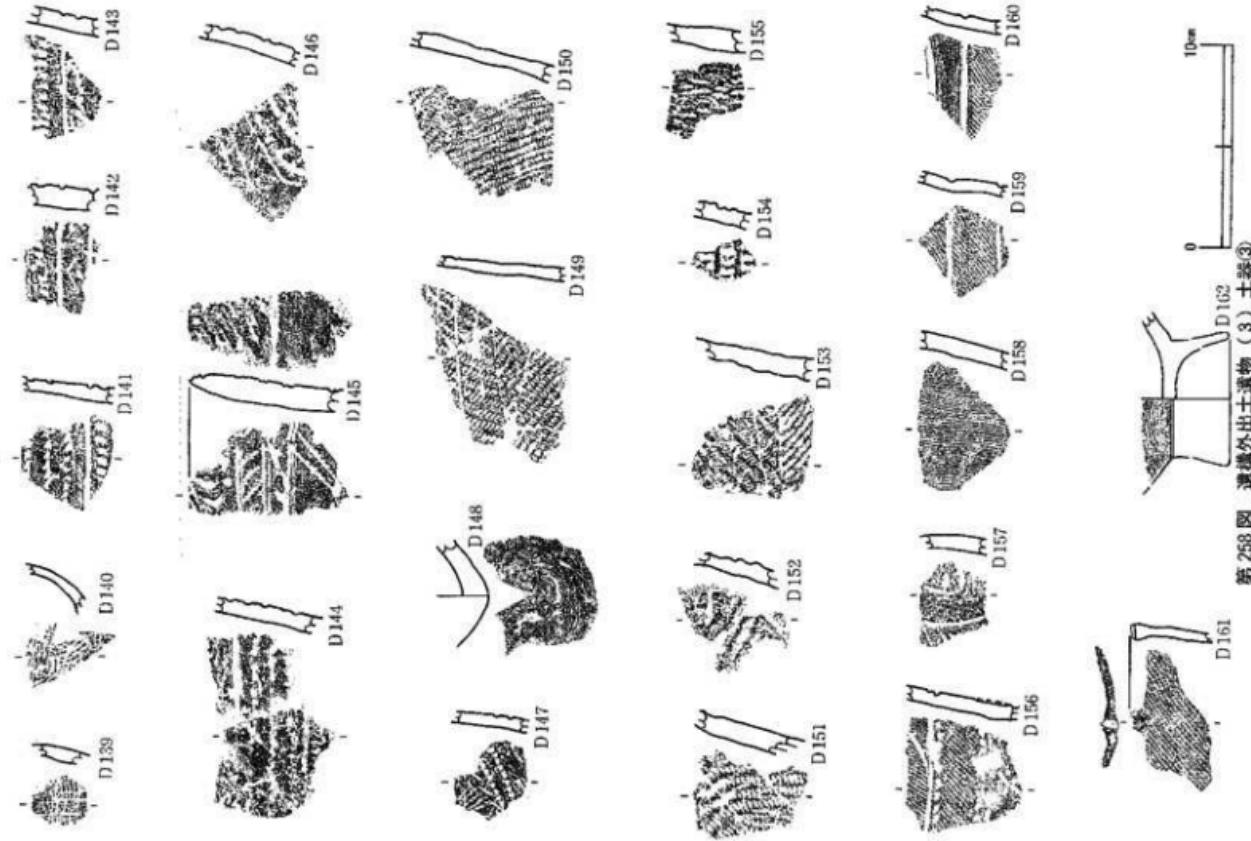
ii) 堆積層中位（第257図）

深鉢（D136） 器厚は4～5mmと薄手である。焼成は良好。表裏面とも横位条痕文を施す。原体は貝殻と推定される。内面は条痕が深く施文される部分と、浅くほとんど観察できない部分がある。

iii) 堆積層下位（第257図、図版79）

深鉢（D137・D138） D137・D138は同一個体。胴下半部が、やや丸みを帯びて膨らむ尖底土器と考えられる。器厚は5～6mmで、D135やD136と比べてやや厚手である。焼成は良好。表裏面とも、幅3mm程度の縦位方向のミガキを施す。胴部中央に、浅く細い沈線が横位に2条巡る。沈線間の間隔は1.6cmである。D137とD138を含め、同一個体の破片5点が近接して出土した。

以上の出土状況を総合すると、文様の変遷では沈線文→貝殻文・痕文→表裏縄文→0段多条



第258圖 遺構外出土遺物 (3) 土器③

の斜縄文→0段多条の異種原体による非結束羽状縄文→斜縄文という変遷がみられる。胎上の繊維混入は、0段多条の斜縄文土器よりみられ、非結束羽状縄文以降に顕著である。口唇の施文は、施文原体が貝殻から撚紐に変化する段階あたりからみられる。また、非結束羽状縄文段階で顕著になり、斜縄文段階ではあまり見られないようである。

各河道の形成、埋没時期を出土土器から推定すると、次のようになる。

河道E堆積層下位は早期前葉（沈線文系土器）、河道E堆積層中位～上位は早期後葉（貝殻文系土器）、河道F堆積層は早期末（表裏縄文土器）、河道G堆積層中位～河道H堆積層下位は前期初頭（0段多条の斜縄文土器、非結束羽状縄文土器）である。したがって、河道E・Fは早期の流路、河道G・Hは前期初頭の流路であったことがわかる。その後、前期中葉頃に河道Hが埋没し、河道Iが形成され、さらに河道Iが埋没する途中で中期中葉の焼土遺構と大木8b式～9式の上器が堆積土中に残されたものである。

（2）河道E～I以外の出土土器

① 縄文時代早期の上器（第258図）

D139は細い沈線を格子目状に施文する。

D140は尖底土器の底部。5本1組の集合沈線によって、直線あるいは弧状の文様を描く。

D141～D144は同一個体。先端が台形と角形の2種類の工具を用い、連続して横から突き刺した横位刺突列を巡らす。その間には横位の沈線や、横位沈線によって区画された無文帯がある。刺突の方向がすべて同一と仮定すれば、上から横位沈線→先端台形工具による1段の刺突列→横位沈線→先端角形工具による1段の刺突列→横位沈線→無文帯→横位沈線→先端角形工具による1段の刺突列→横位沈線と復元できる。

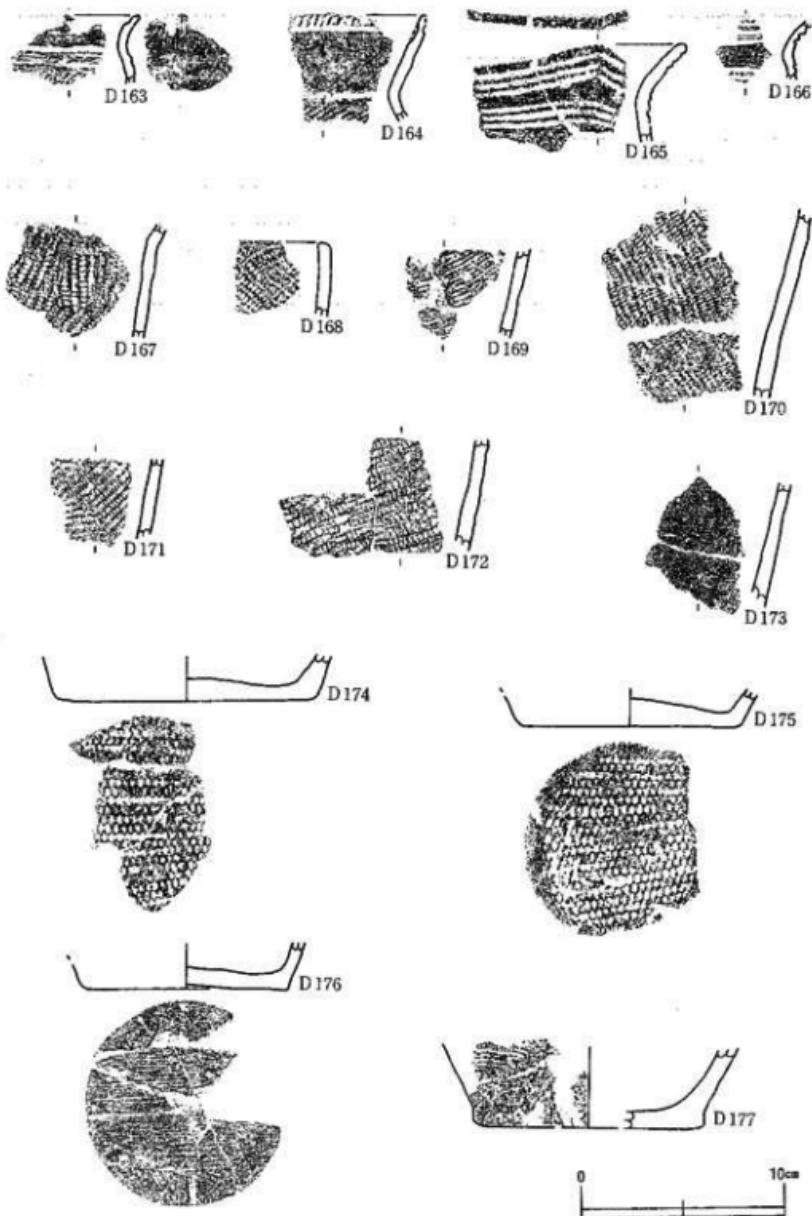
D145は貝殻文土器の口唇部破片。口唇部の断面形は先が尖り、内面に刺突列を施す。

D146は、貝殻腹縁圧痕文が横位に2条施文され、その上下には貝殻条痕文を施文する。

D147も貝殻腹縁圧痕を沿わせた沈線で文様を描く。

D148は尖底土器の底部。粘土紐の接合部から割れている。表裏面共ナデ調整され無文である。

D139～D144は、早期前葉の沈線文系土器、D145～D147は早期後葉の貝殻文系土器である。D149は、L R原体横位回転とR L 0段多条原体の横位回転の組み合わせによる、非結束羽状縄文を全面に施文した後、細い横位沈線が3条以上巡る。胎土には繊維を含まない。出土状況から河道Eもしくは河道Fの堆積層に包含されていた可能性がある。沈線の施文の仕方は、河道E堆積層下位出土のD138とも類似する。また、0段多条の原体2種を用いた交互段状施文による非結束羽状縄文は、河道G堆積層上位以降の出土土器と共に通する。本遺跡からは、類似する土器は外に出土していない。早期～前期初頭の、いずれかの時期に帰属すると思われるが、確実ではない。



第259図 遺構外出土遺物（4）土器④

②縄文時代前期の土器（第258図）

D150・D151はいずれも胎土に纖維を含む。D150は、2種の原体（RL0段多条とLR0段多条の横位回転施文）の組み合わせである。D151もLR0段多条の横位回転施文と、RL0段多条の斜位回転施文の組み合わせである。

D152・D153は胎土に纖維を含み、2種の0段多条原体の交互段状施文による非結束羽状縄文である。

D154は直径の大きい半截竹管を用い、その押引文が横位に施文される。胎土には纖維を含まない。D155は、L撚紐を巻きつけた多輪絡条体を縦位回転施文する。胎土には多量に纖維を含む。D150～D154は前期初頭、D155は前期中葉以降である。

③縄文時代中期の土器（第258図）

D156は、沈線区画文内にRL原体を縦位回転施文し、沈線に沿わせた刺突がある。D157もD156と類似する。区画文内には、縄文または刺突が充填される。これらは中期後葉～末の土器である。

④縄文時代後期の土器（第258図）

D158は櫛齒状工具による条線文で、縦方向の曲線文様を描く。工具の幅は1.8cmである。

D159・D160は太い沈線を横位に巡らす。縄文はLR横位回転施文で、原体は細く節も細かい。D160は横位無文帯も巡らす。D161はやや内湾する口縁部に小突起が付く。突起の上部は、工具によるキザミによって2分される。全体にLR横位回転による斜縄文が施文される。D162は台付鉢の底部から台部である。台部は無文で、底辺部には細かいRL縄文が施文される。

D158は後期前葉、D159とD160は後期後葉、D161とD162は後期末～晩期初頭の土器である。

⑤縄文時代晩期の土器（第259図）

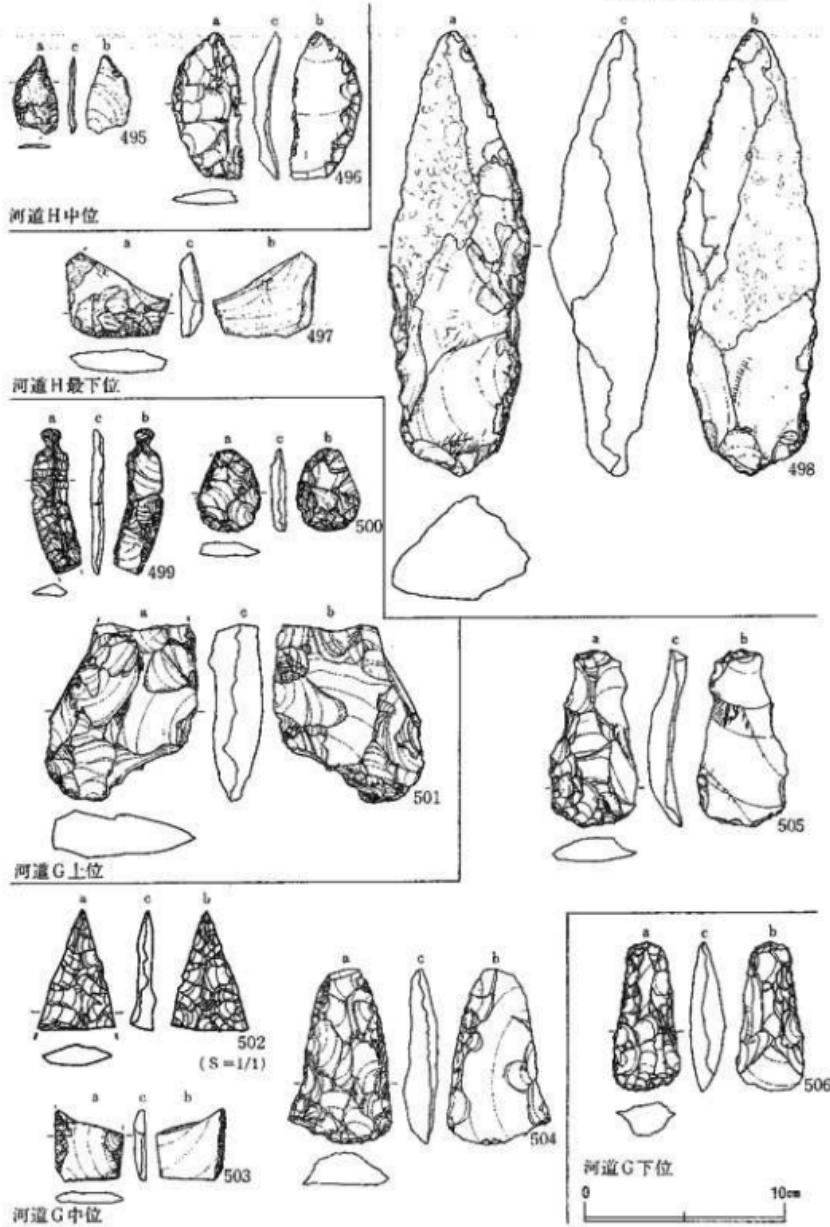
D163～D166は鉢形土器である。D163は、外反する無文の口縁部下に3条の横位沈線を巡らし、その下にはLR縄文を横位回転施文する。D164は、口唇外面に丸い棒状工具の押圧によるキザミ目の文様帯を設ける。胸部はLR縄文を横位回転施文する。D165は山形の波状口縁をもち、口唇部に平行な3条の、頸部に3条の沈線を巡らす。胸部にはLR縄文を横位回転施文する。D166は大きく外反する口縁部と胸上部に、3条以上の細い横位沈線を巡らす。沈線の入る部分には、極めて細かい縄文を施文し、その後に沈線を引いている。

これらの上器は晩期後葉の土器である。

⑥時期不明の土器（第259図）

D168はやや内湾する口縁部で、表面にはRL縄文が横位回転施文される。D167・D169～D172は縄文が施文された胸部破片。D167は口縁部が外反する器形で、RL縄文を斜位～横

第3節 造構外出土遺物



第260図 造構外出土遺物（5）石器①

位に回転施文する。D169・D171・D172はLR、D170は0段多条のRL縄文である。D173は無文の土器で底部に近い部分である。

D174～D177は底部資料。D174・D175は底面に網代痕、D176は笊葉痕が残る。D177の底面と底辺部は無文、胴部には細かいLR縄文が斜位から横位に回転施文される。

2 遺構外出土石器

遺構外出土石器も出土状況を勘案して、河道D～Hの埋没過程および岩盤直上の礫層から出土し先後関係が明らかなものと、表上～地山漸移層から出土し河道D～H堆積層等との対比ができるものとに分けて記述する。

(1) 河道D～H堆積層および礫層出土石器

① 河道H堆積層（第13・14図、図版2）

i) 堆積層中位（第260図、図版79）

この層にはほぼ対応する層から、前期初頭の土器（D120・D121）が出土している。石器は、不定形石器2点が出土した。

不定形石器（495・496） いずれも縦長剥片を素材とするa面の一側縁に刃部を作出し、a・b両面の他の側縁に刃溝しの二次加工を施す。2点とも直刃である。496は、b面の全面に丁寧な二次加工を施す。

ii) 堆積層下位（第260図）

この層にはほぼ対応する層から、前期初頭の土器（D122～D124）が出土している。石器は不定形石器1点、石核1点が出土した。

不定形石器（497） 縦長剥片を切断しその末端側を利用。a面の一側縁に刃部形成の二次加工を施す。刃部は直刃である。

石核（498） 貝岩の転石を母材とする。原石を分割した後、分割面を作業面として表裏両面から剥片をとる。石核を利用した両面調整石器の製作途中段階と思われる。全体にローリングを受けて摩滅する。河道Hの河川によって流出したものであろう。

② 河道G堆積層（第13・14図）

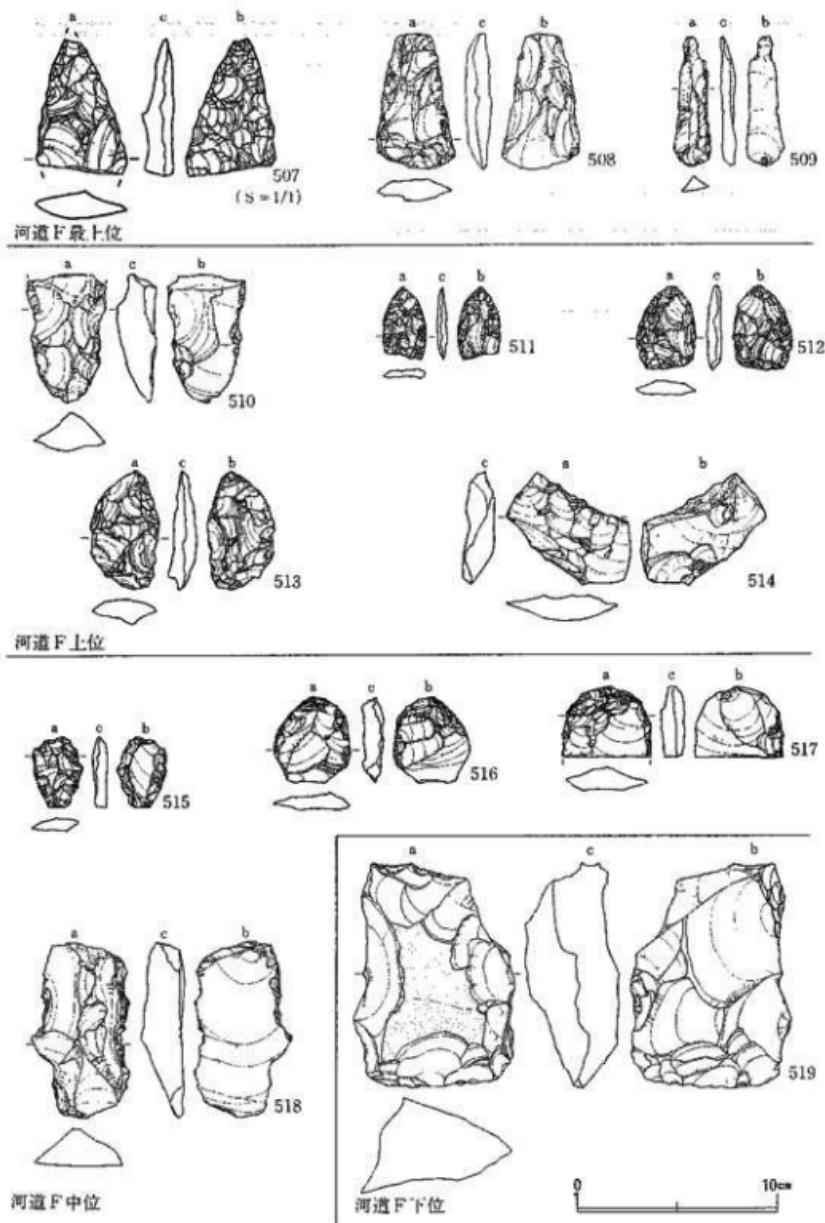
i) 堆積層上位（第260図、図版79）

この層にはほぼ対応する層から、前期初頭の土器（D125～D128）が出土している。石器は石匙1点、不定形石器1点、二次加工ある剥片1点が出土した。

石匙（499） 縦型の形態で先端を欠失。打面調整剥離痕がa面左側縁に残る。

不定形石器（501） 厚手の剥片が素材。a・b両面に二次加工を施し、凸刃を作出している。

二次加工ある剥片（500） 素材剥片の周縁からa・b両面に二次加工を施し、全体を梢円形



第261図 遺構外出土遺物(6)石器②

に整形する。二次加工は全周せず、a面の左上部と右下部の一部に、素材剥片の切削面がそのまま残る。二次加工の施された部分の立面觀は、ジグザグで明瞭な刃部は認められない。

ii) 堆積層中位（第260図）

この層にはほぼ対応する層から、前期初頭の土器（D129）が出土している。石器は石鎧1点、石箇2点、石匙1点が出土した。

石鎧（502） 尖端部で、鎧長はやや長いと推定される。

石箇（504・505） 504のb面は、基部の一部のみの調整を施す。505のb面には、二次加工を施さない。両者とも刃部は凸刃である。

石匙（503） 打面調整剝離技法によって整形された大型の縦型石匙である。尖端部のみ残存。a面の調整剝離痕は短く、素材の剝離面が広く残る。

iii) 堆積層下位（第260図、図版79）

石箇1点が出土。

石匙（506） a面の全体とb面の刃部以外の部分に、二次加工を施す。刃部は凸刃。

③河道F堆積層（第13・14図、巻頭図版2）

i) 堆積層最上位（第261図、図版79）

この層にはほぼ対応する層から、早期末の土器（D130・D131）が出土している。石器は石鎧1点、石箇1点、縦型石匙1点が出土した。

石鎧（507） 鎧長が長い形態で、尖端と基部側の半分を欠失。

石箇（508） 506と同じ形態の石箇で、裏面は刃部以外の部位に二次加工を施す。

石匙（509） 縦長剥片を素材とし、末端に二次加工を施しまみ部分を作出する。a面右側縁と左側縁の尖端部のみに、二次加工を施す。素材剥片のバルブは除去されていない。

ii) 堆積層上位（第261図）

この層にはほぼ対応する層から、早期末の土器（D132～D134）が出土している。石器は石槍1点、不定形石器1点、二次加工ある剝片3点が出土した。

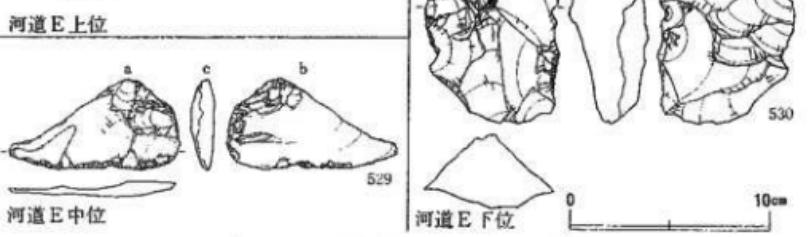
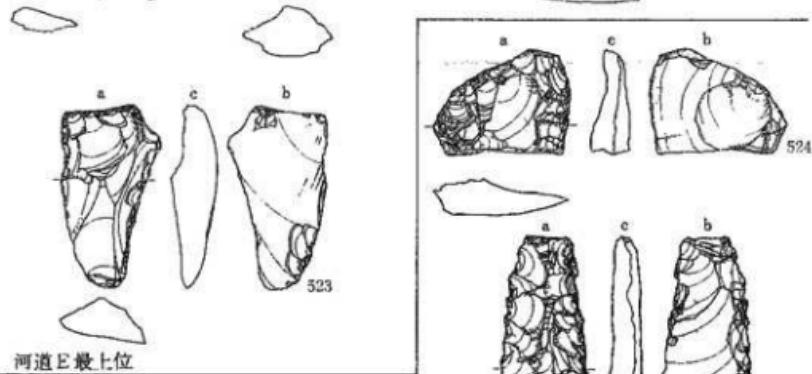
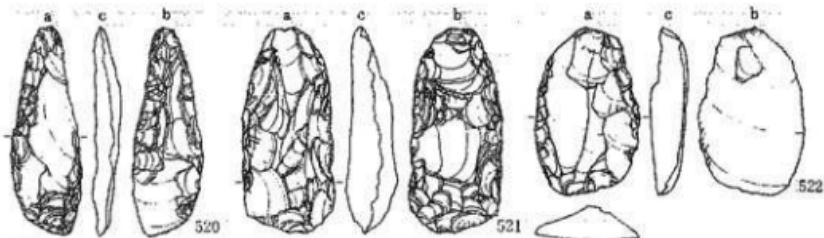
石槍（511） a・b両面に細かな二次加工を施し、扁平に整形している。

不定形石器（510） 全体の形態を尖頭形に仕上げている。a面右側縁の上部が凸刃。刃部の対辺は、b面に二次加工を施して刃潰しを行う。

二次加工ある剝片（512・513・514） 512・513はいずれもa・b両面の全面に二次加工を施して、尖頭形に整形している。明瞭な刃部はない。514は剝片の一部に二次加工による剝離痕が認められるが、刃部の作出ではない。何らかの石器の未製品の可能性がある。

iii) 堆積層中位（第261図）

不定形石器4点が出土。



第262図 造構外出土遺物(7)石器③

不定形石器（515～518）一側縁に凸刃の刃部を形成し、他の側縁に刃潰しの加工を施す。515はa面左側縁、516はa面右側縁の下部、517はa面右側縁全部が刃部である。518はa面左側縁の下端部に凸刃をもち、両側縁の一部に刃潰しの二次加工を施す。

iv) 堆積層下位（第261図）

石核が1点出土。

石核（519）a面に礫皮面が残る。a面の周縁3辺から剥片を剝離した後、作業面をb面に転換し、さらにa面と同じ方向で3辺から剥片を得ている。

④河道E堆積層（第13・14図、巻頭図版2）

i) 堆積層最上位（第262図、図版79）

石鏃2点、不定形石器2点が出土。

石鏃（520・521）520は、刃部のb面と基部のa面右側中央に、素材剥片の剝離面が残る。521は、a・b両面の全面に二次加工を施す。

不定形石器（522・523）どちらも縦長剥片を素材とし、一側縁の表面に二次加工を施して刃部を作出する。他の側縁には刃潰しを施す。522は凸刃、523は凹刃である。

ii) 堆積層上位（第262図）

この層にはほぼ対応する層から、早期後葉の土器（D135）が出土している。石器では不定形石器3点、微小剝離痕ある剥片1点、二次加工ある剥片1点が出土した。

不定形石器（524～526）一側縁に刃部、他の側縁に刃潰しを施す。524は直刃、525は凹刃である。525は刃部の対辺を、打面調整剝離技法によって整形する。526は、縦長剥片の一側縁に二次加工を施し、凸刃を作出したもの。他の側縁には、刃潰しの加工は施していない。

微小剝離痕ある剥片（528）a面の左側縁に微小剝離痕が認められる。

二次加工ある剥片（527）厚みのある剥片の一部を折り取り、b面の周縁から二次加工を施したもの。刃部は形成されていない。石器の未製品であろうか。

iii) 堆積層中位（第262図）

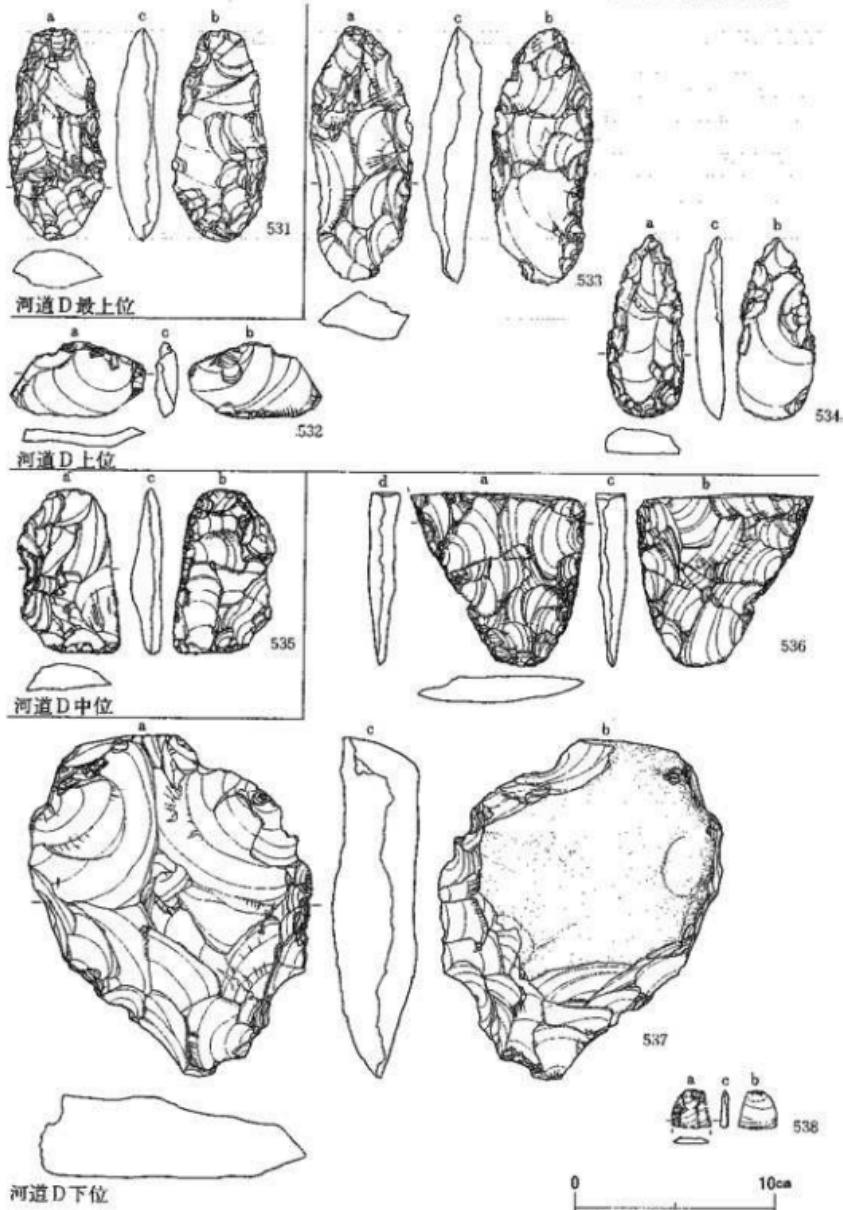
この層にはほぼ対応する層から、早期後葉の土器（D136）が出土している。石器は不定形石器1点が出土した。

不定形石器（529）横長剥片を素材とする。末端側に直刃を作出し、打面側にはa・b両面に二次加工を施してバルブを除去している。

iv) 堆積層下位（第262図）

この層にはほぼ対応する層から、早期前葉の土器（D137・D138）が出土している。石器は石核が1点出土した。

石核（530）厚みのある分割縫または剥片を素材とし、a面で2回剥片を剥ぎ取った後、作



第263圖 造橋外出土遺物（8）石器④

業面を b 面に転換して 3 回、さらに a 面に戻して 2 回剥片剥離作業を行う。剥片生産を目的とせず、小型の両面調整石器を製作する途中で放棄された可能性もある。

⑤河道 D 堆積層（第 13・14 図、巻頭図版 2）

i) 堆積層最上位（第 263 図、図版 79）

石鏟が 1 点出土。

石鏟（531） ほぼ全面に二次加工を施す。b 面中央の一部に、素材の縦長剥片の主要剥離面が残る。

ii) 堆積層上位（第 263 図、図版 80）

両面調整石器 1 点、石鏟 1 点、微小剥離痕ある剥片が 1 点が出土。

両面調整石器（533） a 面の剥離痕を打面として、b 面の両側縁を加工する。a 面右上的一部のみが、その後で加えられた調整である。

石鏟（534） 基部の一部にのみ、a・b 両面からの調整を施す。凸刃である。

微小剥離痕ある剥片（532） 一側縁に、使用によると思われる微小剥離痕が観察される。

iii) 堆積層中位（第 263 図）

不定形石器が 1 点出土。

不定形石器（535） a 面右側縁に直刃を作出し、他の側縁に刃済しの二次加工を施す。また、a・b 両面の全面にも二次加工を施す。

iv) 堆積層下位（第 263 図）

両面調整石器 2 点、不定形石器 1 点が出土。

両面調整石器（536・537） 536 はほぼ半分を失す。両面の全面を加工し、薄く仕上げてある。本来は、半円形に近い形態であったと推測される。537 は b 面に鱗皮面が残る。作業面と打面を頻繁に転換しながら加撃し、剥離痕は表裏両面とも周縁をほぼ全周する。

不定形石器（538） 縦長剥片の末端を折り取り、両側縁を使用したもの。a 面左側縁は剥離痕の摩滅が著しく、側縁が丸くなる。右側縁には、使用によると思われる微小剥離痕がある。

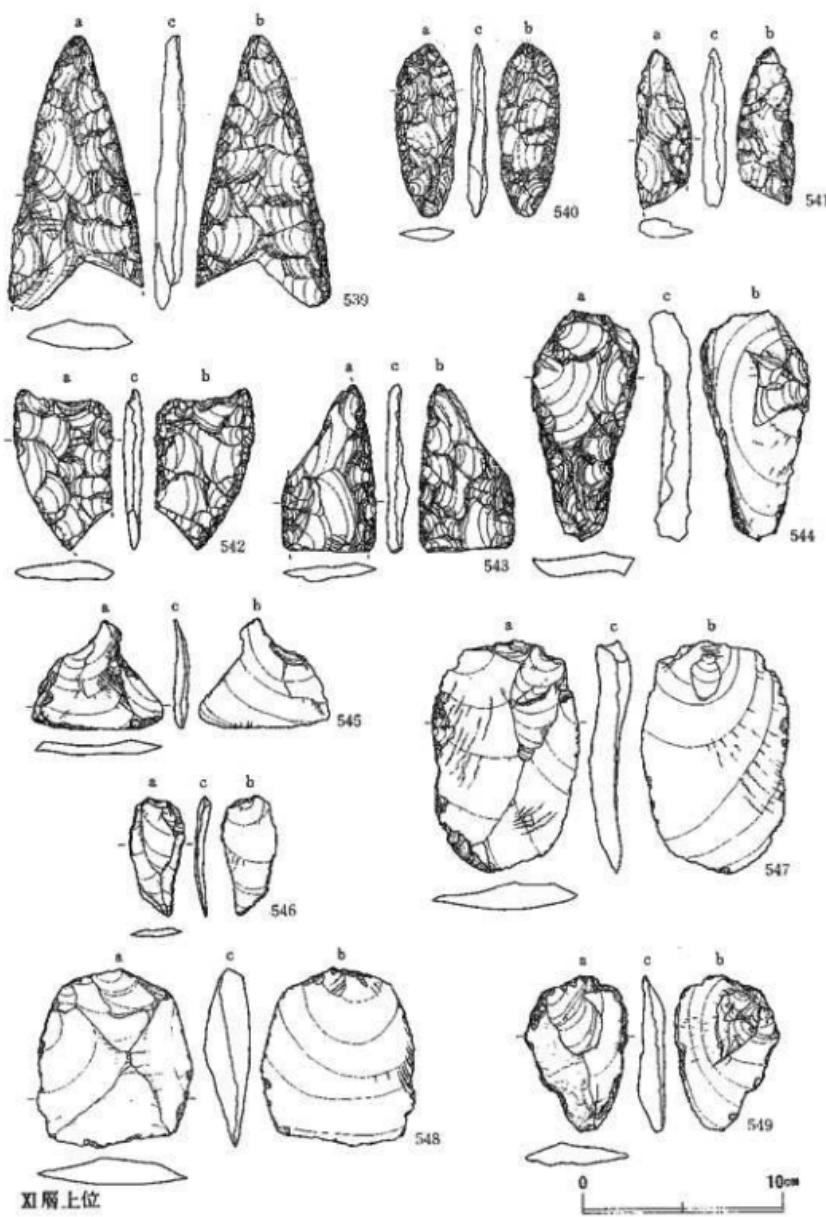
⑥礫層中（XI 層）の石器（第 12 図、巻頭図版 2）

i) 磕層上位（第 264 図、図版 80）

両面調整石器 3 点、石槍 2 点、不定形石器 2 点、微小剥離痕ある剥片 4 点、礫器 1 点、二次加工ある剥片 1 点を掲載した。

両面調整石器（539・542・543） 539 は尖頭形の両面石器の一部である。両面共に側縁からの二次加工によって調整され、薄く仕上げてある。542・543 も、同様の両面調整石器の一部であろう。

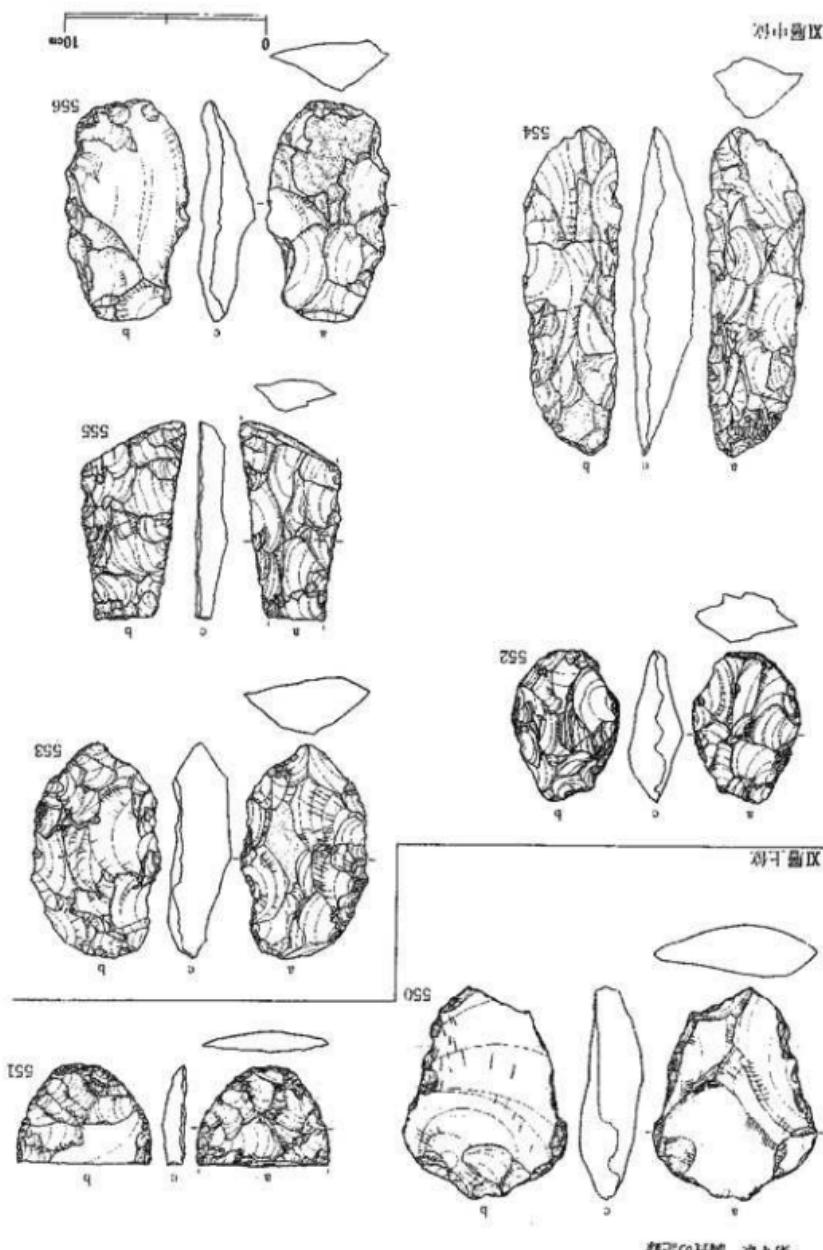
石槍（540・541） 540 は先端の角度が約 90° とやや広い。a・b 両面が丁寧に調整され、先端

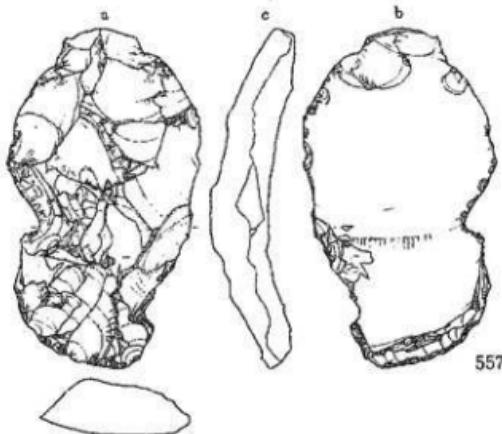


II 層上位

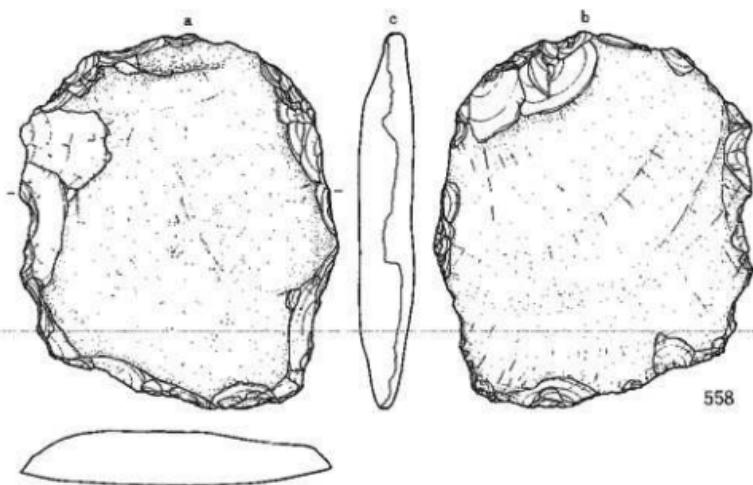
第264図 遺構外出土遺物(9) 石器⑤

第265圖 遺構外出土遺物 (10) 石器⑥





557



558

XI層中位

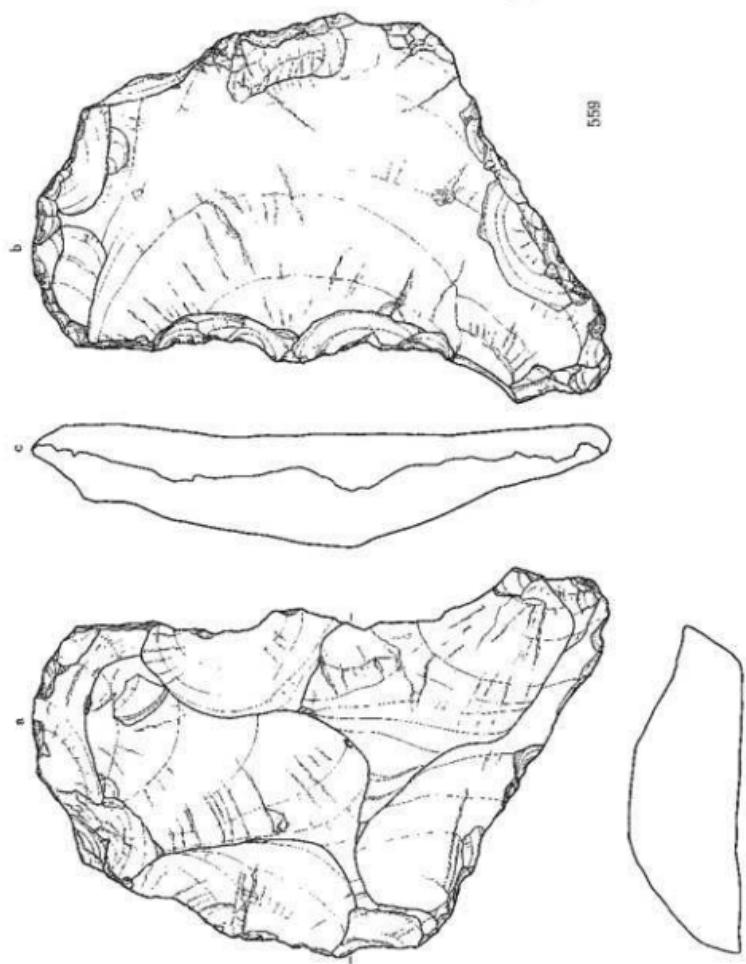


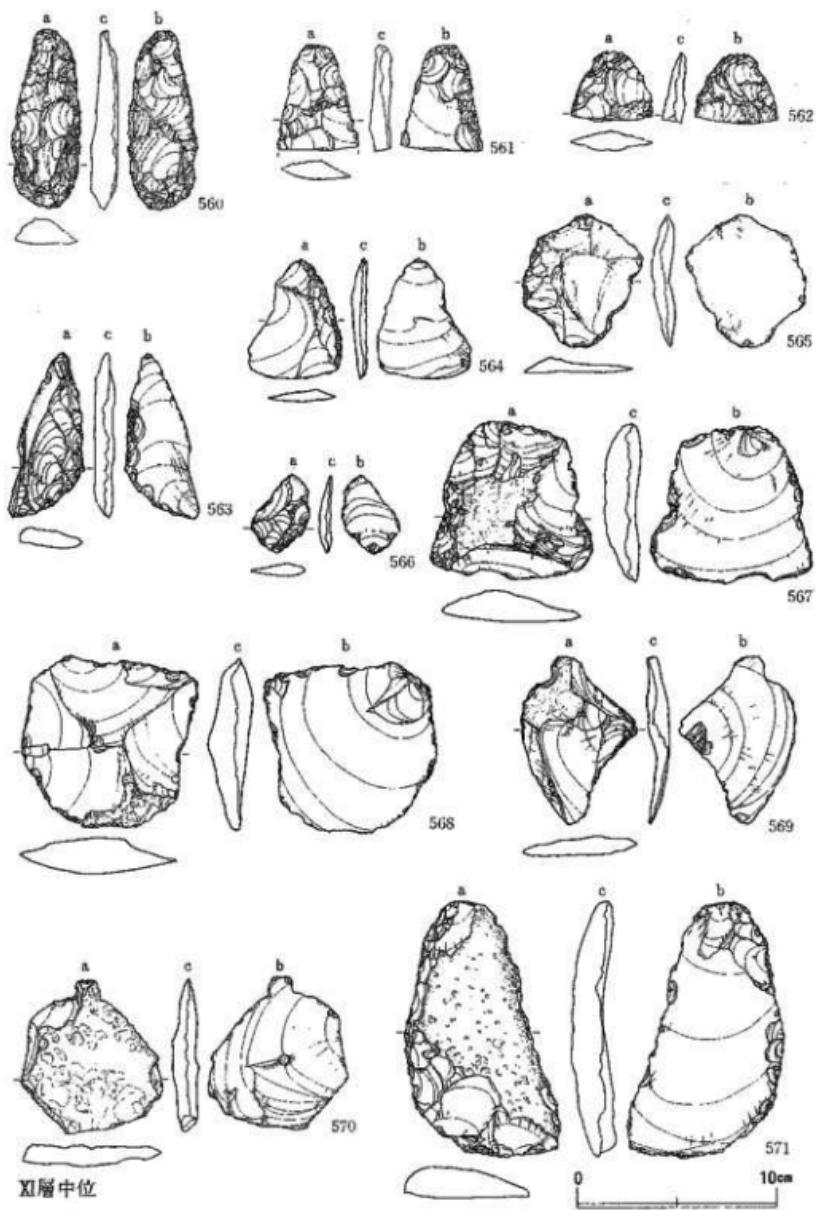
第266図 造橋外出土遺物（11）石器⑦

第267図 遺構外出土遺物 (12) 石器⑧

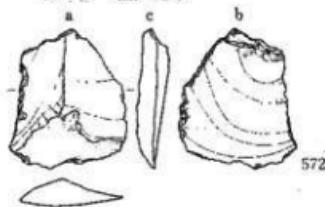
10mm

X層中位

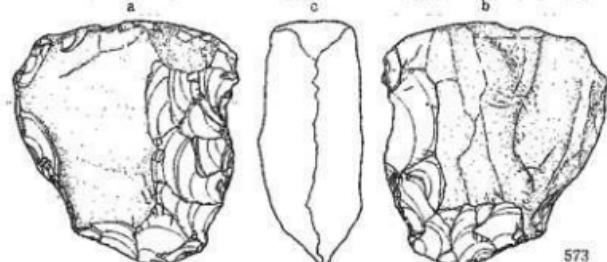




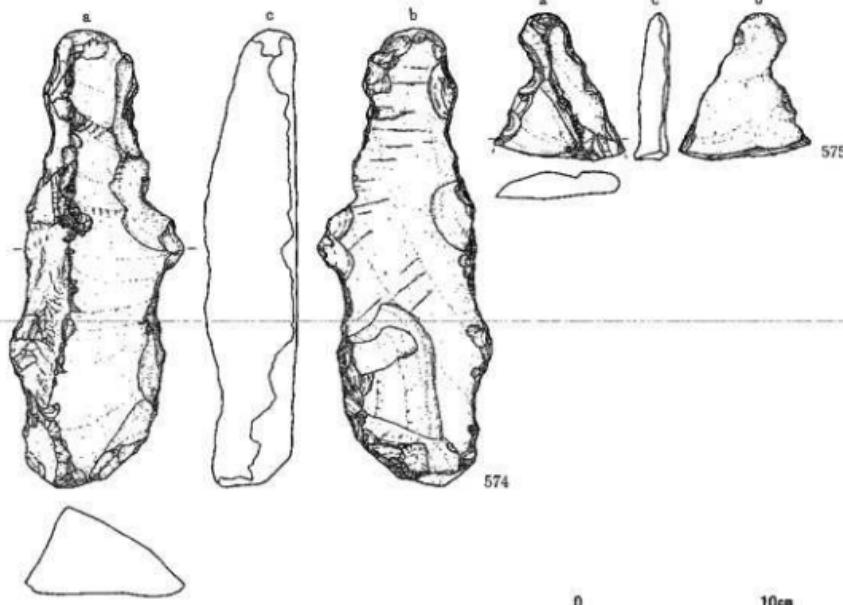
第268図 造構外出土遺物（13）石器⑨



572



573

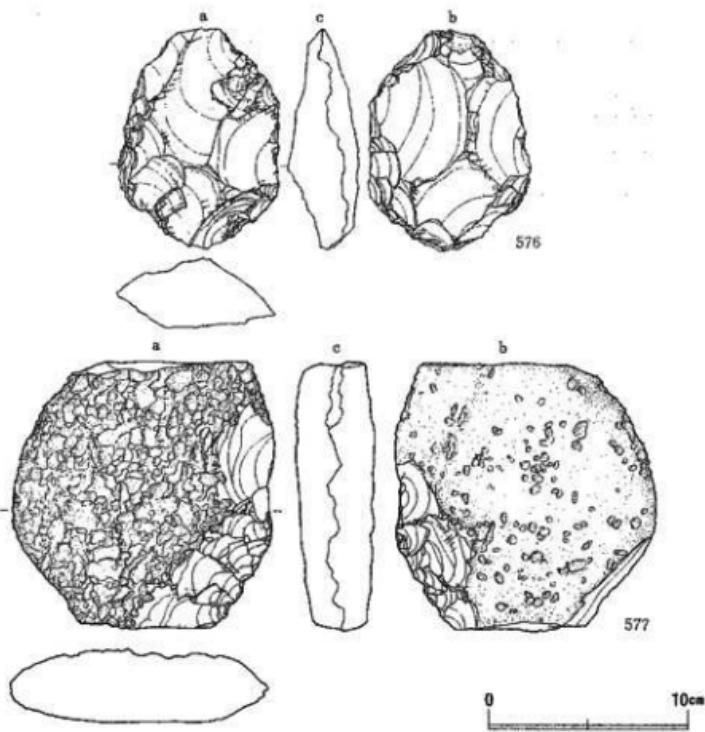


574

XI層下位



第269図 遺構外出土遺物(14) 石器⑩



第270図 遺構外出土遺物（15）石器①

は薄く仕上がっている。541は先端の角度が約45°と鋭利である。a面の調整は粗く、540に比べて槍身が太い。

不定形石器（544） 横長剝片の一側縁に刃部を作出し、他の側縁に刃潰しを施す。刃部は直刃である。545は縦長剝片の上部を取り去り、末端に緩い凸刃の刃部を作出している。側縁の一部にも二次加工を施す。

微小剝離痕ある剝片（546～549） 547は一側縁、546・548・549は二側縁に使用痕と思われる微小剝離痕がある。549はローリングで全体が摩滅。

礫器（550） 周縁のほぼ全面に、二次的な剝離痕を認める。特に素材の末端側は、a面側に急角度で潰れ、著しい階段状剝離痕が並ぶ。ここが刃部として利用されたものであろう。ローリングで剝離痕全体が摩滅している。

二次加工ある剝片（551） a・b両面に二次加工を施す。刃部は整形されていない。a面は、両側縁からの打面調整剝離技法によって調整されている。折断面が最も新しい剝離面なので、

不定形石器の刃部側が欠失したものを利用した可能性がある。

ii) 磨削中位（第265～268図）

両面調整石器4点、両面調整石器の未製品と思われる石器4点、石窓1点、不定形石器4点、微小剥離痕ある剝片6点、二次加工ある剝片1点を掲載した。

両面調整石器（552～559）552・553は楕円形の両面調整石器である。b面は平坦、a面は中央部が厚い。554は三ヶ月形に近い形態で、やはりb面は平坦、a面は中央部が厚い。555は尖頭形の形態の一部である。b面を平坦に仕上げ、中央部は厚くa面が盛り上がる。554に比べて全体に薄い。

556～559は、両面調整石器の未製品と思われる。556はa面に礫皮面が残る。b面は全体の1/3程を占める大きな剝離痕が1つの外、周縁の一部に細かい剝離痕がある。557はa面に周縁から二次加工を施し、b面にも細かい調整を施す。側縁に加えられた打撃によって、大きく分割された破片である。558は、扁平な頁岩の転石の周縁を打ち欠いたもの。559も、転石の周縁に二次加工を加えたものである。いずれも、両面調整石器を製作しようとして、途中で放棄した可能性がある。

石窓（560）両面の全面に、二次加工を施している。

不定形石器（561～564）561は一辺に切断面を残し、三角形から尖頭形に調整している。562はa面左側縁、561はa面右側縁が刃部で、その対辺には刃潰しの加工を施す。563は横長剝片を素材とし、打面側に刃潰しの二次加工を施したもの。刃部は、末端側の縁辺をそのまま利用している。刃部には、使用によると思われる微小剝離痕が認められる。564は、縦長剝片の一側縁に二次加工を施し、刃部を作出したものである。刃潰しは施されていない。

微小剝離痕ある剝片（565～570）565～568は縦長剝片の縁辺3ヶ所に、使用痕と思われる微小剝離痕がある。569・570は一側縁のみに微小剝離痕がある。

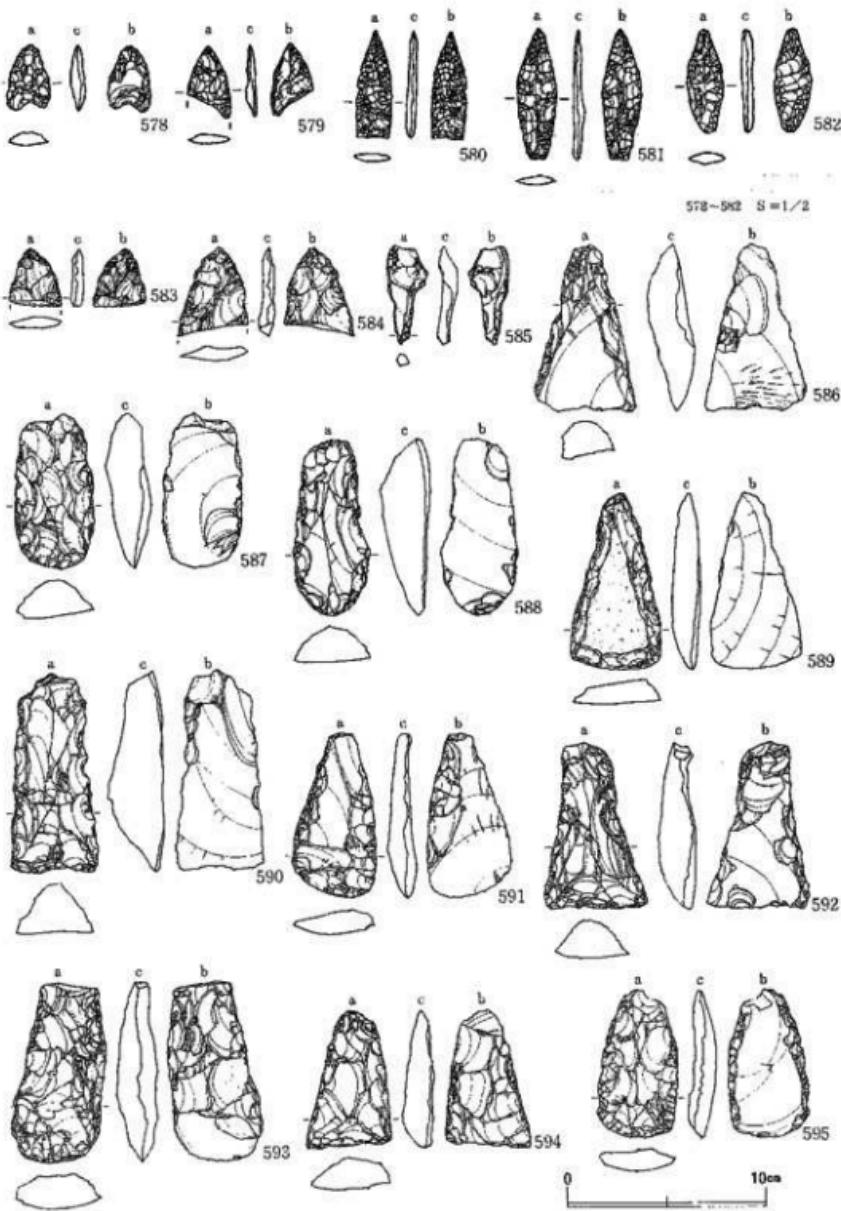
二次加工ある剝片（571）縦長剝片の全周縁に二次加工を施す。a面に残る礫皮面は、左側下部は除去されるが、右側は残ったままである。周縁に明瞭な刃部が作出されないので、二次加工を施した剝片として掲載した。

iii) 磨削下位（第269図）

微小剝離痕ある剝片1点、石核2点、二次加工ある剝片1点を掲載した。

微小剝離痕ある剝片（572）縦長剝片の両側縁に、使用痕と思われる微小剝離痕がある。

石核（573・574）いずれも頁岩の転石を素材とする。573は、側縁を打面としてa・b面交互に作業面を転換しながら剝片剝離作業を行うが、全周の2/5程のところで作業を終了している。剝片は小さく、剝片生産を目的としたというより、石核素材の両面調整石器などを製作するための礫皮面を除去する途中段階ものと考えられる。574も細長い転石を利用し、素材の平



第271図 遺構外出土遺物(16) 石器②

平坦面を打面として剥片剥離作業を行う。573 と同種のものと思われる。

二次加工ある剥片（575）全体がローリングによって摩滅し、剥離痕の穢が丸くなる。周縁に二次加工痕が認められる。

（2） 河道D～H堆積層および疊層以外の出土石器（第13・14図）

①両面調整石器（第270図）

576は楕円形で、細かい調整剥離痕は周縁の一部のみに認められる。a・b両面のほとんどには、整形段階の大きい剥離痕が残る。577は扁平で、楕円形の転石の一部に加工したもの。原石の両端を打ち割って、円形もしくは方形に近い形に整形し、一側縁にはa・b両面に、疊皮面を除去するための打撃を行なうが、一部のみで終了している。

②石鎌（第271図）

578は凹基無茎、579も基部が欠失するが同形態と思われる。580・581は平基無茎で、鐵長が長い形態。580は熱を受けて黒変し、一部に焼け弾けがある。581は柳葉形に近い。582は凸基有茎である。先端は丸みを帯びる。

③石槍（第271図）

583・584とも基部側を欠失。薄く幅広の形態である。

④石錐（第271図）

585は厚みのある横長剥片を素材とし、バルブ側を基部として利用している。錐部先端は欠失する。

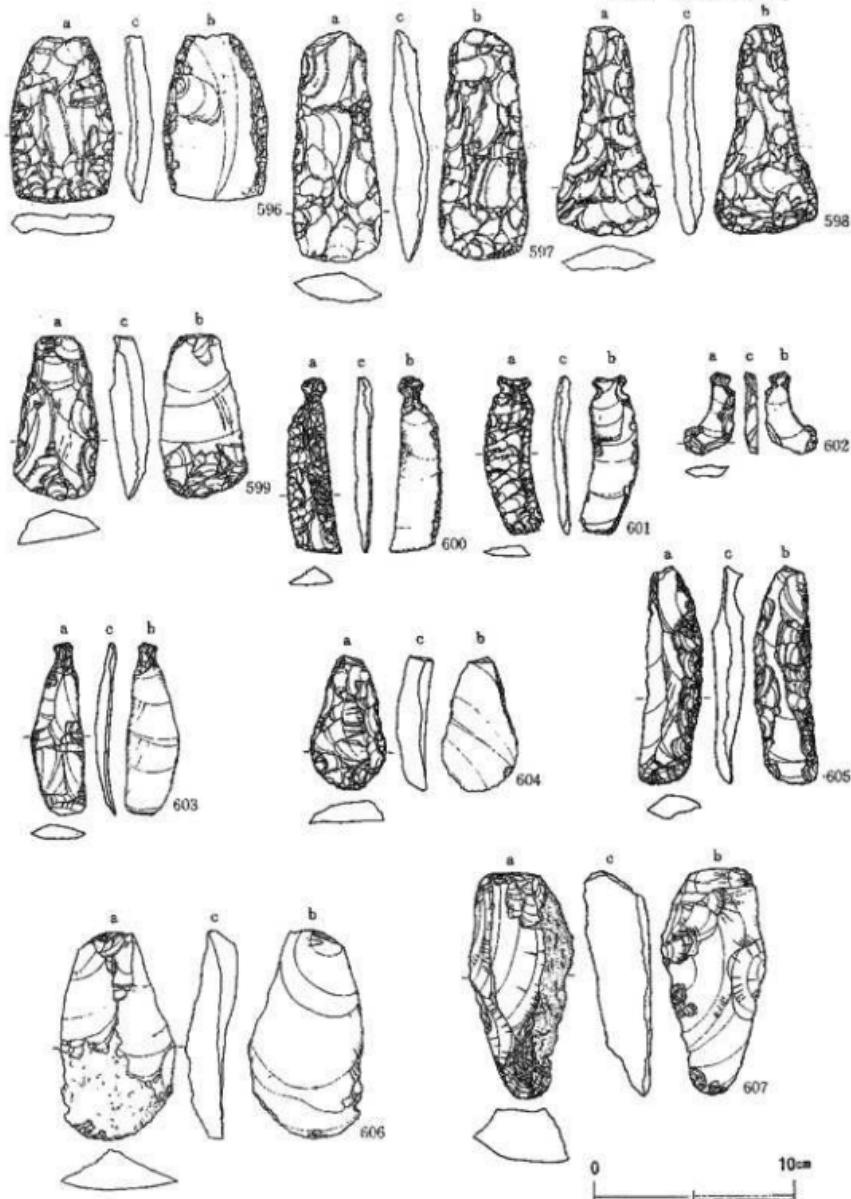
⑤トランシェ様石器（第271図）

586は横長剥片を素材とし、フェザーの側縁をそのまま刃部に利用する。他の三辺は二次加工によって調整され、全体を三角形に仕上げる。b面の基部側には、一部に二次加工痕がある。これは、素材のバルブを除去するためと考えられる。

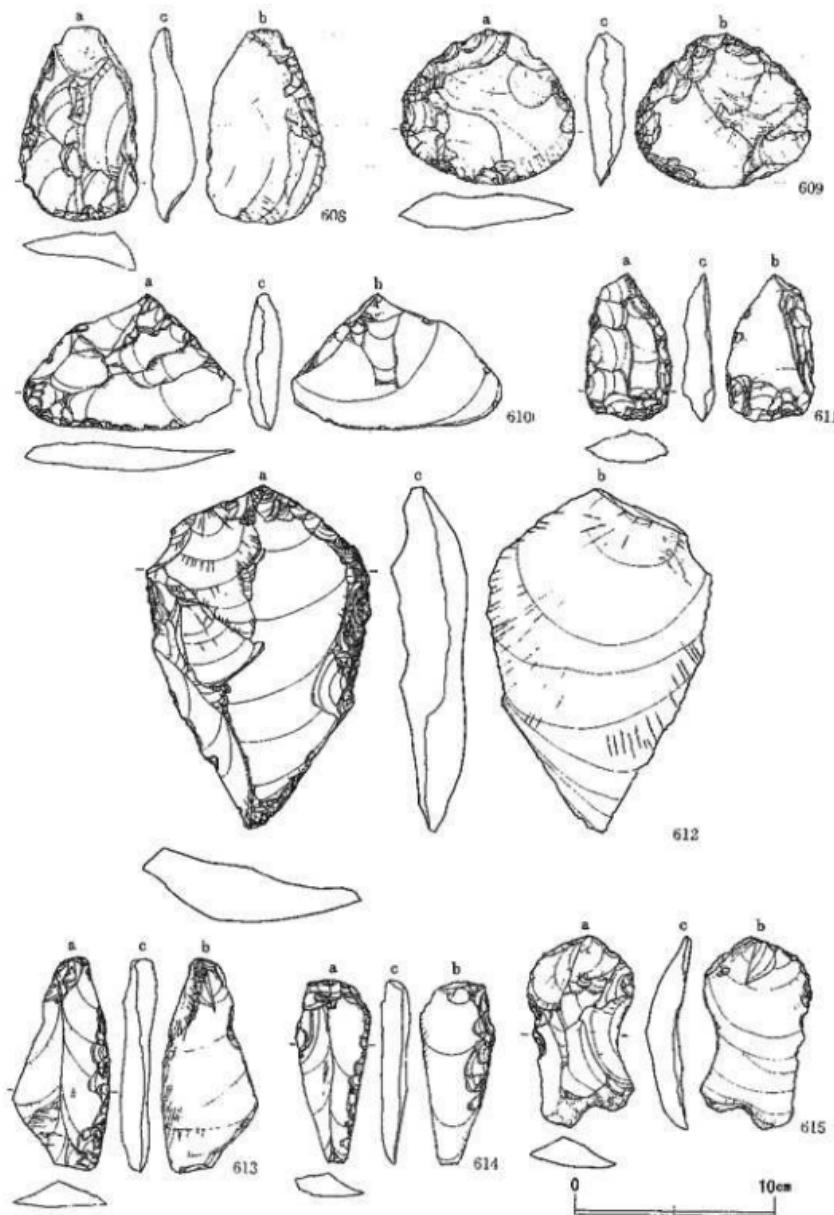
⑥石刀（第271・272図、図版80）

587～590は、b面に調整を全く加えず平坦なものである。587・588・590は断面形が半円形、589は台形を呈する。587・588は凸刃、589・590は直刃である。591・592は、基部の一部にb面からの調整を行う。591は凸刃、592は直刃である。593・594は基部全体にb面から調整を施し、刃部のみ素材剥片の主要剥離面を残す。594は刃部再生によって、b面に調整剥離の加わった部位まで使用したものであろう。593は凸刃、594は直刃である。595・596は横長剥片を素材とし、表面は両側縁からの打面調整剥離技法によって加工している。595は凸刃、596は直刃に近い凸刃である。597・598は、a・b両面の全面に二次加工を施す。597は短冊形で凸刃である。598は撥形で、直刃に近い凸刃。599は、b面の刃部のみに二次加工を施す。このタイプは1点のみの出土である。

第3節 造構外出土遺物

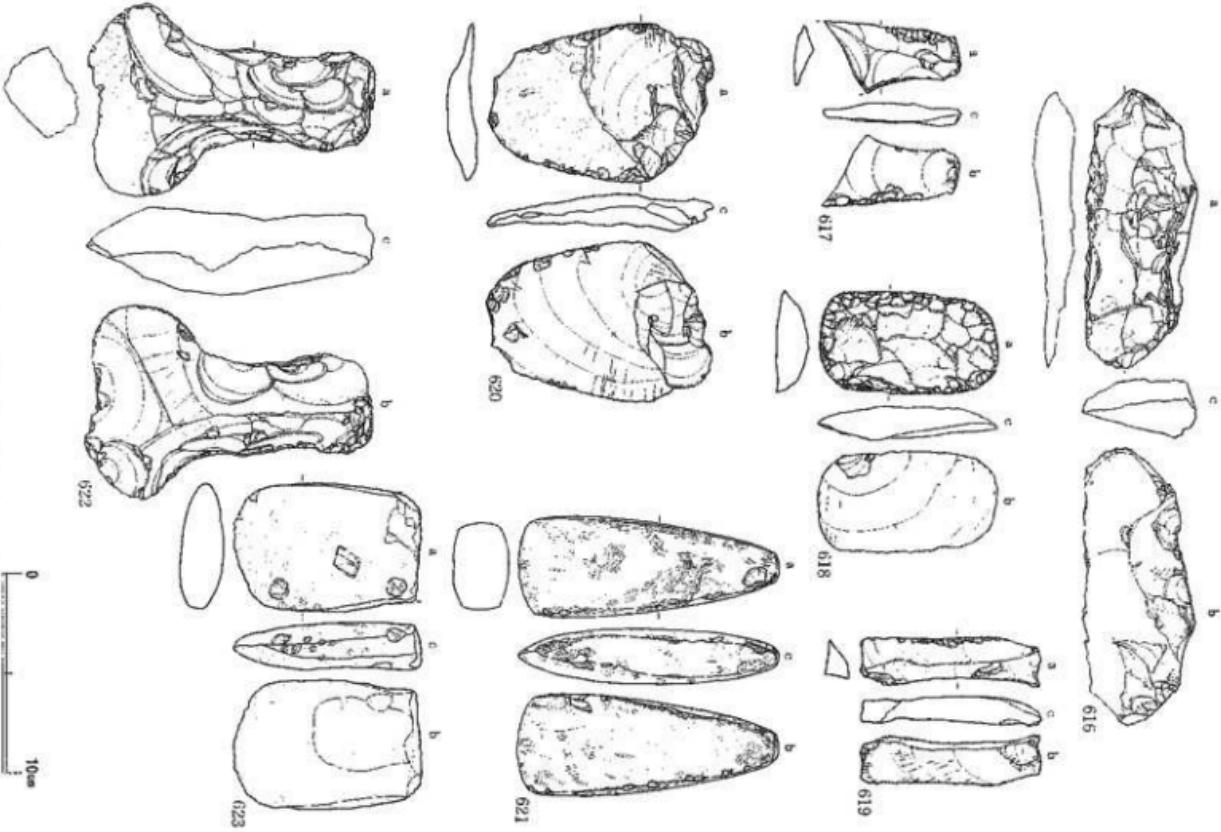


第272図 造構外出土遺物(17) 石器⑬

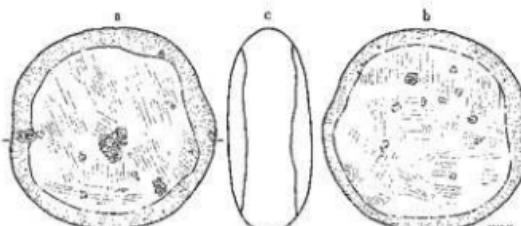
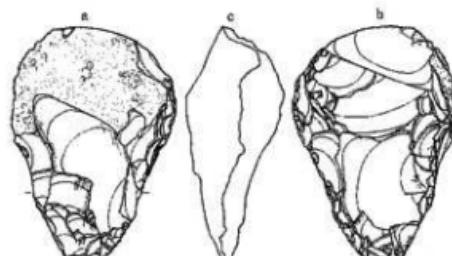
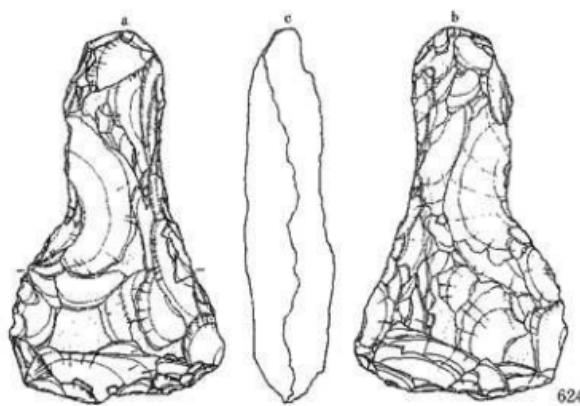


第273図 遺構外出土遺物 (18) 石器④

第3節 遺構外出土遺物



第274圖 遺構外出土遺物 (19) 石器(5)



第275図 遺構外出土遺物(20) 石器⑩

⑦縦型石匙（第272図、図版80）

600・601は、a面左側縁を打面調整技法によって調整する。刃部は右側縁で凹刃である。602・603は、打面調整剝離技法を用いていない。縦型剝片の一部に二次加工を施して、つまみと刃部を作出する。

⑧不定形石器（第272～274図）

剝片の周辺に二次加工を施し刃部を作出した石器、および剝片の周縁に刃溝しの二次加工を施し、縁辺の一部をそのまま刃部として利用した石器を一括した。全体の形状と刃部の形態、二次加工の種類等を考慮し、特徴的なものを15点掲載する。

604～606は縦長剝片の末端に刃部を作出した、いわゆるエンドスクレイバーである。604はa面の全面に、605はa面の右側縁とb面の両側縁に二次加工を施して整形する。606は刃部を作出したのみで、外は二次加工を施さない。607・608は石箇状の形態で、縦長の器形で末端に刃部を作出している。

607は厚みのある断面台形の素材を利用し、刃部の外に両側縁のごく一部に二次加工を施す。608は横長剝片を素材とし、幅広の凸刃を作出している。両側縁に二次加工を施して整形する。609・610は、剝片の一縁辺に半円形の刃部を作出したもの。609は刃部以外の縁辺に二次加工を施し、全体を梢円形に仕上げる。610は縦長剝片の末端に刃部を作出し、他の縁辺には二次加工を施さない。

611～613は、剝片の一縁辺に比較的幅の広い凸刃を作出したもの。611は、刃部以外の縁辺に二次加工を施し整形する。612の刃部以外の二次加工は、縁辺の一部に小規模に施されるだけで、素材剝片の形状には大きな変化を加えていない。613は、縦長剝片の一側縁に刃部を作出するが、他の縁辺に刃溝しの二次加工は施さない。

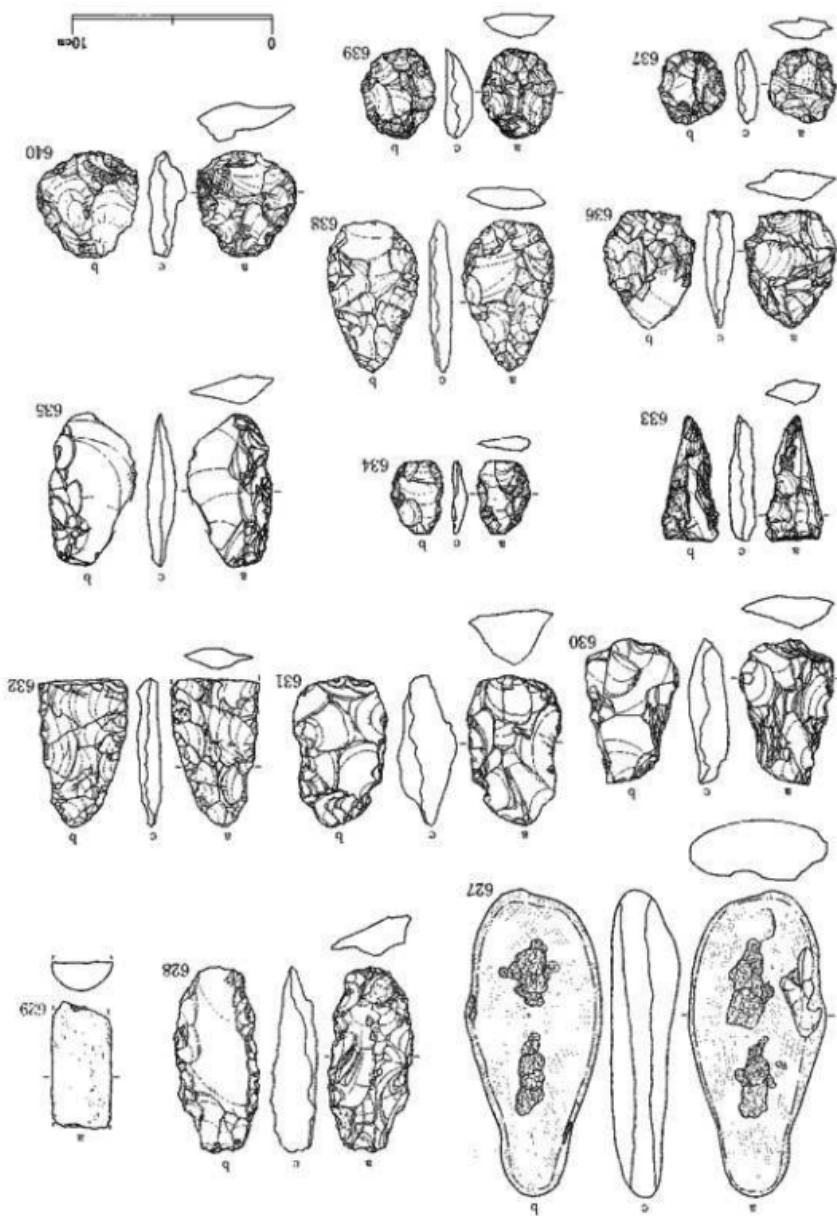
614・616は、剝片の側縁に幅広の直刃を作出したもの。両者とも刃部の対辺の一部に、刃溝しまたは整形のための二次加工を施す。615・617は、剝片の側縁に幅広の凹刃があるものである。617は二次加工を施して刃部を作出し、刃部の対辺には刃溝しの剝離痕がある。615は、素材剝片の内湾した側縁をそのまま刃部に利用したもの。刃部の対辺には、一部に刃溝しの剝離痕がある。618は横長剝片を素材とし、素材の全局を加工して小判形に仕上げたもの。素材のバルブもほとんど除去され、b面は平坦でa面が丸く盛り上がり、断面形は蒲鉾形を呈する。周縁はすべて刃部として利用可能なよう、a面には細かい二次加工が施されている。

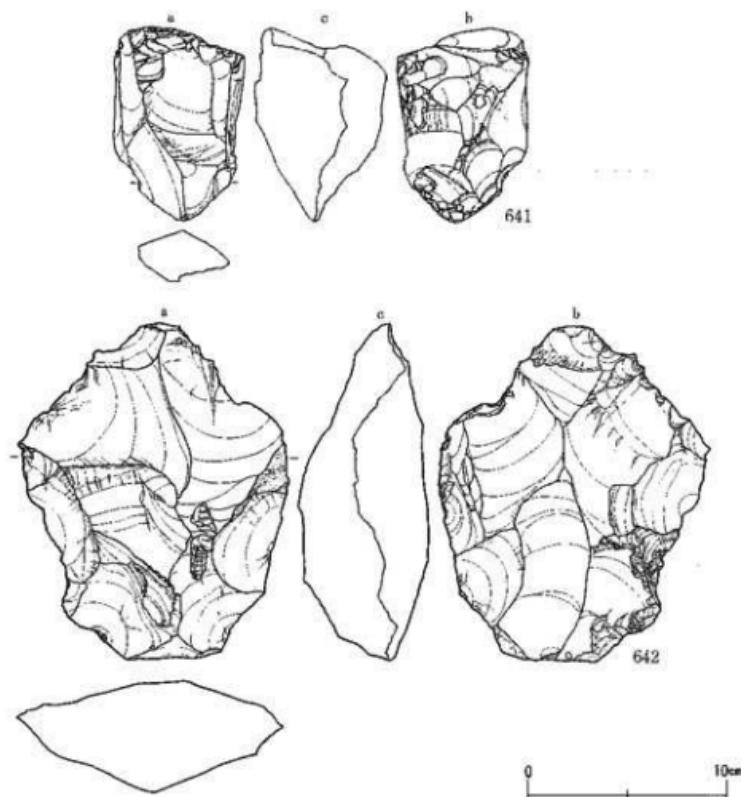
⑨微小剝離痕ある剝片（第274図）

使用痕と思われる微小剝離痕が観察される剝片である。619は一側縁、620は2つの側縁に認められる。

⑩磨製石斧（第274図）

第276図 遺構外出土遺物 (21) 石器①





第277図 遺構外出土遺物(22)石器⑩

621は、全面に縦方向の擦痕が観察される。623は、a面の左側縁上端がやや内側に抉られ、a面中央部がやや凹む。基部の端部には、若干磨かれた痕跡がある。当初は現存の2倍程度の長さだったものが、ほぼ中央から折損し、刃部側を再度磨いて利用したものと考えられる。

⑪打製石斧(第274・275図)

622・624は大型の分割礫を素材とし、細長い基部と幅広の刃部をもつ楔形に整形したものである。624の刃部は敲打痕のみである。622の刃部のb面は平滑に磨かれ、縦方向の擦痕が明顯。

⑫砾器(第275図)

625は、疊皮面のある分割礫を素材とする。a面右側縁から下端部にかけて、a・b両面に二次加工を施して刃部を作出する。

⑬擦石・凹石（第275・276図）

626はa・b両面に擦面がある円礫で、a面中央は敲打によって凹んでいる。

627はいちらじく形の円礫を素材とし、a・b両面に各2ヶ所の敲打による凹みがある。

⑭石棒（第276図）

629は石棒の中央部付近の破片である。a面には縦方向の擦痕が観察される。

⑮二次加工ある剝片（第276図、図版80）

628はa面の周縁全体と、b面の一側縁を除く周縁に二次加工を施す。おそらく石鏟の製作途中で、a面中央の疊皮面を除去できず、放棄したものであろう。630も同様の未製品と思われる。631は、両面調整を施した石鏟の未製品であろう。632・633は尖頭形に調整されている。側縁に刃部は形成されていない。633は石槍の未製品、632は石槍あるいは石鎧の未製品と考えられる。

634は、小型の縦長剝片のa・b両面の両側縁に二次加工を施す。素材の末端にヒンジフランチャーチャーが残る。側縁に刃部は形成されない。不定形石器の未製品であろうか。635も不定形石器の未製品かと思われる。横長剝片を素材とし、フェザーの末端には二次加工を施さない。a・b両面の打面側には二次加工を施し、打面とバルブを除去している。

636～640は、a・b両面に二次加工を施す。何らかのToolと考えられるが、周縁に刃部を形成していない。636・638は尖頭形、637・639・640は円形を意識して整形されている。

⑯石核（第277図）

641は逆円錐形で、上部の平坦面を打面として3枚の縦長剝片を側面から剝離している。

642は周縁を加擊し、a・b両面から交互に大型の剝片を得ている。

第3表 石器観察表(1)

No.	出土施設	石器	大きさ(cm)			種 別	No.	出土施設	石器	大きさ(cm)			種 別	
			長	幅	厚					長	幅	厚		
1	S X H 68	石刀	22.5	9.9	1.1	812.9		S X H 68	直刀	10.1	7.6	1.0	138.5	石器 日
-268	"	石刀	4.8	7.4	1.5	52.8	-779	"	-	3.2	1.5	2	1.0	
-384	"	石刀	17	4.9	1	5.1	-60	"	-	3.1	1.1	1	0.5	
-387	"	石刀	3.8	5.6	1	10.7	-298	"	-	2.7	1.7	2	1.0	
-345	"	石刀	4.4	4.9	1	7.9	-496	"	-	2.4	1.5	1	1.0	
-328	"	石刀	5.5	6.6	1	10.6	-781	"	-	2.5	1.2	2	1.5	
-137	"	石刀	3.8	4.9	1	6.4	-719	"	-	3.1	1.7	1	0.8	
-353	"	石刀	2.6	5.2	1	3.2	-	-	-	1.9	0.2	2	0.2	
-410	"	石刀	7.4	8.6	1	10.5	-133	"	-	1.5	1.9	2	0.5	
-592	"	石刀	2.7	5.9	1	5.2	-355	"	-	2.1	1.1	6	2.4	
-277	"	石刀	3.1	7.0	1	4.2	3	"	-	2.0	1.2	36	314.2	
-408	"	石刀	7.1	9.5	1	13.5	-498	"	-	3.4	4.5	1	1.3	
-453	"	石刀	4.1	5.8	1	10.1	-287	"	-	3.1	0.9	3	21.7	
-280	"	石刀	7.1	8.3	1	9.2	-689	"	-	2.9	1.2	5	4.7	
-	M G 62	石刀	2.3	4.8	1	12.3	-20	"	-	7.1	1.2	6	13.1	
-281	S X H 68	石刀	5.0	6.6	1	10.3	-351	"	-	4.8	1.9	11	36.6	
-302	"	石刀	1.6	5.5	1	10.8	-670	"	-	4.8	0.9	8	22.5	
2	"	石刀	16.1	11.8	1	10.4	-462	"	-	4.4	4.4	1	1.3	
-14	"	石刀	4.5	7.6	1	10.4	-62	"	-	3.4	1.4	10	22.0	
-22	"	石刀	3.9	5.9	1	5.9	-459	"	-	4.6	3.7	6	11.6	
-365	"	石刀	4.5	5.0	1	10.4	-539	"	-	3.5	4.3	1	9.8	
-385	"	石刀	3.6	5.6	1	5.5	-228	"	-	3.6	5.1	6	8.4	
-894	"	石刀	2.1	2.3	1	2.5	-403	"	-	3.6	3.0	6	11.7	
-417	"	石刀	3.5	10	1	0.6	-359	"	-	7.0	3.6	8	12.3	
-508	"	石刀	4.6	10	1	10.6	-482	"	-	4.1	2.1	6	3.1	
-506	"	石刀	1.7	1.9	1	1.1	-547	"	-	3.6	0.9	11	36.1	
-63	"	石刀	2.7	2.9	1	1.5	-489	"	-	5.5	3.2	4	6.7	
-16	"	石刀	4.1	3.2	1	10.8	-295	"	-	2.5	5.0	6	7.8	
-463	"	石刀	4.5	5.0	1	12.8	-507	"	-	3.8	7.5	6	35.9	
-660	"	石刀	7.5	5.0	1	10.6	-339	"	-	3.8	6.2	11	26.0	
-26	"	石刀	2.9	3.8	1	3.1	-313	"	-	3.6	2.6	5	4.8	
-59	"	石刀	3.6	3.8	1	4.4	-687	"	-	4.5	2.5	3	2.6	
-431	"	石刀	3.3	3.6	1	5.5	4	"	-	18.0	14.5	54	522.3	
-529	"	石刀	3.9	3.4	1	2.3	-518	"	-	5.5	8.2	12	56.0	
-566	"	石刀	3.3	3.3	1	4.3	-34	"	-	8.2	8.3	12	77.3	
-365	"	石刀	4.5	2.8	1	26.6	-543	"	-	3.8	8.5	16	76.7	
-58	"	石刀	4.2	4.4	1	20.9	-35	"	-	9.0	6.7	9	46.6	
-58	"	石刀	2.5	2.6	1	2.9	-	M G 62	-	7.1	8.5	13	34.2	
-513	"	石刀	4.4	4.9	1	10.6	-674	S X H 68	-	3.0	6.7	8	22.1	
-285	"	石刀	5.3	4.7	1	16.3	-390	"	-	5.2	4.9	5	9.7	
-4	"	石刀	5.6	5.5	1	33.5	-219	"	-	4.4	3.8	12	36.5	
-465	"	石刀	3.7	4.0	1	6.4	-178	"	-	2.6	2.5	7	3.6	
-458	"	石刀	2.6	3.5	1	4.8	-618	"	-	4.1	3.8	7	8.7	
-14	"	石刀	3.2	3.3	1	26.6	-620	"	-	3.2	8.5	12	66.4	
-697	"	石刀	4.5	5.3	1	15.5	-744	"	-	4.3	9.0	7	12.0	
-8	"	石刀	2.6	3.8	1	4.8	-435	"	-	5.8	2.8	5	5.4	
-39	"	石刀	2.1	2.6	1	4.1	-701	"	-	2.8	2.8	7	4.0	
-653	"	石刀	2.2	3.8	1	1.9	-	M G 62	-	6.0	2.6	7	8.5	
-51	"	石刀	1.7	3.4	1	0.5	-391	S X H 68	-	2.8	2.9	6	4.2	
-535	"	石刀	4.7	4.3	1	14.5	-619	"	-	2.4	2.6	6	3.0	
-421	"	石刀	1.9	2.3	1	1.9	-317	"	-	4.1	5.3	6	9.6	
-765	"	石刀	2.5	2.7	1	2.2	-31	"	-	3.7	3.1	5	4.9	
-226	"	石刀	2.3	3.8	1	1.1	-334	"	-	2.4	2.8	4	2.5	
-355	"	石刀	2.6	3.0	1	0.6	-547	"	-	1.6	3.7	9	4.3	
-301	"	石刀	5.3	7.0	1	31.7	-545	"	-	2.2	5.8	9	34.5	
-134	"	石刀	3.8	3.2	1	2.3	-651	"	-	4.7	2.1	3	2.6	
-	"	石刀	2.6	3.2	1	0.7	-605	"	-	4.0	2.5	6	9.6	
-672	"	石刀	2.2	3.5	1	0.3	5-265	"	-	2.0	1.1	4.6	100.6	
-127	"	石刀	2.5	2.6	1	4.1	0	"	-	1.9	1.4	47	103.5	
-417	"	石刀	0.9	2.4	1	6.6	-129	"	-	1.9	1.45	47	103.5	
-291	"	石刀	3.2	5.6	1	11.1	-	M G 62	-	5.9	9.6	13	31.2	

第4表 石器観察表(2)

NO.	出土位置	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	種 類	考	NO.	出土位置	T形	大きさ(cm)			重さ (g)	種 類	
			長	幅	厚							長	幅	厚			
7	SXN66	直角	102	88	33	514.1			82-111	SXN65	T形	138	115	23	160.0		
-281	-	-	38	66	19	67.3			53-43	-	-	111	100	26	136.1		
-362	-	-	141	85	38	424.8			54-97	-	-	22	61	17	30.9		
8-90	-	-	147	89	42	542.5			55-99	-	-	76	45	13	46.1		
9-127	-	-	112	86	32	322.7			56-8	-	-	73	100	13	54.3		
10-267	-	-	105	89	21	171.0			57-44	-	-	87	35	14	41.9		
11	-	-	135	77	21	220.0			58-191	-	-	56	32	9	26.1		
-291	-	-	92	59	13	41.5			59	SXQ36	-	160	119	41	290.1		
-469	-	-	103	76	19	178.5			-	MEGU	-	41	49	19	61.7		
12-130	-	-	118	84	36	374.2			60	SXQ36	-	32	46	10	10.5		
13-115	-	-	125	58	26	175.0			62-20	-	-	31	34	6	6.5		
14	-	-	130	51	19	115.0			63-173	-	-	35	38	6	5.5		
-583	-	-	131	54	20	96.3			-	-	-	23	23	6	1.9		
-	-	-	85	31	13	18.7			-	-	-	35	44	12	34.7		
15-569	-	-	85	40	10	18.0			-	MEG	-	92	74	16	82.2		
16-82	-	-	69	36	8	26.6			697	SXQ36	-	56	47	10	16.9		
17-128	-	-	85	31	105	23.8			-	-	-	27	21	5	1.6		
18-732	-	-	108	36	15	70.7			-	-	-	45	47	8	11.1		
19-2	SXN57	-	141	120	14	228.4			58	SXQ36	-	25	19	5	2.2		
20-1	-	-	213	144	10	563.7			202	SXQ36	-	41	27	6	5.6		
21-3	-	-	207	145	25	634.8			-	-	-	18	11	2	0.6		
22-4	-	-	196	59	24	234.0			-	MEG	-	30	36	10	29.5		
23-2	SXN54	-	188	86	35	338.8			-	SXQ36	-	30	23	4	3.0		
24-6	-	-	125	62	27	275.0			222	-	-	30	34	8	8.9		
25-4	-	-	120	52	21	499.4			198	-	-	41	44	5	11.1		
26-5	-	-	171	119	51	955.8			115	-	-	55	34	11	45.3		
27-1	-	-	158	223	56	944.1			-	-	-	15	27	2	1.0		
28-3	-	-	198	118	47	875.9			-	-	-	37	23	3	1.5		
29	SXN65	-	188	120	50	1088.1			-	-	-	38	32	13	22.1		
-92	-	-	75	84	15	63.1			-	-	-	46	29	10	27.5		
-118	-	-	168	123	41	1023.0			176	-	-	11	45	15	31.1		
30	-	-	126	173	38	314.2			-	-	-	36	35	5	6.3		
-83	-	-	98	36	21	177.0			221	-	-	20	21	12	40.8	石器	
-38	-	-	129	117	15	372.7			-	MEG	-	36	25	9	6.7	石器	
31	-	-	135	115	27	265.7			175	SXQ36	-	30	41	16	32.2	石器	
-59	-	-	124	118	24	258.4			113	-	-	25	22	10	10.3	石器	
-104	-	-	105	64	12	36.3			113	-	-	36	23	3	1.7	石器	
32-57	-	-	127	165	33	716.7			-	-	-	35	24	3	2.0	石器	
33-1	-	-	182	108	47	568.5			-	-	-	35	25	5	2.7	石器	
34-39	-	-	185	105	32	284.6			-	680	-	34	21	4	2.1	石器	
35-122	-	-	145	74	31	272.6			-	688	-	49	50	10	21.0	石器	
36-3	-	-	125	65	71	335.5			-	175	SXQ36	-	31	31	4	1.7	石器
37-18	-	-	131	77	26	220.2			60	SXQ36	-	108	26	23	26.0	石器	
38	-	-	126	105	37	647.4			-	-	-	20	26	6	4.0	石器	
-	-	-	92	48	26	29.2			65	-	-	20	41	5	6.0	石器	
-125	-	-	126	102	11	618.2			-	581	-	28	26	4	3.4	石器	
39-68	-	-	147	56	36	366.1			364	-	-	27	30	4	5.1	石器	
40-14	-	-	169	73	35	175.6			-	-	-	32	29	10	6.8	石器	
41-118	-	-	166	123	41	1024.5			-	-	-	25	30	7	3.0	石器	
42-58	-	-	129	70	29	188.0			414	-	-	32	36	6	7.0	石器	
43-	-	-	130	61	35	221.7			-	528	-	45	36	17	23.5	石器	
44-116	-	-	125	67	35	195.8			-	1378	-	49	34	7	9.9	石器	
45-32	-	-	129	60	76	327.1			-	405	-	122	27	20	196.9	石器	
46-105	-	-	101	69	19	128.5			61	-	-	159	105	63	81.4	石器	
47-12	-	-	87	50	13	36.7			-	7548	-	21	46	12	13.6	石器	
48-120	-	-	95	49	13	43.0			-	86	-	79	50	13	36.5	石器	
49-2	-	-	98	102	25	158.0			-	7559	-	25	46	11	25.8	石器	
50-	-	-	70	102	25	173.5			-	64	SXQ36	-	31	26	18	38.6	石器
51	-	-	129	120	26	253.3			-	-	-	99	64	17	73.4	石器	
-87	-	-	126	121	26	253.1			-	8138	SXQ36	-	99	64	17	73.4	石器
-47	-	-	42	39	12	6.2			-	7555	SXQ36	-	41	40	9	10.0	石器

第5表 石器觀察表(3)

No.	出土地點	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	種類	考	大きさ(cm)			重さ (g)	種類	考			
			長	幅	厚				長	幅	厚						
61-409	SXQ36	石器	70	22	10	60.0			65	SXQ36	石器	11	22	3	6.6		
-	-	-	42	37	10	3.0	-	-	56	-	-	21	21	15.5	-		
-7530	-	-	36	36	11	1.9			-	-	-	146	24	4.6	176.2		
-7556	-	-	27	23	9	4.4			-	-	-	54	59	19	37.2		
-	-	-	44	36	9	11.3	-	-	58	-	-	19	54	13	29.5		
-674	SXQ37	-	22	35	3	2.2	-	-	-	-	-	74.6	65	7	18.6		
-	SXQ36	-	35	36	11	11.1	-	-	-	-	-	17	50	11	13.6		
7591	-	-	25	31	8	1.9	-	-	39	-	-	50	39	6	11.4		
-7510	-	-	58	45	8	10.3	-	-	26	-	-	70	47	6	12.0		
-93	-	-	21	36	8	2.6	-	-	-	-	-	43	53	6	12.0		
-357	-	-	40	48	14	30.3	-	-	-	-	-	44	38	12	33.5		
-7645	-	-	28	37	17	9.4	-	-	-	-	-	32	41	6	5.9		
-7593	-	-	39	53	21	228.5	626	79	54	-	-	30	31	6	5.5		
62	-	-	138	68	68	60.0	-	-	58	-	-	29	31	7	4.8		
-132	-	-	38	35	15	44.8	-	-	-	-	-	21	36	4	2.7		
-317	-	-	28	38	6	5.5	-	-	-	-	-	79	26	8	4.0		
-360	-	-	158	83	51	185.2	-	-	-	-	-	29	23	5	1.2		
63	-	-	141	117	48	575.2	-	-	-	-	-	34	21	6	1.2		
-472	-	-	26	35	18	53.4	67	-	-	-	-	127	143	21	152.6		
-1619	-	-	59	49	12	21.5	-	-	210	-	-	35	42	7	7.0		
-512	-	-	123	155	45	494.2	-	-	322	-	-	38	56	1	14.0		
64	-	-	107	106	73	382.3	-	-	274	-	-	46	56	10	39.2		
-1557	-	-	42	32	7	6.7	-	-	258	-	-	55	56	3	15.9		
-50	-	-	32	30	15	49.7	-	-	233	-	-	36	35	5	4.8		
-51	-	-	47	39	15	33.1	-	-	488	-	-	28	23	6	11.1		
-124	-	-	56	53	12	42.7	-	-	652	-	-	21	44	3	3.2		
-98	-	-	45	22	18	26.5	-	-	-	-	-	24	45	4	3.1		
-	MED6	-	17	16	2	8.5	-	-	-	-	-	17	25	3	1.3		
-657	SXQ36	-	44	57	21	50.2	-	-	182	-	-	28	58	6	8.7		
-	MED60	-	29	35	5	2.1	-	-	-	-	-	23	23	7	3.9		
-	-	-	14	26	5	1.1	-	-	-	-	-	31	29	4	2.3		
-	-	-	16	36	5	1.6	-	-	-	-	-	47	57	10	24.6		
-	-	-	16	36	5	1.6	-	-	-	-	-	64	65	8	2.8		
-91	SXQ71	-	28	38	4	1.4	58	-	-	-	-	143	71	21	103.6		
-	SXQ36	-	16	21	5	6.6	-	-	-	-	-	33	66	18	12.0		
-	-	-	14	25	5	6.5	-	-	-	-	-	43	SXQ36	59	72	29	46.6
-	-	-	28	35	6	3.9	-	-	68	SXQ32	-	46	39	7	9.5		
-122	SXQ36	-	25	42	14	15.4	-	-	-	-	-	14	14	3	0.5		
-	SXQ36	-	27	17	4	1.2	59	-	-	-	-	350	73	31	23.8		
-	-	-	25	34	3	0.8	-	-	-	-	-	13	22	4	0.2		
-	MED6	-	51	37	16	42.1	-	-	-	-	-	19	16	5	0.9		
-35	SXQ71	-	34	34	18	58.7	-	-	-	-	-	16	12	4	0.4		
7550	SXQ36	-	29	31	8	4.2	-	-	-	-	-	20	26	3	2.4		
-33	SXQ71	-	45	36	5	3.7	-	-	-	-	-	57	64	10	30.1		
-193	-	-	32	23	8	3.2	-	-	197	SXQ71	-	74	56	19	50.3		
-2	SXQ36	-	41	66	10	23.1	-	-	16	-	-	93	71	25	156.9		
-	-	-	21	17	2	0.5	-	-	-	-	-	76-782	SXQ36	80	85	31	220.6
-	-	-	45	25	6	3.6	-	-	-	-	-	71-440	-	70	52	23	71.1
-	-	-	29	36	7	7.2	72-1427	-	-	-	-	100	38	15	55.7		
-197	-	-	33	35	6	3.7	73-872	-	-	-	-	76	43	14	38.9		
-	-	-	11	15	2	0.4	74-485	-	-	-	-	122	57	38	194.9		
-	-	-	21	20	2	1.1	75-628	-	-	-	-	118	68	21	115.9		
65	-	-	132	106	30	271.0	76	-	-	-	-	36	51	29	24.6		
-31	SXQ36	-	22	21	6	2.0	-	-	172	-	-	36	41	16	31.2		
-49	-	-	21	56	7	26.4	-	-	221	-	-	29	47	12	48.1		
-70	-	-	22	56	14	33.7	77	-	-	-	-	90	71	24	117.0		
-298	-	-	45	47	9	13.5	-	-	-	-	-	34	25	9	6.7		
21	-	-	27	65	18	28.2	-	-	113	SXQ36	-	35	22	10	130.2		
-195	SXQ36	-	35	36	6	12.5	78	-	-	-	-	15	3	3	0.4		
-208	-	-	34	23	7	13.5	79	-	-	-	-	71	16	3	1.6		
-361	-	-	51	51	10	26.8	80	-	-	-	-	92	38	5	1.4		

第6表 石器観察表(4)

NO.	出土地点	石器	大きさ(cm)			種	NO.	出土地点	石器	大きさ(cm)			種	
			長	幅	厚					(g)	長	幅	厚	
81	SXQ60	石斧	356	156	42	538.1		82-125	SXQ60	石斧	23	35	9	4.4
- 63	-	-	89	26	12	28.2		- 575	-	-	32	39	11	35.1
- 142	-	-	117	8	3	9.2		- 703	-	-	22	29	2	1.4
- 45	-	-	23	34	7	3.5		- 612	-	-	42	79	3	4.9
- 48	-	-	25	18	8	4.7		- 763	-	-	30	26	5	2.7
- 151	-	-	19	17	4	0.7		- 642	-	-	16	23	3	1.2
- 142	-	-	34	9	3	0.6		- 761	-	-	35	41	7	3.0
- 163	-	-	36	25	5	3.1		- 238	-	-	45	68	9	11.4
- 10	-	-	45	26	9	1.6		- 763	-	-	23	35	3	3.5
- 70	-	-	13	8	3	2.2		- 1127	-	-	28	17	6	1.6
- 4	-	-	72	47	11	39.2		- 163	-	-	50	54	2	3.8
- 64	-	-	34	38	7	5.7		- 763	-	-	17	27	6	2.7
-	LTSI	-	39	42	7	22.8		- 348	-	-	9	21	6	1.4
- 163	SXQ60	-	41	40	7	8.3		- 179	-	-	19	9	2	0.1
- 142	-	-	34	19	3	0.8		- 640	-	-	29	32	9	14.4
- 121	-	-	36	36	6	4.6		- 1914	-	-	22	32	5	1.5
- 9	-	-	35	56	17	29.6		- 612	-	-	21	31	4	2.0
- 179	-	-	22	15	8	1.6		- 1087	-	-	34	37	6	9.2
- 71	-	-	17	14	3	0.5		- 814	-	-	36	38	4	6.3
- 45	-	-	25	21	6	1.5		- 046	-	-	16	24	11	11.9
- 142	-	-	16	12	5	1.2		- 311	-	-	50	38	11	17.7
- 142	-	-	17	13	5	0.8		- 350	-	-	63	76	2	24.1
- 142	-	-	26	21	8	2.7		- 1118	-	-	35	32	7	11.0
- 21	-	-	41	46	10	13.9		- 349	-	-	73	39	15	28.4
-	-	-	26	12	3	0.5		- 348	-	-	23	36	7	4.2
- 82	-	-	22	22	4	2.5		- 822	-	-	49	49	15	26.6
- 48	-	-	34	34	5	3.3		- 763	-	-	36	38	3	1.8
-	-	-	25	19	3	1.3		- 1093	-	-	40	36	7	2.6
- 26	-	-	38	48	10	26.5		- 1888	-	-	35	32	8	6.8
- 331	-	-	25	18	4	1.1		- 763	-	-	33	31	4	2.1
- 142	-	-	19	21	2	0.4		- 352	-	-	31	25	6	3.6
- 142	-	-	27	20	4	1.4		- 1055	-	-	45	50	12	31.5
- 54	-	-	34	35	4	2.9		-	-	-	19	35	5	2.8
- 15	-	-	42	42	6	8.6		- 541	-	-	36	31	21	64.5
- 257	-	-	33	29	5	2.4		- 352	-	-	52	31	11	12.5
- 45	-	-	15	27	8	1.6		- 1140	-	-	35	28	11	8.5
- 12	-	-	21	25	11	8.1		- 816	-	-	32	41	12	27.9
- 169	-	-	38	31	5	5.7		- 3P-S	-	-	57	35	4	10.4
- 536	-	-	21	26	5	5.9		- 45802	-	-	61	41	10	20.9
-	-	-	25	18	4	1.0		- 45804	-	-	40	42	8	12.5
- 49	-	-	29	39	4	2.1		- 45805	-	-	33	48	8	10.5
- 61	-	-	34	36	5	3.5		- 45806	-	-	35	34	15	16.7
- 142	-	-	21	15	4	0.8	83	-	-	52	12	56	194.5	
- 76	-	-	47	48	4	7.1		- 674	-	-	51	39	8	3.7
- 161	-	-	35	21	6	3.0		- 676	-	-	33	29	4	1.4
- 60	-	-	36	26	5	4.5		- 1955	-	-	15	28	2	1.9
- 40	-	-	22	29	3	1.0		- 980	-	-	35	40	10	20.2
- 1655	-	-	31	25	3	2.0		- 967	-	-	40	37	8	8.1
- 124	-	-	14	16	2	0.2		- 1925	-	-	33	47	10	20.2
- 142	-	-	29	18	2	0.7		- 976	-	-	35	35	5	12.7
- 27	-	-	31	27	4	2.3		- 979	-	-	35	45	11	15.5
- 350	-	-	34	29	2	0.8		- 1903	-	-	35	36	9	9.4
- 75	-	-	11	22	2	0.2		- 977	-	-	36	45	5	4.9
- 225	-	-	12	27	3	0.7		- 684	-	-	29	60	15	16.0
- 45	-	-	19	27	3	0.6		- 718	-	-	55	37	8	8.3
- 417	-	-	19	22	3	1.2		- 1919	-	-	35	35	6	4.1
- 331	-	-	17	22	2	0.6		- 1905	-	-	56	43	12	15.1
- 156	-	-	21	16	3	0.7		- 1953	-	-	35	35	4	4.5
- 553	-	-	99	72	15	97.4		- 1923	-	-	31	35	9	6.1
- 1138	-	-	175	72	17	156.2	5586.125	- 1925	-	-	65	36	1	5.5
82	-	-	184	117	32	655.7		- 1950	-	-	31	37	2	2.1

第7表 石器観察表(5)

NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			度量	備考	NO.	出土位置	石質	大きさ (mm)			度量	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
83-526	SXQ60	白質	87	70	12	33.5		86-626	SXQ60	白質	28	38	4	2.5	
-1826	"	"	31	23	3	2.4		-564	"	"	34	29	3	6.6	
-966	"	"	33	25	7	6.1		-709	"	"	35	49	6	6.2	
-600	"	"	72	15	5	0.9		-40	"	"	16	29	3	6.8	
-601	"	"	77	51	14	36.3		-340	"	"	32	25	11	26.8	
-965	"	"	64	68	12	35.5		-806	"	"	5	33	5	1.2	
-883	"	"	22	19	5	1.1		-656	"	"	79	39	19	58.7	
-970	"	"	45	21	2	2.2		-1138	"	"	28	24	3	2.8	
-1059	"	"	60	71	16	32.0		-840	"	"	21	22	6	2.7	
-879	"	"	36	29	3	1.2		-118	"	"	90	68	13	66.8	
-797	"	"	66	71	12	74.4	GII-103	"	"	"	12	16	6	0.6	
-710	"	"	51	45	13	29.2	"	-1111	"	"	41	43	6	5.5	
-614	"	"	61	111	18	106.2	"	-664	"	"	28	33	8	5.9	
84	"	"	156	130	50	391.5		-1957	"	"	52	64	12	30.9	
-39	"	"	32	33	11	14.5		-872	"	"	45	33	8	6.1	
-72	"	"	38	36	9	7.4		-177	"	"	46	38	16	7.7	
-39	"	"	22	22	2	2.1		-1954	"	"	31	35	8	6.4	
"	MIE60	"	39	47	12	20.7		-334	"	"	48	38	29	18.2	
-71	SXQ60	"	29	25	5	4.1		-758	"	"	41	55	25	46.4	
-329	"	"	33	59	9	11.7		-763	"	"	55	68	22	56.1	
-15	"	"	37	44	6	15.5		-756	"	"	41	55	12	30.4	
-30	"	"	33	38	7	5.2		-850	"	"	39	32	10	13.2	
-21	"	"	26	29	5	2.9		-817	"	"	15	18	3	0.7	
-33	"	"	46	44	6	11.9		-828	"	"	23	35	9	5.9	
-325	"	"	36	25	6	4.1		-1055	"	"	22	27	5	3.1	
-38	"	"	37	32	7	7.1		-685	"	"	55	68	20	51.7	
-97	"	"	38	32	7	8.2		-758	"	"	68	69	17	17.9	
-45	"	"	25	49	6	4.6		-877	"	"	29	24	10	5.3	
-92	"	"	50	65	19	54.1		-1020	"	"	29	24	7	1.5	
-66	"	"	34	36	5	6.5		-802	"	"	70	65	30	76.0	
-138	"	"	19	18	5	1.1		-602	"	"	58	70	20	99.9	
-150	"	"	28	45	8	4.1		-924	SXQ103	"	25	37	8	7.7	
-22	"	"	54	58	11	34.1		-146	SXQ60	"	78	45	15	56.7	
-383	"	"	43	56	15	53.7		-142	"	"	32	7	4	0.6	
-37	"	"	45	45	16	48.6		-802	"	"	15	21	5	4.5	
-26	"	"	42	38	8	11.1		-802	"	"	14	14	4	0.6	
-30	"	"	22	33	5	2.9		-759	"	"	50	33	11	14.6	
85	"	"	182	168	68	1712.5		-1953	"	"	55	58	8	20.3	
-212	"	"	70	95	25	156.8		-1625	"	"	31	34	3	1.6	
-1008	"	"	11	15	5	1.8		-2135	"	"	25	64	10	20.0	
-187	"	"	31	35	11	2.8		-680	"	"	71	68	21	88.0	
-269	"	"	74	54	11	26.8		-876	"	"	21	45	11	6.4	
-914	"	"	20	56	18	22.9		-661	"	"	25	41	9	7.4	
-1012	"	"	16	28	5	1.2		-996	"	"	49	34	10	5.9	
-1007	"	"	31	30	11	5.7	87	"	"	190	122	49	596.5		
-915	"	"	35	25	8	4.0		-753	"	"	19	36	4	1.4	
-214	"	"	111	102	25	382.4		-609	"	"	37	29	4	3.6	
-1009	"	"	35	56	9	13.2		-198	"	"	78	44	3	24.7	
-216	"	"	95	87	23	198.6		-204	"	"	41	52	9	17.6	
-1013	"	"	33	54	12	18.2		-233	"	"	80	44	8	23.0	
-1011	"	"	34	45	6	7.9		-128	"	"	72	64	9	32.0	
-1012	"	"	23	48	10	10.2		-561	"	"	38	90	23	118.5	
-1008	"	"	20	22	5	1.2		-205	"	"	13	28	10	23.7	
-1010	"	"	76	33	7	14.2		-226	"	"	35	29	4	1.5	
-1001	"	"	38	42	10	10.9		-234	"	"	37	31	6	5.4	
-1047	"	"	22	30	6	6.2		-129	"	"	46	46	5	11.1	
-215	"	"	96	145	42	491.7		-228	"	"	72	52	4	14.4	
-217	"	"	145	127	42	587.5		-201	"	"	36	48	8	7.0	
86	"	"	207	181	68	999.1		-824	"	"	11	15	2	0.3	
-605	"	"	30	36	6	4.9		-780	"	"	14	21	3	1.5	
690	"	"	22	28	6	3.6		-219	"	"	44	48	6	10.1	

第8表 石器観察表(6)

NO.	出土位置	石器種類	大きさ (cm)			種類	NO.	出土位置	石器種類	大きさ (cm)			種類	種類	
			長	幅	厚					長	幅	厚			
87-205	SXQ60	石刀	25	19	5	4.4		89-121	SXQ60	石刀	10	33	4	1.2	
-782	"	"	32	19	5	2.3		-131	"	石刀	46	51	3	3.8	
-785	"	"	12	12	2	0.3		-147	"	石刀	42	33	6	9.5	
-117	"	"	38	38	6	7.6		-110	"	石刀	29	27	5	5.7	
-963	"	"	33	36	8	11.4		-93	"	石刀	26	23	3	1.5	
-969	"	"	28	15	5	4.8		-169	"	石刀	39	27	4	4.3	
-181	"	"	51	50	9	15.6		-94	"	石刀	38	22	4	2.8	
-240	"	"	19	36	2	6.5		-114	"	石刀	18	25	3	1.5	
-232	"	"	26	50	4	2.5		-91	"	石刀	29	36	3	1.8	
-901	"	"	31	39	9	4.1		-915	"	石刀	24	21	4	1.5	
-1026	"	"	30	43	12	8.7		-113	"	石刀	40	31	6	15.4	
-127	"	"	58	35	15	58.9		-111	"	石刀	29	36	4	5.3	
416	"	"	14	17	8	1.5		-97	"	石刀	11	22	3	0.3	
-965	"	"	57	47	6	25.6		-363	"	石刀	79	50	1	18.1	石刀 128
-223	"	"	48	33	7	5.6		-115	"	石刀	15	25	6	2.6	" 326
--2	"	"	38	51	5	9.8		-341	"	石刀	43	42	7	14.1	" 324
-902	"	"	40	60	15	29.5	90	"	"	石刀	16	56	66.6		
-222	"	"	56	34	17	24.9		-568	"	石刀	36	36	11	9.9	
-128	"	"	71	78	16	25.4		-569	"	石刀	32	33	8	9.8	
-523	"	"	28	14	9	1.9		-1159	"	石刀	13	13	1	26.6	
-195	"	"	81	35	14	26.0		-875	"	石刀	30	24	5	4.0	
-813	"	"	28	28	3	1.4		-893	"	石刀	22	23	10	19.7	
-415	"	"	28	22	7	4.6		-702	"	石刀	23	36	6	6.7	
-224	"	"	49	31	8	8.0		-683	"	石刀	32	27	12	12.4	
89	"	"	354	144	53	1504.2		-523	"	石刀	45	34	8	4.3	
-1255	"	"	45	53	9	18.3		-659	"	石刀	15	24	5	2.2	
-1253	"	"	78	91	12	88.1		-703	"	石刀	42	31	5	2.7	
-734	SXQ60	"	82	72	9	62.4		-686	"	石刀	21	27	11	4.3	
-688	SXQ60	"	88	77	18	83.1		-672	"	石刀	48	68	13	35.0	
-293	"	"	88	88	13	87.6		-652	"	石刀	19	36	20	23.4	石刀 115
-736	"	"	23	72	16	82.4		-659	"	石刀	25	55	26	95.9	" 115
-174	"	"	34	32	11	15.9		-613	"	石刀	46	61	6	20.6	" 115
-1171	"	"	95	68	15	94.5		-644	"	石刀	32	44	12	13.4	" 115
-300	"	"	90	54	14	65.5	91	"	"	石刀	122	74	26	109.1	
-169	"	"	50	30	12	37.5		-861	"	石刀	33	41	10	9.1	
-647	"	"	30	39	9	8.6		-871	"	石刀	23	22	4	1.0	
-323	"	"	90	104	23	188.0		-649	"	石刀	30	29	11	4.6	
-1356	"	"	98	80	10	41.6		-657	"	石刀	50	48	22	50.8	石刀 111
-294	"	"	63	60	13	46.9		-656	"	石刀	36	46	18	36.2	" 111
-726	"	"	78	72	16	76.9	92	"	"	石刀	16	96	6	47.2	
-898	"	"	81	80	17	103.1		-MA56	"	石刀	43	36	8	15.0	
-316	"	"	25	18	4	1.2		-1331	SXQ60	"	19	96	44	49.8	
-677	"	"	48	48	7	15.5		-1324	"	石刀	56	6	8	11.4	
-678	"	"	13	23	4	1.2	93	"	"	石刀	345	36	49	362.3	
-165	"	"	18	25	11	29.0		-651	"	石刀	42	35	11	12.3	
-121	"	"	105	63	20	84.1		-228	"	石刀	23	18	2	8.6	
-717	"	"	62	61	10	31.7		-586	"	石刀	36	24	6	4.4	
89	"	"	116	96	34	164.1		-532	"	石刀	39	36	8	8.8	
-86	"	"	65	61	6	18.9		-1352	"	石刀	43	36	7	11.0	
-113	"	"	16	25	3	1.4		-722	"	石刀	40	24	26	45.7	
-131	"	"	29	22	4	1.1		-748	"	石刀	23	23	4	1.9	
-85	"	"	38	31	3	0.1		-682	"	石刀	39	31	3	7.5	
115	"	"	8	34	4	0.9		-854	"	石刀	36	35	2	7.8	
-106	"	"	45	35	2	5.5		-729	"	石刀	23	36	6	4.5	
-137	"	"	22	22	2	1.2		-213	"	石刀	125	68	25	507.5	石刀 175
-110	"	"	15	19	2	0.4	94	"	"	石刀	31	29	29	146.6	
-101	"	"	18	22	3	1.6		-659	"	石刀	38	45	19	14.1	
-85	"	"	68	43	5	15.2		-650	"	石刀	32	45	6	8.2	
-134	"	"	43	36	5	9.5		-802	"	石刀	12	35	4	1.0	
-171	"	"	52	36	6	13.7		-1355	"	石刀	39	35	2	6.8	
-96	"	"	22	23	3	2.1		-176	"	石刀	33	32	25	144.4	石刀 118

第9表 石器觀察表(7)

No.	出土地點	石器	大きさ(cm)			種 類	No.	出土地點	位置	大きさ(cm)			種 類
			長	幅	厚					長	幅	厚	
95	SXQ69	石刀	144	56	36	171.7		SXQ69	W29	42	36	6	7.3
-1180	"	"	33	25	8	3.6				42	34	7	7.4
-721	"	"	39	21	9	8.9				36	25	4	1.3
-645	"	"	144	51	33	125.1	石刀	118		11	69	16	14.5
-861	"	"	16	16	1	1.1				11	23	8	5.1
96	"	"	885	129	96	1307.7				26	44	3	5.3
-81	"	"	48	39	15	41.9				17	23	3	1.6
-"	"	"	78	56	10	45.7				19	13	2	0.3
-"	"	"	62	49	13	27.0				22	25	4	1.7
-"	"	"	80	54	22	86.1				30	32	5	2.9
1216	"	"	94	26	16	45.5				25	26	5	1.8
-1165	"	"	16	29	8	6.4				8	36	3	0.9
-SP 1	"	"	27	35	6	2.9				21	18	4	1.7
-"	"	"	56	38	11	12.6				34	41	8	6.7
-1146	"	"	26	44	73	49.5				56	56	8	10.6
-841	"	"	160	108	94	1054.1				31	25	5	2.6
97	"	"	270	156	66	1259.8				29	36	4	1.5
-7	"	"	40	38	11	12.7				8	39	2	0.4
-24	"	"	31	182	23	91.4				16	16	2	0.4
-1186	"	"	63	105	25	74.8				36	36	5	3.4
-25	"	"	110	100	55	356.6				22	22	3	1.5
-42	SXQ69	"	162	156	58	712.9				19	38	2	0.8
98	SXQ69	"	126	93	44	125.6				13	16	2	0.4
-521	"	"	20	22	3	1.2	100			166	162	52	25.9
-243	"	"	88	48	4	8.5				18	19	3	0.5
-"	"	"	57	60	9	28.9	-901	"		30	21	5	5.3
-449	"	"	21	20	5	2.0	-384	"		24	22	4	1.7
-103	"	"	28	35	7	4.2	-200	"		55	46	13	24.0
-502	"	"	21	15	4	1.3	-901	"		46	38	5	5.9
-273	"	"	28	35	5	5.6	-964	"		53	29	4	5.4
-439	"	"	27	24	8	2.6	-221	"		37	21	3	1.8
-507	"	"	33	48	9	8.8	-230	"		37	21	3	2.1
-1122	"	"	76	76	30	27.2	-911	"		73	71	13	17.4
-466	"	"	22	22	3	1.0	-1993	"		56	44	2	10.9
-418	"	"	62	65	5	12.2	-225	"		20	25	5	1.5
-465	"	"	26	30	5	4.0	-982	"		59	53	10	20.9
-495	"	"	43	42	6	10.9	-941	"		33	28	6	4.1
99	"	"	199	136	38	241.0	-207	"		48	48	3	8.1
-1122	"	"	39	50	9	11.8	-417	"		16	29	2	0.8
-"	"	"	54	52	11	24.9	-235	"		35	35	5	7.6
-"	"	"	28	50	5	3.6	-972	"		37	35	4	15.6
-"	"	"	15	25	3	0.8	-969	"		41	37	13	25.9
-"	"	"	44	50	6	8.4	-254	"		19	25	5	2.5
-"	"	"	29	37	6	4.5	-184	"		41	44	2	13.1
-1115	"	"	27	27	4	1.8	-222	"		30	23	3	2.4
-1122	"	"	25	36	4	1.9	-498	"		37	46	8	14.6
-1122	"	"	28	45	7	6.3	-612	"		58	47	9	17.0
-"	"	"	26	31	8	6.4	-758	"		16	25	6	9.4
-"	"	"	25	26	4	1.5	-908	"		34	26	5	2.8
-"	"	"	25	36	9	12.5	-685	"		24	26	22	6.5
-"	"	"	29	35	4	1.1	-1916	"		42	42	5	13.5
-"	"	"	41	29	6	6.2	-706	"		15	31	8	1.5
-"	"	"	15	22	2	0.8	-690	"		35	36	6	6.0
-"	"	"	14	11	2	0.2	-759	"		16	27	30	20.2
-1119	"	"	67	55	10	31.1	-611	"		67	36	10	21.6
-1122	"	"	29	29	5	2.7	-613	"		36	18	10	1.3
-"	"	"	39	31	3	4.5	102	"		135	36	16	15.3

第10表 石器観察表(8)

NO.	地名	石器	大きさ(cm)			重量 (g)	種類	NO.	地名	大きさ(cm)			重量 (g)	種類
			長	幅	厚					長	幅	厚		
102-1	SXQ60	貝殻	77	57	6	22.9	100-457	SXQ60	貝殻	70	40	6	5.5	
-1	-	-	47	44	4	1.9	-100-9	-	-	63	58	6	19.1	
-2	-	-	38	38	6	2.6	-1033	-	-	47	43	6	5.5	
-3	-	-	43	43	6	1.7	-447	-	-	74	74	6	31.1	
-4	-	-	35	35	4	2.0	106	-	-	33	165	80	108.7	
-5	-	-	39	39	5	6.0	-870	-	-	39	42	12	12.8	
-6	-	-	11	10	2	0.2	-1084	-	-	29	25	10	8.8	
-7	-	-	39	39	5	6.0	-597	-	-	49	52	10	20.7	
-8	-	-	43	48	7	10.4	-299	-	-	38	57	6	24.2	
-9	-	-	29	15	5	2.7	-715	-	-	65	63	14	66.1	
-10	-	-	32	17	4	0.9	-603	-	-	58	65	13	22.8	
-11	-	-	29	32	5	3.4	-319	-	-	22	45	6	9.0	
-12	-	-	23	12	2	0.2	-558	-	-	22	44	17	14.5	
-13	-	-	21	18	3	0.9	-845	-	-	100	10	10	106.4	
-14	-	-	23	18	4	0.8	-673	-	-	39	56	13	40.3	
103	-	-	225	159	36	266.2	-324	-	-	131	117	25	439.4	
-266	-	-	73	37	15	57.7	-732	-	-	43	56	11	22.9	
-267	-	-	34	30	6	4.3	-718	-	-	114	40	15	313.5	
-1140	-	-	34	35	4	2.4	107	-	-	182	112	36	243.7	
-898	-	-	34	51	5	5.1	-288	-	-	46	36	11	11.9	
-1897	-	-	23	26	7	3.0	-102	-	-	37	61	8	11.6	
-429	-	-	40	18	4	2.3	-125	-	-	90	73	13	54.6	
-1044	-	-	92	85	5	14.6	-964	-	-	28	38	2	4.2	
-863	-	-	46	34	7	16.6	-897	-	-	25	25	12	42.3	
-885	-	-	67	48	11	29.5	-196	-	-	31	34	9	4.9	
-1028	-	-	70	55	6	24.6	-193	-	-	64	54	6	13.0	
-595	-	-	57	62	6	10.0	-971	-	-	51	65	6	19.9	
-1233	-	-	48	58	7	19.8	-973	-	-	48	39	2	7.2	
-379	-	-	38	27	8	5.3	-288	-	-	64	68	9	24.2	
-379	-	-	36	90	6	8.9	-560	-	-	79	68	11	50.5	
-588	-	-	24	22	5	1.7	108	-	-	159	96	42	393.7	
-236	-	-	65	123	8	53.0	-64	-	-	13	12	3	9.4	
-238	-	-	35	80	6	14.7	-331	-	-	31	16	4	1.5	
-246	-	-	66	34	6	6.7	-57	-	-	71	58	13	32.6	
-1094	-	-	119	95	17	58.3	100	-	-	27	29	5	2.1	
104	-	-	135	122	21	174.1	-77	-	-	13	26	3	1.7	
-65	-	-	29	43	8	5.0	-19	-	-	27	93	8	29.3	
-918	-	-	44	52	8	18.3	-157	-	-	61	76	7	15.6	
-327	-	-	57	48	8	16.5	-31	-	-	35	57	9	37.1	
-58	-	-	71	72	12	34.4	-71	-	-	26	22	3	1.2	
-149	-	-	32	49	6	5.8	-8	-	-	73	55	10	32.7	
-62	-	-	58	66	5	15.4	-72	-	-	91	53	11	30.0	
-21	-	-	25	22	4	1.6	-738	-	-	26	24	4	2.5	
-74	-	-	33	36	11	45.5	-102	-	-	65	68	13	36.1	
-526	-	-	95	85	7	27.4	-56	-	-	61	68	7	15.8	
105	-	-	236	158	23	222.9	-159	-	-	63	57	2	16.5	
-696	-	-	51	69	8	22.8	-328	-	-	75	76	16	32.4	
-387	-	-	17	49	4	2.6	-1	-	-	31	38	4	2.6	
-1265	-	-	72	56	7	25.7	-138	-	-	45	41	7	13.0	
-790	-	-	29	39	7	7.2	109-551	-	-	201	113	68	276.3	
-864	-	-	49	42	6	8.2	110-552	-	-	277	76	12	701.2	
-249	-	-	73	50	6	13.5	111	-	-	141	60	22	95.0	
-244	-	-	42	37	7	5.0	-657	-	-	50	48	22	50.3	
-998	-	-	64	73	8	25.9	-856	-	-	50	46	18	36.2	
-1743	-	-	80	61	8	14.6	112-211	-	-	168	34	20	348.6	
-MRS6	-	-	29	29	6	4.0	113	-	-	59	51	21	212.8	
-1243	SXQ60	-	67	49	7	14.1	-707	-	-	66	74	12	74.4	
-1319	-	-	24	34	3	1.7	-710	-	-	51	45	13	29.2	
-1247	-	-	38	35	5	7.4	-614	-	-	64	61	12	208.2	
-256	-	-	27	44	6	7.0	114	-	-	244	51	32	167.0	
-385	-	-	38	39	6	5.4	-721	-	-	23	31	9	8.9	

第11表 石器観察表(9)

No.	出土場所	石質	大きさ (cm)			重量 (g)	備考									
			長	幅	厚											
114-645	SXQ69	玄武岩	144	30	33	158.1	151-152	SXQ71	A12	59	30	14	18.2			
115	"	"	134	35	34	224.3	-	-	-	35	10	7	1.9			
-682	"	"	119	39	39	233.4	-	-	-	43	26	11	7.3			
-689	"	"	78	35	20	50.9	-	-	-	92	32	8	25.2			
-813	"	"	96	63	6	20.6	-	-	-	85	83	23	88.1			
-844	"	"	32	41	12	13.4	-	-	-	56	66	26	51.4			
116	"	"	125	76	36	201.9	-	-	-	26	19	6	3.0			
-616	"	"	72	76	31	176.9	-	-	-	74	79	23	17.7			
-596	"	"	71	64	21	225.0	-	-	-	79	68	17	92.5			
117-645-1	"	"	85	34	25	185.7	-	-	-	82	81	6	22.5			
118-176	"	"	82	62	23	114.4	-	-	-	80	85	38	177.0			
119-733	"	"	89	62	11	67.1	-	-	-	70	45	25	86.0			
120-1246	"	"	158	54	26	250.3	-	-	-	83	23	11	10.8			
121	"	"	106	73	23	259.7	-	-	-	45	50	5	15.3			
-133	"	"	117	72	17	154.3	-	-	-	38	35	4	3.8			
-553	"	"	99	71	15	87.4	-	-	-	74	61	29	72.3			
122-122	"	"	95	40	9	36.5	-	-	-	75	74	21	95.0			
123-362	"	"	99	42	8	14.1	-	-	-	68	60	12	42.4			
124	"	"	78	60	10	34.2	-	-	-	38	13	6	1.5			
-363	"	"	26	58	7	18.1	-	-	-	75.97	SXQ66	-	37	25	10	6.5
-115	"	"	15	35	6	2.0	-	-	-	24.7	SXQ71	-	14	23	8	9.1
-341	"	"	43	42	7	14.1	-	-	-	24.3	"	-	80	32	19	71.0
125	"	"	76	35	7	14.6	-	-	-	22.0	SXQ66	-	15	28	4	1.1
-1224	"	"	34	21	6	4.2	-	-	-	1.86	SXQ71	-	14	45	11	22.1
-1778	"	"	46	30	5	10.6	-	-	-	9.22	"	-	51	53	10	24.6
126-29	"	"	59	25	11	34.4	-	-	-	22.0	"	-	43	26	7	9.6
127-554	"	"	111	41	17	84.2	-	-	-	3.55	"	-	34	43	17	12.0
128-1143	"	"	105	56	19	39.1	-	-	-	75.27	SXQ66	-	57	45	8	19.7
129	"	"	149	54	18	133.9	-	-	-	2.8	SXQ71	-	88	59	20	85.0
-605	"	"	78	32	16	92.0	-	-	-	1.59	"	-	45	37	7	7.2
-181	SXQ69	"	65	51	5	49.0	-	-	-	3.12	"	-	35	28	6	2.0
130-	SXQ66	"	108	68	31	192.5	-	-	-	1	"	-	74	26	14	32.2
131-374	"	"	181	54	27	233.7	-	-	-	3.7	"	-	47	70	18	54.7
132-1239	"	"	91	58	8	46.9	-	-	-	7.0	"	-	71	58	11	23.5
133-163	"	"	92	36	8	16.9	-	-	-	2.13	"	-	64	32	31	119.7
134-37	"	"	87	39	11	24.1	-	-	-	2.91	"	-	38	32	16	36.5
135-686	"	"	114	66	21	104.7	-	-	-	4.5	"	-	113	55	29	128.5
136-589	"	"	77	20	19	71.1	-	-	-	2.1	"	-	39	41	32	127.7
137-213	"	"	105	60	20	287.5	152	"	-	-	156	120	54	431.9		
128-629	"	"	127	36	24	142.6	-	-	-	2.05	"	-	23	27	4	2.4
139-190	"	"	95	52	18	55.1	-	-	-	2.43	SXQ66	-	40	31	8	11.2
140-1198	"	"	82	47	14	41.3	-	-	-	2.22	SXQ71	-	28	38	4	4.5
141-373	"	"	137	60	16	92.2	-	-	-	2.0	"	-	56	43	14	76.5
142-78	"	"	81	50	12	27.3	-	-	-	2.54	SXQ66	-	36	26	6	4.1
143-951	"	"	47	55	6	19.8	-	-	-	2.52	SXQ71	-	30	56	8	10.5
144-88	"	"	108	72	16	104.0	-	-	-	1.58	"	-	37	35	9	8.6
145-26	"	"	359	68	35	299.1	-	-	-	2.81	"	-	56	44	7	11.0
146-652	"	"	44	94	18	70.3	-	-	-	2.69	"	-	56	57	9	23.5
147-1992	"	"	116	55	17	58.2	-	-	-	1.45	"	-	25	16	3	0.9
148-66	"	"	511	258	76	1160.0	-	-	-	3.26	"	-	22	27	6	7.2
149	"	"	95	82	22	182.6	-	-	-	1.18	SXQ66	-	28	25	6	3.6
-218	"	"	97	61	20	77.1	-	-	-	2.62	"	-	42	44	11	16.7
-235	"	"	75	55	33	35.5	-	-	-	2.77	SXQ71	-	35	49	5	9.4
150-6913	"	"	361	102	92	2519.9	-	-	-	3.04	"	-	33	38	10	9.5
151	SXQ71	RWY	275	141	48	1828.3	-	-	-	2.59	SXQ66	-	57	26	11	7.7
-151	"	"	50	51	8	18.0	-	-	-	1.60	SXQ71	-	15	16	7	1.4
-154	"	"	38	37	21	23.0	-	-	-	1.26	"	-	24	25	8	3.1
-116	SXQ66	"	28	18	7	2.4	-	-	-	1.75	"	-	18	16	7	1.9
-241	SXQ71	"	49	34	11	22.1	-	-	-	2.76	"	-	69	64	12	26.9
-68	"	"	65	64	15	17.3	-	-	-	1.95	"	-	49	39	5	10.6
61	"	"	82	48	26	99.5	-	-	-	51	"	-	18	23	6	3.1

第12表 石器観察表(10)

N.O.	出土状況	石質	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	N.O.	出土状況	石質	大きさ(cm)			重量 (g)	備考	
			長	幅	厚						長	幅	厚			
152-322	SXQ71	西25	49	21	6	6.2		154-72	SXQ71	西25	66	42	16	45.5	石器 151	
- 17	-	-	43	20	3	14.5	-	- 62	-	-	45	32	12	37.5	- 163	
- 259	-	-	38	24	7	9.6	-	- 194	-	-	35	18	2	0.5	- 163	
- 333	-	-	39	25	7	9.7	-	- 58	-	-	70	60	17	167.2	- 163	
- 192	-	-	31	20	6	10.4	-	- MD59	-	-	58	38	10	18.6	- 163	
- 5	-	-	29	25	7	4.9	-	- 583	SXQ36	-	-	59	38	10	158.8	- 163
- 125	-	-	32	27	6	5.5	155	SXQ71	-	-	156	36	10	120.6		
- 48	-	-	27	26	19	43.0	石器 152	- 212	-	-	23	19	4	2.9		
-	-	-	38	26	6	16.4	-	- 163	-	-	33	23	3	0.7		
- 110	SXQ36	-	47	26	5	8.1	-	- 210	-	-	94	47	22	45.2	石器 164	
- 315	SXQ71	-	61	40	6	5.7	-	- 488	SXQ36	-	-	83	35	14	28.8	
- 309	-	-	43	19	12	16.4	-	156	SXQ71	-	-	78	29	19.8		
- 65	SXQ36	-	38	47	17	55.4	-	- 302	-	-	72	56	16	50.1		
153	SXQ71	-	171	38	16	33.9	-	- 237	-	-	58	36	11	43.2		
- 12	-	-	42	50	12	25.1	-	- 330	-	-	36	32	6	6.2		
- 9	-	-	39	25	11	6.4	-	- 381	-	-	49	25	7	5.1		
- 96	SXQ36	-	32	49	6	5.9	-	-	-	-	25	21	6	2.7		
- 132	SXQ36	-	22	29	4	1.3	-	- 204	-	-	36	46	6	11.0		
- 124	SXQ71	-	32	38	6	1.5	-	- 117	-	-	15	23	2	0.8		
- 328	-	-	37	38	15	31.1	157	-	-	-	105	77	32	334.2		
- 22	-	-	24	19	2	0.8	-	- 92	-	-	27	43	6	5.8		
-	-	-	53	38	10	28.0	-	- 143	-	-	22	18	3	1.4		
- 111	SXQ71	-	25	51	7	18.1	-	-	SXQ36	-	-	17	21	7	2.4	
- 218	-	-	45	61	10	25.1	石器 159	- 319	SXQ71	-	-	30	37	5	3.7	
- 60	-	-	30	33	33	19.3	-	-	SXQ36	-	-	31	13	4	0.8	
154	-	-	24	34	42	56.5	-	- 56	SXQ71	-	-	111	75	25	204.5	
- 237	SXQ36	-	47	65	13	33.0	-	- 614	SXQ71	-	-	84	59	20	71.7	
- 156	SXQ71	-	43	33	8	11.4	-	- 279	SXQ71	-	-	58	62	16	44.1	
- 254	-	-	49	26	10	10.6	158	-	-	-	267	134	36	153.2		
- 54	-	-	31	32	4	2.4	-	- 682	SXQ117	-	-	16	34	2	1.1	
- 175	SXQ36	-	38	27	3	3.0	-	- 273	SXQ71	-	-	51	56	11	21.2	
- 164	-	-	40	45	10	12.4	-	- 63	SXQ26	-	-	36	45	10	14.4	
- 11	SXQ71	-	50	40	8	11.6	-	- 297	SXQ71	-	-	67	65	17	62.6	
- 154	-	-	25	32	2	6.5	-	- 107	SXQ36	-	-	41	25	3	3.2	
- 18	-	-	43	43	8	10.6	-	- 7801	-	-	20	26	3	1.9		
- 57	-	-	45	50	7	11.5	-	- 157	SXQ71	-	-	48	37	10	13.2	
-	-	-	38	48	8	7.5	-	- 201	-	-	56	26	11	26.2		
-	-	-	31	38	4	3.6	-	- 74	SXQ36	-	-	25	36	5	2.7	
- 78	SXQ71	-	30	36	6	5.3	159	SXQ71	-	-	145	108	36	273.3		
- 289	-	-	43	50	10	19.3	-	- 126	-	-	39	30	8	6.6		
- 222	SXQ36	-	7	15	2	0.2	-	- 15	-	-	59	55	10	25.0		
- 278	SXQ36	-	18	17	3	0.8	-	- 112	-	-	37	42	8	9.3		
- 624	SXQ117	-	21	21	5	1.6	-	- 265	-	-	27	44	4	4.2		
- 176	SXQ36	-	21	30	3	1.9	-	- 264	-	-	15	11	3	0.5		
- 282	-	-	13	25	5	1.2	-	- 227	-	-	68	80	10	31.0		
- 241	-	-	19	20	3	2.0	-	- 306	-	-	87	70	12	59.4		
- 295	SXQ71	-	58	68	9	25.4	-	- 238	-	-	15	13	5	0.8		
- 7	-	-	42	43	7	8.6	-	- 276	-	-	35	52	8	12.4		
- 336	-	-	23	29	3	2.2	-	- 188	-	-	18	20	3	1.9		
- 278	-	-	28	31	6	4.1	-	- 183	-	-	-	-	-	-		
- 221	SXQ36	-	19	13	2	0.7	-	- 2	-	-	60	25	2	14.5		
- 93	-	-	25	36	4	8.0	-	- 266	-	-	47	65	7	46.6		
- 265	SXQ71	-	30	35	3	2.3	-	- 123	-	-	33	32	4	4.0		
- 329	-	-	41	41	4	4.9	-	- 142	-	-	36	26	3	3.5		
- 153	SXQ36	-	25	20	5	1.6	-	- 67	-	-	75	52	5	0.9		
-	-	-	41	36	6	9.4	-	- 47	-	-	37	44	9	11.6		
-	-	-	26	23	3	1.4	-	- 199	-	-	36	45	9	11.2		
- 174	SXQ36	-	21	23	3	1.6	-	- 13	-	-	52	61	9	18.3		
- 22	-	-	18	16	2	0.9	-	- 272	-	-	49	32	5	5.4		
- 66	-	-	18	47	2	0.8	-	- 159	-	-	72	16	4	2.0		
- 284	SXQ71	-	18	17	2	0.5	160	-	-	-	90	32	36	214.4		

第13表 石器観察表(11)

NO.	出土高さ	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	特徴	NO.	出土高さ	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	備考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
160-218	-	SXQ11	47	15	10	25.1		165-569	SXQ11	47	19	25	8	1.2	
- 66	-	"	50	15	10	23.3		- 73	SXQ11	-	29	18	2	1.6	
161	-	"	144	15	47	303.6		- 105	"	-	14	27	2	6.8	
- 291	-	"	31	12	10	26.5		- 3	"	-	32	22	4	4.2	
- 45	-	"	113	15	10	128.6		- 267	"	-	25	24	4	1.6	
- 21	-	"	39	14	10	127.7		- 154	"	-	34	20	4	5.2	
162	-	"	132	14	10	127.9		- 149	"	-	29	27	4	2.4	
- 48	-	"	73	14	10	61.9		- 150	"	-	20	19	3	2.5	
-		MDS9	28	16	6	10.4		- 82	"	-	23	17	6	1.6	
- 116	SXQ10	"	47	15	5	6.1		- 120	"	-	43	27	8	0.4	
- 315	SXQ11	"	43	15	5	6.7		- 862	SXQ11	-	32	21	5	2.7	
- 309	"	"	43	15	5	6.7		- 852	"	-	19	20	8	0.4	
- 65	SXQ10	"	35	17	17	51.4		- 64	SXQ10	-	65	34	16	60.0	
163	-	SXQ11	225	63	38	307.9		- 60	"	-	29	22	5	2.2	
- 72	-	"	66	42	18	45.5		- 172	"	-	22	22	2	1.9	
- 62	-	"	49	37	22	21.5		- 72	"	-	32	38	11	19.7	
- 194	-	"	15	18	2	0.5		- 79	"	-	39	32	5	4.3	
- 59	-	"	70	16	17	101.2		- 245	"	-	89	73	26	171.5	635 171
-		MDS9	58	38	19	18.0		- 72	"	-	79	32	16	173.5	- 171
- 553	SXQ10	"	101	59	25	158.8	167	"	-	138	104	50	403.2		
164	-	SXQ11	154	45	27	124.1		- 76	"	-	20	15	4	0.6	
- 210	-	"	91	62	22	95.3		- 354	SXQ10	-	83	67	12	78.7	635 171
- 469	SXQ10	"	67	40	14	31.8		- 92	SXQ10	-	25	6	3	0.2	
165	-	SXQ10	127	122	59	586.5		- 158	"	-	34	40	7	8.1	
- 115	-	"	83	97	5	3.8		- 37	"	-	24	25	2	1.6	
- 168	-	"	34	15	3	1.8		- 217	"	-	21	22	4	2.0	
- 124	-	"	109	70	13	16.9		- 97	"	-	39	27	2	1.5	
- 130	-	"	43	42	6	9.8		- 139	"	-	36	42	4	2.6	
- 83	-	"	41	33	8	6.4		- 186	"	-	19	25	3	0.9	
- 160	-	"	56	55	11	22.2		- 110	"	-	21	12	6	1.7	
- 155	-	"	70	87	13	58.6		- 197	"	-	16	19	3	0.7	
- 271	-	"	33	43	7	8.2		- 31	"	-	19	34	2	1.7	
- 177	-	"	56	35	7	6.9		- 34	"	-	14	39	1	0.7	
- 248	-	"	52	60	7	16.2		- 210	"	-	15	39	4	1.2	
- 193	-	"	68	79	5	4.7		- 127	"	-	31	21	7	2.8	
- 141	-	"	40	26	4	3.9		- 45	"	-	37	25	3	2.9	
- 53	-	"	51	28	5	4.2		- 74	"	-	29	22	1	0.8	
- 81	-	"	53	29	7	18.1		- 236	"	-	17	21	3	1.7	
- 76	-	"	63	33	4	4.3		- 116	"	-	22	24	5	1.8	
- 198	-	"	52	41	11	25.6		- 141	"	-	41	22	3	0.8	
- 189	-	"	42	37	4	9.1		- 16	"	-	79	52	10	46.1	
- 103	-	"	57	56	8	16.4		- 79	"	-	15	28	6	1.5	
- 63	-	"	45	21	8	11.4		- 89	"	-	21	19	2	0.4	
- 212	-	"	54	39	13	25.3		- 8	"	-	11	28	20	0.6	
- 178	-	"	30	21	7	3.8		- 188	"	-	24	25	2	3.4	
- 86	-	"	79	56	3	9.7		- 133	"	-	58	48	8	18.8	
- 219	-	"	18	21	9	2.4		- 252	"	-	48	43	7	5.9	
- 175	-	"	41	26	5	5.5		- 192	"	-	24	49	11	6.8	
- 126	-	"	55	27	7	20.4		- 173	"	-	22	29	6	3.2	
- 114	-	"	34	35	10	7.8		- 231	"	-	35	38	3	1.6	
- 168	-	"	48	43	8	12.2		- 2	"	-	36	48	3	1.2	
- 67	-	"	41	31	7	1.7		- 82	"	-	13	21	1	0.2	
- 266	-	"	38	25	6	3.8		- 872	SXQ11	-	48	32	5	6.5	
- 193	-	"	29	19	1	1.2		- 175	SXQ10	-	29	11	2	0.5	
- 184	-	"	33	34	1	1.2		- 197	"	-	17	11	3	0.7	
- 153	-	"	99	59	16	106.5	170	- 22	SXQ10	-	75	67	15	97.2	635 171
166	-	"	166	82	42	492.7		- 1	"	-	69	96	16	64.5	- 171
- 161	-	"	35	36	5	1.2		168	"	-	75	29	30	208.7	
- 154	-	"	25	28	8	2.2		- 663	SXQ11	-	68	36	16	41.2	
- 32	-	"	57	42	3	7.6		- 162	SXQ10	-	35	45	5	6.4	
- 203	-	"	21	32	6	2.9		41	"	-	19	26	5	2.0	

第14表 石器觀察表(12)

NO.	出土位置	石器	大きさ (cm)			重さ (g)	種類	No.	出土位置	石器	大きさ (cm)			重さ (g)	種類
			長	幅	厚						長	幅	厚		
168-28	SXQ05	鉄鋸	59	27	16	18.8		193-56	SXQ099	鉄鋸	149	74	29	175.6	
-21	-	-	35	25	10	5.7		194-587	-	-	203	89	33	486.5	
-27	-	-	27	24	9	5.3		195-315	-	-	278	81	25	258.6	
-298	SXQ06	-	29	36	15	13.4		196-131	-	-	199	58	23	143.2	
-18	SXQ05	-	19	35	8	6.3		197-538	-	-	156	72	25	256.1	
-203	SXQ06	-	41	60	23	141.0		198-568	-	-	90	36	8	35.8	
169	-	-	35	107	26	153.5		199-735	-	-	113	53	19	186.5	
-17	-	-	50	36	10	11.1		200-182	-	-	78	57	26	76.0	
-102	SXQ06	-	53	68	7	13.2		201-651	-	-	125	84	26	218.6	
-273	SXQ05	-	37	48	12	13.3		202	-	-	66	15	15	78.6	
-74	-	-	29	32	6	2.2		-224	-	-	17	55	10	22.7	
-47	-	-	30	25	5	2.7		-226	-	-	71	39	8	41.1	
-58	-	-	38	17	5	2.5		203-295	-	-	131	83	37	228.5	
-39	-	-	44	56	8	18.1		204-18	-	-	141	77	17	141.1	
-243	-	-	43	67	7	2.9		205-782	-	-	161	77	42	436.9	
-137	-	-	39	26	5	4.2		206	SXQ017	鉄鋸	119	216	112	102.2	
-121	-	-	46	44	9	11.6		-240	-	-	22	15	7	1.5	
-6	-	-	38	54	2	30.1		-219	-	-	16	17	6	1.2	
-182	-	-	37	45	11	15.1		-234	-	-	37	15	23	32.6	
-114	-	-	45	58	9	14.4		-404	-	-	18	14	5	1.4	
170-158	-	-	99	10	30	160.5		-527	-	-	89	72	32	186.4	
171	-	-	102	72	36	165.6		-	M107	-	24	38	13	13.8	
-243	-	-	69	73	26	173.9		-235	SXQ017	-	34	49	8	21.6	
-72	-	-	79	73	26	178.7		-220	-	-	24	25	4	3.3	
172	-	-	105	68	21	168.7		-224	-	-	36	33	7	3.1	
-22	SXQ06	-	75	67	15	35.7		-2176	SXQ06	-	79	61	19	88.5	鉄鋸 220
-1	-	-	69	66	18	8.5		-412	SXQ017	-	56	38	16	64.6	
173-13	SXQ05	-	19	16	4	0.9		-235	-	-	63	48	14	20.4	
174-354	SXQ06	-	108	77	27	79.3		-339	-	-	61	35	11	20.6	
175	SXQ05	鉄鋸	95	65	41	265.4		-231	-	-	47	21	22	10.5	
-42	-	-	45	41	45	268.8		-414	-	-	58	97	15	94.6	
-216	-	-	32	36	38	80.1		-229	-	-	59	92	24	86.2	
176-765	SXQ07	鉄鋸	172	65	21	227.3		-406	-	-	63	68	13	54.3	
177-14	SXQ09	-	72	72	12	40.1		-234	-	-	52	60	36	56.1	
178-13	-	鉄鋸	68	81	45	308.3		-225	-	-	54	39	32	46.6	
179	SXQ06	鉄鋸	159	117	48	268.8		-223	-	-	64	36	11	31.8	
-88	-	-	57	67	25	80.3		-415	-	-	20	24	6	2.4	
-401	SXQ06	-	96	96	45	352.3		-508	-	-	41	27	9	8.6	
-402	-	-	77	92	43	368.0		-532	-	-	24	28	7	1.6	
-403	-	-	92	89	29	141.7		-222	-	-	78	31	14	69.8	
-584	-	-	55	42	17	24.5		-526	-	-	47	44	13	21.6	
180-351	SXQ05	-	64	41	17	36.2		-490	-	-	53	79	18	36.3	
181-255	-	-	73	36	36	62.2		-232	-	-	59	42	9	25.1	
182-35	SXQ03	-	72	38	18	14.5		-	SK38	-	25	21	6	5.9	
183-20	-	-	97	54	16	43.1		207	-	-	93	54	27	96.8	
184	SXQ08	-	105	102	69	1296.4		-490	-	-	79	44	16	76.0	
-228	-	-	55	65	12	31.1		-187	-	-	60	58	25	14.0	
-798	-	-	68	72	21	86.6		208-258	-	-	100	97	56	605.1	
-643	-	-	105	143	69	1126.9		209-254	-	-	94	51	23	86.6	
185-798	-	-	90	82	61	634.7		210-289	SQ04	-	102	87	28	175.0	
186-609	-	-	76	152	67	876.4		211-326	-	-	68	62	11	23.9	
187-293	-	-	108	80	34	471.7		212-273	-	-	76	49	19	46.1	
188-643	-	-	105	141	60	1128.0		213-266	-	-	78	33	17	41.2	
189-650	-	-	271	100	79	2073.0		214-247	RXQ017	-	63	36	15	32.3	
190	-	-	150	82	72	522.5		215-288	SQ05	-	54	72	18	31.8	
-415	-	-	108	99	27	328.5		216-273	-	-	10	53	16	46.5	
-835	-	-	75	99	24	195.8		217-76	SXQ017	-	31	42	19	78.4	
191-652	-	-	176	144	44	653.8		218-364	-	-	105	96	15	100.0	
192	-	-	151	82	24	265.5		219-337	-	-	119	94	28	138.5	
-316	-	-	147	31	23	256.9		220-5176	SXQ06	-	79	81	19	80.5	
-	-	-	79	80	8	6.6		221	SXQ025	-	97	78	42	74.9	

第15表 石器類別表(13)

No.	古文書	石器	大きさ(cm)			種 類	No.	出土古文書	石器	大きさ(cm)			種 類	
			長	幅	厚					長	幅	厚		
221-	MCGP	石刀	55	41	8	6.5	235	SXQ15	圓筒	369	121	10	208.9	
-	SXQ123	-	48	32	15	10.1	-	SXQ91	-	67	101	13	35.5	
-	MCGP	-	50	55	2	15.1	-	SXQ15	-	21	121	75	226.1	
-	SXQ123	-	55	45	5	9.0	-	SXQ15	-	24	16	5	1.4	
-	-	-	49	52	7	11.4	-	SXQ91	-	29	22	3	2.8	
222	-	-	222	105	65	42.9	-	SXQ91	-	67	26	9	12.1	
-	-	-	56	118	29	30.8	-	-	-	65	24	10	13.2	
-	-	-	63	89	9	30.5	-	-	-	25	13	4	8.9	
-	-	-	101	110	15	35.8	-	SXQ91	-	76	74	9	45.2	
-	-	-	34	99	24	32.8	-	SXQ15	-	125	38	8	4.0	
223	3	SXQ121	42	39	8	8.3	-	SXQ91	-	49	157	15	688.3	
224-2	-	-	102	21	11	22.4	-	SXQ91	-	72	123	21	228.5	
225	-	SXQ123	122	45	23	13.0	-	SXQ91	-	78	24	8	83.0	
226-	-	-	46	35	11	12.7	-	中細	-	67	64	10	50.1	
227	-	-	85	51	17	52.9	-	SXQ91	-	56	77	14	67.6	
228-	-	-	108	67	17	52.6	-	SXQ91	-	66	68	10	55.1	
229-	-	-	54	128	10	52.1	-	SXQ125	-	46	45	14	52.4	
230-	-	-	137	65	47	306.6	-	SXQ91	-	58	58	8	23.8	
231-	-	-	105	97	26	172.4	-	SXQ91	-	30	94	8	12.5	
232	-	SXQ123	243	159	99	276.0	-	SXQ91	-	62	131	17	224.6	
-593	-	SXQ91	119	143	55	82.9	-	中細	-	89	70	17	32.5	
-121	-	-	50	31	10	15.0	-	SXQ91	-	28	14	4	1.1	
-	-	SXQ123	14	49	4	2.9	-	SXQ91	-	50	29	13	9.5	
-	-	MBGT	27	17	7	2.1	-	-	-	26	45	7	5.8	
-	-	-	52	51	11	26.5	-	SXQ91	-	40	45	11	12.8	
-	-	SXQ121	56	64	17	32.4	-	SXQ91	-	20	57	12	96.9	
-	-	-	11	64	32	27.1	-	SXQ91	-	35	35	19	36.9	
-	-	-	15	23	4	1.3	-	SXQ91	-	74	31	16	37.4	
-	-	-	11	11	2	0.3	-	SXQ125	-	49	36	14	15.0	
-	-	-	74	21	14	30.1	-	SXQ91	-	13	22	3	9.7	
-	-	-	15	19	3	8.8	-	SXQ91	-	51	28	7	7.8	
-	-	-	10	122	26	24.6	-	SXQ91	-	81	60	24	100.2	
-	-	-	50	25	14	17.6	-	SXQ125	-	36	27	7	6.5	
-	-	-	71	60	21	42.6	-	SXQ91	-	39	41	9	11.4	
-	-	-	40	21	12	6.7	-	SXQ125	-	39	32	7	5.3	
-	-	MOST	34	42	14	27.1	-	SXQ91	-	20	24	4	1.3	
-	-	-	51	33	9	11.1	-	SXQ91	-	39	22	4	3.6	
-	-	SXQ91	95	48	11	21.0	-	SXQ91	-	35	35	3	3.4	
-	-	MBGT	45	26	12	7.7	-	SXQ91	-	54	61	3	5.8	
-	-	-	32	24	12	8.6	-	SXQ91	-	64	29	7	16.1	
-	-	-	61	36	12	18.1	-	SXQ125	-	61	60	17	186.0	
-	-	SXQ123	35	23	3	1.0	-	SXQ125	-	41	21	2	4.2	
-	-	-	66	29	19	14.4	-	SXQ91	-	17	41	7	16.0	
-	-	-	46	48	12	23.9	-	SXQ91	-	36	52	8	36.2	
-	-	-	52	15	5	5.4	-	SXQ91	-	35	51	14	25.3	
-	-	-	45	98	12	38.6	-	SXQ91	-	30	29	10	3.8	
-	-	-	29	98	5	7.0	-	SXQ125	-	24	19	4	1.6	
-	-	MOST	41	39	6	6.3	-	SXQ91	-	72	136	15	268.7	
-	-	-	10	24	2	0.8	-	SXQ91	-	21	39	11	14.9	
-	-	-	27	38	8	4.3	-	SXQ91	-	36	111	16	111.3	
-	-	MASB	28	43	42	17.9	-	SXQ91	-	36	75	4	4.2	
-	-	SXQ91	50	94	26	162.7	-	SXQ91	-	92	38	9	18.1	
-	-	SXQ123	134	124	50	666.3	-	SXQ91	-	42	35	4	4.1	
233	-	-	177	105	56	449.0	-	SXQ91	-	40	79	8	4.1	
1288	-	SXQ91	53	54	35	162.7	-	MBGT	-	52	38	5	7.9	
-	-	SXQ123	131	124	50	666.3	-	-	-	44	61	9	11.0	
234	-	SXQ125	265	79	40	366.5	-	SXQ91	-	53	27	4	1.7	
-67	-	-	40	53	17	26.6	-	SXQ91	-	41	22	6	2.9	
-233	-	SXQ91	125	26	37	366.2	-	SXQ91	-	26	34	4	3.4	
-11	-	SXQ125	26	26	8	7.5	-	SXQ91	-	20	24	6	2.5	
-368	-	SXQ91	29	56	25	73.7	-	SXQ91	-	54	58	5	12.0	

第16表 石器観察表(14)

NO.	出土位置	石質	大きさ (cm)			重さ (g)	備考
			長	幅	厚		
235-11	SXQ125	青銅	23	41	7	5.4	
-308	SXQ91	13	22	5	1.4		
-11	SXQ125	*	46	6	15.7		
-35	*	22	21	3	1.5		
-35	*	19	13	4	1.4		
-35	*	42	20	5	8.4		
-309	SXQ91	17	38	4	6.6		
-35	SXQ125	*	42	38	12	31.7	
-35	*	42	34	5	9.8		
-35	*	13	22	4	6.6		
-35	*	23	19	5	2.8		
-321	SXQ91	*	36	36	2.1		
-25	SXQ125	*	28	21	3		
-33	*	16	15	3	9.6		
-326	SXQ91	*	58	47	3	9.1	
-325	*	41	48	0	11.4		
-326	*	13	21	4	9.9		
-35	SXQ125	*	91	24	5	9.7	
-272	SXQ91	*	38	38	8	1.6	
-390	*	23	22	3	1.3		
-391	*	38	51	10	16.5		
-5中略	SXQ125	*	45	69	11	18.0	
-36	*	58	58	10	19.8		
-323	SXQ91	*	36	30	7	6.8	
-54	*	18	17	4	9.6		
-299	*	27	27	3	2.1		
-315	*	9	46	9	48.6		
-11	*	79	32	6	12.4		
-11	*	32	27	6	6.1		
-11	*	11	17	3	0.4		
-11	*	35	35	6	3.8		
-195	SXQ91	*	58	58	5	14.5	
-35	SXQ125	*	17	14	2	0.9	
-324	SXQ91	*	49	52	5	13.6	
-323	*	41	50	7	12.1		
-35	SXQ125	*	41	38	4	3.8	
-35	*	39	46	9	9.2		
-398	SXQ91	*	58	35	4	2.1	
-5中略	SXQ125	*	68	61	10	36.0	
-328	SXQ91	*	35	42	6	6.6	
-392	*	33	34	9	4.3		
-35	SXQ125	*	19	38	8	4.3	
-5中略	*	32	37	12	26.3		
-35	*	24	21	4	1.1		
-175	SXQ91	*	47	26	2	7.5	
-93	SXQ125	*	13	24	2	0.6	
-195	SXQ91	*	55	47	7	14.2	
-35	SXQ125	*	45	39	50	12.6	
-35	*	45	36	4	3.4		
-543	SXQ90	*	36	21	8	2.5	
-35	SXQ125	*	26	27	4	2.5	
-67	*	48	58	17	28.5	6188 256	
-233	SXQ91	*	125	71	37	502.4	
-11	SXQ125	*	39	32	8	7.9	
-368	SXQ91	*	78	58	28	73.7	= 236
236-28	SXQ125	*	80	75	48	106.6	
237-1	SQ94	木炭	102	56	15	32.2	
238-21	SQ93	木炭	138	95	47	788.4	
239-1	SQ93	*	65	122	50	1205.4	
240-5	SQ90	木炭	58	28	7	4.6	
241-1	SQ93	*	35	49	13	33.2	
						- 7.9	
						- 82	56 26 91.1

第17表 石器觀察表(15)

NO.	出土位置	石器	大きさ (cm)			種類	NO.	出土位置	石器	大きさ (cm)			重量 (g)	種類	
			長	幅	厚					長	幅	厚			
272- 64	SXQ73	石器	24	30	5	3.4		282- 69	SXQ80	石器	10	30	1	5.2	
-759	-	-	26	24	4	1.5		-614	-	42	50	3	16.0		
-721	-	石器	23	35	6	6.1		-615	SXQ80	石器	50	10	17	41.2	石器
-85	-	-	47	50	12	25.6		-1124	-	64	44	17	56.2	-	
-86	-	-	41	81	20	23.5		284	-	120	109	26	42.1		
-176	SXQ80	石器	15	30	25	15.2	石器	-896	SXQ80	石器	28	25	5	2.9	
-177	-	-	53	50	21	26.7	-	-976	-	31	20	11	5.8		
-188	-	-	50	119	23	115.0	-	517	-	20	30	7	5.6		
-748	SXQ73	石器	29	24	18	1.8	-	-73	-	30	18	6	8.7		
273	-	-	170	89	45	54.6		-	-	15	30	4	1.2		
-522	-	-	45	21	6	7.8		-1088	-	122	109	26	106.5		
-491	-	-	16	20	5	1.5		285-457	-	77	44	35	79.9		
-449	-	-	16	31	6	7.4		286	-	57	56	14	43.9		
-137	-	-	45	62	14	21.2		-813	-	57	38	11	23.2		
-32	-	-	103	83	43	275.9	石器	-308	-	49	38	8	16.0		
-200	SXQ80	石器	39	44	8	8.9		287-164	-	192	10	17	180.5		
-508	SXQ73	石器	58	61	17	7.6		288- 36	-	84	56	21	96.5		
-102	-	-	37	35	8	5.4		289	SXQ80	-	298	140	36	116.9	
-433	SXQ73	石器	37	25	16	6.9		-1320	-	34	48	19	11.8		
-609	-	-	18	53	7	5.8		-848	-	27	37	6	4.3		
-592	-	-	19	46	8	6.7		-170	-	32	42	5	4.9		
-181	SXQ80	石器	93	71	28	195.0	石器	-1508	-	12	48	3	2.5		
274	SXQ73	石器	113	74	39	155.4		-1233	-	50	92	8	24.3		
-835	-	-	14	22	4	1.9		-1713	-	19	22	5	2.0		
-291	-	-	22	31	5	2.7		-1529	-	28	14	3	1.1		
-305	-	-	30	65	8	9.2		-1378	-	20	38	5	2.2		
-68	-	-	24	35	8	6.5		-1431	-	72	41	16	43.2		
-150	-	-	24	47	1	4.1		-881	-	21	31	4	1.8		
-320	-	-	30	38	2	7.9		-825	-	48	41	5	7.4		
-637	-	-	26	35	4	1.9		-1676	-	26	26	5	2.9		
-36	-	-	23	19	4	1.2		-871	-	38	33	12	2.6		
-682	-	-	17	19	5	0.9		-1274	-	35	35	5	4.1		
-182	SXQ80	石器	57	53	17	94.4	石器	-1382	-	44	24	5	8.0		
-183	-	-	57	60	29	88.3	-	-26	SXQ73	-	34	73	15	96.7	
275	SXQ73	石器	102	66	40	264.0		-1816	SXQ80	-	80	160	12	54.3	
-180	SXQ80	石器	53	47	18	36.6		-1447	-	32	45	10	20.9		
-1790	SXQ80	石器	96	41	27	168.8		-1381	-	41	51	10	8.0		
-714	SXQ73	石器	25	56	3	26.9		-1166	-	22	35	7	16.3		
-608	-	-	58	42	17	8.2		-1945	-	72	16	5	1.6		
276	SXQ73	石器	107	72	41	130.1		-940	-	47	30	7	9.4		
-27	-	-	177	50	15	93.3		-1801	-	70	72	15	50.0		
-634	-	-	109	72	25	244.0		-624	-	40	37	6	8.3		
277-655	-	-	287	121	49	1262.7		-273	-	43	52	7	11.0		
278	-	-	141	89	28	103.9		-2114	-	45	36	10	12.2		
-178	SXQ80	石器	75	92	25	126.2		-1666	-	20	33	8	1.6		
-177	-	-	53	50	31	38.3		-1892	-	49	54	10	19.8		
279	-	-	163	60	23	120.7		-1931	-	35	49	5	7.1		
-182	SXQ80	石器	97	53	17	32.6		-365	-	44	46	7	12.5		
-183	-	-	57	88	29	68.3		-1158	-	18	25	6	2.3		
280-181	-	-	81	53	29	109.9		-1054	-	31	31	6	1.1		
281- 92	SXQ73	石器	105	82	43	275.9		-1645	-	10	27	5	1.3		
282	SXQ80	石器	117	45	21	96.4		-1361	-	26	17	5	1.6		
-615	SXQ80	石器	59	49	17	41.2		-930	-	31	21	6	5.7		
-1131	-	-	68	41	17	58.2		-1324	-	60	35	9	8.1		
283	SXQ80	石器	117	36	22	196.9		-1405	-	36	23	5	2.3		
-1995	-	-	26	34	5	3.4		-1498	-	29	28	4	1.0		
-1972	-	-	24	42	3	3.6		-1489	-	50	36	6	7.1		
-49	-	-	36	35	1	4.3		-1771	-	46	77	14	10.7		
-629	-	-	49	36	9	15.1		-783	-	33	31	1	5.6		
-421	-	-	38	36	9	16.1		-1875	-	30	29	8	4.8		
-1546	-	-	39	29	0	4.9		-1171	-	21	21	5	2.7		

第18表 石器観察表(16)

No.	出土位置	石器	大きさ(cm)			種	考	大きさ(cm)			名前	備考	
			長	幅	厚			長	幅	厚			
289-1819	SXQ07	石刀	20	25	5	2.0		298-57	SXQ07	22	33	6	1.0
-1525	-	-	42	51	15	26.6	-	-1433	-	26	36	6	4.0
-1676	-	-	35	35	8	6.8	-	-1587	-	35	35	6	3.7
-628	-	-	30	36	6	5.6	-	-887	-	30	32	6	0.5
-1321	-	-	40	35	6	3.6	-	-1091	-	21	17	4	1.2
-1250	-	-	38	32	11	14.0	-	-1630	-	43	38	10	21.3
-1922	-	-	25	22	10	2.8	-	-883	-	53	38	11	36.5
-654	-	-	40	38	10	8.7	-	-968	-	28	18	6	2.3
-954	-	-	45	47	6	9.5	-	-71	-	60	32	6	0.4
-656	-	-	55	34	13	18.6	-	-1154	-	36	30	6	4.6
-804	SXQ07	-	31	51	11	19.9	-	-633	-	27	26	5	2.3
-1461	SXQ07	-	41	46	11	14.9	-	-648	SXQ07	30	41	12	8.5
-1258	-	-	28	36	5	2.6	-	-392	-	40	46	12	11.2
-1287	-	-	35	36	2	3.1	-	-197	-	30	29	8	1.3
-1156	-	-	28	35	11	7.7	-	-920	SXQ07	31	24	5	5.6
-1011	-	-	38	23	8	3.4	-	-883	-	35	25	8	4.3
-1434	-	-	50	42	7	13.2	-	-1452	-	40	71	7	14.2
27	-	-	25	30	4	2.1	-	-1598	-	36	35	8	3.6
-188	-	-	35	26	9	13.7	-	-1507	-	36	35	15	12.5
-857	-	-	39	37	10	13.3	-	-585	-	35	35	14	13.2
-358	-	-	38	41	12	12.3	-	-128	SXQ07	36	36	12	21.0
-767	-	-	43	55	9	11.1	-	-872	SXQ07	35	29	5	3.6
-845	-	-	43	56	10	18.0	-	-963	-	38	35	15	4.0
-1691	-	-	35	47	11	16.2	-	-843	-	41	35	4	3.4
-681	-	-	63	79	15	36.5	-	-1737	-	50	45	5	8.0
-1251	-	-	45	35	1	0.1	-	-888	-	63	32	11	4.1
-1923	-	-	29	35	10	16.7	-	-82	-	52	52	17	22.6
-1592	-	-	23	35	6	3.2	-	-1266	-	47	58	11	20.5
-752	-	-	42	44	7	11.0	-	-1447	-	30	31	11	10.9
-1772	-	-	42	47	12	14.9	-	-1153	-	50	41	9	16.2
-1045	-	-	38	39	8	3.8	-	-884	-	42	36	12	18.0
-865	-	-	28	38	10	6.4	-	-1237	-	36	36	6	4.5
-1265	-	-	31	36	10	7.6	-	-717	-	36	36	5	5.2
-1273	-	-	32	32	9	6.0	-	-1162	-	35	35	4	1.6
-1243	-	-	12	31	4	0.8	-	-1875	-	39	38	10	11.6
-	-	-	21	31	5	4.2	-	-885	-	36	34	9	10.1
-75	-	-	13	57	9	12.2	-	-1165	-	35	35	2	0.9
-967	-	-	29	29	8	4.9	-	-953	-	44	32	4	4.5
-1148	-	-	19	36	5	1.7	-	-1504	-	37	30	5	1.6
-634	-	-	36	36	9	8.9	-	-669	-	33	36	8	5.6
-752	-	-	39	39	8	4.6	-	-1013	-	25	19	4	1.7
-1003	-	-	36	38	6	4.4	-	-1184	-	42	34	13	16.1
-54	-	-	15	58	9	15.9	-	-489	-	39	33	5	2.8
-1004	-	-	11	28	5	1.4	-	-1571	SXQ07	21	34	24	114.4
-926	-	-	51	100	16	46.1	62.5	-1587	-	33	35	29	115.4
-1005	-	-	12	30	8	4.9	337	-1612	SXQ07	33	35	8	3.6
-398	-	-	44	35	14	23.8	337	-291	-	260	114	34	333.6
-1141	-	-	36	35	4	3.2	337	-1483	-	37	38	17	23.2
-361	-	-	29	39	9	2.3	-	-1660	-	36	35	19	6.6
-1914	-	-	16	35	3	1.3	-	-1430	-	43	35	21	106.6
-1589	-	-	19	30	5	0.8	-	-1451	-	39	41	7	8.8
-1716	-	-	16	47	21	45.5	47.6	-1465	-	21	36	8	2.2
-1431	-	-	36	42	21	48.0	337	-1388	-	17	21	7	2.5
290	-	-	183	102	99	783.5	-	-712	-	42	31	11	5.6
-281	SXQ07	-	23	34	5	2.5	-	-438	-	16	35	5	1.4
-1840	SXQ07	-	28	15	4	1.0	-	-1329	-	39	37	35	193.4
-1794	-	-	27	28	4	2.0	-	-1736	-	57	37	13	39.2
-1394	-	-	24	26	5	2.5	-	-944	-	37	35	12	26.0
-1527	-	-	16	36	4	0.7	-	-1736	-	38	37	9	10.6
-689	-	-	25	36	8	2.2	-	-947	-	38	37	20	102.1
-1625	-	-	28	35	7	1.9	-	-1855	-	38	33	9	5.2

第19表 石器觀察表(17)

NO.	出土品名	石器	大きさ (cm)			留置 (cm)	種 名	NO.	出土品名	石器	大きさ (cm)			留置 (cm)	種 名
			長	幅	厚						長	幅	厚		
291-621	SXQBR	石斧	21	7.1	5	3.0		292-620	SXQBR	石斧	32	14	12	11.4	
-174	-	-	44	11	3.5	-	-1127	-	-	28	44	11	8.8		
-252	-	-	16	8	6.4	-	-1119	-	-	26	19	8	2.2		
-404	-	-	11	16	10	8.6	-	-990	-	-	30	27	7	4.6	
-1290	-	-	44	16	16	35.5	-	-1026	-	-	136	76	31	30.5	石器 309
-1112	-	-	51	8	10.1	-	-	-	-	-	144	125	34	27.6	
-1739	-	-	48	17	15	37.5	-	-980	-	-	21	35	4	1.7	
-1670	-	-	23	9	6	2.3	-	-1066	-	-	28	44	5	2.6	
-1340	-	-	29	12	12	19.5	-	-996	-	-	52	40	6	9.2	
-1791	-	-	36	9	15	38.4	-	-991	-	-	21	42	10	2.0	
-1798	-	-	11	10	10	17.6	-	-988	-	-	27	29	4	2.6	
-1782	-	-	36	12	2	4.3	-	-841	-	-	40	38	6	2.7	
-1774	-	-	48	12	12	16.4	-	-827	-	-	44	37	6	2.1	
-780	-	-	46	9	9	12.9	-	-640	-	-	27	35	4	2.9	
-1424	-	-	51	18	22	35.8	-	-112	-	-	39	16	7	1.4	
292	-	-	212	94	94	902.7	-	-1247	-	-	31	37	3	3.9	
-198	-	-	56	12	15	40.8	-	-594	-	-	26	34	6	7.9	
-1495	-	-	22	5	5	2.0	-	-813	-	-	18	36	6	2.1	
-1814	-	-	21	10	4	6.8	-	-549	-	-	25	27	7	2.3	
-1488	-	-	27	7	5	3.4	-	-727	-	-	56	49	15	28.1	
-1803	-	-	30	17	8	6.1	-	-972	-	-	33	38	5	3.8	
-1826	-	-	19	14	11	8.0	-	-567	-	-	22	35	5	5.8	
-323	-	-	39	67	10	29.1	-	-994	-	-	29	35	5	2.4	
-1426	-	-	60	16	15	86.0	-	-773	-	-	35	40	9	9.7	
-719	-	-	29	12	8	4.8	-	-780	-	-	11	51	18	13.4	
-657	-	-	25	36	2	2.6	-	-798	-	-	29	25	5	2.2	
-1194	-	-	24	19	8	3.5	-	-1366	-	-	27	33	5	3.2	
-567	-	-	13	20	5	0.8	-	-668	SXQBR	-	13	41	6	3.3	
-1536	-	-	36	35	8	7.0	-	-647	-	-	42	29	6	7.6	
-1738	-	-	26	22	5	2.9	-	-888	-	-	41	38	5	5.9	
-860	-	-	47	18	1	7.7	-	-952	-	-	42	37	8	8.7	
-685	-	-	21	14	3	1.7	-	-1176	-	-	43	30	5	10.0	
-1535	-	-	18	22	1	0.7	-	-1742	-	-	29	37	7	7.0	
-1299	-	-	42	34	2	11.2	-	-432	-	-	19	26	2	2.0	
-1119	SXQBR	-	36	18	2	1.0	-	-713	-	-	43	31	12	19.5	
-598	-	-	73	37	31	65.1	-	-980	-	-	33	33	7	6.7	
-1118	SXQBR	-	51	14	14	67.6	708 321	-1249	-	-	51	20	6	7.8	
-1881	-	-	22	56	7	9.3	-	-1074	-	-	60	47	15	35.8	
-609	-	-	22	49	8	5.5	-	-702	-	-	27	37	6	3.3	
-1014	-	-	19	35	2	2.2	-	-1139	-	-	22	26	5	5.0	
-869	-	-	39	49	5	11.6	-	-1477	-	-	30	38	6	4.0	
-1882	-	-	34	49	5	5.9	-	-1183	-	-	29	35	8	6.5	
-1265	-	-	25	24	4	2.1	-	-1573	-	-	41	41	5	4.7	
-682	-	-	15	22	3	0.7	-	-1689	-	-	26	23	2	1.1	
-1487	-	-	22	35	5	2.4	-	-284	-	-	180	25	48	86.6	
-597	SXQBR	-	20	44	6	4.6	-	-1198	-	-	50	41	7	12.6	
-1088	SXQBR	-	28	43	8	7.4	-	-529	-	-	35	13	4	1.6	
-1522	-	-	19	30	10	3.7	-	-408	-	-	82	34	11	25.3	
-1747	-	-	36	38	7	7.2	-	-1594	-	-	25	35	9	4.1	
-1297	-	-	33	28	9	4.6	-	-1188	-	-	25	38	6	11.7	
-1497	-	-	24	36	2	2.0	-	-761	-	-	50	41	10	17.1	
-972	SXQBR	-	23	36	7	2.3	-	-1053	-	-	49	36	11	15.9	
-977	-	-	31	25	5	3.0	-	-17	-	-	29	35	7	4.4	
-1533	SXQBR	-	29	25	5	2.5	-	-1781	-	-	43	37	8	14.8	
-695	SXQBR	-	21	22	3	1.8	-	-1643	-	-	58	21	7	7.8	
-337	-	-	29	54	13	15.1	-	-789	-	-	26	41	3	3.8	
-831	-	-	32	43	8	13.3	-	-853	-	-	26	33	10	11.7	
-1213	-	-	39	24	6	3.5	-	-1517	-	-	35	37	12	22.6	
-974	-	-	38	32	2	2.7	-	-1184	-	-	31	48	25	34.5	
-986	-	-	28	31	2	2.4	-	-1783	-	-	27	35	11	7.0	
-935	-	-	42	34	8	12.1	-	-1501	-	-	32	35	7	5.0	

第20表 石器観察表 (18)

No.	出土位置	石器	大きさ (cm)			種類	種	考	No.	出土位置	石器	大きさ (cm)			種類	種	考
			長	幅	厚							長	幅	厚			
294-619	SXQ80	石斧	42	43	9	10.5			298-1621	SXQ80	石斧	44	55	14	17.0		
-934	SXQ92	-	32	50	13	14.8			-526	-	-	45	58	17	19.3		
1159	-	-	30	48	6	9.3			-1601	-	-	35	46	6	9.9		
-141	-	-	49	55	5	7.7			-939	-	-	71	80	14	16.3		
-1433	-	-	145	76	18	321.8	石斧	308	-884	-	-	42	51	5	8.0		
295	-	-	150	80	45	405.5			-882	-	-	46	51	9	17.0		
-597	-	-	59	44	7	6.5			-339	-	-	49	58	4	10.0		
-1273	-	-	54	50	8	9.3			-118	-	-	42	55	19	16.4		
-1171	-	-	71	50	15	34.4			-100	-	-	52	62	5	12.1		
-1226	-	-	38	38	11	6.8		299	-	-	36	42	11	12.1			
-1562	-	-	27	27	10	5.9			-1675	-	-	36	43	4	12.5		
-1254	-	-	23	42	4	4.5			-1218	-	-	16	18	8	10.1		
-1245	-	-	26	39	9	4.1			-1111	-	-	27	29	5	2.5		
-583	-	-	41	30	2	15.1			-1300	-	-	42	46	6	5.9		
-1051	-	-	19	30	4	2.2			-1112	-	-	34	38	12	26.3		
-594	-	-	15	32	7	3.5			-1247	-	-	35	38	1	0.5		
-872	-	-	74	77	18	71.3			-1191	-	-	21	23	6	2.6		
-1387	-	-	68	26	6	4.8			-1245	-	-	39	40	8	3.7		
-1244	-	-	28	40	12	17.2			-1231	-	-	13	16	7	1.1		
-1181	-	-	27	39	4	2.7			-1238	-	-	47	56	5	11.3		
-856	SXQ80	-	98	32	42	161.2	-	305	-2319	-	-	32	40	10	31.1		
-1071	SXQ92	-	25	26	3	2.5			-1115	-	-	38	58	16	25.1		
-880	-	-	46	22	4	4.6			-1183	-	-	44	41	9	11.4		
-848	-	-	22	31	8	3.0			-855	-	-	45	59	11	21.3		
-1927	-	-	46	22	7	14.4			-1723	-	-	36	43	4	1.8		
-1779	-	-	36	29	4	2.8			-1773	-	-	36	43	4	1.8		
-1948	-	-	22	45	9	14.2			-872	-	-	47	57	6	6.7		
-1550	-	-	42	36	7	5.8			-1599	-	-	47	45	10	16.0		
-1473	-	-	23	31	8	6.3			-1373	-	-	54	43	8	15.4		
-1423	-	-	106	23	41	276.8	石斧	305	-1498	-	-	41	35	6	10.0		
-	-	-	29	49	7	7.5			-1649	-	-	35	36	8	3.8		
296	-	口内	192	106	74	488.2			-1660	-	-	39	35	10	5.8		
-933	-	-	29	39	3	2.0		300	-	-	33	39	27	20.8			
-1435	-	-	108	23	21	195.1			-1925	-	-	31	31	4	8.1		
-107	-	-	36	39	0	4.2			-1599	-	-	39	54	7	9.5		
-1388	-	-	37	39	7	4.2			-1194	-	-	32	30	13	21.4		
-832	-	-	36	100	27	132.7			-1355	-	-	31	43	9	11.1		
-874	-	-	39	39	6	4.0			-1344	-	-	31	33	8	8.8		
-1436	-	-	36	92	27	70.4			-1789	-	-	35	30	28	176.4	1789	
-778	-	-	16	35	11	2.3		201	-	-	33	35	10	20.2			
-1037	-	-	56	38	12	25.1			-1153	-	-	30	32	7	5.8		
-875	-	-	48	44	7	14.7			-1281	-	-	33	34	1	5.2		
-1557	-	-	54	36	10	7.9			-32	SXQ80	-	33	35	11	5.8		
-1525	-	-	78	48	10	35.9			-957	-	-	32	31	32	276.3	1732	306
-1642	-	-	31	36	7	6.4			-1371	-	-	35	40	7	5.0		
-839	-	-	47	48	8	16.2			-936	SXQ80	-	37	50	6	12.0		
-1785	-	-	45	33	6	10.8			-443	-	-	39	50	13	14.1		
-1118	-	-	36	35	4	5.3			-243	-	-	35	45	8	9.7		
297	-	-	126	123	74	1981.0			-1566	SXQ80	-	38	49	8	13.1		
-1439	-	-	36	36	13	47.5			-948	-	-	31	43	11	19.3		
-863	-	-	42	45	5	7.8			-1138	SXQ80	-	31	39	5	1.0		
-881	-	-	36	36	7	6.4			-556	-	-	23	36	5	1.0		
-272	-	-	36	41	19	9.2			-1662	SXQ80	-	35	36	8	7.6		
-935	-	-	44	35	7	7.6			-1663	SXQ80	-	36	36	8	7.6		
-1491	-	-	58	45	8	8.4			-423	SXQ80	-	39	53	5	3.6		
-1669	-	-	36	40	5	-			-1762	SXQ80	-	33	36	8	3.2		
-887	-	-	22	24	7	4.9			-1919	-	-	31	37	6	3.4		
-865	-	-	34	39	4	1.6			-694	-	-	39	44	1	9.1		
-1104	SXQ80	-	108	122	31	1785.5	425	305	-1104	-	-	24	34	8	3.9		
298	SXQ80	-	108	108	21	370.1			-1871	-	-	24	34	8	3.9		
-1129	-	-	32	73	19	844			-1362	-	-	33	36	10	11.7		

第21表 石器觀察表 (19)

No.	出土位置	台面	大きさ (cm)			多角	品種	No.	出土位置	台面	大きさ (cm)			小類	種
			上	中	下						上	中	下		
362-950	SX-Q102	D7	14	50	10	10.5		322-183	SX-Q106	B7	36	30	7	2.8	
363	-	-	13	78	41	100.0	-	323	-	-	45	44	9	19.7	
-509	SX-Q09	-	50	90	19	60.5	-	-	-	-	50	45	11	31.1	
-176	SX-Q11	-	50	87	11	55.3	-	-	-	-	52	50	10	5.8	
-832	-	-	41	81	11	15.5	-	-	-	-	31	31	5	13.8	
-838	-	-	21	38	8	5.1	-	-	-	-	26	20	8	25.9	
869	-	-	43	32	10	3.0	-	-	-	-	28	26	5	4.8	
-1131	-	-	35	34	8	3.2	-	-	-	-	29	29	7	3.9	
-1697	-	-	31	31	4	4.2	-	-	-	-	27	27	8	3.0	
-59	-	-	41	81	13	13.7	-	-	-	-	34	26	6	2.5	
-1131	-	-	43	35	4	12.8	-	-	-	-	28	23	6	1.9	
-863	-	-	49	69	10	12.2	-	-	-	-	18	16	5	2.2	
-737	-	-	25	25	1	4.2	-	-	-	-	48	47	12	26.8	
-1158	-	-	22	72	5	1.9	-	-	-	-	52	50	6	7.5	
364	-	-	35	35	28	207.0	-	-	-	-	30	21	5	1.9	
-1445	-	-	32	32	8	4.7	-	-	-	-	35	19	8	1.9	
-38	-	-	37	44	25	51.8	-	-	-	-	41	35	5	3.2	
-165	-	-	25	30	21	16.5	-	-	-	-	23	21	8	8.5	
-1520	-	-	24	25	6	3.9	-	-	-	-	26	20	7	1.5	
-754	-	-	35	38	16	23.7	-	-	-	-	60	59	10	16.7	
-636	-	-	46	41	15	58.2	-	-	-	-	30	17	5	1.5	
365-1166	SX-Q08	-	276	112	46	1756.5	-	-	-	-	47	40	8	13.9	
366-957	-	-	129	94	42	296.3	-	-	-	-	22	25	4	1.9	
367-1421	-	-	106	58	38	114.0	-	-	-	-	15	20	8	1.9	
368-1422	SX-Q102	-	106	73	31	286.7	-	-	-	-	38	36	4	6.6	
369-1432	-	-	125	74	43	371.5	-	-	-	-	43	45	5	8.8	
370-1688	SX-Q08	-	130	100	34	302.5	-	-	-	-	34	31	8	1.9	
311	-	-	129	45	12	229.8	-	-	-	-	35	36	8	6.0	
-1071	-	-	74	80	24	114.4	-	-	-	-	33	35	9	6.2	
-156	-	-	73	63	27	115.4	-	-	-	-	26	22	8	15.2	
312	SX-Q102	-	120	43	12	22.0	-	-	-	-	36	35	10	2.1	
-1178	-	-	70	48	8	26.5	-	-	-	-	25	18	7	2.5	
-1256	-	-	65	44	10	24.0	-	-	-	-	13	18	4	0.7	
313	-	-	99	47	21	40.9	-	-	-	-	12	20	29	52.4	52.4
-1422	-	-	98	47	21	38.4	-	-	-	-	13	12	3	0.8	
-	SX-Q102	-	21	26	6	2.5	-	-	-	-	71	68	15	50.4	
314-846	SX-Q102	-	96	39	15	72.2	-	-	-	-	36	47	5	6.9	
315	-	-	91	85	49	42.7	-	-	-	-	47	48	9	16.6	
-856	SX-Q08	-	96	72	42	181.9	-	-	-	-	46	46	17	13.4	
-1181	SX-Q02	-	106	73	41	276.3	-	-	-	-	36	35	9	5.9	52.3
316-1172	-	-	95	61	18	55.0	-	-	-	-	36	33	7	2.6	
317	-	-	129	56	21	174.1	-	-	-	-	32	35	15	8.4	
-1778	-	-	98	49	21	45.5	-	-	-	-	39	38	24	110.7	
-1427	-	-	50	62	21	49.0	-	-	-	-	24	18	3	1.2	
-1065	-	-	29	30	6	4.9	-	-	-	-	19	18	3	1.0	
-1141	-	-	34	25	4	3.2	-	-	-	-	19	18	3	1.0	
-398	-	-	44	55	14	23.8	-	-	-	-	20	16	4	3.8	
-939	-	-	30	100	10	46.4	-	-	-	-	35	22	4	1.7	
-1611	-	-	16	35	3	1.8	-	-	-	-	19	18	8	1.8	
318-1789	-	-	118	63	29	178.4	-	-	-	-	31	27	5	3.3	
319-1289	-	-	31	25	23	20.2	-	-	-	-	11	10	11	26.6	
320-1410	-	-	82	49	26	66.6	-	-	-	-	22	20	5	2.6	
321-1411	-	-	54	25	14	61.2	-	-	-	-	30	26	15	31.5	40.0
322	SX-Q08	-	279	140	41	915.5	323	-	-	-	196	97	97	60.7	
-95	-	-	32	25	11	10.5	-	-	-	-	35	35	5	1.2	
-412	-	-	36	37	4	2.4	-	-	-	-	18	21	4	1.0	
-126	-	-	52	48	9	92.7	-	-	-	-	53	54	16	6.6	
-978	-	-	48	37	10	16.0	-	-	-	-	72	56	15	11.9	
-205	-	-	30	9	9	11.9	-	-	-	-	20	21	11	9.3	
-478	-	-	42	42	13	9.0	-	-	-	-	36	32	8	3.4	
-260	-	-	1-33	39	7	2.0	-	-	-	-	52	53	17	36.8	

第22表 石器観察表(20)

NO.	出土段落	石質	大きさ(cm)			種類	備考	N.D.	出土位置	石器名	大きさ(cm)			重量 (g)	種類
			長	幅	厚						長	幅	厚		
323-554	SXQ96	白石	35	32	6	4.3		328-177	SXQ96	石器	38	41	15	38.1	
-719	-	-	32	46	9	8.4		-12	-	-	43	52	10	25.6	
-1023	-	-	38	49	3	6.5		-5	-	-	44	41	9	13.3	
-484	-	-	31	36	3	2.6		-908	-	-	38	41	8	12.1	
-733	-	-	36	47	8	16.7		-6	-	-	36	29	10	6.0	
-447	-	-	21	38	7	3.3		-458	-	-	36	31	8	5.8	
-394	-	-	18	50	9	15.3		-267	-	-	36	35	5	3.5	
-310	-	-	21	19	2	1.1		-406	-	-	36	34	4	2.4	
-341	-	-	22	22	5	1.4		-257	-	-	34	36	5	9.1	
-597	-	-	36	54	8	11.5		-432	-	-	39	39	11	6.7	
-210	-	-	25	39	3	2.4		-767	-	-	33	32	7	2.6	
-128	-	-	38	51	5	6.3		-334	-	-	12	26	4	1.3	
-312	-	-	31	52	20	92.9	石器	-372	-	-	31	22	5	3.2	
-318	-	-	39	43	17	76.8	-	-378	-	-	39	35	8	2.0	
324	-	-	110	139	90	677.5		-496	-	-	13	19	4	1.6	
-27	-	-	35	45	24	60.1	329	-	-	174	114	69	60.2		
-59	-	-	36	37	10	13.2	-835	-	-	109	66	21	13.9		
-60	-	-	32	38	7	3.3	-1035	-	-	73	69	21	34.1		
-912	-	-	15	22	4	1.1	-1023	-	-	71	67	15	54.4		
-684	-	-	36	38	3	1.8	-898	-	-	77	67	15	32.7		
-148	-	-	35	64	27	85.5	-1032	-	-	51	74	12	31.7		
-31	-	-	27	31	8	15.8	-837	-	-	83	69	15	41.4		
-159	-	-	22	31	35	136.8	-1112	-	-	66	72	14	56.5		
-148	-	-	32	13	3	0.2	-840	-	-	35	49	17	16.5		
-75	-	-	26	35	19	11.1	428-343	-836	-	46	46	8	5.4		
-354	-	-	22	26	7	3.2	-834	-	-	37	22	10	11.4		
-1056	-	-	21	30	7	3.5	-833	-	-	38	37	11	10.7		
-832	-	-	42	45	5	11.0	330-785	-	-	96	96	18	97.0		
-563	-	-	36	13	7	6.6	331	-	-	73	75	24	33.8		
-1913	-	-	57	36	12	18.1	-194	-	-	35	29	9	5.9		
-415	-	-	45	29	4	3.9	209	-	-	69	61	24	12.4		
-674	-	-	54	48	11	23.8	332	-	-	165	52	24	33.7		
-274	-	-	35	18	5	2.5	-312	-	-	91	52	20	32.9		
-426	-	-	70	57	16	53.2	-318	-	-	39	63	17	38.4		
-343	-	-	41	32	9	9.4	333-1072	-	-	71	38	16	36.5		
-257	-	-	32	41	6	8.4	334-1026	-	-	96	55	8	10.5		
-120	-	-	21	36	6	6.5	335-629	-	-	76	68	17	30.1		
-386	-	-	34	34	6	4.2	336-940	-	-	65	31	8	5.6		
-133	-	-	37	44	15	15.8	337-64	-	-	36	34	13	35.8		
-285	-	-	43	66	15	36.2	338-65	-	-	69	35	17	31.6		
-342	-	-	82	74	18	188.8	339-311	-	-	113	65	29	140.5		
-313	-	-	72	92	15	42.1	340-151	-	-	92	36	23	32.4		
325	-	-	35	41	35	9.6	341-69	-	-	108	57	17	25.7		
-521	-	-	39	22	8	4.4	342-871	-	-	65	50	15	44.0		
-224	-	-	41	24	6	5.2	343-75	-	-	39	56	10	11.1		
326	-	-	41	42	34	24.0	344	-	-	29	28	10	3.5		
-276	-	-	40	17	5	2.7	-306	-	-	21	21	8	3.1		
-138	-	-	28	17	7	3.1	-261	-	-	29	24	15	16.7		
-291	-	-	27	16	4	1.9	-367	-	-	29	24	15	16.7		
-296	-	-	32	17	6	2.6	-088	-	-	29	26	16	66.9		
-56	-	-	45	27	8	2.8	345-90	SXQ98	-	156	77	20	207.6		
-351	-	-	46	38	5	4.0	346-58	-	-	104	63	56	69.1		
327	-	-	26	29	22	22.9	347	-	-	164	126	72	294.9		
-669	-	-	39	19	6	2.9	-44	-	-	25	107	20	103.1		
-383	-	-	36	34	8	3.1	-17	-	-	22	66	15	22.4		
-374	-	-	39	12	6	2.5	-59	-	-	26	69	16	108.8		
-451	-	-	41	22	5	3.4	-3	-	-	29	29	14	22.0		
-764	-	-	30	24	7	5.3	-62	-	-	27	33	7	10.1		
-216	-	-	29	29	9	10.7	-32	-	-	27	25	7	1.3		
328	-	-	153	16	46	184.1	-24	-	-	27	22	5	5.1		
-373	-	-	32	66	18	53.0	-5	-	-	92	63	4	12.1		

第23表 石器觀察表(21)

No.	出土場所	石器	A.S.G.(m)			備考	No.	出土場所	石器	A.S.G.(m)			備考						
			高	幅	厚					(cm)	高	幅	厚						
347-	9	SXQ18	117	12	50	9	16.1	350	1123	SXQ18	117	12	45	21	176.9	125 255			
- 40	-	-	20	50	2	25.2	-	351	SXQ18	-	118	50	30	-	163.9				
- 21	-	-	53	45	9	12.8	-	-	-	-	26	10	7	1.7					
- 4	-	-	19	35	8	11.4	-	-	-	-	42	20	4	5.1					
- 25	-	-	30	53	12	19.1	-	-	-	-	29	97	5	6.1					
- 39	-	-	30	37	5	4.6	-	-	-	-	114	93	23	150.4	石器 358				
- 52	-	-	44	70	10	32.2	-	352	SXQ18	-	124	70	27	-	264.2				
-	-	-	45	38	4	4.5	-	-	-	-	37	33	3	1.6					
- 51	-	-	19	12	2	0.2	-	-	-	-	609	SXQ18	-	26	26	2	1.5		
- 37	-	-	31	27	9	5.1	-	-	-	-	55	SXQ18	-	15	35	5	5.2		
- 14	-	-	17	37	2	0.6	-	-	-	-	134	-	-	32	23	3	2.1		
- 84	-	-	15	29	2	0.5	-	-	-	-	-	SXQ18	-	36	14	3	0.8		
- 84	-	-	36	59	10	3.1	-	-	-	-	143	SXQ18	-	39	29	4	2.0		
- 58	-	-	108	46	56	49.1	1700 346	-	197	-	-	24	25	3	1.8				
348	-	SXQ18	107	96	36	317.6	-	-	-	-	26	-	-	25	63	10	12.5		
- 426	SXQ18	-	55	56	16	101.3	1700 358	-	625	SXQ18	-	178	64	39	708.4	128 357			
- 459	-	-	33	38	11	9.5	-	353	SXQ18	-	126	82	37	346.6					
- 526	-	-	19	32	5	2.8	-	-	-	-	-	39	45	7	6.0				
- 176	-	-	31	23	4	1.3	-	-	-	-	-	918	SXQ18	-	45	34	3	13.0	
- 124	SXQ18	-	24	36	8	5.4	-	-	-	-	-	168	SXQ18	-	49	39	8	14.3	
- 529	SXQ18	-	59	42	3	14.8	-	-	-	-	-	71	-	-	35	38	9	8.9	
- 88	SXQ18	-	49	55	30	27.2	-	-	-	-	-	158	-	-	58	58	10	18.8	
- 123	-	-	21	26	8	4.5	-	-	-	-	-	164	-	-	23	22	10	1.8	
- 124	-	-	23	44	10	5.9	-	-	-	-	-	596	SXQ18	-	18	35	5	2.5	
- 123	-	-	30	51	8	6.5	-	-	-	-	-	24	-	-	58	38	28	14.7	
- 525	SXQ18	-	35	46	7	5.0	-	-	-	-	-	168	SXQ18	-	44	29	8	9.3	
- 158	SXQ18	-	23	29	4	2.3	-	-	-	-	-	116	-	-	34	22	6	4.7	
- 179	-	-	36	24	8	4.1	-	-	-	-	-	23	SXQ18	-	34	63	26	133.4	
- 617	SXQ18	-	43	36	5	6.2	-	-	-	-	-	237	SXQ18	-	32	31	5	2.9	
- 136	SXQ18	-	58	42	6	13.0	-	-	-	-	-	517	SXQ18	-	19	30	7	2.5	
- 551	SXQ18	-	25	21	4	1.6	-	354-18	SXQ18	-	414	46	32	182.7					
- 125	SXQ18	-	89	72	17	50.0	-	355-1423	SXQ18	-	132	45	21	176.9					
- 69	-	-	82	67	13	38.5	-	356-3	SXQ18	-	114	50	35	150.4					
- 167	-	-	35	26	7	2.4	-	-	-	-	-	557-525	-	-	126	94	22	136.4	
- 29	-	-	35	38	6	3.5	-	-	-	-	-	358-23	-	-	81	83	21	133.4	
- 167	SXQ18	-	31	14	3	1.1	-	-	-	-	-	359-426	-	-	55	86	26	161.2	
- 374	SXQ18	-	23	12	3	0.9	-	-	-	-	-	380-327	SXQ18	-	28	29	15	37.9	
349	-	-	109	88	45	500.3	-	361	-	-	-	-	114	123	25	36.8			
- 110	-	-	49	27	8	18.1	-	-	-	-	-	-	36	29	3	3.3			
- 529	SXQ18	-	38	45	7	9.3	-	-	-	-	-	-	22	22	2	0.8			
- 140	SXQ18	-	39	44	16	23.1	-	-	-	-	-	233	-	-	24	25	3	1.6	
- 175	-	-	71	79	23	162.5	-	-	-	-	-	167	-	-	41	39	3	2.6	
- 179	-	-	116	70	26	262.3	-	-	-	-	-	168	-	-	37	60	2	2.2	
350	-	-	131	70	31	366.8	-	-	-	-	-	-	192	-	-	30	23	6	1.9
- 147	-	-	22	34	7	4.3	-	-	-	-	-	-	197	-	-	28	26	3	2.3
- 165	-	-	35	35	8	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	30	6	6.9
- 111	-	-	30	38	7	2.1	-	-	-	-	-	-	178	-	-	53	44	8	4.7
- 293	-	-	41	42	7	11.5	-	-	-	-	-	-	227	-	-	36	35	3	4.8
- 57	-	-	27	35	5	2.5	-	-	-	-	-	-	223	-	-	24	24	3	2.2
- 178	-	-	41	51	14	18.4	-	-	-	-	-	-	235	-	-	22	21	6	1.2
- 174	-	-	31	25	12	16.1	-	-	-	-	-	-	285	-	-	50	64	7	14.8
- 57	-	-	35	39	6	2.6	-	-	-	-	-	-	167	-	-	10	31	3	3.1
- 58	-	-	26	35	4	2.2	-	-	-	-	-	-	60	-	-	11	19	3	0.6
361	-	-	11	31	2	0.5	-	-	-	-	-	-	205	-	-	20	29	5	2.1
- 66	-	-	33	43	3	1.5	-	-	-	-	-	-	244	-	-	43	45	13	16.5
- 287	-	-	29	29	5	4.1	-	-	-	-	-	-	80	-	-	17	19	3	0.9
- 224	-	-	14	29	3	1.6	-	-	-	-	-	-	213	-	-	22	28	2	1.4
- 217	-	-	11	21	3	0.9	-	362	-	-	-	-	-	156	92	30	151.4		
- 257	-	-	23	14	5	4.1	-	-	-	-	-	-	203	-	-	50	52	8	11.2
- 218	-	-	32	29	1	5.3	-	-	-	-	-	-	237	-	-	21	28	4	0.7
1663	SXQ18	-	11	28	3	6.9	-	-	-	-	-	-	209	-	-	21	30	4	2.1

第24表 石器観察表(22)

No.	出土位置	石器	大きさ(cm)			出雲	編 考	No.	出土位置	石器	大きさ(cm)			重 量 (g)	備 考
			長	幅	厚						長	幅	厚		
362-222	SXQ108	直角	34	44	4	4.4		366-119	SXQ108	直角	14	45	3	92.5	
- 95	-	-	32	35	7	7.4	- 265	-	-	31	37	3	7.3		
- 195	-	-	23	35	7	3.9	- 329	-	-	10	17	3	0.5		
- 206	-	-	37	42	8	8.9	- 308	-	-	50	49	10	15.5		
- 213	-	-	14	18	3	0.4	- 224	-	-	30	35	20	17.5		
- 87	-	-	26	25	4	1.9	- 272	-	-	35	36	4	6.8		
- 212	-	-	31	37	7	7.1	- 156	-	-	50	51	11	19.5		
- 41	-	-	37	45	11	56.7	- 330	-	-	15	33	6	3.0		
- 43	-	-	72	26	10	12.2	- 55	-	-	37	35	16	60.2		
- 180	-	-	30	36	7	6.8	367	-	-	111	111	47	380.0		
- 42	-	-	32	25	5	2.5	- 128	-	-	36	45	25	63.1		
- 199	-	-	31	37	6	6.1	- 284	-	-	35	34	7	4.8		
363	-	-	122	76	21	39.0	- 282	-	-	44	52	13	25.2		
- 108	-	-	40	49	11	11.2	- 198	-	-	35	32	16	49.9		
- 17	-	-	49	31	9	3.9	- 291	-	-	32	37	16	4.7		
- 307	-	-	56	56	8	20.7	- 303	-	-	34	38	6	3.1		
- 286	-	-	41	33	5	3.8	- 14	-	-	41	40	4	8.0		
- 165	-	-	26	29	7	5.5	- 169	-	-	37	42	6	15.6		
- 133	-	-	35	24	8	4.9	- 112	-	-	35	38	8	6.3		
- 124	-	-	55	47	9	16.9	- 356	-	-	41	36	7	7.6		
- 561	-	-	21	47	4	4.1	- 9	-	-	51	60	10	16.1		
- 162	-	-	49	28	8	14.0	- 2	-	-	33	25	7	3.2		
- 323	-	-	21	26	6	3.0	- 353	-	-	35	32	2	1.8		
- 273	-	-	33	20	8	8.8	- 121	-	-	31	15	3	1.1		
364	-	-	120	86	22	70.6	- 295	-	-	34	7	2	1.8		
- 18	-	-	52	34	10	17.4	- 317	-	-	35	39	4	3.2		
- 20	-	-	53	55	6	16.4	- 282	-	-	38	40	7	5.6		
- 106	-	-	53	42	5	8.2	- 135	-	-	32	32	17	38.8		
- 162	-	-	28	19	4	1.8	368-20	SXQ105	-	32	36	8	12.4		
- 324	-	-	36	25	4	2.6	368-29	-	-	30	39	8	4.9		
- 132	-	-	35	27	3	1.2	370-61	-	-	32	38	8	4.5		
- 268	-	-	38	38	5	2.2	371	SXQ106	-	194	74	34	295.8		
- 121	-	-	33	30	7	4.5	- 179	-	-	35	69	16	130.5		
- 136	-	-	25	28	6	2.0	- 147	-	-	34	29	22	125.2		
- 305	-	-	27	31	4	1.8	372-153	-	-	31	33	13	37.8		
- 285	-	-	27	30	8	3.2	373-149	-	-	25	46	15	47.2		
- 140	-	-	20	21	5	1.8	374	-	-	165	76	10	201.1		
- 304	-	-	20	26	3	2.2	- 154	-	-	32	55	13	51.7		
- 283	-	-	19	12	2	0.2	- 46	-	-	36	38	2	0.6		
- 256	-	-	12	16	3	0.2	- 84	-	-	31	30	16	92.5		
- 128	-	-	14	25	3	0.6	- 81	-	-	31	41	13	31.8		
- 124	-	-	37	48	8	6.2	- 95	-	-	30	41	17	11.8		
-	-	-	11	20	7	0.6	- 242	-	-	31	35	10	36.6		
-	-	-	15	15	3	0.3	- 252	-	-	35	38	8	5.8		
-	-	-	17	20	2	0.2	- 173	-	-	35	41	12	11.8		
365	-	-	120	104	45	233.7	- 111	-	-	28	25	4	1.5		
- 215	-	-	57	30	20	125.8	- 128	-	-	39	37	4	1.4		
- 313	-	-	31	72	19	45.0	- 172	-	-	34	29	1	2.4		
- 410	-	-	26	42	8	7.7	- 265	-	-	33	32	2	0.7		
- 133	-	-	42	64	11	15.8	- 354	-	-	34	38	1	2.6		
- 254	-	-	47	47	19	17.9	- 105	-	-	32	45	12	11.8		
- 269	-	-	48	22	6	5.2	- 173	-	-	44	43	12	17.2		
- 273	-	-	21	29	5	1.2	- 58	-	-	30	29	13	34.8		
- 298	-	-	49	22	6	4.4	- 187	-	-	31	42	14	40.3		
- 261	-	-	46	29	9	1.2	- 265	-	-	31	32	2	1.5		
366	-	-	125	125	45	63.4	- 29	-	-	33	34	5	2.7		
- 118	-	-	46	22	17	62.6	- 214	-	-	36	33	11	7.4		
- 156	-	-	26	45	11	1.9	- 214	-	-	36	30	6	7.6		
- 141	-	-	46	16	15	34.0	- 267	-	-	33	34	4	4.7		
- 946	-	-	50	20	17	30.1	- 144	-	-	34	33	1	9.0		
- 154	-	-	45	36	7	8.5	- 121	-	-	33	33	5	1.9		

第25表 石器觀察表(23)

No.	出土地名	石器	大きさ (cm)			種類	No.	出土地點	位置	大きさ (cm)			重量 (g)	説明		
			長	幅	厚					長	幅	厚				
374	175	SXQ156	石斧	45	25	5	3.5		377	SXQ157	石刀	150	85	26	97.5	
375	-	-	350	125	70	55.1	-	-	-	29	132	5	2.0			
-155	-	-	95	25	9.2	-	-	-	-	11	58	3	0.6			
56	-	-	95	15	13	25.2	-	-	-	15	21	3	0.6			
-182	-	-	24	23	5	1.8	-	-	-	12	16	2	0.5			
26	-	-	94	20	7	11.2	-	-	-	32	60	6	6.1			
-32	-	-	23	25	5	5.6	-	-	-	17	6	2	4.1			
-377	-	-	17	15	5	1.0	-	-	-	48	25	10	16.5			
-148	-	-	26	26	6	3.8	-	-	-	24	32	4	2.5			
-3	-	-	45	54	14	34.2	-	-	-	22	30	8	3.7			
-27	-	-	37	22	2	0.8	-	-	-	25	30	7	2.9			
-55	-	-	41	24	4	2.9	-	-	-	17	36	6	1.9			
-23	-	-	41	18	1	2.4	-	-	-	25	24	10	8.2			
-196	-	-	35	23	2	1.7	-	-	-	20	16	4	1.3			
-59	-	-	38	35	1	3.2	-	-	-	18	18	4	1.0			
-107	-	-	35	20	3	0.6	-	-	-	29	27	7	2.4			
-62	-	-	19	71	12	27.8	-	-	-	46	78	16	29.8			
-63	-	-	17	37	4	7.1	-	-	-	18	14	2	0.3			
-173	-	-	21	32	2	0.9	-	-	-	44	49	11	15.9			
-227	-	-	49	20	5	4.0	-	-	-	19	21	6	6.8			
-18	-	-	43	31	8	8.7	-	-	-	37	18	7	3.7			
-148	-	-	33	18	4	1.4	-	-	-	19	19	2	1.1			
-138	-	-	25	25	4	1.7	378-17	SXQ151	-	114	66	17	46.6			
-126	-	-	15	48	8	7.0	379-18	-	-	44	124	19	135.5			
-70	-	-	16	12	3	0.5	380-1	SXQ154	-	90	55	17	98.0			
-210	-	-	11	12	2	0.2	381-19	-	50H15	258	165	47	222.7			
-149	-	-	28	30	5	2.0	382	SXQ156	西W	234	236	64	195.9			
-139	-	-	9	15	3	0.4	-	-	-	88	78	15	59.0			
-142	-	-	36	51	9	13.0	-	-	-	53	54	13	24.3			
-215	-	-	36	25	5	4.5	-	-	-	47	27	10	10.9			
-69	-	-	26	37	6	3.1	-	-	-	55	58	14	32.4			
-212	-	-	22	11	3	1.0	-	-	-	44	37	12	13.6			
-28	-	-	55	50	11	26.3	-	-	-	67	66	39	187.4			
-5	-	-	41	45	11	15.7	-	-	-	140	122	53	102.2			
-102	-	-	34	48	7	9.9	-	-	-	28	26	4	2.4			
-223	-	-	43	41	8	7.2	383-76	SXQ155	西W	80	81	61	92.4			
-49	-	-	25	40	7	8.7	384-129	-	-	118	31	57	693.9			
-149	-	-	75	44	15	47.2	385-1321	SXH19	西W	59	9	4	1.1			
-	-	-	31	19	2	0.6	386-2233	-	-	30	25	6	5.9			
-	-	-	12	15	2	0.3	387-1294	-	-	43	18	7	3.6			
376	-	-	150	36	36	36.0	288-1617	-	-	36	23	6	4.9			
-4	-	-	25	31	11	5.5	388-1456	-	-	31	19	1	3.0			
-71	-	-	32	30	8	5.7	389-1293	-	-	21	12	6	2.1			
-208	-	-	47	39	10	16.7	391-1260	-	-	34	19	15	1.8			
-181	-	-	26	15	8	1.2	392-85	-	-	112	58	24	126.4			
-98	-	-	25	13	3	0.8	393	SXQ156	-	60	130	35	209.7			
-38	-	-	9	11	1	0.1	-RQ12	-	-	72	113	32	224.4			
-39	-	-	23	15	2	0.2	-RQ13	-	-	56	85	16	35.3			
-202	-	-	25	5	2.4	-	394	-	-	50	58	8	25.5			
-179	-	-	35	68	18	130.5	RQ12	-	-	53	30	9	12.3			
-224	-	-	25	25	4	4.9	-RQ11	-	-	57	43	9	17.6			
-210	-	-	17	17	2	0.6	395-15	-	-	61	62	11	31.0			
-30	-	-	26	32	2	11.4	396-8	-	-	65	63	16	45.4			
-57	-	-	43	36	6	4.8	397-9	-	-	63	61	11	47.8			
-94	-	-	33	56	18	25.8	398-134	-	-	50	31	10	11.1			
-226	-	-	38	29	9	6.0	399-	SXP11	-	33	9	5	1.5			
-205	-	-	43	33	2	7.8	401-5	-	-	45	29	6	6.5			
-201	-	-	43	33	2	7.8	402-177	-	-	29	15	7	2.2			
-24	-	-	58	62	19	37.3	RQ12	-	-	79	23	5	9.4			
-143	-	-	36	29	22	32.0	404-6	-	-	36	23	4	3.6			

第26表 石器観察表(24)

No.	出土位置	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	種 類	No.	出土位置	石器	大きさ(cm)			重さ (g)	種 類
			長	幅	厚						長	幅	厚		
405	SXQ17	四角	122	85	8	261.4	435-11681	SXQ13	直角	29	76	8	31.0		
-1433	"	"	85	37	25.7		-12433	"	"	26	73	8	2.5		
-2106	"	"	58	71	18	85.7	438	"	"	117	89	25	223.2		
406-2188	"	"	22	16	2	0.4	-9680	"	"	10	100	22	165.5		
407	"	"	54	36	7	18.9	-19742	"	"	36	89	25	36.7		
-2129	"	"	34	32	6	4.7	-18659	"	"	74	25	18	21.5		
-2567	"	"	34	37	7	18.5	437-7852	"	"	66	75	18	62.1		
408-2159	"	"	83	41	11	26.0	438	"	"	111	63	25	172.9		
409-2157	"	"	84	42	12	25.4	-11486	"	"	55	62	25	105.5		
410-2158	"	"	91	43	19	19.0	-11183	"	"	87	89	20	72.4		
411-2184	"	"	88	13	1	8.5	439-10749	"	"	54	42	14	31.5		
412-749	"	"	56	26	6	9.5	440	"	"	46	28	16	48.0		
413-751	"	"	35	27	8	5.4	-11138	"	"	38	58	16	34.7		
414-2160	"	"	45	22	6	8.1	-9633	"	"	45	21	8	14.3		
415-7183	"	"	90	33	6	10.6	441-12279	"	"	79	28	12	27.4		
416-7178	"	"	89	47	15	25.5	442-7306	"	"	61	38	15	36.1		
417-2069	60山塊	78	75	32	182.4	443-12842	SXQ46	"	18	12	8	0.6			
418	SXQ20	四角	72	88	34	194.4	444-5811	"	"	14	14	2	9.7		
-2812	"	"	99	53	14	37.7	445-9945	"	"	35	21	6	3.9		
-5577	"	"	78	43	14	40.3	446-9172	"	"	44	21	8	9.1		
-5866	"	"	69	79	17	46.4	447-7327	"	"	34	18	5	3.0		
419	"	"	51	51	17	26.0	448-16162	"	"	43	20	4	5.1		
-5681	"	"	49	38	8	5.9	449-93170	"	"	50	27	5	0.5		
-4721	"	"	49	23	8	7.8	450-9353	"	"	49	28	8	9.7		
-4705	"	"	29	25	2	2.4	451-10528	"	"	34	23	8	6.8		
-5436	"	"	34	30	8	2.9	452	"	"	20	22	10	36.0		
420	"	"	30	87	25	72.1	-8238	"	"	36	38	8	8.7		
-5427	"	"	44	38	14	10.6	-8792	"	"	47	32	10	17.3		
-5270	"	"	17	39	14	3.6	453-9295	"	"	56	47	15	43.1		
-5136	"	"	45	37	10	12.6	454-8786	"	60山塊	78	87	22	176.3		
-5429	"	"	48	25	16	3.8	455-12887	SXQ45	直角	72	51	21	92.7		
-5154	"	"	44	43	14	21.2	456-19881	"	"	37	52	14	46.8		
-5275	"	"	47	31	8	10.7	457-11907	"	"	77	36	16	36.7		
421-2531	"	"	167	65	33	206.0	458-12102	"	"	39	39	9	12.1		
422	SXQ21	102	75	21	134.5	459-19867	"	"	71	58	23	56.7			
-4668	"	"	78	38	16	101.7	460-18910	"	"	35	28	2	6.3		
-4669	"	"	59	39	11	32.8	461-12470	"	"	46	50	12	28.7		
423-4615	"	"	37	47	15	45.2	462-13	SXQ03	"	153	32	16	80.7		
424-4593	"	"	90	45	17	42.0	463	"	"	88	42	18	51.6		
425-5981	"	"	127	250	50	1532.1	464	SXQ07	"	225	145	155	3522.6		
426-2444	SXQ22	89	87	17	85.1	"	9	"	"	45	32	2	8.8		
427-6975	"	"	42	56	10	23.9	"	24	"	38	39	2	1.9		
428-2523	"	"	28	39	27	47.7	"	5	"	35	38	4	3.8		
429-8815	"	"	30	36	6	3.0	"	13	"	22	41	5	10.7		
430-3839	"	"	34	22	2	2.2	"	42	"	24	29	5	1.5		
431-2459	"	"	85	43	15	53.4	"	9	"	41	42	5	8.6		
432-3817	"	"	35	58	21	110.6	"	21	"	44	36	5	10.6		
433-2799	"	"	54	31	12	26.3	"	38	"	54	100	16	220.3		
434-	"	"	51	49	13	192.6	"	13	"	58	59	17	87.3		
435	SXQ43	87	75	30	95.9	"	8	"	"	36	34	11	12.3		
-16579	"	"	21	45	14	76.0	"	42	"	21	25	8	4.4		
-11227	"	"	40	30	13	16.8	"	18	"	35	58	14	42.5		
-9747	"	"	35	58	8	4.6	"	27	"	15	25	5	1.1		
-19574	"	"	39	28	8	8.7	"	33	"	30	29	14	87.9		
-11689	"	"	25	25	12	7.2	"	2	"	42	38	8	13.4		
-8825	"	"	17	32	4	2.0	"	8	"	12	22	6	1.4		
-12369	"	"	28	19	3	2.6	"	32	"	105	65	38	275.5		
-10882	"	"	15	18	3	1.5	"	7	"	54	36	8	14.0		
-9744	"	"	24	18	4	1.5	"	6	"	31	32	26	126.2		
-10676	"	"	15	11	3	0.8	"	6	"	60	37	8	5.8		
-12427	"	"	18	22	2	1.4	"	6	"	42	37	4	2.8		

第27表 石器觀察表 (25)

No.	出土位置	石器	大きさ (mm)			種類	No.	出土位置	石器	大きさ (mm)			重量 (g)	説 考	
			長	幅	厚					長	幅	厚			
464-	MJ82	TG	120	75	15	147.5	480	SQ54	SQ49	100	50	5	105.9		
-	MJ82	-	117	73	15	108.0	-	-	-	153	120	15	128.5		
-23	SXQ105	G1	83	21	3.7	-	-	-	MES5	-	163	100	25	122.5	
-23	-	-	14	19	5	1.2	-	-	-	-	-	-	-		
-31	-	-	70	54	15	73.7	491-	-	SXP42	1209	26	15	4	1.3	
-20	-	-	65	72	15	89.4	492-	4	SK04	M062	105	62	42	201.8	
-38	-	-	135	57	25	1025.5	493-	-	SKP65	PC45	109	35	15	67.4	
-41	-	-	82	63	15	125.7	494-	-	-	-	10	35	22	54.9	
-14	-	-	68	60	15	125.6	495	-	MU59	-	35	22	4	3.7	
-39	-	-	72	54	21	78.7	496	-	-	-	15	10	12	22.4	
-29	-	-	32	31	7	9.5	497	-	MK56	-	42	32	11	26.9	
-12	-	-	74	22	17	68.4	498	-	MMS5	-	23	19	15	108.8	
-21	-	-	36	22	5	6.9	499	-	M158	-	12	15	7	10.4	
-30	-	-	32	26	5	1.5	500	-	-	-	42	32	7	10.5	
-11	-	-	79	50	82	501.2	501	-	MJ61	-	90	74	28	182.1	
-22	-	-	47	38	8	13.4	502	-	M157	-	20	15	4	8.7	
465	SXQ105	G43	267	57	18	1882.0	503	-	M154	-	36	25	6	2.0	
-	MDS5	-	74	66	26	158.1	504	-	M155	-	20	22	17	61.1	
-34	SXQ105	G8	105	47	17	121.5	505	-	M156	-	38	25	10	48.6	
-40	-	-	25	106	35	146.2	506	-	MJ81	-	26	34	18	38.2	
-61	-	-	42	64	34	29.3	507	-	-	-	23	15	5	1.3	
-65	-	-	60	207	36	211.2	508	-	MGB8	-	92	32	18	41.4	
-	MDS5	-	56	72	15	53.9	509	-	M157	-	65	26	8	6.1	
-49	SXQ105	G76	100	28	15	120.1	510	-	-	-	65	40	20	26.9	
-36	-	-	52	83	21	72.8	511	-	MH55	-	36	22	50	3.3	
-32	-	-	126	25	52	288.0	512	-	MJ56	-	42	30	8	8.8	
-60	-	-	93	220	42	431.5	513	-	MH56	-	59	34	14	26.1	
466	-	-	296	178	190	3146.5	514	-	MH55	-	57	33	16	32.0	
-53	-	-	126	25	27	343.1	515	-	MH56	-	34	25	7	9.7	
-132	-	-	92	102	28	182.0	516	-	M157	-	43	39	11	14.4	
-	MC12	G95	95	142	30	282.0	517	-	-	-	41	45	12	18.3	
-55	SXQ105	G95	100	22	15.2	-	518	-	-	-	88	50	22	79.4	
-51	-	-	114	113	13	307.9	519	-	MJ57	-	144	82	48	304.5	
-84	-	-	104	152	36	345.0	520	-	MGS5	-	107	36	14	41.6	
-46	-	-	96	150	34	975.5	521	-	MHS5	-	104	47	26	115.9	
-56	-	-	56	85	30	65.1	522	-	MGS5	-	85	53	19	72.8	
-46	-	-	73	117	53	602.0	523	-	-	-	93	50	24	72.0	
-28	-	-	84	118	25	158.1	524	-	-	-	53	60	19	65.2	
467-281	-	-	42	25	6	7.4	525	-	MGS5	-	92	50	18	64.1	
468-321	-	-	71	36	25	63.8	526	-	MH56	-	59	41	14	26.9	
469-329	-	-	71	91	16	45.4	527	-	MH56	-	31	54	19	25.9	
470-184	-	-	103	49	15	81.6	528	-	MHS5	-	80	37	16	22.8	
471-2	-	-	16	14	5	2.8	529	-	MH56	-	47	26	12	26.4	
472-177	-	-	53	22	6	7.8	530	-	MH56	-	98	68	40	191.9	
473-232	-	-	79	43	14	50.9	531	-	MGS5	-	108	46	25	101.8	
474-57	-	-	55	35	16	15.4	532	-	MGS5	-	39	60	22	18.8	
475-192	-	-	74	57	37	101.8	533	-	MGS5	-	130	52	15	144.2	
476-136	-	-	75	54	37	157.2	534	-	MGS5	-	93	39	16	54.8	
477-68	-	-	106	46	17	121.8	535	-	MES5	-	21	21	16	26.2	
478-284	-	-	25	38	3	38.9	536	-	-	-	88	88	16	108.8	
479-16	-	-	50	45	39	23.2	537	-	MFS5	-	172	143	43	985.5	
480-259	-	-	36	34	6	7.2	538	-	MFS5	-	19	19	6	1.7	
481-197	岐阜山	G1	71	41	40	509.7	539	-	MDS5	-	135	68	16	94.3	
482-145	-	-	151	71	28	496.5	540	-	MDS5	-	84	31	16	35.1	
483-150	-	-	119	51	36	182.9	541	-	MES5	-	20	28	12	25.8	
484-110	-	-	96	71	34	295.4	542	-	LTS5	-	81	50	11	37.1	
485-223	-	-	93	60	39	261.0	543	-	MDS5	-	85	47	11	35.2	
486-160	-	-	105	99	62	643.3	544	-	T.T57	-	117	54	21	102.7	
487-117	-	-	135	113	39	323.7	545	-	MFS5	-	58	65	8	18.0	
488-58	-	P62	83	77	50	295.7	546	-	MDS5	-	41	29	5	5.9	
489-49	SXQ105	-	82	55	14	75.4	547	-	MES5	-	123	72	71	124.4	

第26表 石器観察表(26)

NO.	出土地點	名前	大きさ(cm)			種類	形	考	番号	大きさ(cm)			種類
			長	幅	厚					長	幅	厚	
548	MES9	直刃	90	35	22	124.2	598	MAS1	-	86	32	11	92.2
549	LTS9	-	70	35	13	13.8	597	MES1	-	32	15	10	93.1
550	LL50	-	167	42	22	242.8	598	LT92	-	200	51	18	60.9
551	MES1	-	51	47	12	35.0	599	MES1	-	84	43	20	92.0
552	MAS6	-	70	34	28	71.2	600	MJ55	-	55	27	16	16.8
553	MDS9	-	106	44	36	189.4	601	LL43	-	31	19	8	11.3
554	MAS26	-	145	26	25	269.5	602	MES14	-	72	36	6	5.3
555	-	-	110	31	18	88.3	603	MES19	-	37	22	10	12.3
556	MCS9	-	114	42	26	149.4	604	MZ21	-	81	31	18	26.1
557	MAS1	-	173	57	42	436.6	605	MES19	-	131	33	16	41.8
558	MAS1	-	180	58	33	398.8	606	MAS9	-	106	56	27	101.8
559	-	-	269	180	67	290.3	607	-	-	144	72	33	181.7
560	MUS5	-	95	34	13	33.1	608	MES1	-	59	30	24	34.1
561	MAS9	-	33	40	11	26.5	609	MES16	-	79	37	20	133.5
562	MBS9	-	35	42	11	22.7	610	-	-	30	105	19	92.4
563	MCS1	-	34	38	19	26.1	611	MES16	-	75	44	17	47.6
564	MBS9	-	46	47	8	15.4	612	MES16	-	134	117	46	555.9
565	MBS4	-	67	40	12	33.9	613	MDS6	-	108	49	48	46.9
566	MUS8	-	28	35	8	5.9	614	MES1	-	92	38	15	46.8
567	-	-	80	81	18	162.2	615	MES1	-	38	55	23	76.0
568	-	-	82	88	22	141.5	616	LL49	-	37	140	29	170.0
569	LTS9	-	35	56	11	30.5	617	MES1	-	89	37	13	18.8
570	MDS9	-	76	71	14	71.3	618	MDS9	-	91	32	18	84.9
571	LTS7	-	129	76	21	141.6	619	MDS1	-	91	15	14	31.2
572	MDS9	-	79	58	18	49.1	620	MES16	-	114	80	39	119.8
573	MBS9	-	122	113	52	729.3	621	MDS9	-	142	31	28	361.2
574	LTS9	-	210	80	47	780.1	622	MES16	-	105	98	45	227.6
575	MES9	-	75	66	17	56.1	623	LTS9	-	94	64	24	222.5
576	LRS4	-	112	81	36	205.5	624	MES16	-	125	101	46	601.3
577	MES9	-	126	122	40	925.2	625	MES1	-	122	32	49	412.0
578	MMS9	-	22	14	6	1.2	626	MES16	-	102	103	42	330.5
579	ML99	-	24	14	4	0.5	627	-	157	69	31	301.6	
580	MIS1	-	36	12	3	1.2	628	MES1	-	94	43	24	60.1
581	MGS9	-	44	18	4	1.7	629	MDS1	-	65	38	14	44.1
582	LQ49	-	35	13	4	1.8	630	-	74	47	23	61.2	
583	MBS4	-	25	25	6	4.1	630	-	74	47	21	62.3	
584	MAS1	-	45	35	8	9.5	631	MDS1	-	71	48	26	72.6
585	ML97	-	56	21	10	6.8	632	LTS9	-	75	44	12	38.6
586	MDS9	-	85	51	25	80.9	633	LTS9	-	64	38	13	19.8
587	MIS1	-	28	40	23	84.1	634	-	37	15	7	5.9	
588	MES9	-	89	39	28	74.0	635	MES1	-	74	44	15	22.6
589	MAS1	-	90	46	15	93.0	636	MAS1	-	65	46	15	35.9
590	MBS2	-	102	45	26	87.2	637	MES1	-	38	21	11	12.2
591	-	-	85	43	15	38.7	638	-	38	18	11	35.4	
592	LTS9	-	85	52	20	60.4	639	MES1	-	35	27	13	21.1
593	-	-	91	45	21	32.9	640	MES1	-	53	38	19	36.5
594	MFS9	-	80	42	18	34.0	641	-	36	18	18	38.2	
595	MIS1	-	76	41	15	46.2	642	MES1	-	170	126	66	130.1

第5章 自然科学分析

第1節 年代測定

1 学習院大学放射性炭素年代測定

(1) 1991年度分(1991年7月22日付報告)

1991年6月27日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。なお年代値の算出には¹⁴Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は β 線の計数値の標準偏差 σ にもとづいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料の β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示しております。また試料の β 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときには、Modernと表示し、δ¹⁴C%を付記しております。

記

Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
GaK-15803	Charcoal from 岩瀬遺跡	8,430 ± 130
	試料-1 SN08	6,480 B.C.
GaK-15804	Charcoal from 岩瀬遺跡	7,460 ± 170
	試料-2 SN16	5,510 B.C.
		以上 木越邦彦

(2) 1993年度分(1994年3月28日付報告)

1994年1月10日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。なお年代値の算出には¹⁴Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は β 線の計数値の標準偏差 σ にもとづいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料の β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示しております。また試料の β 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときには、Modernと表示し、δ¹⁴C%を付記しております。

2 岩瀬遺跡の考古地磁気調査

(1) はじめに

岩瀬遺跡の焼土遺構、集石場、炉跡等から試料を採取し古地磁気研究を行った。研究の目的

記

Code No.	試料	年代 (1950年よりの年数)
GaK-17801	炭化物 from 岩瀬遺跡	10,050 ± 150
	試料-1 (SQ77)	8,100 B.C.
GaK-17802	炭化物 from 岩瀬遺跡	10,910 ± 170
	試料-2 (SXQ60 炉1)	8,960 B.C.
		以上 木越邦彦

は獲得されている磁化の性質を調べること、および年代を推定することである。

(2) 試料および処理について

採集試料の一覧表を第29表に示す。表には遺構名、便宜的に付した試料名、遺構の種類、考古年代が示してある。焼土の場合はポリカーボネイト製のキューブを地中に挿入して試料を採取した。集石遺構の場合には、現場で水平線、磁北の方向を石に記入しておき、実験室内で水平を再現し、コアピッカーを用いて直径25mmの円筒状試料を作成した。一つの石からできるだけ多くの試料を作成するようにした。

作成した試料に対して、スピナー磁力計を用いた磁化強度、方向測定、段階交流消磁操作による磁化の安定性チェック、熱磁気分析による磁性鉱物の同定、キュリー点の測定、段階熱消磁による最終加熱温度の推定、帶磁率測定を行った。

(3) 測定結果および考察

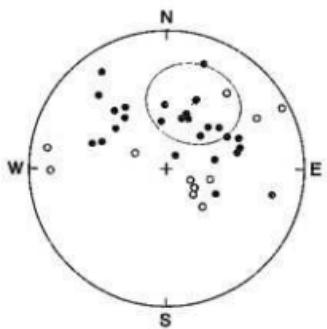
古地磁気測定による配石遺構の磁化方向分布はばらつく傾向にあることが試料全般に共通の性質である。例えば、SQ30およびSQ35試料の交流消磁後の磁化方向分布を第278図、第279図に示す。磁化方向が大きくばらついた分布をしている。しかし、偏角方向に引き伸ばした系統的な分布傾向が見える。また、磁化の反転している試料があることから、SQ30、SQ35

第29表 岩瀬遺跡採集試料一覧

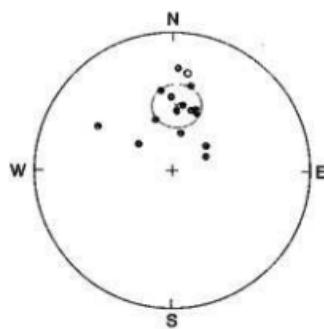
遺構名	試料名	遺構の種類	考古年代
SN08	IW08	焼土	縄文時代早期
SN16	IW16	焼土	縄文時代草創
SXQ21	北側IWX1	石器集中部	縄文時代前期
	南側IWX2	"	"
SQ30	IW30	集積炉	縄文時代草創
SQ33	IW33	"	"
SQ35	IW35	"	"
SXQ60炉跡1	IW60	炉跡	縄文時代草創
SQ68	IW68	集積炉	"
SQ77	IW77	"	縄文時代早期
SXQ125	IW125	石器集中部	"
SQ127	IW127	集石炉	"
SQ153	IW153	"	"

は川の氾濫等による擾乱を受けており、石自体が回転、あるいは反転したものと考えられる。石の形が扁平であることからも、外部の力によって裏返しになるよりも回転作用の方が大きかったと予想できる。発掘されたときの状態は多分、それほど強くない擾乱作用を受けた後の状態であろう。

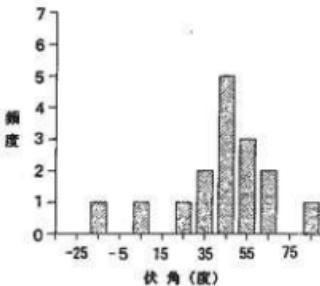
SXQ60 炉跡1の測定では磁化強度は集石の中心部分が周辺部に比べて大きく、強度・磁化方向のばらつきは周辺部の方が大きかった。この事実から、よく焼かれた中心部の石が外側に移動した、あるいは、石自体が回転したと考えてよいであろう。SQ68では磁化方向のばらつきは配石の外側の試料の方が大きかった。また、SQ77では同じ石から採取した試料でも磁化方向、磁化強度に大きな変動が見られた。このことから熱の影響は局部的でありその石が移動、



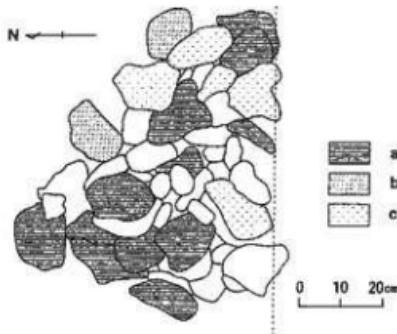
第278図 SQ30 試料交流消磁後の
磁化方向



第279図 SQ35 試料交流消磁後の
磁化方向



第280図 SQ30 試料の伏角頻度分布



第281図 SQ30 集石炉最終加熱時
温度分布図

第30表 若瀬遺跡考古地磁気測定結果一覧

遺構名	試料名	試料数	偏角 (度)	伏角 (度)	95%信頼 区間(度)	精密度パ ラメータ	考古地磁気推定年代
SN08	IW08	30	-4.87	56.84	5.06	62.75	6000B.P.~6500B.P. または 8000B.P.~8500B.P.
SN16	IW16	23	3.60	60.69	5.15	52.30	10000B.P.~11000B.P.
SXQ21	北側 IWX1	3	37.56	28.22	69.03	4.27	—
	南側 IWX2	5	-17.71	35.01	53.79	2.98	—
SQ30	IW30	30(52)	18.13	57.69	25.21	1.60	10500B.P. より古い
SQ33	IW33	11(15)	52.99	-14.26	28.07	2.83	—
SQ35	IW35	12(21)	-3.15	55.37	11.81	8.62	10500B.P. より古い
SXQ60	IW60	8	53.44	72.41	45.07	2.47	—
SQ68	IW68	28	-37.71	5.22	43.08	1.38	—
SQ77	IW77	31	-29.96	68.92	15.74	3.68	—
SXQ125	IW125	10	45.94	41.69	29.68	3.61	—
SXQ127	IW127	5	11.50	69.62	69.74	2.16	—
SQ153	IW153	10	-95.88	32.28	63.65	1.54	—

回転したことが明らかである。

石が外部の力によって動かされたとき、石の持つ残留磁化方向は元の方向を中心にして正規分布すると考えられる。この仮説を元に伏角を推定する。第280図はSQ30試料の伏角の頻度分布を示したものであり、伏角45度を中心にはほぼ正規分布していることがわかる。従って、SQ30が磁化を獲得した当時の地球磁場の伏角は45度と求まる。同様の処理によりSQ35は伏角53度が得られる。琵琶湖湖底堆積物の堆積残留磁化を調べたYasukawaら(1973)の伏角変化と比較してSQ30、SQ35は10,500B.P.より古い年代を持つと予想した。

SX21は焼上かどうか疑問が持たれていたが、磁化強度、方向の分布から考えると焼土ではないと結論できるだろう。SN08、SN16の焼土は共に安定な磁化を保持しており、SN08は6,000B.P.~6,500B.P.または、8,000B.P.~8,500B.P.、SN16は10,000B.P.~11,000B.P.と推定できた。

熱磁気分析を行った結果、キュリー点がSN08で578°C、SN16で561°Cとなり、磁性鉱物は磁鐵鉱であることがわかった。

段階熱消磁を行って磁化の減少傾向を解析して最終加熱時の温度分布を求め、600°C以上の温度で焼かれた石、部分的に200°C以下、および200°C以下の加熱温度と推定できる石の分布を示した(第281図)。分布状況からほとんどの石が焼かれているがその分布は集中しているわけではなく、川の氾濫の影響があるものと思われる。

(4) まとめ

集石の石自体が回転、移動していると予想されるため残念ながら詳しい年代の推定はできな

かった。しかし、磁化の性質、ばらつき貝合から集石の移動、回転の予想が可能であることを示した。

文献

Yasukawa, K., T. Nakajima, N. Kawai, M. Torii, N. Natsuhara and S. Horie (1973): Paleomagnetism of a core from Lake Biwa (I), J. Geomag. Geoelectr., 25, 447-474.

第2節 火山灰同定

1 岩瀬遺跡の火山灰分析（1991年度分）

（1）はじめに

岩瀬遺跡の発掘調査では、河岸段丘の良好な地層断面が作成された。そこで、野外地質調査を行って地質層序を明らかにした。さらに土壌についてテフラ検出分析を行い、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラを検出して、遺跡の土層断面中に時間軸を設定することを試みた。分析調査の対象とした地点は、MA51区北壁、MF51区、HE56区東壁の3地点である。また野外地質調査後、MG57区とMI57区で採取された試料が送付された。これらの試料についても、合わせて分析を行った。

（2）地質層序

①MA51区北壁

この地点では、礫層を覆う土壌の最も良好な断面が認められた（第283図）。土壌は、下位のいわゆるローム層（5a層以下）と、上部の黒ボク土（4層）に大きく区分される。ローム層中に砂層が挟まれているほか、色調の暗い、いわゆる暗色帶と呼ばれる土層も認められる（6b層）。

②MF51区

この地点では、ローム層上部に、複数の暗色帶が認められた（第284図：8層、10層、12層）。

③HE56区東壁

本地点では、黒ボク土の良好な断面が認められた（第284図）。また、他の地点で認められなかったローム層の堆積が認められた。

（3）テフラ検出分析

①分析方法

示標テフラを検出するためには、基本的に5cmごとに採取された試料から、17点を選択してテフラ検出分析を行った。分析は、次の手順で行われた。

1) 試料 15g を秤量。

2) 超音波洗浄装置により、泥分を除去。

- 3) 80°Cで恒温乾燥。
4) 実体顕微鏡および偏光顕微鏡下で、テフラ粒子の特徴を観察。

②分析結果

1) MA51 区北壁

テフラ検出分析の結果を、表31に示す。いずれの試料にも、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、平板状のいわゆるバブル型と、繊維束状に発泡した軽石型から構成される。これらの試料には、顕著なテフラの降灰層準は認められない。

2) MF51 区

いずれの試料にも、火山ガラスが少しずつ認められる。顕著なテフラの降灰層準は認められないものの、試料番号6および7に含まれる火山ガラスは透明で、繊維束状やスponジ状に発泡した軽石型、平板状のいわゆるバブル型、さらに分厚い中間型ガラスなどから構成されることでほかの層準とは特徴を異にする。また試料番号16には、若干多くの火山ガラスが認められる。火山ガラスは、透明なバブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。このように顕著なテフラの降灰層準は認められないものの、試料番号7および16付近にテフラの降灰層準のある可能性が若干ながら考えられる。

3) HE56 区東壁

いずれの試料にも、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準は、認められない。

4) MG57 区

試料番号1には、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準とは、考えられない。

5) MI57 区

試料番号2には、火山ガラスがごく少量認められる。火山ガラスは透明で、バブル型と繊維束状に発泡した軽石型から構成される。顕著なテフラの降灰層準とは、考えられない。

(4) 考察

今回の分析で検出された火山ガラスの大部分は、基盤の地層中に大量に含まれると思われるものである。ただし可能性はごく小さいながら、MF51区の試料番号7および16付近にテフラの降灰層準のあることが考えられる。前者は、火山ガラスの特徴などから、十和田火山起源のテフラの可能性がある。仮に宮城県北部と同様に、岩漬遺跡で認められる黒ボク土の基底を約1万年前とすると(早田, 1989)、試料番号7付近に存在する火山ガラスは約1.0-1.3万年前の十和田八戸テフラ(To-II P, 町田ほか, 1984)に由来するのかも知れない。

また、試料番号16付近に若干多く含まれる火山ガラスは、その形態や色調などから、約

2.1~2.2万年前に南九州姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT町田, 1976)に由来する可能性が考えられる。ATは、秋田県男鹿半島をはじめとして宮城県北部や山形県北部においても検出されている(白石ほか, 1988, 早田, 1989, 八木・早田, 1989)ことから、岩瀬遺跡付近にATが降灰したことは確実と考えられる。いずれにしても、検出された火山ガラスの量が少ないとから、これ以上の言及はではない。

(5) まとめ

岩瀬遺跡において野外地質調査が行われ、土層の層序が明らかになった。また合わせてテフラ検出分析が行われたものの、明瞭な示標テフラの降灰層準は検出されなかった。しかし、量は少ないながら十和田八戸テフラ(約1.0~1.3万年前)と姶良Tn火山灰(AT)に由来する可能性がある火山ガラスも検出された。このことから、さらなる調査分析により、石器包含層の編年ができる可能性があることが十分に考えられる。今後も、発掘調査の際に火山灰編年学(テフロクロノロジー)により調査分析が行われ、テフラに関する資料が蓄積されていくことが必要である。

文献

- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰-姶良Tn火山灰の発見とその意義. 一科学, 46, p.339-347
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」p.865-928.
- 白石建雄・竹内貞子・林 倍太郎・林 聖子(1988)秋田県男鹿半島で発見された姶良Tn火山灰. 第四紀研究, 27, p.187-190
- 早田 魁(1989)テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討-仙台平野北部の遺跡を中心にして. 第四紀研究, 28, p.296-282
- 八木浩司・早田 魁(1989)宮城県中部および北部に分布する後期更新世広域テフラとその層位. 地学雑誌, 98, p.871-885.

2 岩瀬遺跡の火山灰分析(1993年度分)

(1) はじめに

東北地方には多くの第四紀火山が分布している。これらの多くは第四紀をとおして大量のテフラ(火山碎屑物、いわゆる火山灰)を噴出してきた。これらのテフラ層については、放射性年代測定法や考古学の編年学的な成果さらに古文書などに残された記録などから噴出年代が明らかにされているものも多い。したがって、これらの示標テフラ層の降灰層準を遺跡の土層断面から検出し、それらとの層位関係を明らかにすることによって、遺物包含層の堆積年代や遺構の構築年代を明らかにできるようになっている。そこで岩瀬遺跡においても、地質調査を行っ

て標式的な土層断面の土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析を行ってすでに噴出年代が明らかにされている示標テフラの降灰標準を求めることが試みられることになった。

(2) 土層の層序

①MA59 区

本地点では、岩瀬遺跡の標式的な土層断面が認められた（第282図）。ここでは礫層（層厚128cm以上、礫の最大径380mm）の上位に、下位より褐色砂質土（層厚12cm、IX層）、褐色砂層（層厚12cm、VII層）、褐色砂質土（層厚31cm、VI層）、黄色砂質土（層厚16cm）、褐色砂質土（層厚5cm、以上V層）、褐色砂礫層（層厚18cm、礫の最大径7mm）、黄褐色砂質土（層厚18cm、以上VI層）、暗褐色土（層厚15cm、V層）、黒褐色土（層厚18cm）、作土（層厚11cm）が認められた。

②MC52 区

ここでは、ローム層のブロック混じりの暗褐色土（層厚15cm、V層）の上位に、下位より黒色土（層厚28cm、IV層）、暗褐色土（層厚6cm、III層）、黑色土（層厚3cm、II層）、黒褐色作土（層厚10cm、I層）の連続が認められた。

③5号炉

炉址が検出された本地点では、造構の上位の土層をよく観察できた。ここでは、炉を構成する礫群を覆って黒色砂質土（層厚5cm）が形成されており、その上位にIX層以上の土層の堆積が認められた。

(3) テフラ検出分析

①分析試料と分析方法

MA59区とMC52区の2地点の土層断面において基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきの試料18点を対象にテフラ検出分析を行い、示標テフラの降灰標準を求めるこことになった。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

②分析結果

テフラ検出分析の結果を、第32表および第33表に示す。岩瀬遺跡MA59区では、軽石の粒子は検出されなかったものの、全試料にごく少量の火山ガラスが認められた。とくに火山ガラスの濃集する層準は検出されなかった。軽石の特徴はいずれもよく似ており、平板状のいわゆるバブル型ガラスのほかに、繊維束状に発泡した軽石型のガラスも少量認められた。火山ガラスの色調は透明である。

第31表 岩瀬遺跡のテフラ検出分析結果

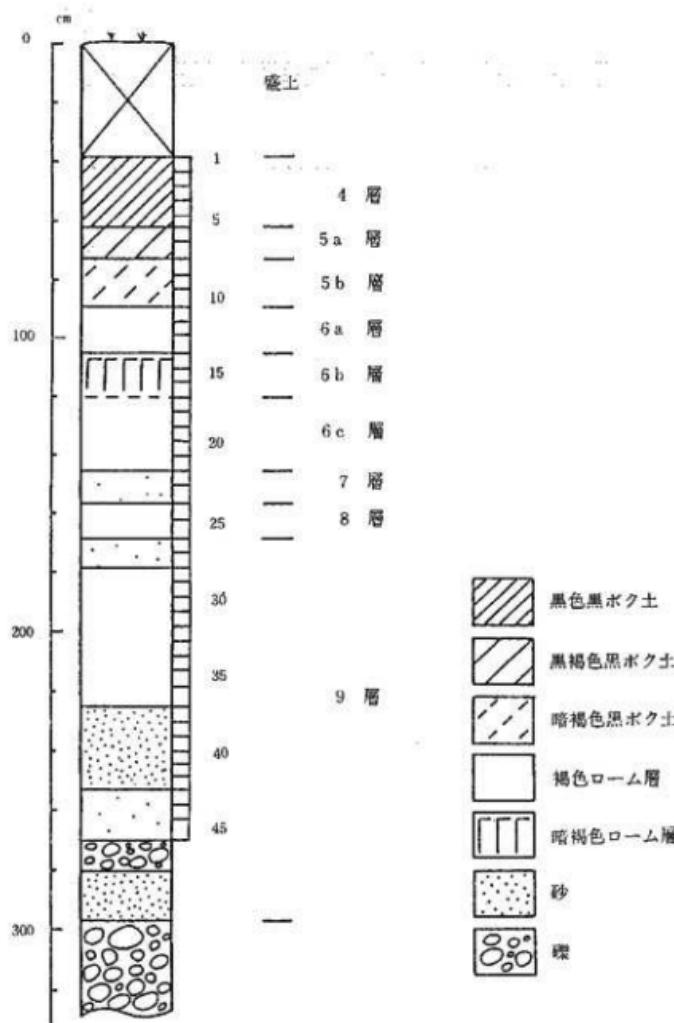
地点	試料	火山ガラスの量	火山ガラスの形態	火山ガラスの色調
MA51区	11	+	bw>pm	透明
	13	+	bw>pm	透明
	15	+	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
	21	+	bw>pm	透明
	25	+	bw>pm	透明
	31	+	bw>pm	透明
	33	+	bw>pm	透明
	35	+	bw>pm	透明
MF51区	6	+	pm>bw>Md	透明
	7	+	pm>bw>Md	透明
	16	++	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
ME56区	6	+	bw>pm	透明
	19	+	bw>pm	透明
MG57区	1	+	bw>pm	透明
M157区	2	+	bw>pm	透明

++++ : 特に多い, ++ : 多い, + : 中程度, - : 少ない, - : 認められない。bw : バブル型火山ガラス, pm : 槌石型火山ガラス

一方、MC52区では試料番号1と2に桿石型の火山ガラスが多く認められた。火山ガラスにはスponジ状に発泡したものと、纖維束状に発泡したものの2種類が認められる。火山ガラスの色調は透明である。その試料番号3以下の試料については、MA59区の試料と同じような特徴が認められた。つまり、含まれる火山ガラスはごく少量で、平板状のいわゆるバブル型ガラスのほかに纖維束状に発泡した桿石型の火山ガラスも少量認められた。火山ガラスの色調は透明である。これらの基準には、とくに火山ガラスの濃集する基準は検出されなかった。

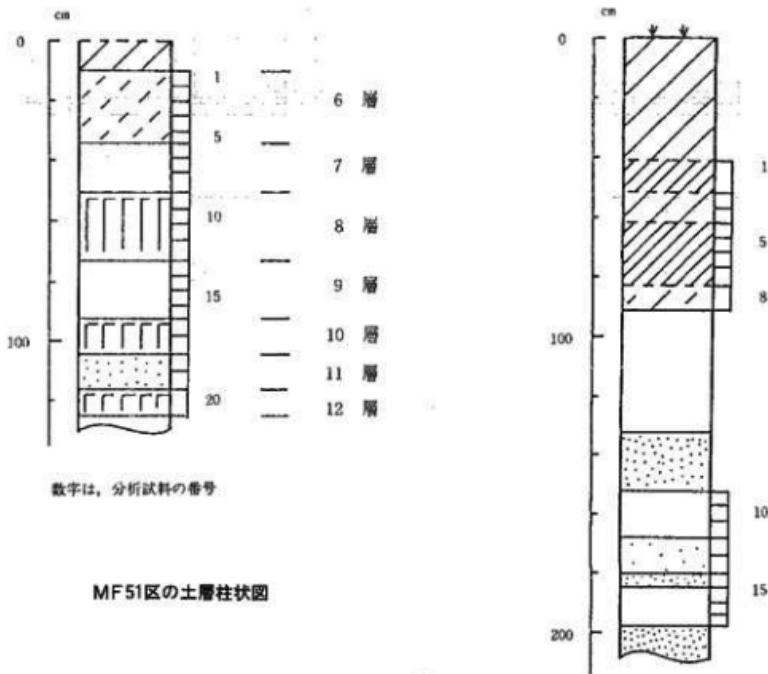
(4) 考察

岩瀬遺跡においてテフラ分析を行った結果、Ⅱ層およびⅢ層中に桿石型火山ガラスが多く検出された。土層の色調も考慮するとⅢ層中に火山ガラスに富むテフラの降灰層がある可能性が大きい。このテフラについては、黒ボク土中に層位のあることから、完新世に堆積したテフラの可能性が大きいと考えられる。岩瀬遺跡に近い岩手県湯田町の大渡Ⅱ遺跡の発掘調査では、すでに黒ボク土に約5,300年前に十和田カルデラから噴出した十和田中撮テフラ(To-Cu, 町田ほか, 1984)と915年に十和田カルデラから噴出したと推定されている十和田a火山灰(To-a, 町田ほか, 1981)の一次堆積層が検出されている(中川・吉井, 1993, 古環境研究所未公表資料)。火山ガラスの形態も併せて考慮すると、Ⅲ層中に降灰層があると考えられるテフラは、To-CuまたはTo-aに同定される可能性が大きいと考えられる。



数字は、分析試料の番号

第282図 MA51区北壁土層柱状図



黒色黒ボク土



黒褐色黒ボク土



暗褐色黒ボク土



褐色ローム層



暗褐色ローム層



砂

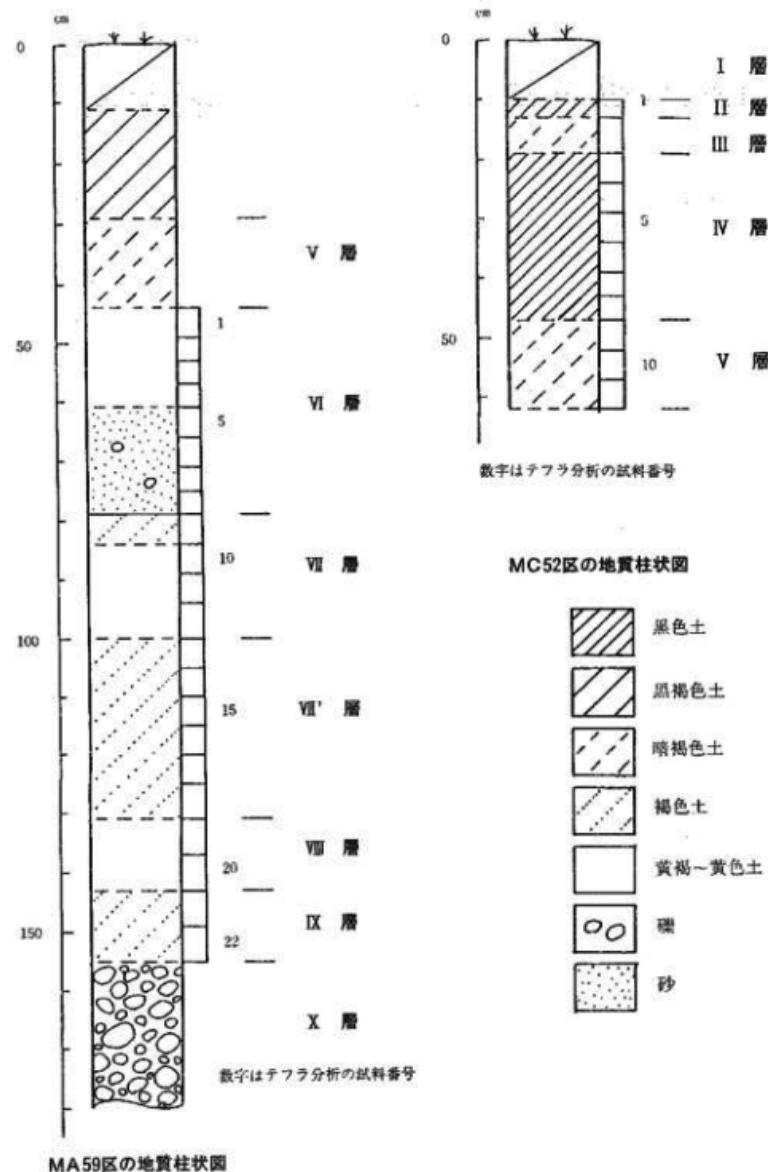


砾

数字は、分析試料の番号

HE56区東壁の土層柱状図

第283図 MF51・ME56区土層柱状図



第284図 MA59・MC52区土層柱状図

第32表 岩瀬遺跡 MA59 区のテフラ検出分析結果

試料	軽石			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	色調	形態
1	-	-	-	+	透明	bw>pm
3	-	-	-	+	透明	bw>pm
5	-	-	-	+	透明	bw>pm
7	-	-	-	+	透明	bw>pm
9	-	-	-	+	透明	bw>pm
11	-	-	-	+	透明	bw>pm
13	-	-	-	+	透明	bw>pm
15	-	-	-	+	透明	bw>pm
17	-	-	-	+	透明	bw>pm
19	-	-	-	+	透明	bw>pm
21	-	-	-	+	透明	bw>pm

++++ : 特に多い。 +++ : 多い。 ++ : 中程度。 + : 少ない。

- : 認められない。 pm : 軽石型。 bw : バブル型。

第33表 岩瀬遺跡 MC52 区のテフラ検出分析結果

試料	軽石			火山ガラス		
	量	色調	最大径	量	色調	形態
1	-	-	-	+++	透明	pm
2	-	-	-	+++	透明	pm
3	-	-	-	+	透明	bw>pm
5	-	-	-	+	透明	bw>pm
7	-	-	-	+	透明	bw>pm
9	-	-	-	+	透明	bw>pm
11	-	-	-	+	透明	bw>pm

++++ : 特に多い。 +++ : 多い。 ++ : 中程度。 + : 少ない。

- : 認められない。 pm : 軽石型。 bw : バブル型。

岩瀬遺跡における前回のテフラ分析では、Ⅶ層中に約1.2万年前に十和田火山から噴出した十和田一八戸テフラ (To-HP, 町田ほか, 1984) に由来する可能性のある火山ガラスが検出された。しかし今回の分析では前回ほど明確に検出されなかった。これは今回の地点が、前回の分析地点と比較してテフラ降灰時安定して土壤が形成されるような環境になかったことに起因しているのかも知れない。いずれにしても2回の分析の結果、いずれの土層中にも量は少ないながらも火山ガラスが存在し、またさらに上部の黒ボク土中には火山ガラスに富むテフラの降灰層準のあることも明らかになった。今後遺跡内の全土層を対象として、テフラ組成分析や屈折率測定など、示標テフラとの精度を向上させるための分析を行う必要がある。

(5) まとめ

岩瀬遺跡において地質調査とテフラ検出分析を合わせて行った結果、Ⅲ層に約5,300年前に

十和田火山から噴出した十和田中揮テフラ (To-Cu)、あるいは915年にやはり十和田火山から噴出した十和田a テフラ (To-a) に同定される可能性の大きいテフラの降灰層準が検出された。このテフラについては、さらに屈折率測定などを行って示標テフラとの同定を行う必要がある。

なお前述の岩手県湯田町大渡II遺跡においては、To-Cu と To-a のほかに、約 2.1-2.5 万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良 Tn 火山灰 (AT、町田・新井、1976) が発見されている (中川、1993)。岩瀬遺跡付近では、今後の調査によりさらに約 3.1-1.4 万年前に浅間火山から噴出した浅間-板鼻黄色軽石 (As-YP) や浅間-草津黄色軽石 (As-YPk) に由来する可能性のある二口火山灰 (PtA、小岩・早田、1994)、約 1.2 万年前に十和田火山から噴出した十和田-八戸テフラ (To-HP)、そして約 6,300 年前に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah、町田・新井、1992) など広域テフラの降灰層準の検出される可能性がある。今後本地域においてさらに土層の堆積状況の良い地点を探し、調査分析を行う必要がある。

文献

- 小岩直人・早田 勉 (1994) 東北地方中南部に分布する更新世末期のガラス質テフラ. 地学雑誌, 103, p. 68-76.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰-姶良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.143-163.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, p.276.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ. 古文化財総集委員会編「文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 中川重紀・吉田 充 (1993) 大渡II遺跡調査概要. 第7回北日本の旧石器文化を語る会講演会要旨集, p. 13-16.

第3節 植物遺存体同定

1 繩文時代草創期炉の植物利用

(1) はじめに

岩瀬遺跡 (秋田県平鹿郡山内村土淵字岩瀬所在) は、奥羽山脈から横手盆地に向かって北西流する横手川の右岸に形成された河岸段丘上に位置する。横手川沿いの段丘上には、縄文時代の遺跡が数多く知られ、縄文時代の環境や人間活動を知る上で重要な地域といえる。本遺跡周辺で

も、虫内Ⅰおよび虫内Ⅲ遺跡、小田IV遺跡、上谷地遺跡において、自然科学分析を用いた古植生や生業等に関する検討が行われ（一部未公表）、過去の環境や人々の生活の一端が明らかになりつつある。

今回調査が行われた岩瀬遺跡では、縄文時代草創期～晩期を中心とした遺構・遺物が検出されている。今回の分析調査では、縄文時代草創期の集石炉 SXQ60 から採取された土壌試料を対象として、燃料材に利用した植物の種類を明らかにする。すなわち、土壌試料全点について植物珪酸体分析を実施するとともに、土壌試料中から採取された炭化材および種実遺体の同定もあわせて実施する。縄文時代草創期の燃料材に関する検討は、周辺地域における類例が知られていないため、当該期の植物利用を知る上で貴重な資料が得られるものと期待される。なお、当初食生活の一端を知るために骨・貝類の同定を計画したが、試料中に骨・貝が認められなかっただため、今回はこれに関する検討は行わない。

（2）試料

試料は、縄文時代草創期とされる集石炉 (SXQ60) から採取された土壌試料 5 点（試料番号 1～5）である（第34表）。植物珪酸体分析は、試料番号 1～5 の合計 5 点を用いた。炭化材試料は、試料番号 1 から 4 点、2 から 1 点、3 から 2 点、4 から 1 点、5 から 2 点、合計 10 点を抽出した。また、種実遺体は、試料番号 1 から抽出された 1 点である。

（3）方法

①植物珪酸体分析

試料数 g について、過酸化水素水 (H_2O_2) と塩酸 (HCl) による有機物と鉄分の除去、超音波処理 (80W, 250KHz, 1 分間) による試料の分散、沈降法による粘土分の除去、ポリタンゲステン酸ナトリウム（比重 2.5）による重液分離を順に行い、物理・化学処理で植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈した後、カバーガラスに滴下し、乾燥させる。その後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

検鏡は光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現するイネ科植物の葉部（葉身と葉鞘）の短細胞に由来する植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身の機動細胞に由来する

第34表 分析試料一覧

試料番号	層 相	試 料 採 取 遺 構	時代時期	備 考
1	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡 1	縄文時代草創期	屋外炉
2	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡 2	縄文時代草創期	屋外炉
3	褐色シルト質砂	8IS SXQ60 炉跡 3	縄文時代草創期	屋外炉
4	褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡 4 黒土	縄文時代草創期	屋外炉
5	暗褐色シルト混り砂	8IS SXQ60 炉跡 5 石組みの内側	縄文時代草創期	屋外炉

植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、同定・計数する。なお、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にした。また、イネ科植物が燃料材などで利用され検出される場合、短細胞列・機動細胞列といった組織片で認められる例もある（佐瀬、1982, 1993；大越、1985）。このため、焼土については組織片にとくに注目した。

②種実遺体同定

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、種類の同定を行った。

③炭化材同定

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

（4）結果

①植物珪酸体の産状

分析の結果、植物珪酸体は全く検出されなかった。

②種実遺体同定

種実遺体はイネの穎であった。以下に形態学的特徴を記す。

・イネ (*Oryza sativa L.*) イネ科

穎（切説）が検出された。穎は淡褐色。大きさは縦軸8mm、横軸4mm程度。穎の表面には微細な顆粒状突起が密に配列する。

③炭化材同定

同定結果を第35表に示す。炭化材は、No.1中の2点が組織の劣化が激しかったため同定にはいたらず、観察できた範囲で木材組織の形態を記した。その他の試料は全て広葉樹で、オニグルミ、ハンノキ属の一種、カエデ属の一種、トネリコ属の一種の4種類が同定された。各種類の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編<I・II>」（北村・村田、1971, 1979）に従い、一般的な性質などについては「木の辞典 第1巻～第17巻」（平井、1979～1982）も参考にした。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana (Maxim.) Kitamura*) クルミ科

散孔材で年輪界付近でやや急に管径を減少させる。管孔は単孔および2～4個が複合する。道管は單穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、1～3細胞幅、1～40細胞高。年輪界は明瞭。

オニグルミは、北海道から九州までの川沿いなどに生育する落葉高木である。材の硬さは中程度、加工は容易で狂いが少なく、保存性は低い。銑床として、洋の東西を通じて広く用いられた。ほかに各種器具・家具材などの用途も知られている。

・ハンノキ属の一種 (*Alnus* sp.) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独もしくは放射方向に2~4個が複合する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は密に対列状に配列する。放射組織は同性、單列、1~30細胞高のものと集合放射組織がある。年輪界はやや不明瞭。

ハンノキ属はハンノキ (*Alnus japonica* (Thunb.) Steud.)、ヤシャブシ (*A. frima* Sieb. et Zucc.)、ミヤマハンノキ (*A. crispa* (Aiton) Pursh subsp. *maximowiczii* (Call.) Hult.)など国内に約10種が自生する。いずれも根に根瘤菌が共生しているため瘦地でもよく生育する。材はやや絞軟～やや重硬で、加工は容易、薪炭材や各種器具などとして用いられる。

・クリ近似種 (cf. *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科

環孔材で孔脚部は1~4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1~15細胞高。年輪界は明瞭。試料は細片であり、組織が近似するコナラ属コナラ亜属コナラ節の可能性もあるため、本報告では近似種とした。

クリは北海道西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材などの用途が知られている。

・カエデ属の一種 (*Acer* sp.) カエデ科

散孔材で、道管は単独および2~3個が複合し、晚材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~5細胞幅、1~30細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が、木口面において不規則な紋様をなす。年輪界はやや不明瞭。

カエデ属には、イタヤカエデ (*Acer mono* Maxim. subsp. *marmoratum* (Nicholson) Kitamura) やイロハモミジ (*A. palmatum* Thunb.) など約25種が自生し、また多くの品種があり植栽されることも多い。属としては琉球を除くほぼ全土に分布する落葉高木～低木である。一般に材はやや重硬・強韌で、加工はやや困難、保存性は中程度である。器具・家具・建築・装飾・施作・薪炭材などに用いられる。

・トネリコ属の一種 (*Fraxinus* sp.) モクセイ科

環孔材で孔脚部は2~3列、孔圈外で急激に管径を減じのち漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性(～異性Ⅱ型)、1~3細胞幅、1~40細胞高であるが、20細胞高前後のものが多い。年輪界は明瞭。

トネリコ属には、シオジ (*Fraxinus spaethiana* Lingelsh.)、トネリコ (*F. japonica* Blume)、アオダモ (*F. serrata* (Nakai) Murata) など約8種が自生する。このうちヤマトア

第35表 炭化材の樹種同定結果

番号	試料名	時代	用途	樹種名
1	SXQ60炉跡1	縄文時代草創期	燃料材?	針葉樹 カエデ属の一種 トネリコ属の一種 広葉樹(環孔材)
2	SXQ60炉跡2	縄文時代草創期	燃料材?	ハンノキ属の一種
3	SXQ60炉跡3	縄文時代草創期	燃料材?	オニグルミ ハンノキ属の一種
4	SXQ60炉跡4	縄文時代草創期	燃料材?	トネリコ属の一種
5	SXQ60炉跡5	縄文時代草創期	燃料材?	オニグルミ トネリコ属の一種

オダモ (*F. longicuspis* Sieb. et Zucc.)・マルバアオダモ (*F. sieboldiana* Blume)・アオダモは北海道・本州・四国・九州に、ヤチグモ (*F. mandshurica* Rupr. var. *japonica* Maxim.) は北海道・本州(中部地方以北)に、トネリコは本州(中部地方以北)に、シオジは本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。いずれも落葉高木である。材の性質は種によって異なるが、一般には中庸～やや重硬で、韌性があり、加工は容易で、建築・器具・家具・旋作・薪炭材などの用途が知られる。

(4) 考察

5点の土壤試料中には、植物珪酸体が全く認められなかった。集石炉は、径1~2mの浅い窪み中に焼けた河原石が炭化物とともに多量に含まれている(秋田県埋蔵文化財センター, 1993)。分析を行った試料中にも、細かい炭化物が多量に含まれており、燃料材にイネ科植物ことが使用されていれば、植物珪酸体が少なからず認められるものと考えられる。今回の結果は、燃料材にイネ科植物が使用されなかった可能性を示唆する。

一方、抽出された炭化材からは、針葉樹、オニグルミ、ハンノキ属、クリ近似種、カエデ属、トネリコ属、不明散孔材が同定され、これらの木材が燃料材として使用されていたことが明らかとなった。これらの樹種は、周辺の虫内I遺跡、小田IV遺跡、上谷地遺跡等で行った炭化材の樹種同定や標実遺体の同定でも確認されており(一部木公表)、縄文時代を通じて周辺地域で入手可能であったと考えられる。これらの結果から、集石炉の燃料材は、特定の樹種が選択されていたのではなく、周辺部で得られる様々な木材が利用されていたことが推定される。

なお、試料番号1ではイネの穎(初穂)が1点検出された。穎は保存状態が良好であり、現生のものに近い。土壤試料中から植物珪酸体が全く検出されなかつことや、本遺跡の現地表面が水田として利用されていることを考慮すると、後代の攢乱に伴うものか試料採取時に現生の穎が試料中に混入した可能性がある。

引用文献

- 秋田県埋蔵文化財センター（1993）岩瀬遺跡発掘調査略報。5p。
- 半井信二（1979-1982）木の辞典 第1巻～第17巻。かなえ書房。
- 北村四郎・村田 源（1971, 1979）原色日本植物図鑑 木本編<I・II>, 453p., 545p., 保育社
- 近藤誠三・佐瀬 隆（1986）植物珪酸体分析、その特性と応用。第四紀研究, 25, p.31-64。大越昌子（1985）プラント・オパール分析。「平賀遺跡 平賀遺跡群発掘調査報告書」, p.803-815。平賀遺跡群調査会。
- 佐瀬 隆（1982）古墳時代住居跡の炉に関する焼土について—植物起源粒子の植物珪酸体からみて—。東京都埋蔵文化財センター調査報告書第2集「多摩ニュータウン遺跡（第3分冊）」, p.303-306。（財）東京都埋蔵文化財センター。
- 佐瀬 隆（1993）鼻館跡の古代のD3-w上坑、E4-a上坑の埋土に挟存する灰層の植物珪酸体分析、灰像分析。岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第171集「鼻館跡発掘調査報告書国道45号久慈バイパス関連遺跡発掘調査」, p.222-227。（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター。

2 MC ライン西壁の珪藻分析・植物珪酸体分析

（1）珪藻分析

①はじめに

珪藻は、10~500 μm ほどの珪酸質殻をもつ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられている。また、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群も設定されている（小杉, 1988 ; 安藤, 1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域までと広範囲に及び、中には河川や沼地あるいは池などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給される環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、過去の堆積物中の珪藻化石の解析から、遺跡を埋積する堆積環境について知ることが可能である。ここでは、こうした珪藻化石を利用して、岩瀬遺跡の堆積環境について検討する。

②試料と処理方法

試料は、MC ライン土層から採取された 25 点である。これらの試料は、以下の方法で処理した。

- 1) 試料から濾液重量約 1~10g 程度を取り出し、計量した後ビーカーに移し、蒸留水を加えた後懸濁液を回収する。放置後上澄み液を除去し、30%過酸化水素を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。
- 2) 反応終了後水を加え、1 時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を上澄み液が透明になるまで繰り返す（7 回程度）。
- 3) ビーカーに残った残渣は、遠心管に細粒分のみ回収する。
- 4) マイクロピペットを用い、遠心管から遺伝子を取り、カバーガラスに滴下し乾燥する。乾燥

第36表 岩瀬遺跡の珪藻化石産出表

分類群	適応性												
	塩分	pH	流水	生活	1	2	3	4	8	10	12	16	25
<i>Melosira sulcata</i>	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis lauta</i>	M	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. silicula</i>	F-ind	Alka	ind	B	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella minuta</i>	F-ind	ind	ind	B	8	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>C. tumida</i>	F-ind	Alka	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. turgidula</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i>	F-ind	ind	ind	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>D. yatukaensis</i>	F-ind	?	Lim	B	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Epithemia turgida</i>	F-ind	Alka	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia arcus</i>	F-pho	Acid	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i>	F-ind	Alka	ind	B	3	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>F. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i>	F-ind	ind	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. spp.</i>	F-?	?	?	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i>	F-ind	Alka	ind	T	10	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Melosira varians</i>	F-ind	Alka	ind	P	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula cuspidata</i>	F-ind	Alka	ind	B	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. elginensis</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Neidium affine</i>	F-ind	ind	Lim	B	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. iridis</i>	F-pho	ind	Lim	B	2	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. spp.</i>	F-?	?	?	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. parvula</i>	F-ind	ind	ind	B	2	2	1	-	-	-	-	-	-
<i>N. tryblionella</i>	F-ind	ind	ind	B	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>N. spp.</i>	F-?	?	?	P/B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	F-ind	ind	Lim	B	4	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. borealis</i>	F-ind	ind	ind	T	1	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. microstauron</i>	F-ind	Acid	ind	B	13	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>P. subcapitata</i>	F-ind	ind	ind	B	3	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. viridis</i>	F-ind	ind	ind	B	17	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>P. spp.</i>	F-?	?	?	B	8	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibba</i>	F-ind	Alka	ind	B	47	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>R. gibberula</i>	F-phi	Alka	ind	B	30	1	-	-	-	-	1	-	-
<i>Surirella angusta</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>S. elegans</i>	F-ind	Alka	Lim	P	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ovata</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	8	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. robusta</i>	F-pho	Alka	Lim	P	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. tenera</i>	F-ind	Alka	Lim	P	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. spp.</i>	F-?	?	?	P/B	6	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. vaucheriae</i>	F-ind	Alka	ind	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-
海水種					0	0	0	0	0	0	1	0	0
海-汽水種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水種					0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水種					214	10	4	1	2	1	0	1	1
計数した数					214	10	4	1	2	1	1	1	1

凡例(適応性)

塩分濃度

pH

流水

生活型

M : 海水種	Acid : 酸性種	Lim : 止水種	P : 浮遊生種
M-B : 海-汽水種	ind : 不定種	ind : 不定種	B : 底生種
B : 汽水種	Alka : アルカリ種	Rhe : 流水種	P/B : 浮遊生/底生種
F-phi : 淡水-好塩種	? : 不明種	? : 不明種	T : 陸生種
F-ind : 淡水-不塩種			
F-pho : 淡水-嫌塩種			
F-? : 淡水-不明種			

後は、マウントメディア（封入剤）で封入しプレパラートを作成する。

作成したプレパラートは光学顕微鏡下600~1000倍で珪藻種を同定し、般約200個体を計数する。なお、珪藻殻が200個に満たない試料は、プレパラート1枚分を精査した後、検鏡を止めた。

③結果

MCライン土層から検出された珪藻化石は、43分類群17属36種である。これらの大半は試料No.1から検出されており、他の試料からはほとんど検出されていない。これは、試料No.2~4は堆積物が土壤のため珪藻が生育する環境になく、その他の試料は堆積物が砂質のため、珪藻化石が流失したものと思われる。

No.1の試料では、*Rhopalodia gibba*や*Rhopalodia gibberula*などの底生種が多く、安藤(1990)が設定した沼沢湿地付着生種の*Pinnularia viridis*や*Pinnularia micros-tauron*なども比較的高率で随伴する。また、小杉(1986)が示す陸生珪藻の*Hantzschia am-phioxys*も出現している。このことから、No.1の試料は、沼沢地的環境が推定され、また周辺ではジメジメした場所も同時に存在したものと推定される。

引用文献

- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理, p73~88. 小杉正人(1986)陸生珪藻による古環境の解析とその意義。-わが国への導入とその展望-。植生史研究, p29~44.
- 小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究, p1~20.

(2) 植物珪酸体分析

①はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_4)が蓄積したものであり、植物が枯れた後も微化石(プランクト・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。この微化石は大きさや形態が植物群により固有であることから、土壤中から検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生(おもにイネ科)を復元することができる(杉山, 1987)。

ここでは、岩瀬遺跡の試料について植物珪酸体分析を行い、イネ科栽培植物の検討および遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

②試料

試料は、岩瀬遺跡MCライン土層から採取されたNo.1~No.10の10点である。

③分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プランクト・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105°C・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスピース添加 (直徑約40μm、約0.02g)
臺電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20μm以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-4} g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属 (ヨシ) の換算係数は6.31、クマザサ属型は0.75である。

④分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定識を行い、その結果を第37表、第38表および第285図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。なお、Aタイプについてはイネ科以外である可能性も考えられる。

[イネ科]

機動細胞由来: ヨシ属、キビ族型、ウシクサ族型、Aタイプ、クマザサ属型 (おもにクマザサ属)、タケア科 (未分類等)

その他: 表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、未分類等

⑤考察

1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオムギ族 (ムギ類が含まれる) やキビ族 (ヒエやアワ、キビなどが含まれる)、ジュズダマ属 (ハトムギが含まれる)、オヒシバ属 (シコクビエが含まれる)、モロコシ属、トウモロコシ属などがある。分析の結果、本遺跡の試料からは、これらの分類群はまったく検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

第37表 植物珪酸体分析結果 (単位: ×100個/g)

分類群 \ 試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科										
ヨシ属	7	7								
キビ族型	15									
ウシクサ族型	36	15								
Aタイプ	22									
タケ亞科										
クマザサ属型	306	273	69	8	30		15	7	15	
未分類等	73	74			8	8				
その他のイネ科										
表皮毛起源	22	15								
棒状珪酸体	218	118			8	8				
未分類等	531	384	8	8	23	8	8	7	8	
(海綿骨針)							8	7		
植物珪酸体総数	1230	885	76	15	68	23	23	15	23	

2) 植生および環境の推定

MC ライン十層の試料 No. 1~No. 10 について分析を行った。その結果、試料 1 では、クマザサ属型が約 30,000 個/g と多量に検出され、棒状珪酸体も比較的多く検出された。また、ヨシ属やキビ族型、ウシクサ族型、A タイプなども見られた。試料 2 もこれとほぼ同様の結果であるが、検出される分類群の数や植物珪酸体密度が減少している。

試料 3 では、クマザサ属型が 6,900 個/g と比較的少量検出されたが、その他の分類群はほとんど見られなかった。試料 4~9 についてもこれとほぼ同様の結果であるが、植物珪酸体密度はさらに低くなっている。試料 10 では植物珪酸体はまったく検出されなかった。

以上の結果から、堆積当時の植生と環境を推定すると次のようである。試料 1 と試料 2 の堆積当時は、クマザサ属を主体としてヨシ属なども少量見られるイネ科植生であったものと推定される。クマザサ属型には、チシマザサ節やチマキザサ節、スズタケ節、ミヤコザサ節などが含まれるが、植物珪酸体の形態からここで検出されたものは、その大部分がチシマザサ節およびチマキザサ節に由来するものと考えられる(杉山, 1987)。これらの植物は現在でも日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いとされている(室井, 1996)。なお、ヨシ属が見られることから、調査地点周辺は比較的湿った土壤条件であったものと推定される。

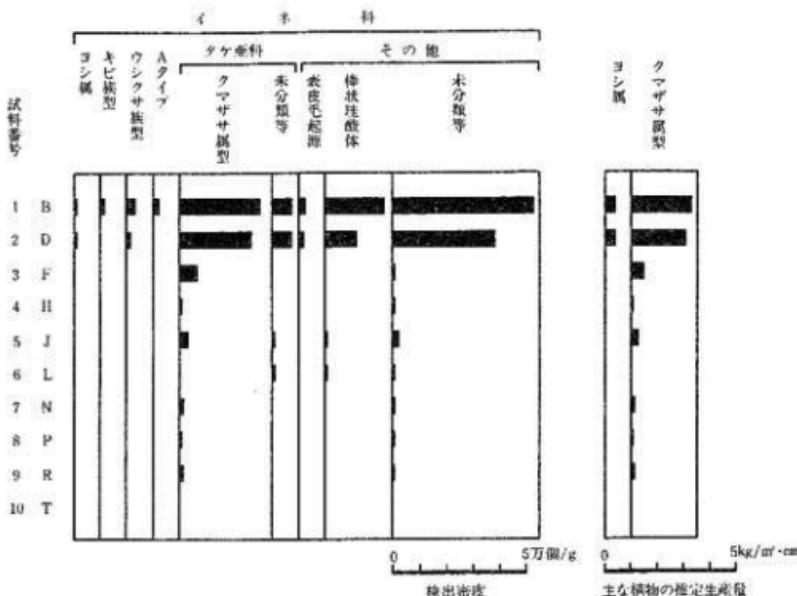
試料 3~9 の堆積当時は、クマザサ属が少量見られるイネ科植生であったと考えられるが、河川の影響など何らかの原因でそれ以外のイネ科植物の生育には適さない環境であったものと

第38表 主な分類群の植物体量の推定値

(単位: kg/m²・cm)

分類群 \ 試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科 ヨシ属	0.46	0.47								
タケ亜科 クマザサ属型	2.29	2.05	0.52	0.06	0.23			0.11	0.06	0.12

※第37表の値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算計数をかけて算出。



第285図 MCライン土壌における植物珪酸体分布結果

推定される。

参考文献

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オバール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号: p.27-37.
- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号: p.70-83.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オバール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9: p.15-29.
- 藤原宏志 (1979) プラント・オバール分析法の基礎的研究 (3) -福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ (*O. sativa* L.) 生産総量の推定-. 考古学と自然科学

第39表 分析試料一覧

試料番号	樹種(和名/学名)	試料番号	樹種(和名/学名)
No. 1	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 16	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 2	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 17	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinns</i>
No. 3	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 18	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 4-1	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 19	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 4-2	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 20	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 5	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinns</i>	No. 21-1	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 6	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinns</i>	No. 21-2	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 7	ユズリハ属 <i>Daphniphyllum</i>	No. 21-3	ハンノキ属 <i>Alnus</i>
No. 8	ハンノキ属 <i>Alnus</i>	No. 22	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 9	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 23	カエデ属 <i>Acer</i>
No. 10	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 24	ニレ属 <i>Ulmus</i>
No. 11	草本 <i>herb</i>	No. 25	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 12	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 26	トリネコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 13	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>	No. 27	カエデ属 <i>Acer</i>
No. 14	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 28	トネリコ属 <i>Fraxinus</i>
No. 15	ニレ属 <i>Ulmus</i>	No. 29	コナラ属コナラ節 <i>Quercus sect. Prinns</i>
		No. 30	燒土塊

学. 12 : p.29-41.

室井綽. 1960. 竹籠の生態を中心とした分布. 富士竹類植物園報告, 5: 103-121.

3 炭化材同定

(1) 試料

試料は以下に記載した 30 点であったが、1 試料内に炭化材が複数種類含まれるものや、炭化材でないものもあった。したがって、最終的には計 32 点の炭化材の同定を行った。

(2) 方法

試料は剖析またはカミソリを用いて新鮮な基本的 3 断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）をつくり、落射顕微鏡によって 75~600 倍で観察した。樹種同定はこれらの試料標本をその解剖学的形質および現生樹木の木材標本として対比して行った。なお本試料は試料そのものが小さく、焼け膨れなどで保存状態も悪く、良好な各断面が作成しにくかった。

(3) 結果

同定の結果、7 分類群が認められた。結果は第39表に一覧する。なお、各分類群の顕微鏡写真を示した。

以下に同定された分類群の特徴を記す。

a. ハンノキ属 *Alnus* カバノキ科

図版 83-1

横断面：小型の道管が、単独あるいは 2~数個放射方向に複合して均一に散在する散孔材である。

第40表 炭化材樹種同定結果

試料番号 / 遺構	試料番号 / 遺構
No. 1 SXQ 35 覆土	No. 16 SQ 68 覆土
No. 2 SXQ 60 炉跡 1 覆土 (a)	No. 17 SQ 77 覆土
No. 3 SXQ 60 炉跡 1 覆土 (b)	No. 18 SK 79 覆土
No. 4 SXQ 60 炉跡 1 石器集中部	No. 19 SQ 90 覆土
No. 5 SXQ 60 炉跡 2 覆土 (a)	No. 20 SQ 103 覆土
No. 6 SXQ 60 炉跡 2 覆土 (b)	No. 21 SQ 127 覆土
No. 7 SXQ 60 炉跡 3 覆土 (a)	No. 22 SXQ 143 覆土
No. 8 SXQ 60 炉跡 3 覆土 (b)	No. 23 SK 148 覆土
No. 9 SXQ 60 炉付近	No. 24 SK 149 覆土
No. 10 SXQ 60 炉跡 4 覆土 (a)	No. 25 SXQ 152 覆土
No. 11 SXQ 60 炉跡 4 覆土 (b)	No. 26 SQ 153 覆土
No. 12 SXQ 60 炉跡 5 覆土 (a)	No. 27 SN 157 覆土
No. 13 SXQ 60 炉跡 5 覆土 (b)	No. 28 MA 58 区 区-b
No. 14 SXQ 60 炉跡 5 覆土 (石縫内側)	No. 29 MA 57 区 区-c上
No. 15 SXQ 60 炉跡 5 覆土 (石縫外側)	No. 30 LT 58 区

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列である。

以上の形質からハンノキ属に同定される。なお、ハンノキ属にはハンノキ・ヤシャブシ・ミヤマハンノキなどがある。落葉の高木または低木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。強さなど中庸の材で、現在では建築・家具・器具・薪炭・旋作などに用いられている。

b. コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinns* ブナ科

図版 83-2

横断面：年輪のはじめに、大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。孔圈部外では、薄壁で角張った小道管が、単独あるいは2～3個かたまって火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は单穿孔である。放射組織は平伏細胞のみからなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質からコナラ属コナラ節に同定される。なおコナラ節にはカシワ・コナラ・ナラガシワ・ミズナラがある。落葉高木で冷温帯落葉広葉樹林の主要高木の一つで、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。概して強堅な材で、現在では家具・建築・器具・薪炭・椎茸などに用いられている。

c. ニレ属 *Ulmus* ニレ科

図版 83-3・4

横断面：年輪のはじめに、中型から大型の道管が、1～2列配列する環孔材である。孔圈部外では、多数の小道管が複合して、花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材

から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性ですべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~7細胞幅である。

以上の形質からニレ属に同定される。なおニレ属にはハルニレ・オヒョウ・アキニレがある。落葉または平常緑の高木で、日本では北海道・本州・四国・九州・琉球に分布する。種類によつてはやや重硬な材で、家具・建築・器具・薪炭・旋作などに用いられている。

c. カエデ属 *Acer* カエデ科

図版 83-5

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2~4放射方向に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性ですべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~5細胞幅である。

以上の形質からカエデ属に同定される。なおカエデ属にはイタヤカエデ・ツカエデ・ウリハダカエデなどがある。落葉の高木または小高木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。材はやや強弱かつ堅硬で、現在では建築・家具・器具・楽器・運動具・彫刻・薪炭・旋作などに用いられている。

e. ユズリハ属 *Daphniphyllum* トウダイグサ科

図版 83-6

横断面：小型のやや角張った道管が、ほぼ単独で均一に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔版からなる多孔穿孔で、その数は多く細かい。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、1~3細胞幅である。多列部・單列部とも10細胞高以下のものが多く、それが上下に連結しているものが多い。

以上の形質よりユズリハ属に同定される。なおユズリハ属にはユズリハ・ヒメユズリハ・エゾユズリハがある。常緑の高木あるいは低木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。

f. トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

図版 83-7・8

横断面：午輪のはじめに、中型から大型の道管が、1~2列配列する環孔材である。孔圈部外では、小型で丸い厚壁の道管が、単独あるいは放射方向2~3個複合して散在する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、1~3細胞幅である。

以上の形質からトネリコ属に同定される。なおトネリコ属にはシオジ・アオダモ・トネリコ

などがある。落葉または常緑の高木で、日本では北海道・本州・四国・九州に分布する。材は堅硬かつ強韌な良材で、現在では家具・建築・器具・運動具・楽器・薪炭などに用いられる。

g. 草本 Herb

図版 83-9

横断面：維管束が存在する。

放射断面および接線断面：維管束が桿軸方向に配列している。

以上の形質より草本に同定される。

(4) 所見

同定の結果、多いものからトネリコ属12、ニレ属10、コナラ属コナラ節4、ハンノキ属2、カエデ属1、ユズリハ属1、草本1であった。これらの樹種の中には暖温帯に分布する照葉樹ではなく、すべてが冷温帯の落葉広葉樹に属するものを主に含む分類群ばかりである。このことからみて周囲には冷温帯落葉広葉樹林が分布していたと推定される。同定された樹種は冷温帯落葉広葉樹林から普通に得られる種類である。また、トネリコ属とハンノキ属は湿地に生育する種が主となるため、ここでは湿地林を形成する樹木と推定される。よって遺跡周囲に湿地が存在していた可能性がある。

参考文献

島地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織。地球社。

島地謙ほか（1985）木材の構造、文永堂出版。

日本第四紀学会編（1993）第四紀試料分析法、東京大学出版会。

第6章 まとめ

岩瀬遺跡は、東北横断自動車道秋田線建設事業に係わって平成3年と5年に実施された調査で、主に縄文草創期より晩期に至る遺構や遺物が確認された。縄文時代の検出遺構は、竪穴住居跡2軒、竪穴状遺構2基、炉跡8（内2基は不明瞭）、土坑40基、集石炉17基、石組炉1基、焼土遺構11基、土器集中部3ヶ所、礫集中部4ヶ所、石器石材集積遺構5ヶ所、石器集中部50ヶ所、柱穴状遺構7基で、縄文以外のものは土坑1基、焼土遺構1基、炭焼成遺構2基、溝状遺構4条である。以下に、草創期と早期を中心にして、(1)～(4)の項目に沿って述べる。

(1) 河道A～Iと基本層位

遺跡からは、縄文時代早期初頭頃より中期まで現河川側に移動している河道（河道A～D）の痕跡が確認できた。河道の切り合いで、草創期から中期までの先後関係を捉えることのできた多くの遺構や遺物がある。さらに、河道Aよりも古い礫層や砂層の基本層位より、草創期の遺構や遺物が多く見つかっている。これら河道堆積層と基本層位によって、草創期より中期にかけての遺構・遺物の同時代性や変遷を理解することができた。

一方、河道の変化を把握できたことは地質学的にも重要である。遺跡は南郷Ⅲ段丘の末端に立地しており、段丘面が河川に近い微地形の変化を伴って形成されていることの理解を、具体的に示したことになる。また、新しい河道ほど河床面が低くなるのにに対してB河道のそれは高く、A～C河道の東西流路に対してD河道以降の流路が南北に変化する。これら早期の2つの河道の在り方は、他の河道形成とは異なる気候変動に対応するものかもしれない。

(2) 遺構

遺跡で検出された遺構のうち、草創期の竪穴状遺構（1基）、草創期の炉跡（8基のうち2基は不明瞭）・早期の集石炉（14ヶ所）、草創期から前期の石器集中部45ヶ所（各16・21・8ヶ所）、草創期の石器石材集積遺構（3ヶ所）が、特に遺跡を特色づけている。

竪穴状遺構のSXH66は、草創期の礫層上面で緩い窪み状を呈したもので、中央側に火熱を受けた礫の範囲がある。さらに、礫面の上面も含んで多量の石器が出土しており、竪穴住居跡の可能性を考えている。竪穴住居跡は、東京都前田耕地遺跡（宮崎、1983）等で検出されており、希有な例として本遺構も加えることができよう。

炉は多く検出され、ほとんどが土坑や浅い凹みを伴う集石状のものである。草創期の遺構に伴うと考えられるものは、SXH66、SXQ36・60・125で見つかっており、本文では遺構に伴うことを考慮して他の集石炉と区別して扱った。早期のSXQ127は掘り方をもたず、平坦面上に焼けた多量の礫を充填させた例である。

草創期から早期の石器集中部は、径が1m以下(SXQ32)から径が8m程(SXQ60)のものまで37ヶ所を確認した。この中には、少量でも総体に集合状態を示すもの、逆に、複数の石器集中部が区別されないまま一集合状態として扱ったものもある。また石器の出土状況には、SXQ32のように殆どがチップで占めるもの、石核・製品・剥片やチップを含んでいるもの等様々である。そして、石器を集め移動して捨てたのか製作と同時に廃棄したかの、厳密な区分はできていないが、各時代毎に石器製作を行っていたことは十分に認めることができた。

草創期から早期までの石器石材集積遺構は、4ヶ所検出された。草創期のSXS57では、4点の扁平な両面調整石器が、長軸を揃えて密着して出土した。本県の縄子遺跡では、7点の石槍が一括で出土したとされ(栗島, 1990)、SXS57も北東北のデボの資料として注目されよう。

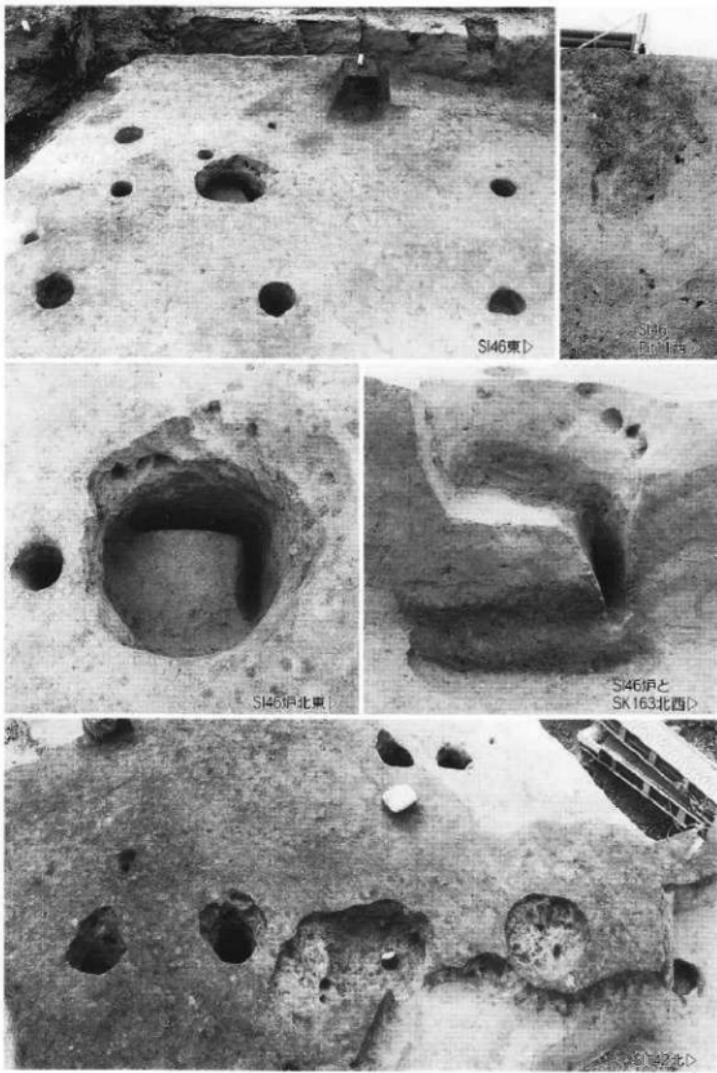
(3) 土器

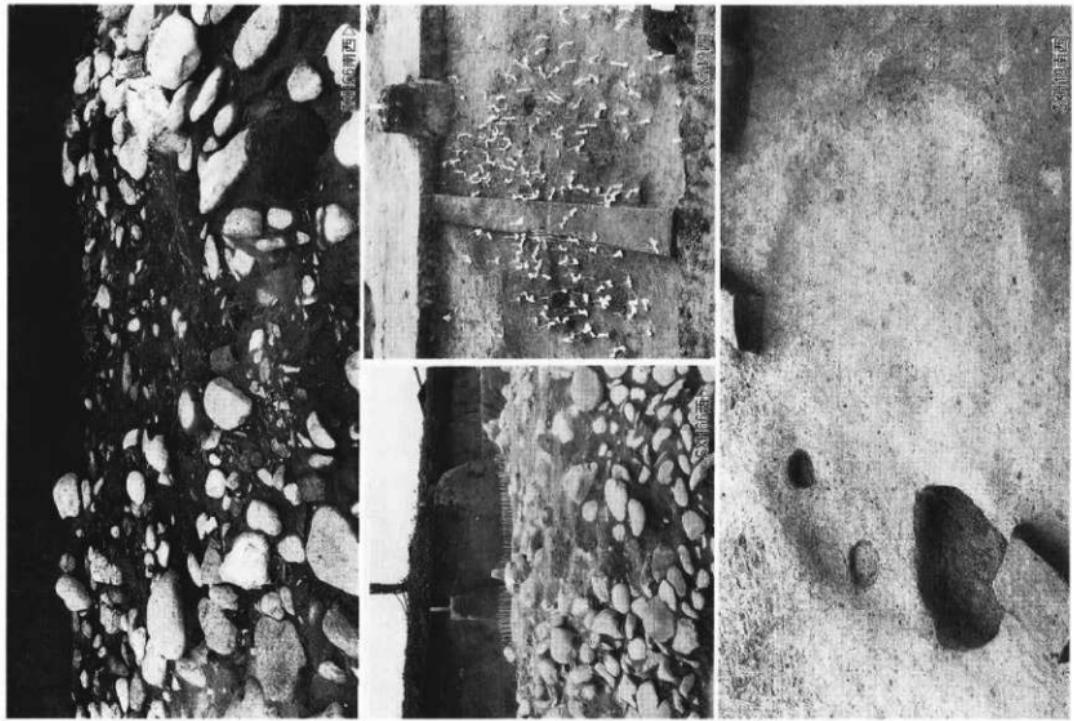
草創期から早期まで、基本土層と河道の年代を決定するのに大事なのが、X層でSXQ60の爪形文・無文土器、IX層下位でSXQ100の隆起線文土器、VII層でSXQ36の繩文土器、V層でSXP98の尖底の無文土器、河道A堆積層中位でSXQ104の撫糸文系土器等である。河道Aの堆積層はVI層に収束するので、SXQ104の撫糸文系土器はSXQ36の繩文土器よりも新しい。さらに、爪形文・無文・隆起線文土器は草創期に含まれ、撫糸文系土器は口唇部の肥厚している特徴と併わせ早期の範疇で、尖底の無文土器は早期中葉である。また、SXQ36のような口唇部が肥厚して胴部に繩文を施す土器は、新潟県室谷洞窟から出土しており広義の井草式土器に対比されている(小林, 1994)。本遺跡の例は、口唇およびその内面直下に押圧繩文を施しており、この施文手法が室谷洞窟の例より古い要素と考えられる。よって、SXQ36出土の繩文土器は押圧・回転繩文をもつ多繩文系土器と考え、草創期の範疇とした。

(4) 石器

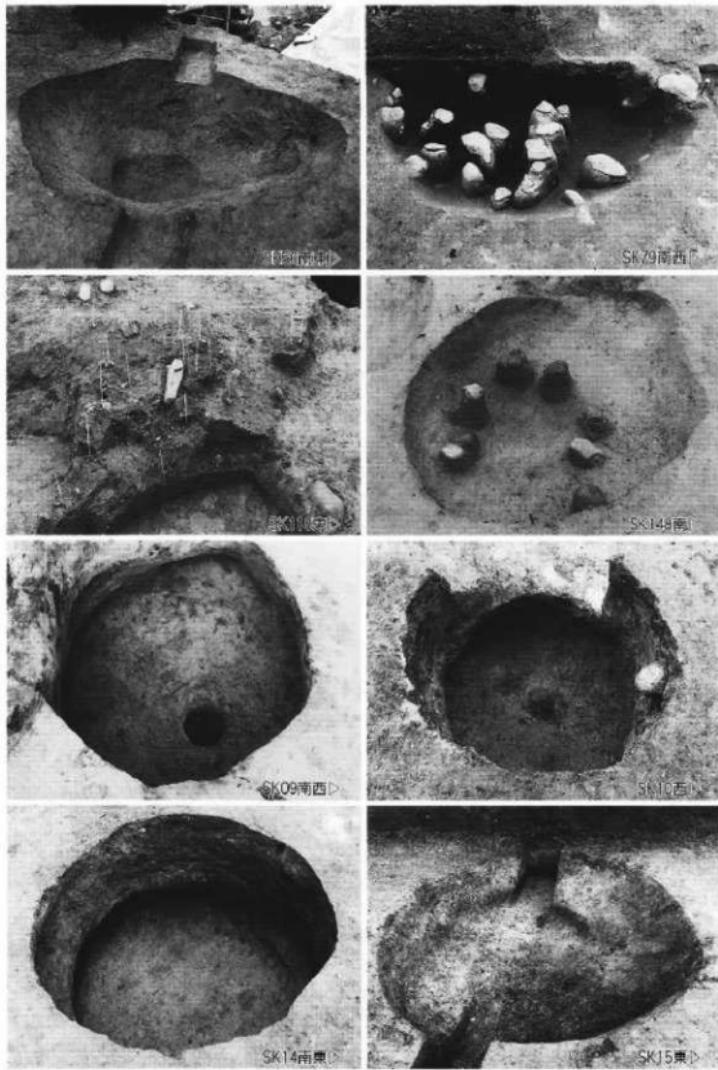
草創期から早期にかけての石器には、石核・調整の整っている両面調整石器・調整の粗い両面調整素材・石槍・石斧・石鎗・石鏃・石匙・石錐・搔器・削器・鋸齒縁石器・二次加工ある剥片等の石器があり、外に多くの接合資料が得られた。石槍や石斧は、製作段階の失敗品が殆どで、これらの量に比べて両面調整石器と両面調整素材は飛び抜けて多い。石器製作で捨てられた、剥片やチップの量は膨大である。接合資料では、両面調整石器・石槍・石斧・石鎗等の製作過程を辿れる資料に恵まれた。さらに、遺物から個別の遺構間の関係を整理すると、①SXQ60-91-100-124-125-SXH66、②SXQ36-71-85-86-117-SK56(覆土)、③SXQ92-73-80-102と把握され、SK56を除いて①～③の各々が同時期に存在したことが裏づけられている。また、4点の石匙が草創期のSXQ60・100に伴っていることや、早期のSXQ96から舟底状の石核より剥離した幅広で小型の縦長剥片が出土したことは、特筆されてよい。

圖版1
鑿穴住居跡

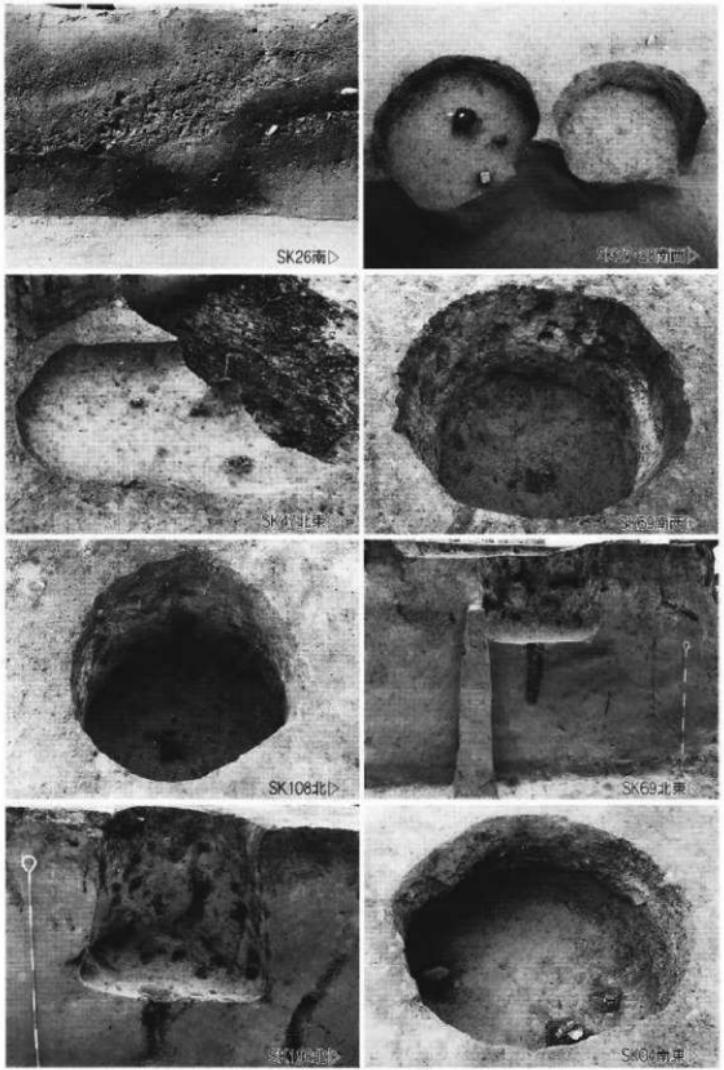


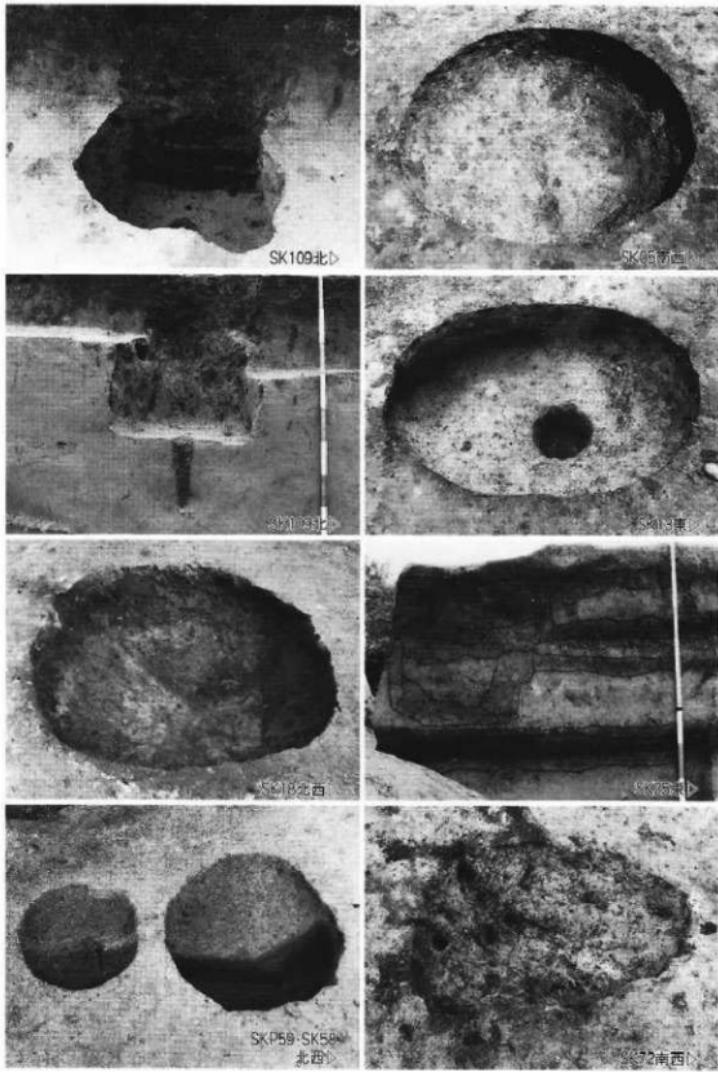


圖版 2 堅穴狀溝槽

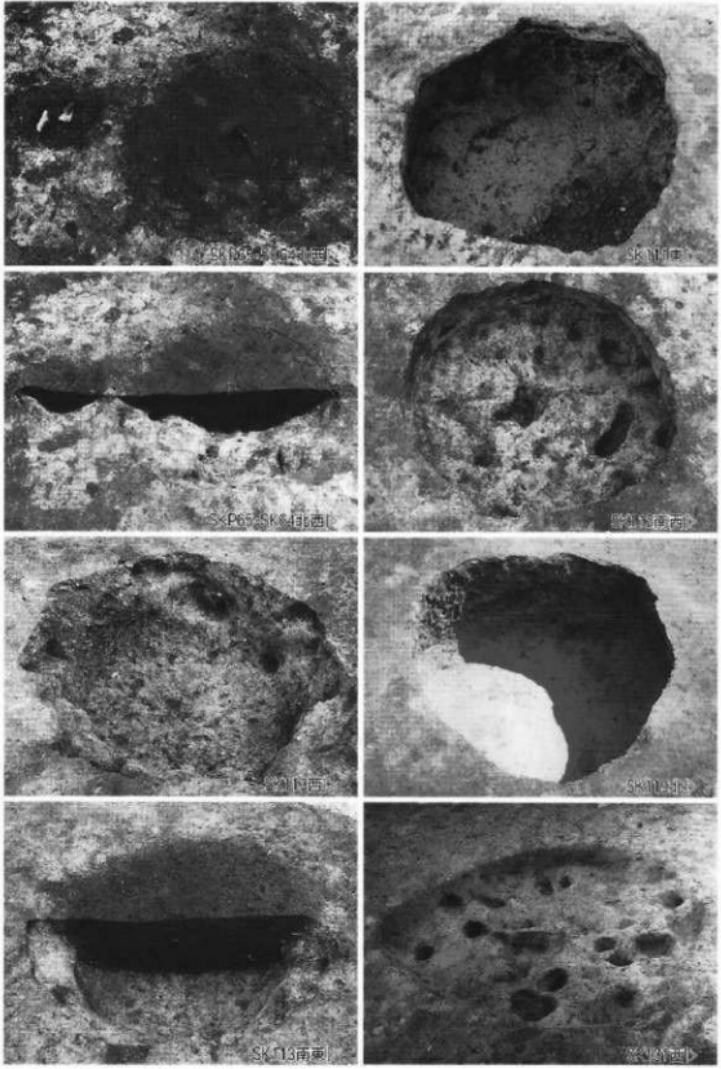


圖版 4
土坑(2)

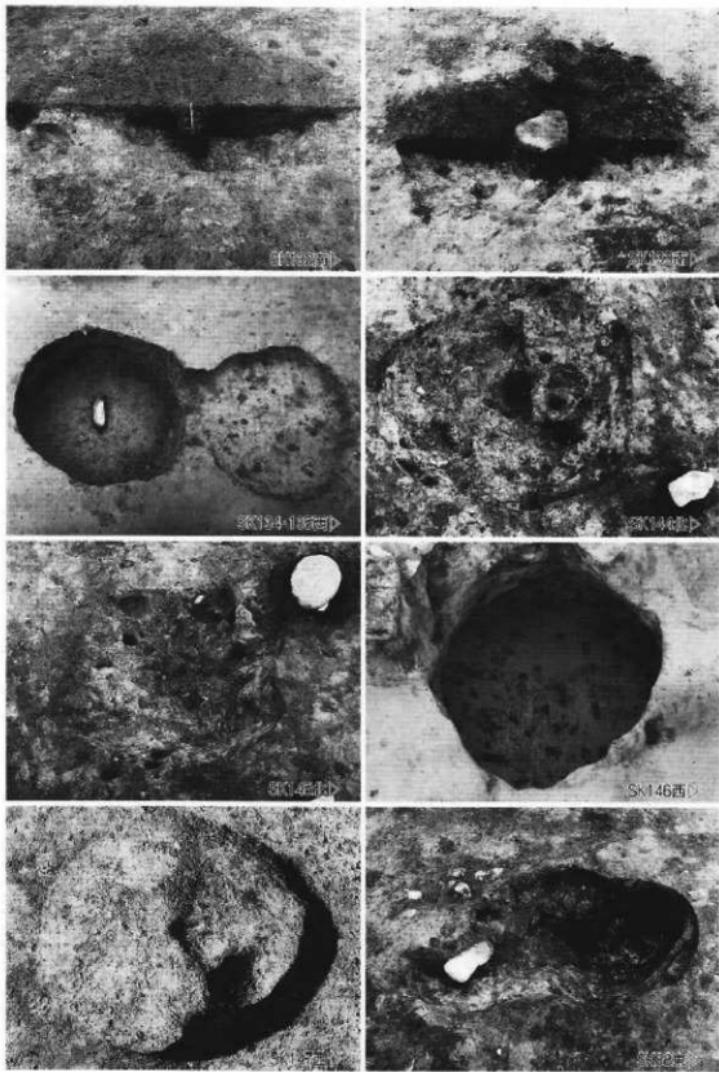


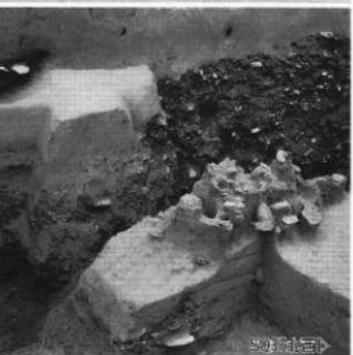


圖版 6
土坑(4)

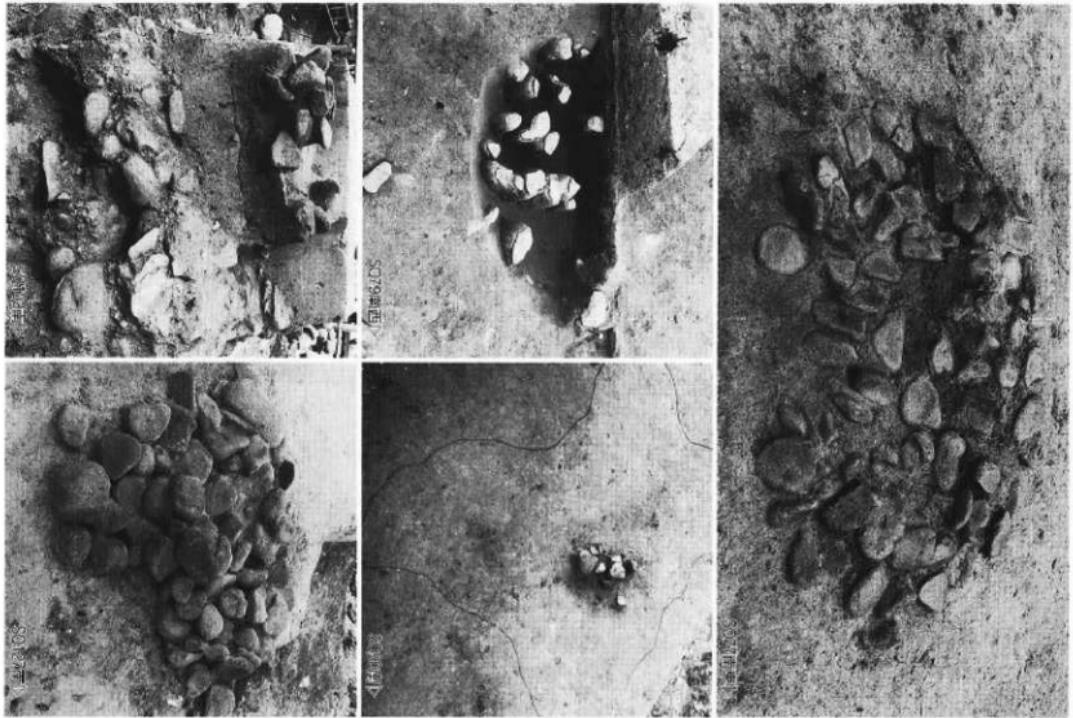


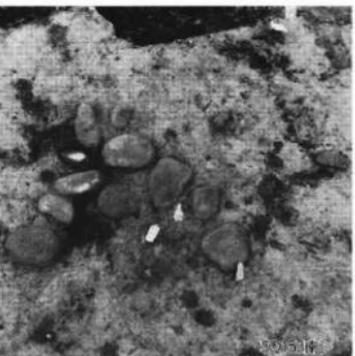
圖版7
土坑(5)





◎圖說：鋪地石

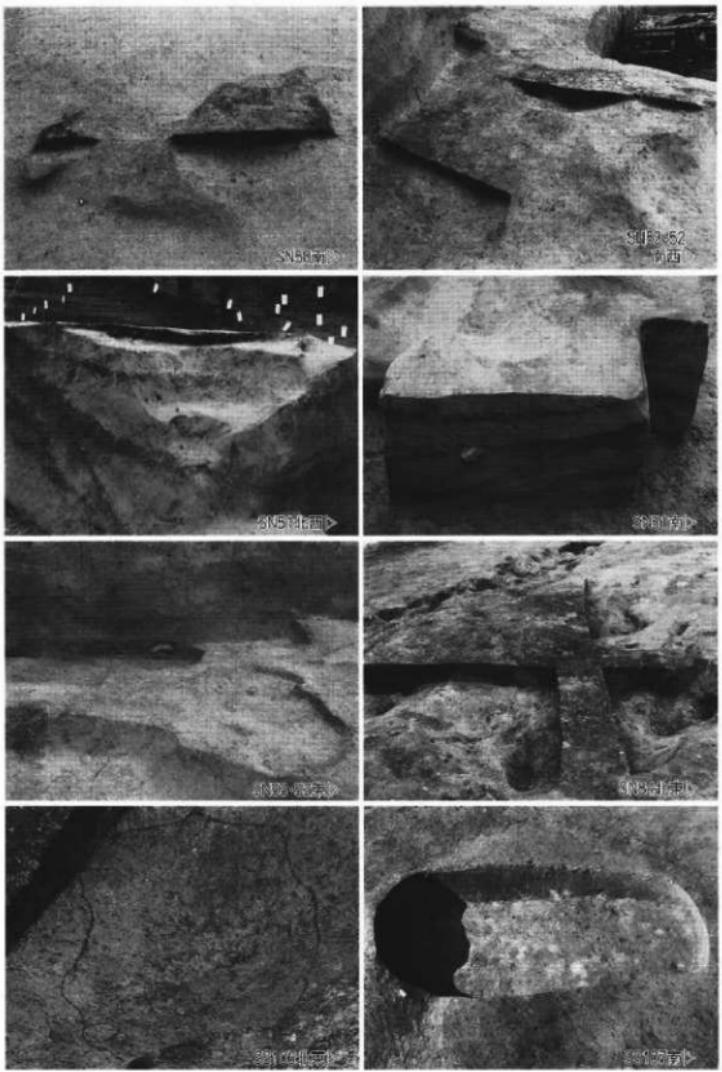


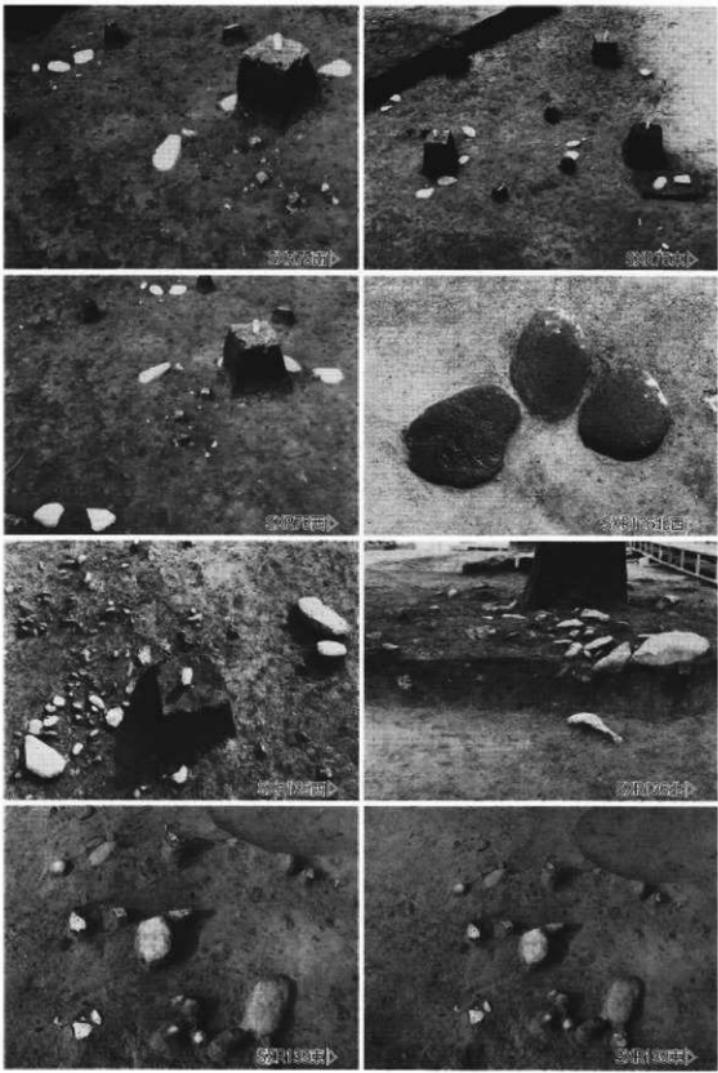


圖版二 烧土遺物(二)



圖版12 烧土遺構(2)、炭燒成遺構





図版 14

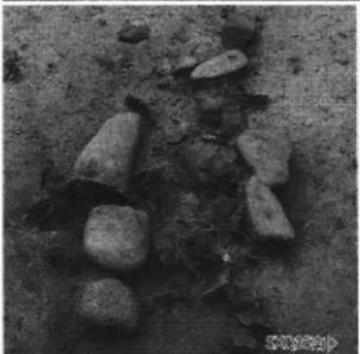
土器集中部



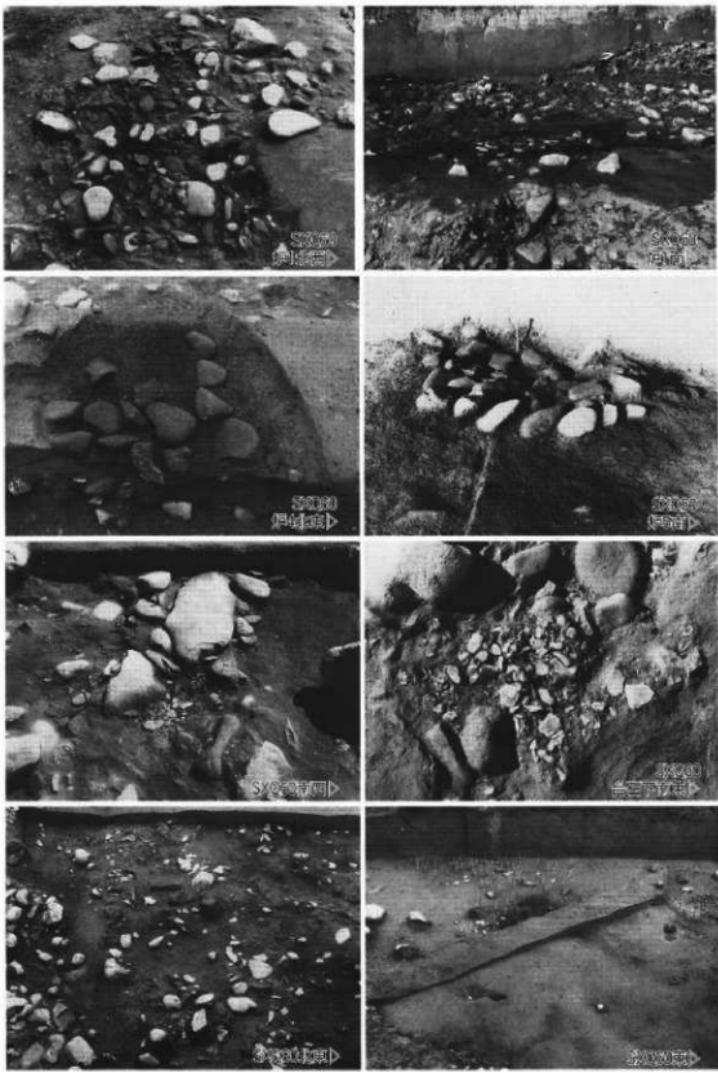


図版
16

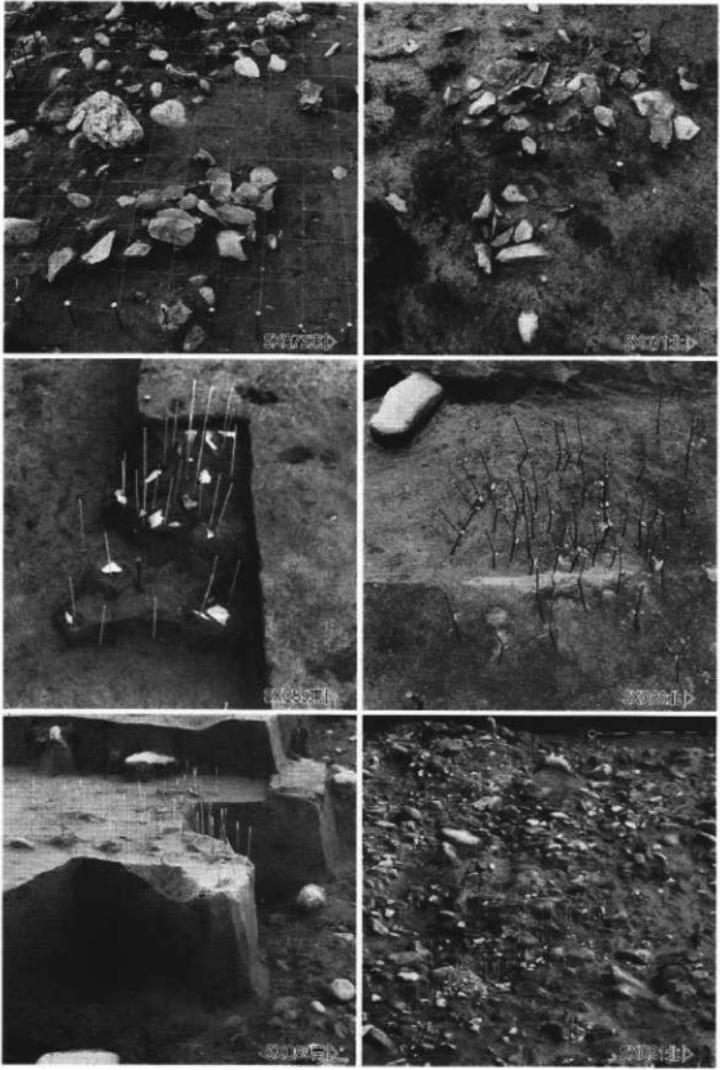
石器集中部
(1)

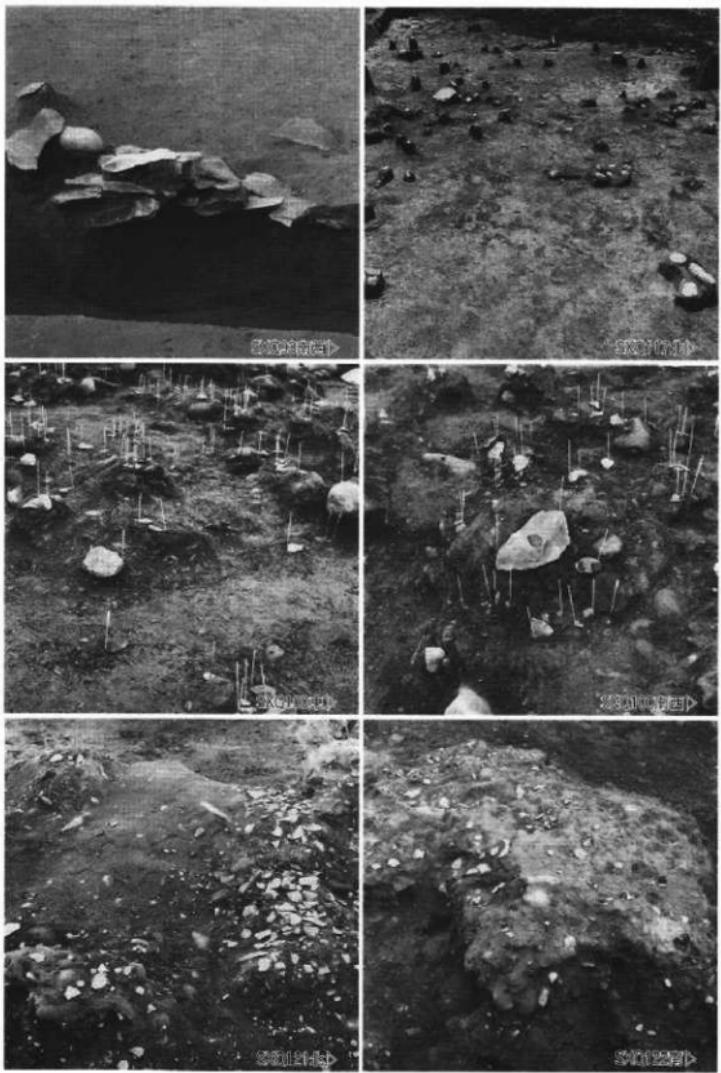


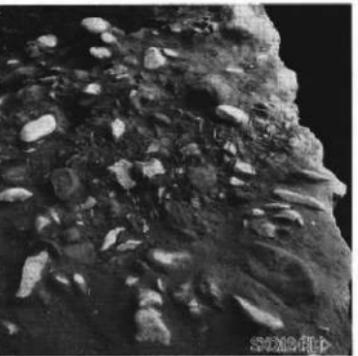
図版17
石器集中部(2)



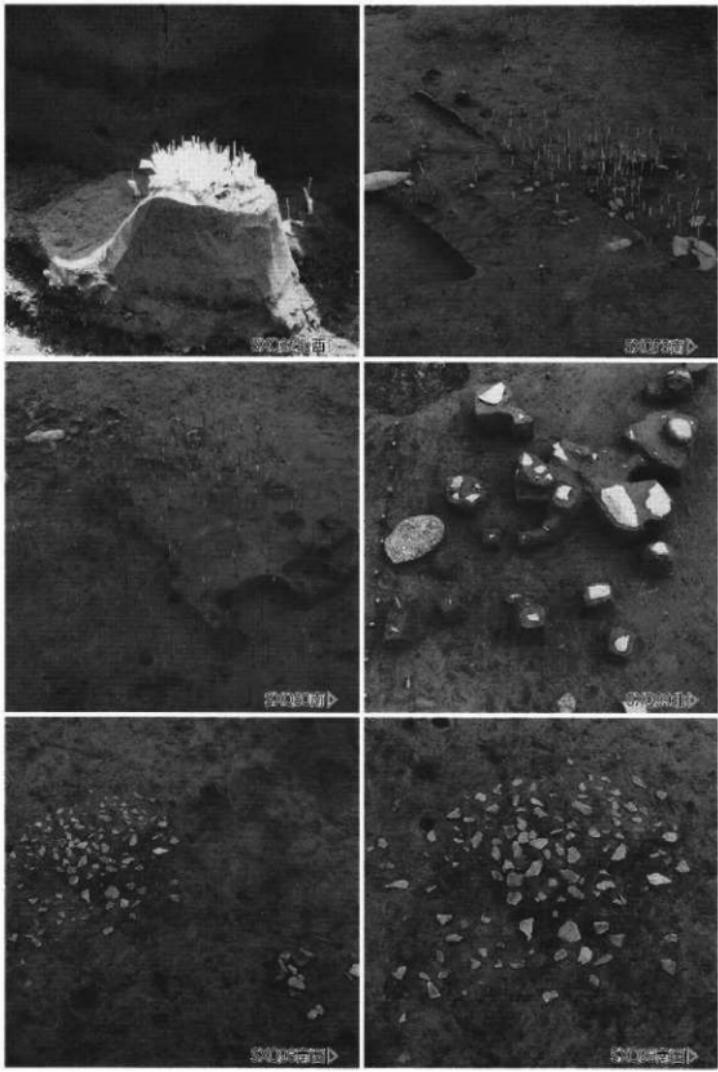
圖版 18
石器集中部(3)





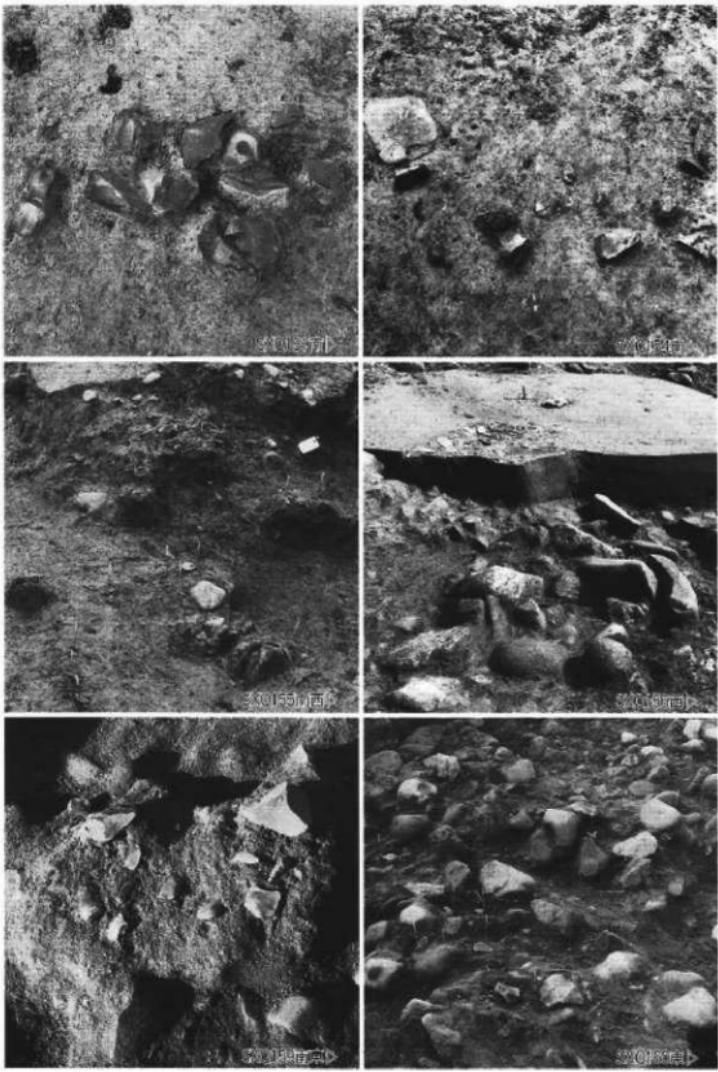


図版21
石器集中部(6)

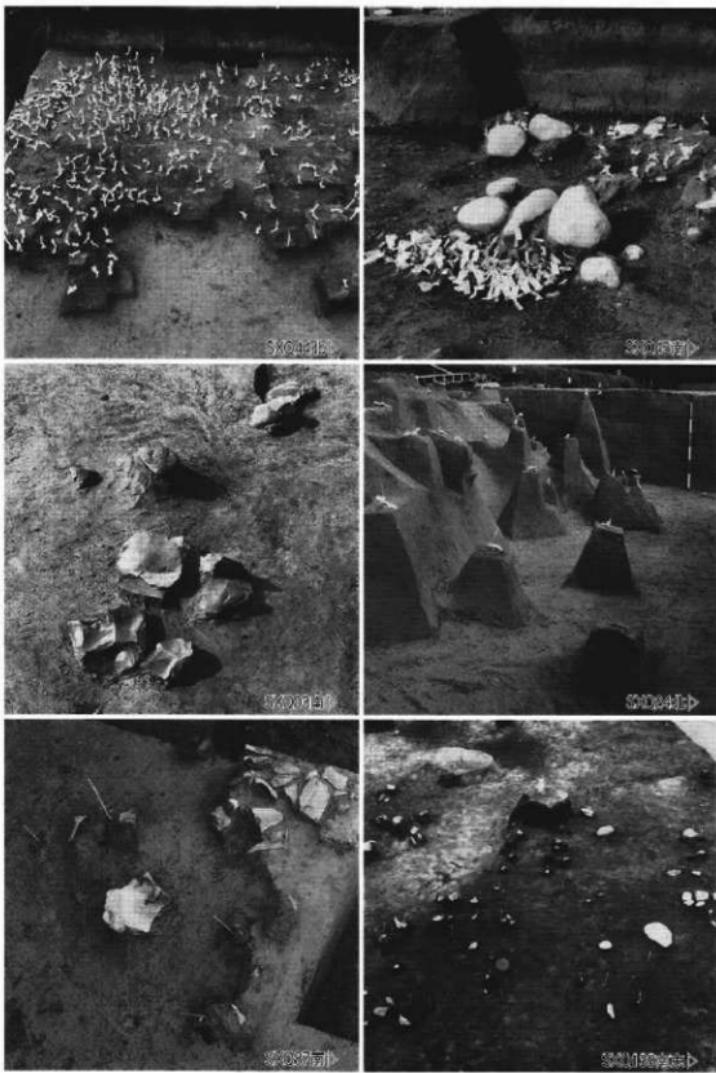


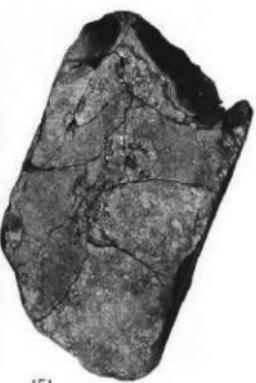
圖版 22
石器集中部(1)











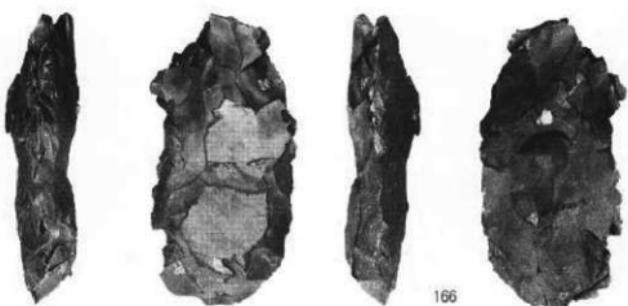
151



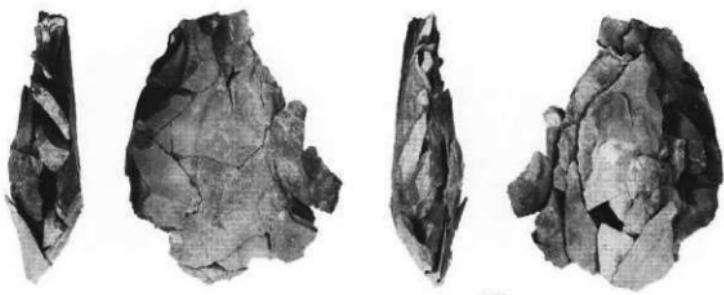
165



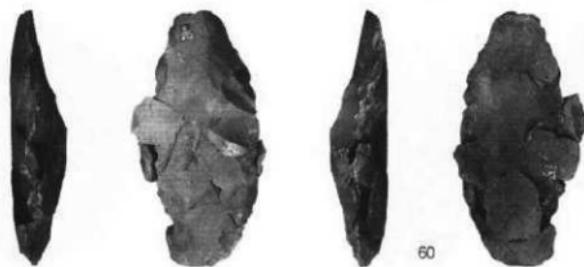
59



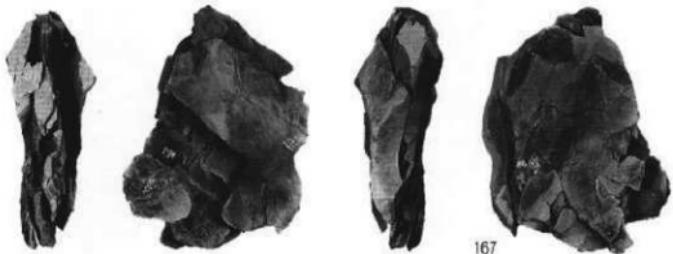
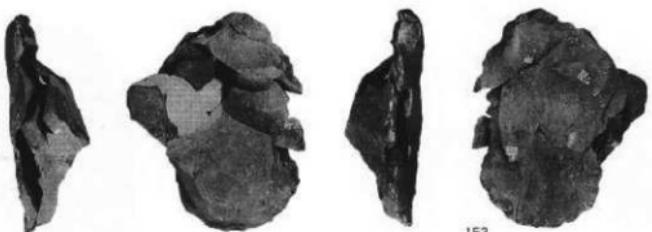
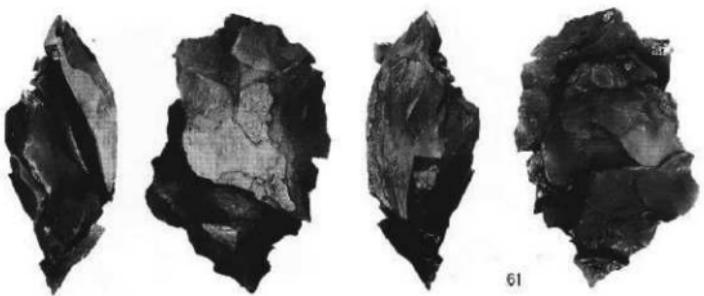
166



152

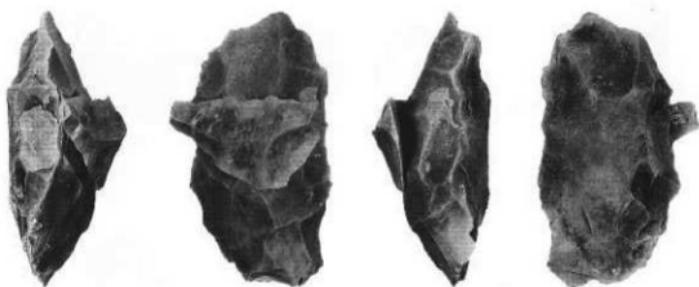


60

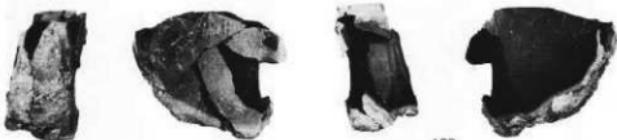




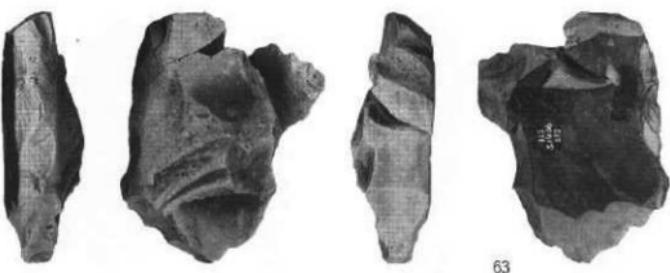
157



62



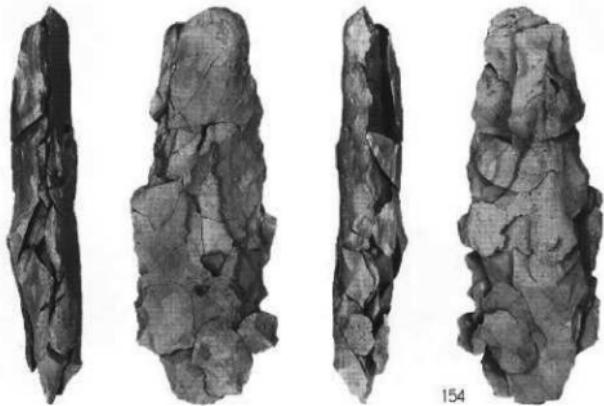
168



63



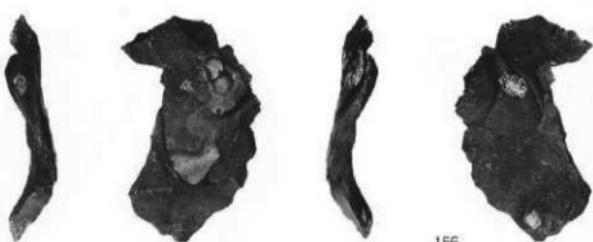
206



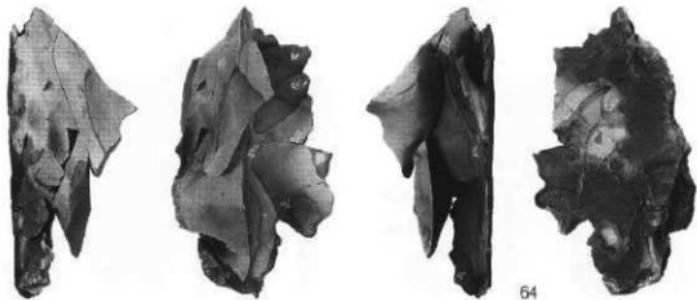
154



155



156



64

圖版
32

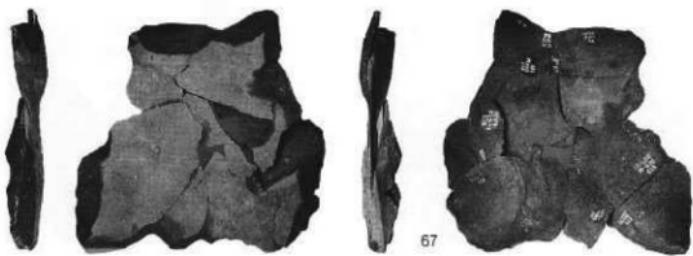
草創期接合資料(7)



159



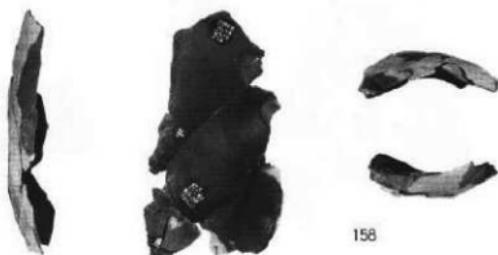
65



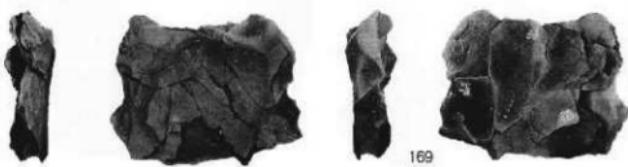
67



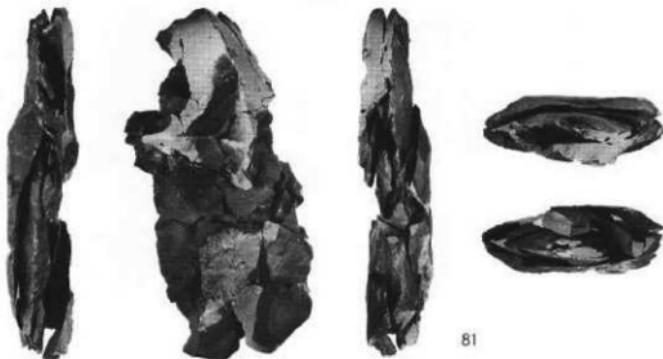
66



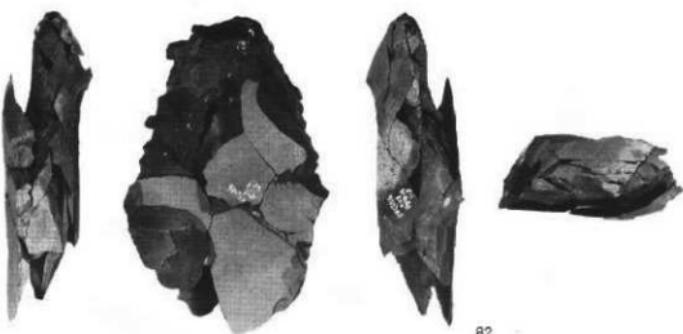
158



169



81



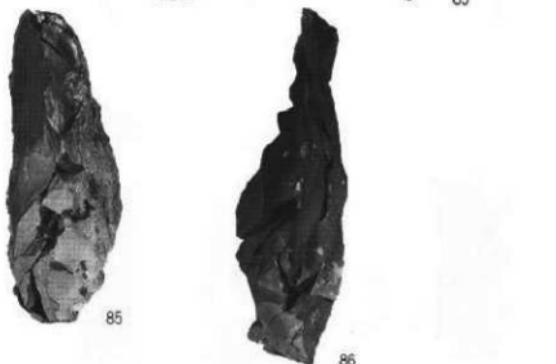
82



83



85



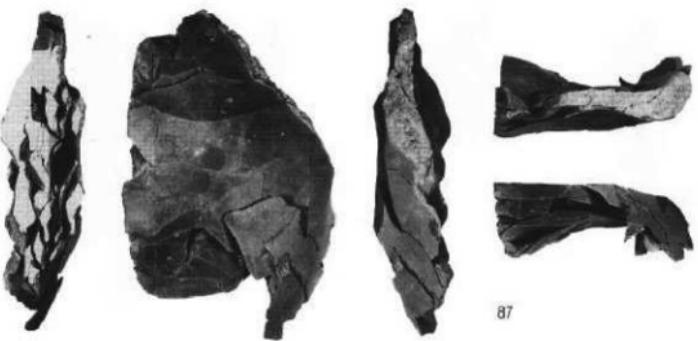
85



86



86



87



88



89



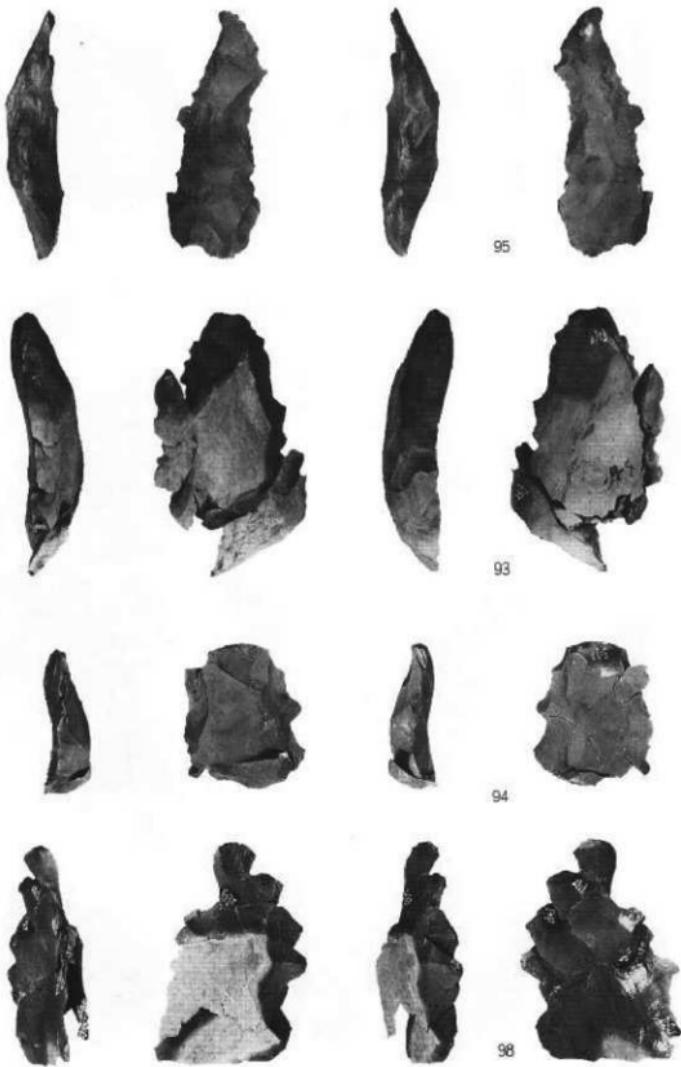
90



91

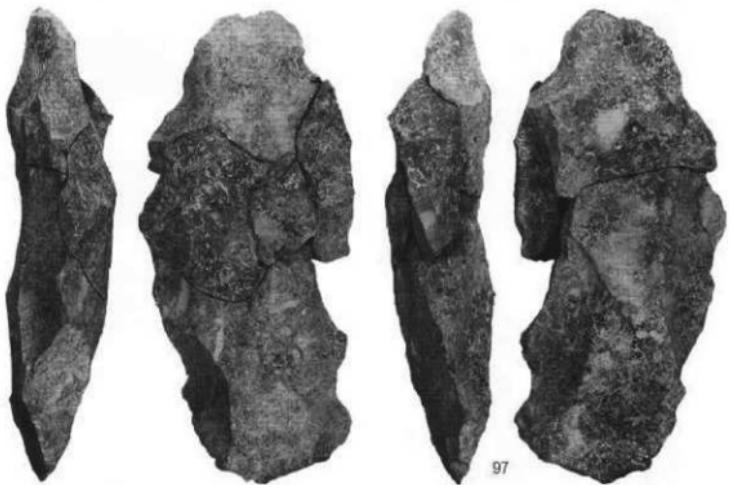


92





96



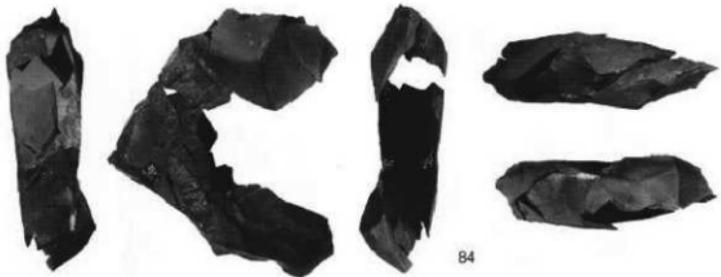
97



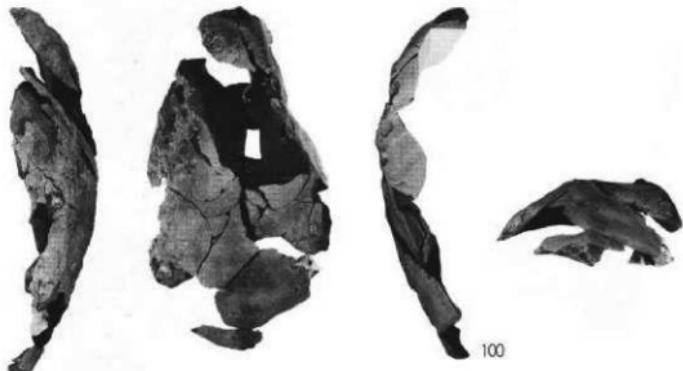
101



99



84



100